

平成30(2018)年度

理学研究科

セミナー概要(シラバス)

2018年4月1日

大阪大学大学院理学研究科

目 次

第 1 章 数学専攻	19
1.1 数学専攻 前期課程	20
応用数理学セミナー I	21
応用数理学セミナー I	22
応用数理学セミナー II	23
応用数理学基礎セミナー I	24
応用数理学基礎セミナー I	25
応用数理学基礎セミナー II	26
解析学セミナー I	27
解析学セミナー I	28
解析学セミナー I	29
解析学セミナー I	30
解析学セミナー I	31
解析学セミナー II	32
解析学セミナー II	33
解析学セミナー II	34
解析学セミナー II	35
解析学基礎セミナー I	36
解析学基礎セミナー I	37
解析学基礎セミナー I	38
解析学基礎セミナー I	39
解析学基礎セミナー I	40
解析学基礎セミナー II	41
解析学基礎セミナー II	42
解析学基礎セミナー II	43
解析学基礎セミナー II	44
幾何学セミナー I	45
幾何学セミナー I	46
幾何学セミナー II	47
幾何学セミナー II	48
幾何学セミナー II	49
幾何学基礎セミナー I	50
幾何学基礎セミナー I	51
幾何学基礎セミナー II	52
幾何学基礎セミナー II	53
幾何学基礎セミナー II	54
現代数理学セミナー	55
現代数理学基礎セミナー	56
実験数学セミナー I	57

実験数学セミナーⅠ	58
実験数学セミナーⅡ	59
実験数学基礎セミナーⅠ	60
実験数学基礎セミナーⅠ	61
実験数学基礎セミナーⅡ	62
代数学セミナーⅠ	63
代数学セミナーⅠ	64
代数学セミナーⅠ	65
代数学セミナーⅠ	66
代数学セミナーⅡ	67
代数学セミナーⅡ	68
代数学セミナーⅡ	69
代数学セミナーⅡ	70
代数学基礎セミナーⅠ	71
代数学基礎セミナーⅠ	72
代数学基礎セミナーⅠ	73
代数学基礎セミナーⅠ	74
代数学基礎セミナーⅡ	75
代数学基礎セミナーⅡ	76
代数学基礎セミナーⅡ	77
代数学基礎セミナーⅡ	78
大域数理学セミナーⅠ	79
大域数理学セミナーⅡ	80
大域数理学セミナーⅡ	81
大域数理学セミナーⅡ	82
大域数理学セミナーⅡ	83
大域数理学基礎セミナーⅠ	84
大域数理学基礎セミナーⅡ	85
大域数理学基礎セミナーⅡ	86
大域数理学基礎セミナーⅡ	87
大域数理学基礎セミナーⅡ	88
1.2 数学専攻 後期課程	89
応用数理学特別セミナー1	90
応用数理学特別セミナー1	91
応用数理学特別セミナー1	92
応用数理学特別セミナー1	93
応用数理学特別セミナー1	94
応用数理学特別セミナー2	95
応用数理学特別セミナー2	96
応用数理学特別セミナー2	97
応用数理学特別セミナー2	98
応用数理学特別セミナー2	99
応用数理学特別セミナー3	100
応用数理学特別セミナー3	101
応用数理学特別セミナー3	102
応用数理学特別セミナー3	103
応用数理学特別セミナー3	104

解析学特別セミナー 1	105
解析学特別セミナー 1	106
解析学特別セミナー 1	107
解析学特別セミナー 1	108
解析学特別セミナー 1	109
解析学特別セミナー 1	110
解析学特別セミナー 1	111
解析学特別セミナー 1	112
解析学特別セミナー 1	113
解析学特別セミナー 2	114
解析学特別セミナー 2	115
解析学特別セミナー 2	116
解析学特別セミナー 2	117
解析学特別セミナー 2	118
解析学特別セミナー 2	119
解析学特別セミナー 2	120
解析学特別セミナー 2	121
解析学特別セミナー 2	122
解析学特別セミナー 3	123
解析学特別セミナー 3	124
解析学特別セミナー 3	125
解析学特別セミナー 3	126
解析学特別セミナー 3	127
解析学特別セミナー 3	128
解析学特別セミナー 3	129
解析学特別セミナー 3	130
解析学特別セミナー 3	131
幾何学特別セミナー 1	132
幾何学特別セミナー 1	133
幾何学特別セミナー 1	134
幾何学特別セミナー 1	135
幾何学特別セミナー 1	136
幾何学特別セミナー 2	137
幾何学特別セミナー 2	138
幾何学特別セミナー 2	139
幾何学特別セミナー 2	140
幾何学特別セミナー 2	141
幾何学特別セミナー 3	142
幾何学特別セミナー 3	143
幾何学特別セミナー 3	144
幾何学特別セミナー 3	145
幾何学特別セミナー 3	146
現代数理学特別セミナー 1	147
現代数理学特別セミナー 2	148
現代数理学特別セミナー 3	149
実験数学特別セミナー 1	150
実験数学特別セミナー 1	151

実験数学特別セミナー 1	152
実験数学特別セミナー 2	153
実験数学特別セミナー 2	154
実験数学特別セミナー 2	155
実験数学特別セミナー 3	156
実験数学特別セミナー 3	157
実験数学特別セミナー 3	158
代数学特別セミナー 1	159
代数学特別セミナー 1	160
代数学特別セミナー 1	161
代数学特別セミナー 1	162
代数学特別セミナー 1	163
代数学特別セミナー 1	164
代数学特別セミナー 1	165
代数学特別セミナー 1	166
代数学特別セミナー 2	167
代数学特別セミナー 2	168
代数学特別セミナー 2	169
代数学特別セミナー 2	170
代数学特別セミナー 2	171
代数学特別セミナー 2	172
代数学特別セミナー 2	173
代数学特別セミナー 2	174
代数学特別セミナー 3	175
代数学特別セミナー 3	176
代数学特別セミナー 3	177
代数学特別セミナー 3	178
代数学特別セミナー 3	179
代数学特別セミナー 3	180
代数学特別セミナー 3	181
代数学特別セミナー 3	182
大域数理学特別セミナー 1	183
大域数理学特別セミナー 1	184
大域数理学特別セミナー 1	185
大域数理学特別セミナー 2	186
大域数理学特別セミナー 2	187
大域数理学特別セミナー 2	188
大域数理学特別セミナー 3	189
大域数理学特別セミナー 3	190
大域数理学特別セミナー 3	191

第 2 章 物理学専攻 193

2.1 物理学専攻 A コース (理論系：基礎物理学・量子物理学コース) 前期課程	194
(春～夏学期) 原子核理論半期セミナー I	195
(春～夏学期) 原子核理論半期セミナー II	196
(春～夏学期) 高エネルギープラズマ物性理論半期セミナー	197
(春～夏学期) 場の理論半期セミナー I	198

(春～夏学期) 場の理論半期セミナー II	199
(春～夏学期) 数理物理学半期セミナー	200
(春～夏学期) 多体問題半期セミナー I	201
(春～夏学期) 多体問題半期セミナー II	202
(春～夏学期) 物性理論半期セミナー I	203
(春～夏学期) 物性理論半期セミナー II	204
(春～夏学期) 物性理論半期セミナー III	205
(秋～冬学期) 原子核理論半期セミナー I	206
(秋～冬学期) 原子核理論半期セミナー II	207
(秋～冬学期) 高エネルギープラズマ物性理論半期セミナー	208
(秋～冬学期) 場の理論半期セミナー I	209
(秋～冬学期) 場の理論半期セミナー II	210
(秋～冬学期) 数理物理学半期セミナー	211
(秋～冬学期) 多体問題半期セミナー I	212
(秋～冬学期) 多体問題半期セミナー II	213
(秋～冬学期) 物性理論半期セミナー I	214
(秋～冬学期) 物性理論半期セミナー II	215
(秋～冬学期) 物性理論半期セミナー III	216
2.2 物理学専攻 A コース (理論系：基礎物理学・量子物理学コース) 後期課程	217
原子核理論特別セミナー	218
高エネルギープラズマ物性理論特別セミナー	219
場の数理特別セミナー	220
場の理論特別セミナー	221
数理物理学特別セミナー	222
多体問題特別セミナー	223
統計物理学特別セミナー	224
物性理論特別セミナー I	225
物性理論特別セミナー II	226
物性理論特別セミナー III	227
2.3 物理学専攻 B コース (実験系：素粒子・核物理学コース) 前期課程	228
(春～夏学期) レプトン核科学半期セミナー	229
(春～夏学期) 加速器科学半期セミナー	230
(春～夏学期) 核反応計測学半期セミナー	232
(春～夏学期) 原子核構造半期セミナー I	233
(春～夏学期) 原子核構造半期セミナー II	234
(春～夏学期) 高エネルギー物理学半期セミナー I	235
(春～夏学期) 高エネルギー物理学半期セミナー II	236
(春～夏学期) 高エネルギー密度物理半期セミナー	237
(秋～冬学期) レプトン核科学半期セミナー	238
(秋～冬学期) 加速器科学半期セミナー	239
(秋～冬学期) 核反応計測学半期セミナー	241
(秋～冬学期) 原子核構造半期セミナー I	242
(秋～冬学期) 原子核構造半期セミナー II	243
(秋～冬学期) 高エネルギー物理学半期セミナー I	244
(秋～冬学期) 高エネルギー物理学半期セミナー II	245
(秋～冬学期) 高エネルギー密度物理半期セミナー	246
2.4 物理学専攻 B コース (実験系：素粒子・核物理学コース) 後期課程	247

	バリオン核分光学特別セミナー	248
	加速器科学特別セミナー	249
	核反応計測学特別セミナー	251
	原子核構造特別セミナー I	252
	原子核構造特別セミナー II	253
	高エネルギー物理学特別セミナー I	254
	高エネルギー物理学特別セミナー II	255
	高エネルギー密度物理特別セミナー	256
2.5	物理学専攻 C コース (実験系：物性物理学コース) 前期課程	257
	(春～夏学期) メゾスコピック物理半期セミナー	258
	(春～夏学期) 強磁場物理半期セミナー	259
	(春～夏学期) 光物性半期セミナー	260
	(春～夏学期) 質量分析物理半期セミナー	261
	(春～夏学期) 超伝導半期セミナー	262
	(春～夏学期) 半導体半期セミナー	263
	(春～夏学期) 量子物性半期セミナー	265
	(秋～冬学期) メゾスコピック物理半期セミナー	266
	(秋～冬学期) 強磁場物理半期セミナー	267
	(秋～冬学期) 光物性半期セミナー	268
	(秋～冬学期) 質量分析物理半期セミナー	269
	(秋～冬学期) 超伝導半期セミナー	270
	(秋～冬学期) 半導体半期セミナー	271
	(秋～冬学期) 量子物性半期セミナー	273
2.6	物理学専攻 C コース (実験系：物性物理学コース) 後期課程	274
	メゾスコピック物理特別セミナー	275
	強磁場物理特別セミナー	276
	光物性特別セミナー	277
	質量分析物理特別セミナー	278
	超伝導特別セミナー	279
	半導体特別セミナー	280
	量子物性特別セミナー	282
第 3 章	化学専攻	283
3.1	化学専攻 A・B コース共通 BMC 科目 前期課程	284
	インタラクティブセミナー II(化学専攻)	285
3.2	化学専攻 A・B コース共通 BMC 科目 後期課程	286
	インタラクティブ特別セミナー 1(化学専攻)	287
	インタラクティブ特別セミナー 2(化学専攻)	288
3.3	化学専攻 A コース前期課程	289
	(春～夏学期) 核化学半期セミナー AI	290
	(春～夏学期) 核化学半期セミナー AII	291
	(春～夏学期) 核化学半期セミナー BI	292
	(春～夏学期) 核化学半期セミナー BII	293
	(春～夏学期) 核磁気共鳴分光学半期セミナー I	294
	(春～夏学期) 核磁気共鳴分光学半期セミナー II	295
	(春～夏学期) 凝縮系物理化学半期セミナー I	296
	(春～夏学期) 凝縮系物理化学半期セミナー II	297

(春～夏学期) 構造錯体化学半期セミナー I	298
(春～夏学期) 構造錯体化学半期セミナー II	299
(春～夏学期) 構造熱科学半期セミナー I	300
(春～夏学期) 構造熱科学半期セミナー II	301
(春～夏学期) 構造物性化学半期セミナー I	302
(春～夏学期) 構造物性化学半期セミナー II	303
(春～夏学期) 生体分子化学半期セミナー I	304
(春～夏学期) 生体分子化学半期セミナー II	305
(春～夏学期) 生体分子機能構造計測学半期セミナー I	306
(春～夏学期) 生体分子機能構造計測学半期セミナー II	307
(春～夏学期) 生物物理化学半期セミナー I	308
(春～夏学期) 生物物理化学半期セミナー II	309
(春～夏学期) 生物無機化学半期セミナー I	310
(春～夏学期) 生物無機化学半期セミナー II	311
(春～夏学期) 反応化学半期セミナー I	312
(春～夏学期) 反応化学半期セミナー II	313
(春～夏学期) 表面化学半期セミナー I	314
(春～夏学期) 表面化学半期セミナー II	315
(春～夏学期) 物性錯体化学半期セミナー AI	316
(春～夏学期) 物性錯体化学半期セミナー AII	317
(春～夏学期) 物性錯体化学半期セミナー BI	318
(春～夏学期) 物性錯体化学半期セミナー BII	319
(春～夏学期) 分析化学半期セミナー I	320
(春～夏学期) 分析化学半期セミナー II	321
(春～夏学期) 粒子ビーム化学半期セミナー I	322
(春～夏学期) 粒子ビーム化学半期セミナー II	323
(春～夏学期) 量子化学半期セミナー I	324
(春～夏学期) 量子化学半期セミナー II	325
(秋～冬学期) 核化学半期セミナー AI	326
(秋～冬学期) 核化学半期セミナー AII	327
(秋～冬学期) 核化学半期セミナー BI	328
(秋～冬学期) 核化学半期セミナー BII	329
(秋～冬学期) 核磁気共鳴分光学半期セミナー I	330
(秋～冬学期) 核磁気共鳴分光学半期セミナー II	331
(秋～冬学期) 凝縮系物理化学半期セミナー I	332
(秋～冬学期) 凝縮系物理化学半期セミナー II	333
(秋～冬学期) 構造錯体化学半期セミナー I	334
(秋～冬学期) 構造錯体化学半期セミナー II	335
(秋～冬学期) 構造熱科学半期セミナー I	336
(秋～冬学期) 構造熱科学半期セミナー II	337
(秋～冬学期) 構造物性化学半期セミナー I	338
(秋～冬学期) 構造物性化学半期セミナー II	339
(秋～冬学期) 生体分子化学半期セミナー I	340
(秋～冬学期) 生体分子化学半期セミナー II	341
(秋～冬学期) 生体分子機能構造計測学半期セミナー I	342
(秋～冬学期) 生体分子機能構造計測学半期セミナー II	343
(秋～冬学期) 生物物理化学半期セミナー I	344

(秋～冬学期) 生物物理化学半期セミナー II	345
(秋～冬学期) 生物無機化学半期セミナー I	346
(秋～冬学期) 生物無機化学半期セミナー II	347
(秋～冬学期) 反応化学半期セミナー I	348
(秋～冬学期) 反応化学半期セミナー II	349
(秋～冬学期) 表面化学半期セミナー I	350
(秋～冬学期) 表面化学半期セミナー II	351
(秋～冬学期) 物性錯体化学半期セミナー AI	352
(秋～冬学期) 物性錯体化学半期セミナー AII	353
(秋～冬学期) 物性錯体化学半期セミナー BI	354
(秋～冬学期) 物性錯体化学半期セミナー BII	355
(秋～冬学期) 分析化学半期セミナー I	356
(秋～冬学期) 分析化学半期セミナー II	357
(秋～冬学期) 粒子ビーム化学半期セミナー I	358
(秋～冬学期) 粒子ビーム化学半期セミナー II	359
(秋～冬学期) 量子化学半期セミナー I	360
(秋～冬学期) 量子化学半期セミナー II	361
3.4 化学専攻 A コース後期課程	362
核化学特別セミナー AI	363
核化学特別セミナー AII	364
核化学特別セミナー AIII	365
核化学特別セミナー BI	366
核化学特別セミナー BII	367
核化学特別セミナー BIII	368
核磁気共鳴分光学特別セミナー I	369
核磁気共鳴分光学特別セミナー II	370
核磁気共鳴分光学特別セミナー III	371
凝縮系物理化学特別セミナー I	372
凝縮系物理化学特別セミナー II	373
凝縮系物理化学特別セミナー III	374
構造錯体化学特別セミナー I	375
構造錯体化学特別セミナー II	376
構造錯体化学特別セミナー III	377
構造熱科学特別セミナー I	378
構造熱科学特別セミナー II	379
構造熱科学特別セミナー III	380
構造物性化学特別セミナー I	381
構造物性化学特別セミナー II	382
構造物性化学特別セミナー III	383
生体分子機能構造計測学特別セミナー I	384
生体分子機能構造計測学特別セミナー II	385
生体分子機能構造計測学特別セミナー III	386
生体分子動の解析学特別セミナー I	387
生体分子動の解析学特別セミナー II	388
生体分子動の解析学特別セミナー III	389
生物物理化学特別セミナー I	390
生物物理化学特別セミナー II	391

生物物理化学特別セミナー III	392
生物無機化学特別セミナー I	393
生物無機化学特別セミナー II	394
生物無機化学特別セミナー III	395
反応化学特別セミナー I	396
反応化学特別セミナー II	397
反応化学特別セミナー III	398
表面化学特別セミナー I	399
表面化学特別セミナー II	400
表面化学特別セミナー III	401
物性錯体化学特別セミナー AI	402
物性錯体化学特別セミナー AII	403
物性錯体化学特別セミナー AIII	404
物性錯体化学特別セミナー BI	405
物性錯体化学特別セミナー BII	406
物性錯体化学特別セミナー BIII	407
物性有機化学特別セミナー I	408
分析化学特別セミナー I	409
分析化学特別セミナー II	410
分析化学特別セミナー III	411
粒子ビーム化学特別セミナー I	412
粒子ビーム化学特別セミナー II	413
粒子ビーム化学特別セミナー III	414
量子化学特別セミナー I	415
量子化学特別セミナー II	416
量子化学特別セミナー III	417
3.5 化学専攻 B コース前期課程	418
(春～夏学期) ゲノム化学半期セミナー I	419
(春～夏学期) ゲノム化学半期セミナー II	420
(春～夏学期) プロテオミクス分析化学半期セミナー I	421
(春～夏学期) プロテオミクス分析化学半期セミナー II	422
(春～夏学期) 機能性分子化学半期セミナー I	423
(春～夏学期) 機能性分子化学半期セミナー II	424
(春～夏学期) 構造有機化学半期セミナー I	425
(春～夏学期) 構造有機化学半期セミナー II	426
(春～夏学期) 生体分子動的解析学半期セミナー I	427
(春～夏学期) 生体分子動的解析学半期セミナー II	428
(春～夏学期) 蛋白質分子化学半期セミナー I	429
(春～夏学期) 蛋白質分子化学半期セミナー II	430
(春～夏学期) 天然物有機化学半期セミナー I	431
(春～夏学期) 天然物有機化学半期セミナー II	432
(春～夏学期) 物性有機化学半期セミナー I	433
(春～夏学期) 物性有機化学半期セミナー II	434
(春～夏学期) 有機生物化学半期セミナー I	435
(春～夏学期) 有機生物化学半期セミナー II	436
(秋～冬学期) ゲノム化学半期セミナー I	437
(秋～冬学期) ゲノム化学半期セミナー II	438

(秋～冬学期) プロテオミクス分析化学半期セミナーⅠ	439
(秋～冬学期) プロテオミクス分析化学半期セミナーⅡ	440
(秋～冬学期) 機能性分子化学半期セミナーⅠ	441
(秋～冬学期) 機能性分子化学半期セミナーⅡ	442
(秋～冬学期) 構造有機化学半期セミナーⅠ	443
(秋～冬学期) 構造有機化学半期セミナーⅡ	444
(秋～冬学期) 生体分子動的解析学半期セミナーⅠ	445
(秋～冬学期) 生体分子動的解析学半期セミナーⅡ	446
(秋～冬学期) 蛋白質分子化学半期セミナーⅠ	447
(秋～冬学期) 蛋白質分子化学半期セミナーⅡ	448
(秋～冬学期) 天然物有機化学半期セミナーⅠ	449
(秋～冬学期) 天然物有機化学半期セミナーⅡ	450
(秋～冬学期) 物性有機化学半期セミナーⅠ	451
(秋～冬学期) 物性有機化学半期セミナーⅡ	452
(秋～冬学期) 有機生物化学半期セミナーⅠ	453
(秋～冬学期) 有機生物化学半期セミナーⅡ	454
3.6 化学専攻 B コース後期課程	455
ゲノム化学特別セミナーⅠ	456
ゲノム化学特別セミナーⅡ	457
ゲノム化学特別セミナーⅢ	458
プロテオミクス分析化学特別セミナーⅠ	459
プロテオミクス分析化学特別セミナーⅡ	460
プロテオミクス分析化学特別セミナーⅢ	461
機能性分子化学特別セミナーⅠ	462
機能性分子化学特別セミナーⅡ	463
機能性分子化学特別セミナーⅢ	464
構造有機化学特別セミナーⅠ	465
構造有機化学特別セミナーⅡ	466
構造有機化学特別セミナーⅢ	467
生体分子化学特別セミナーⅠ	468
生体分子化学特別セミナーⅡ	469
生体分子化学特別セミナーⅢ	470
蛋白質分子化学特別セミナーⅠ	471
蛋白質分子化学特別セミナーⅡ	472
蛋白質分子化学特別セミナーⅢ	473
天然物有機化学特別セミナーⅠ	474
天然物有機化学特別セミナーⅡ	475
天然物有機化学特別セミナーⅢ	476
物性有機化学特別セミナーⅡ	477
物性有機化学特別セミナーⅢ	478
有機生物化学特別セミナーⅠ	479
有機生物化学特別セミナーⅡ	481
有機生物化学特別セミナーⅢ	483
3.7 化学専攻 A・B コース共通 BMC 科目 前期課程 (秋入学者用)	485
インタラクティブセミナーⅠ(化学専攻)	486
化学アドバンスト実験	487
インタラクティブセミナーⅠ(化学専攻)(博士前期課程秋入学者用)	489

インタラクティブセミナー II(化学専攻)(博士前期課程秋入学用)	490
化学アドバンスト実験 (秋入学用)	491
3.8 化学専攻 A コース後期課程 (秋入学用)	493
核化学特別セミナー AIII(秋入学用)	494
生体分子機能構造計測学特別セミナー II(秋入学用)	495
生体分子機能構造計測学特別セミナー III(秋入学用)	496
生物物理化学特別セミナー III(秋入学用)	497
3.9 化学専攻 B コース後期課程 (秋入学用)	498
天然物有機化学特別セミナー III(秋入学用)	499
第 4 章 生物科学専攻	501
4.1 生物科学専攻 前期課程	502
(春～夏学期)1 分子生物学半期セミナー	503
(春～夏学期) オルガネラバイオロジー半期セミナー	505
(春～夏学期) 核機能学半期セミナー	506
(春～夏学期) 感覚生理学半期セミナー	507
(春～夏学期) 機能・発現プロテオミクス学半期セミナー	508
(春～夏学期) 極限生物学半期セミナー	509
(春～夏学期) 系統進化学半期セミナー	510
(春～夏学期) 光合成反応学半期セミナー	512
(春～夏学期) 構造分子生物学半期セミナー	513
(春～夏学期) 高次脳機能学半期セミナー	514
(春～夏学期) 細胞システム学半期セミナー	515
(春～夏学期) 細胞核ネットワーク学半期セミナー	517
(春～夏学期) 細胞機能構造学半期セミナー	519
(春～夏学期) 細胞生物学半期セミナー	520
(春～夏学期) 情報伝達機構学半期セミナー	521
(春～夏学期) 植物細胞生物学半期セミナー	522
(春～夏学期) 植物生長生理学半期セミナー	523
(春～夏学期) 神経可塑性生理学半期セミナー	525
(春～夏学期) 生体高分子溶液学半期セミナー	526
(春～夏学期) 生体超分子科学半期セミナー	528
(春～夏学期) 生体分子機械学半期セミナー	530
(春～夏学期) 生体分子反応科学半期セミナー	531
(春～夏学期) 生物分子情報学半期セミナー	533
(春～夏学期) 生物分子情報学半期セミナー	534
(春～夏学期) 生命誌学半期セミナー	535
(春～夏学期) 代謝調節機構学半期セミナー	536
(春～夏学期) 蛋白質ナノ科学半期セミナー	538
(春～夏学期) 蛋白質結晶学半期セミナー	539
(春～夏学期) 蛋白質細胞生物学半期セミナー	540
(春～夏学期) 蛋白質物理化学半期セミナー	541
(春～夏学期) 蛋白質有機化学半期セミナー	542
(春～夏学期) 超分子構造解析学半期セミナー	543
(春～夏学期) 糖鎖生化学半期セミナー	544
(春～夏学期) 発生生物学半期セミナー	545
(春～夏学期) 比較神経生物学半期セミナー	546

(春～夏学期) 分子遺伝学半期セミナー	547
(春～夏学期) 分子細胞運動学半期セミナー	549
(春～夏学期) 分子創製学半期セミナー	550
(春～夏学期) 分子発生学半期セミナー	551
(春～夏学期) 膜蛋白質化学半期セミナー	552
(春～夏学期) 理論生物学半期セミナー	553
(秋～冬学期) 1 分子生物学半期セミナー	554
(秋～冬学期) オルガネラバイオロジー半期セミナー	556
(秋～冬学期) 核機能学半期セミナー	557
(秋～冬学期) 感覚生理学半期セミナー	558
(秋～冬学期) 機能・発現プロテオミクス学半期セミナー	559
(秋～冬学期) 極限生物学半期セミナー	560
(秋～冬学期) 系統進化学半期セミナー	561
(秋～冬学期) 光合成反応学半期セミナー	563
(秋～冬学期) 構造分子生物学半期セミナー	564
(秋～冬学期) 高次脳機能学半期セミナー	565
(秋～冬学期) 細胞システム学半期セミナー	566
(秋～冬学期) 細胞核ネットワーク学半期セミナー	568
(秋～冬学期) 細胞機能構造学半期セミナー	570
(秋～冬学期) 細胞生物学半期セミナー	571
(秋～冬学期) 情報伝達機構学半期セミナー	572
(秋～冬学期) 植物細胞生物学半期セミナー	573
(秋～冬学期) 植物生長生理学半期セミナー	574
(秋～冬学期) 神経可塑性生理学半期セミナー	576
(秋～冬学期) 生体高分子溶液学半期セミナー	577
(秋～冬学期) 生体超分子科学半期セミナー	579
(秋～冬学期) 生体分子機械学半期セミナー	581
(秋～冬学期) 生体分子反応科学半期セミナー	582
(秋～冬学期) 生物分子情報学半期セミナー	584
(秋～冬学期) 生物分子情報学半期セミナー	585
(秋～冬学期) 生命誌学半期セミナー	586
(秋～冬学期) 代謝調節機構学半期セミナー	587
(秋～冬学期) 蛋白質ナノ科学半期セミナー	589
(秋～冬学期) 蛋白質結晶学半期セミナー	590
(秋～冬学期) 蛋白質細胞生物学半期セミナー	591
(秋～冬学期) 蛋白質物理化学半期セミナー	592
(秋～冬学期) 蛋白質有機化学半期セミナー	593
(秋～冬学期) 超分子構造解析学半期セミナー	594
(秋～冬学期) 糖鎖生化学半期セミナー	595
(秋～冬学期) 発生生物学半期セミナー	596
(秋～冬学期) 分子遺伝学半期セミナー	597
(秋～冬学期) 分子細胞運動学半期セミナー	599
(秋～冬学期) 分子創製学半期セミナー	600
(秋～冬学期) 分子発生学半期セミナー	601
(秋～冬学期) 膜蛋白質化学半期セミナー	602
(秋～冬学期) 理論生物学半期セミナー	603
生物科学インタラクティブセミナーⅠ	604

	生物科学インタラクティブセミナーⅡ	605
4.2	生物科学専攻 後期課程	606
	1 分子生物学特別セミナー	607
	オルガネラバイオロジー特別セミナー	609
	核機能学特別セミナー	611
	感覚生理学特別セミナー	612
	機能・発現プロテオミクス学特別セミナー	613
	極限生物学特別セミナー	614
	系統進化学特別セミナー	615
	光合成反応学特別セミナー	617
	構造分子生物学特別セミナー	618
	高次脳機能学特別セミナー	619
	細胞核ネットワーク学特別セミナー	620
	細胞機能構造学特別セミナー	622
	細胞生物学特別セミナー	623
	情報伝達機構学特別セミナー	624
	植物細胞生物学特別セミナー	625
	植物生長生理学特別セミナー	626
	神経可塑性生理学特別セミナー	628
	生体高分子溶液学特別セミナー	629
	生体超分子科学特別セミナー	630
	生体分子機械学特別セミナー	631
	生体分子反応科学特別セミナー	632
	生物科学インタラクティブ特別セミナー	634
	生物分子情報学特別セミナー	635
	生物分子情報学特別セミナー	636
	生命誌学特別セミナー	637
	代謝調節機構学特別セミナー	638
	蛋白質ナノ科学特別セミナー	640
	蛋白質結晶学特別セミナー	641
	蛋白質細胞生物学特別セミナー	642
	蛋白質物理化学特別セミナー	643
	蛋白質有機化学特別セミナー	645
	超分子構造解析学特別セミナー	646
	糖鎖生化学特別セミナー	647
	発生生物学特別セミナー	649
	比較神経生物学特別セミナー	650
	分子遺伝学特別セミナー	652
	分子細胞運動学特別セミナー	654
	分子創製学特別セミナー	655
	分子発生学特別セミナー	656
	膜蛋白質化学特別セミナー	657
	理論生物学特別セミナー	658

第 5 章	高分子科学専攻	659
5.1	高分子科学専攻 前期課程	660
	インタラクティブセミナー (高分子科学専攻)	661
	(春～夏学期) 高分子凝集論半期セミナー	662
	(春～夏学期) 高分子固体科学半期セミナー	664
	(春～夏学期) 高分子構造論半期セミナー	665
	(春～夏学期) 高分子合成化学半期セミナー	666
	(春～夏学期) 高分子材料科学半期セミナー	667
	(春～夏学期) 高分子精密科学半期セミナー	668
	(春～夏学期) 高分子物性論半期セミナー	670
	(春～夏学期) 高分子溶液論半期セミナー	671
	(春～夏学期) 情報高分子機能論半期セミナー	672
	(春～夏学期) 情報高分子物性論半期セミナー	673
	(春～夏学期) 生体高分子 X 線解析学半期セミナー	674
	(春～夏学期) 生体超分子科学半期セミナー	675
	(春～夏学期) 超分子科学半期セミナー	677
	(春～夏学期) 無機高分子化学半期セミナー	679
	(秋～冬学期) 高分子凝集論半期セミナー	681
	(秋～冬学期) 高分子固体科学半期セミナー	683
	(秋～冬学期) 高分子構造論半期セミナー	684
	(秋～冬学期) 高分子合成化学半期セミナー	685
	(秋～冬学期) 高分子材料科学半期セミナー	686
	(秋～冬学期) 高分子精密科学半期セミナー	687
	(秋～冬学期) 高分子物性論半期セミナー	689
	(秋～冬学期) 高分子溶液論半期セミナー	690
	(秋～冬学期) 情報高分子機能論半期セミナー	691
	(秋～冬学期) 情報高分子物性論半期セミナー	692
	(秋～冬学期) 生体高分子 X 線解析学半期セミナー	693
	(秋～冬学期) 生体超分子科学半期セミナー	694
	(秋～冬学期) 超分子科学半期セミナー	696
	(秋～冬学期) 無機高分子化学半期セミナー	698
5.2	高分子科学専攻 BMC 科目 前期課程	700
	サイエンスコア A(前期課程対象)(高分子科学専攻)	701
5.3	高分子科学専攻 後期課程	702
	高分子凝集論特別セミナー	703
	高分子構造論特別セミナー	704
	高分子合成化学特別セミナー	705
	高分子精密科学特別セミナー	706
	高分子物性論特別セミナー	708
	情報高分子機能論特別セミナー	709
	情報高分子構造論特別セミナー	710
	情報高分子物性論特別セミナー	711
	生体超分子科学特別セミナー	712
5.4	高分子科学専攻 BMC 科目 後期課程	713
	サイエンスコア B(後期課程対象)(高分子科学専攻)	714
5.5	高分子科学専攻 BMC 科目 前期課程 (秋入学用)	715
	サイエンスコア A(前期課程対象)(高分子科学専攻)(秋入学用)	716

5.6	高分子科学専攻 BMC 科目 後期課程 (秋入学者用)	717
	インタラクティブ特別セミナー (高分子科学)	718
	サイエンスコア B(高分子科学専攻)(秋入学者用)	719
第 6 章	宇宙地球科学専攻	721
6.1	宇宙地球科学専攻 前期課程	722
	(春～夏学期)X 線天文学セミナー	723
	(春～夏学期) レーザー宇宙物理学セミナー	724
	(春～夏学期) 宇宙進化学セミナー	726
	(春～夏学期) 赤外線天文学セミナー	727
	(春～夏学期) 地球惑星物質科学セミナー	729
	(春～夏学期) 地球惑星物理化学セミナー	731
	(春～夏学期) 理論物性学セミナー	732
	(春～夏学期) 惑星科学セミナー	733
	(春～夏学期) 惑星内部物質学セミナー	734
	(秋～冬学期)X 線天文学セミナー	735
	(秋～冬学期) レーザー宇宙物理学セミナー	736
	(秋～冬学期) 宇宙進化学セミナー	737
	(秋～冬学期) 赤外線天文学セミナー	738
	(秋～冬学期) 地球惑星物質科学セミナー	740
	(秋～冬学期) 地球惑星物理化学セミナー	742
	(秋～冬学期) 理論物性学セミナー	743
	(秋～冬学期) 惑星科学セミナー	744
	(秋～冬学期) 惑星内部物質学セミナー	745
6.2	宇宙地球科学専攻 後期課程	746
	X 線天文学特別セミナー	747
	宇宙進化学特別セミナー	749
	赤外線天文学特別セミナー	750
	地球惑星物質科学特別セミナー	752
	地球惑星物理化学特別セミナー	753
	理論物性学特別セミナー	754
	惑星科学特別セミナー	755
	惑星内部物質学特別セミナー	756

第1章 数学専攻

第 1 章 数学専攻

1.1 数学専攻 前期課程

応用数理学セミナーⅠ

英語表記	Seminar in Applied Mathematics I
授業コード	249063
No.	24MATH6F111
単位数	9
担当教員	降旗 大介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における進んだ知識を与えとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	現象、モデリング、微分方程式、数値解析などについてその関係性と、基礎とその応用を学ぶ
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	空いている時間などを利用して、計算機環境などについてもなるべく自学にて理解を深めることを強く推奨する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

応用数理学セミナーⅠ

英語表記	Seminar in Applied Mathematics I
授業コード	249630
No.	24MATH6F111
単位数	9
担当教員	安田 正大 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	テキストの講読を通じ、与えられた課題に関する正確な知識を身につける。セミナーでの発表を通じ、習得した内容を分かりやすく伝えることができるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。他の学生のセミナーや関連分野の専門家とのディスカッションをなど通じ、課題内容と他分野との結びつきを理解し、幅広い視点から課題内容を考察する力を身につける。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

応用数理学セミナー II

英語表記	Seminar in Applied Mathematics II
授業コード	249438
No.	24MATH6F111
単位数	9
担当教員	砂川 秀明 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理, 情報理論, 計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

応用数理学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Applied Mathematics I
授業コード	249030
No.	24MATH6F111
単位数	9
担当教員	降旗 大介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	現象、モデリング、微分方程式、数値解析などについてその関係性と、基本的な基礎を学ぶ
履修条件	特になし
特記事項	数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業計画	
授業外における学習	空いている時間などを利用して、計算機環境などについてもなるべく自学にて理解を深めることを強く推奨する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

応用数理学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Applied Mathematics I
授業コード	249627
No.	24MATH6F111
単位数	9
担当教員	安田 正大 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	テキストの講読を通じ、与えられた課題に関する正確な知識を身につける。セミナーでの発表を通じ、習得した内容を的確に伝えることができるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。他の学生のセミナーや関連分野の専門家とのディスカッションをなど通じ、課題内容と他分野との結びつきを理解し、幅広い視点から課題内容を考察する力を身につける。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

応用数理学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Applied Mathematics II
授業コード	249434
No.	24MATH6F111
単位数	9
担当教員	砂川 秀明 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理, 情報理論, 計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学セミナーⅠ

英語表記	Seminar in Analysis I
授業コード	249621
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	水谷 治哉 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学セミナーI

英語表記	Seminar in Analysis I
授業コード	249519
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	盛田 健彦 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	数学における専門分野について、基礎理論から最先端のトピックスに至までの知識を有し、研究を推進するための基本的な技能を習得している。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキスト・論文等を批判的精神をもって熟読する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学セミナーI

英語表記	Seminar in Analysis I
授業コード	249281
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	塩沢 裕一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学セミナーI

英語表記	Seminar in Analysis I
授業コード	249047
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	杉田 洋 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学セミナーI

英語表記	Seminar in Analysis I
授業コード	249046
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	林 仲夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学セミナー II

英語表記	Seminar in Analysis II
授業コード	249050
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	内田 素夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	解析学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学, 偏微分方程式論, 関数解析学, 確率論などの分野についてセミナーを行なう。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学セミナー II

英語表記	Seminar in Analysis II
授業コード	249520
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	富田 直人 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学セミナー II

英語表記	Seminar in Analysis II
授業コード	240140
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	片山 聡一郎 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	解析学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学セミナー II

英語表記	Seminar in Analysis II
授業コード	249049
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	土居 伸一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Analysis I
授業コード	249280
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	塩沢 裕一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	数学における専門分野について、基礎理論から最先端の話題に至るまでの知識を有し、研究を推進するための基本的な技能を習得している。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Analysis I
授業コード	249620
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	水谷 治哉 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Analysis I
授業コード	249013
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	林 仲夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Analysis I
授業コード	249542
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	盛田 健彦 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	数学における専門分野について、基礎理論から最先端のトピックスに至までの知識を有し、研究を推進するための基本的な技能を習得している。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキスト・論文を批判的精神をもって熟読する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Analysis I
授業コード	249014
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	杉田 洋 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Analysis II
授業コード	249016
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	土居 伸一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Analysis II
授業コード	249017
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	内田 素夫 居室： b348
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	解析学分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行ない、学生有能力とセミナーの進展次第では論文作成指導などに移行する。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学, 偏微分方程式論, 関数解析学, 確率論などの分野についてセミナーを行なう。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナー発表などにより総合的に評価する。
コメント	

解析学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Analysis II
授業コード	249516
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	富田 直人 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

解析学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Analysis II
授業コード	240127
No.	24MATH6F104
単位数	9
担当教員	片山 聡一郎 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	解析学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学セミナー I

英語表記	Seminar in Geometry I
授業コード	249041
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	榎 一郎 居室 :
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	幾何学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学セミナーI

英語表記	Seminar in Geometry I
授業コード	240137
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	太田 慎一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学セミナー II

英語表記	Seminar in Geometry II
授業コード	249258
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	大鹿 健一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	幾何学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学セミナー II

英語表記	Seminar in Geometry II
授業コード	249436
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	菊池 和徳 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	幾何学の分野における進んだ知識の内容を文献講読・セミナー発表を通じて身につけ、修士論文を準備する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における進んだ文献の内容を理解し、それをセミナーで発表するための準備をする。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学セミナー II

英語表記	Seminar in Geometry II
授業コード	249644
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	金 英子 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Geometry I
授業コード	240124
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	太田 慎一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Geometry I
授業コード	249008
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	榎 一郎 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	幾何学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Geometry II
授業コード	249643
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	金 英子 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Geometry II
授業コード	249257
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	大鹿 健一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	幾何学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

幾何学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Geometry II
授業コード	249432
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	菊池 和徳 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	幾何学の分野の基礎知識の内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における基礎的な文献の内容を理解し、それをセミナーで発表するための準備をする。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

現代数理学セミナー

英語表記	Seminar in Mathematical Science
授業コード	249066
No.	24MATH6F100
単位数	9
担当教員	永友 清和 居室：
質問受付	月曜 2 限
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	現代数理学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 物理学に現れる偏微分方程式、代数解析などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

現代数理学基礎セミナー

英語表記	Reading Course in Mathematical Science
授業コード	249033
No.	24MATH6F100
単位数	9
担当教員	永友 清和 居室：
質問受付	月曜 2 限
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	現代数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 物理学に現れる偏微分方程式、代数解析などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

実験数学セミナーⅠ

英語表記	Seminar in Experimental Mathematics I
授業コード	249060
No.	24MATH6F105
単位数	9
担当教員	茶碗谷 毅 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	実験数学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト精読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 力学系、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

実験数学セミナーⅠ

英語表記	Seminar in Experimental Mathematics I
授業コード	249260
No.	24MATH6F105
単位数	9
担当教員	渡部 隆夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	実験数学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 応用整数論、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

実験数学セミナー II

英語表記	Seminar in Experimental Mathematics II
授業コード	249265
No.	24MATH6F105
単位数	9
担当教員	藤原 彰夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	実験数学の分野における進んだ知識を与えると同時に, 修士論文の準備のための研究指導をする.
学習目標	テキスト講読・セミナー発表を通じて, 課題内容を身につける.
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理工学や情報理論などの分野についてセミナーを行う.
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて, 課題内容を確実に理解する.
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより, 総合的に評価する.
コメント	

実験数学基礎セミナー I

英語表記	Introductory Seminar in Experimental Mathematics I
授業コード	249259
No.	24MATH6F105
単位数	9
担当教員	渡部 隆夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	実験数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 応用整数論、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

実験数学基礎セミナーⅠ

英語表記	Introductory Seminar in Experimental Mathematics I
授業コード	249027
No.	24MATH6F105
単位数	9
担当教員	茶碗谷 毅 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	実験数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 力学系、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

実験数学基礎セミナー II

英語表記	Introductory Seminar in Experimental Mathematics II
授業コード	249264
No.	24MATH6F105
単位数	9
担当教員	藤原 彰夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	実験数学の分野の基礎知識の修得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	テキスト講読・セミナー発表を通じて、課題内容を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理工学や情報理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学セミナーI

英語表記	Seminar in Algebra I
授業コード	249670
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	宇野 勝博 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学セミナーI

英語表記	Seminar in Algebra I
授業コード	249642
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	大川 新之介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学セミナーI

英語表記	Seminar in Algebra I
授業コード	249552
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	有木 進 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学セミナーI

英語表記	Seminar in Algebra I
授業コード	249675
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	中村 博昭 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学セミナー II

英語表記	Seminar in Algebra II
授業コード	249279
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	高橋 篤史 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	専門分野における高度な文献の内容を理解し、それを他者に説明することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野 (整数論、代数幾何学、可換環論、組合せ論、表現論、群論など) についてセミナーを行う。
授業外における学習	文献の読解および発表の準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学セミナー II

英語表記	Seminar in Algebra II
授業コード	249518
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	藤野 修 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学セミナー II

英語表記	Seminar in Algebra II
授業コード	249038
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	今野 一宏 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における進んだ知識を与えるとともに、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学セミナー II

英語表記	Seminar in Algebra II
授業コード	249409
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	森山 知則 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における進んだ知識を与えると同時に、修士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における標準的な文献の内容を理解し、それを他者に説明することができる。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Algebra I
授業コード	249674
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	中村 博昭 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Algebra I
授業コード	249641
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	大川 新之介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Algebra I
授業コード	249669
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	宇野 勝博 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	Representations of finite groups など/
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学基礎セミナーⅠ

英語表記	Reading Course in Algebra I
授業コード	249551
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	有木 進 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Algebra II
授業コード	249278
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	高橋 篤史 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	専門分野におけるやや高度な文献の内容を理解し、それを他者に説明することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野 (整数論、代数幾何学、可換環論、組合せ論、表現論、群論など) についてセミナーを行う。
授業外における学習	文献の読解および発表の準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Algebra II
授業コード	249005
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	今野 一宏 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Algebra II
授業コード	249408
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	森山 知則 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における標準的な文献の内容を理解し、それを他者に説明することができる。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

代数学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Algebra II
授業コード	240123
No.	24MATH6F102
単位数	9
担当教員	藤野 修 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

大域数理学セミナーⅠ

英語表記	Seminar in Mathematical Structures in the Large I
授業コード	249056
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	後藤 竜司 居室：
質問受付	.
履修対象	.
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	大域数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	.
履修条件	.
特記事項	.
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	.
教科書	.
参考文献	.
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	.

大域数理学セミナー II

英語表記	Seminar in Mathematical Structures in the Large II
授業コード	249058
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	安井 弘一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域幾何学の分野の基礎知識の習得を目指す. 少人数セミナーの形式で行うので, 学生の能力とセミナーの進展次第では, 論文作成指導などに移行する.
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて, 身につける.
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 多様体の幾何学, トポロジー, 幾何解析などの分野についてセミナーを行う.
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて, 課題内容を確実に理解する.
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより, 総合的に評価する.
コメント	

大域数理学セミナー II

英語表記	Seminar in Mathematical Structures in the Large II
授業コード	249697
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	山ノ井 克俊 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域幾何学の分野の基礎知識の習得を目指す. 少人数セミナーの形式で行うので, 学生の能力とセミナーの進展次第では, 論文作成指導などに移行する.
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて, 身につける.
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 多様体の幾何学, トポロジー, 幾何解析などの分野についてセミナーを行う.
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて, 課題内容を確実に理解する.
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより, 総合的に評価する.
コメント	

大域数理学セミナー II

英語表記	Seminar in Mathematical Structures in the Large II
授業コード	249665
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	糟谷 久矢 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域幾何学の分野の基礎知識の習得を目指す. 少人数セミナーの形式で行うので, 学生の能力とセミナーの進展次第では, 論文作成指導などに移行する.
学習目標	学生は修士論文を書くための基礎を築くことができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 多様体の幾何学, トポロジー, 幾何解析などの分野についてセミナーを行う.
授業外における学習	セミナーの準備
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより, 総合的に評価する.
コメント	

大域数理学セミナー II

英語表記	Seminar in Mathematical Structures in the Large II
授業コード	249057
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	大島 芳樹 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域幾何学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 多様体の幾何学、トポロジー、幾何解析などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

大域数理学基礎セミナー I

英語表記	Reading Course in Mathematical Structures in the Large I
授業コード	249023
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	後藤 竜司 居室：
質問受付	.
履修対象	.
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	大域数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	.
履修条件	.
特記事項	.
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	.
教科書	.
参考文献	.
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	.

大域数理学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Mathematical Structures in the Large II
授業コード	249696
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	山ノ井 克俊 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

大域数理学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Mathematical Structures in the Large II
授業コード	249664
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	糟谷 久矢 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	学生は修士論文を書くための基礎学力を築くことができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	セミナーの準備
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

大域数理学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Mathematical Structures in the Large II
授業コード	249025
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	安井 弘一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

大域数理学基礎セミナー II

英語表記	Reading Course in Mathematical Structures in the Large II
授業コード	249024
No.	24MATH6F103
単位数	9
担当教員	大島 芳樹 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野の基礎知識の習得を目指す。少人数セミナーの形式で行うので、学生の能力とセミナーの進展次第では、論文作成指導などに移行する。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	

1.2 数学専攻 後期課程

応用数理学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 1
授業コード	240901
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	安井 弘一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 1
授業コード	249440
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	砂川 秀明 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 1
授業コード	249134
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	大島 芳樹 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解論、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 1
授業コード	249634
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	安田 正大 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	テキストの講読を通じ、与えられた課題に関する正確な知識を身につける。セミナーでの発表を通じ、習得した内容を分かりやすく伝えることができるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。他の学生のセミナーや関連分野の専門家とのディスカッションをなど通じ、課題内容と他分野との結びつきを理解し、幅広い視点から課題内容を考察する力を身につける。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 1
授業コード	249138
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	降籬 大介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	現象、モデリング、微分方程式、数値解析などについてその関係性と、基礎とその応用、発展を学ぶ
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	空いている時間などを利用して、計算機環境などについてもなるべく自学にて理解を深めることを強く推奨する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 2
授業コード	240902
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	安井 弘一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解論、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 2
授業コード	249442
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	砂川 秀明 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 2
授業コード	249140
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	大島 芳樹 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 2
授業コード	249635
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	安田 正大 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	テキストの講読を通じ、与えられた課題に関する正確な知識を身につける。セミナーでの発表を通じ、習得した内容を分かりやすく伝えることができるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。他の学生のセミナーや関連分野の専門家とのディスカッションをなど通じ、課題内容と他分野との結びつきを理解し、幅広い視点から課題内容を考察する力を身につける。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 2
授業コード	249144
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	降旗 大介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	現象、モデリング、微分方程式、数値解析などについてその関係性と、基礎とその応用、発展を学ぶ
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	空いている時間などを利用して、計算機環境などについてもなるべく自学にて理解を深めることを強く推奨する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 3
授業コード	249444
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	砂川 秀明 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 3
授業コード	249636
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	安田 正大 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	テキストの講読を通じ、与えられた課題に関する正確な知識を身につける。セミナーでの発表を通じ、習得した内容を分かりやすく伝えることができるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。他の学生のセミナーや関連分野の専門家とのディスカッションをなど通じ、課題内容と他分野との結びつきを理解し、幅広い視点から課題内容を考察する力を身につける。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 3
授業コード	240903
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	安井 弘一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 3
授業コード	249146
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	大島 芳樹 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理解物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じ、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

応用数理学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Applied Mathematics 3
授業コード	249150
No.	24MATH7F111
単位数	9
担当教員	降籬 大介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	応用数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	現象、モデリング、微分方程式、数値解析などについてその関係性と、基礎とその応用、発展を学ぶ
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理物理、情報理論、計算機科学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	空いている時間などを利用して、計算機環境などについてもなるべく自学にて理解を深めることを強く推奨する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 1
授業コード	249111
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	杉田 洋 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 1
授業コード	249010
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	富田 直人 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 1
授業コード	249622
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	水谷 治哉 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 1
授業コード	249110
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	林 仲夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 1
授業コード	249116
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	盛田 健彦 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	専門分野について、最先端の知識と技能を有し、研究を主体的に推進することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	論文等を批判的精神をもって熟読する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 1
授業コード	249109
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	片山 聡一郎 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 1
授業コード	249113
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	土居 伸一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 1
授業コード	249282
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	塩沢 裕一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 1
授業コード	249114
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	内田 素夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学, 偏微分方程式論, 関数解析学, 確率論などの分野についてセミナーを行なう。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 2
授業コード	249117
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	片山 聡一郎 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 2
授業コード	249122
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	内田 素夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学, 偏微分方程式論, 関数解析学, 確率論などの分野についてセミナーを行なう。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 2
授業コード	249118
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	林 仲夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 2
授業コード	249121
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	土居 伸一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 2
授業コード	249283
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	塩沢 裕一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 2
授業コード	249124
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	盛田 健彦 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	専門分野について、最先端の知識と技能を有し、研究を主体的に推進することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	論文等を批判的精神をもって熟読する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 2
授業コード	249623
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	水谷 治哉 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 2
授業コード	249119
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	杉田 洋 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 2
授業コード	249011
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	富田 直人 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 3
授業コード	249624
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	水谷 治哉 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 3
授業コード	249018
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	富田 直人 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 3
授業コード	249130
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	内田 素夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学, 偏微分方程式論, 関数解析学, 確率論などの分野についてセミナーを行なう。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 3
授業コード	249129
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	土居 伸一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 3
授業コード	249126
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	林 仲夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 3
授業コード	249132
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	盛田 健彦 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	専門分野について、最先端の知識と技能を有し、研究を主体的に推進することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	論文等を批判的精神をもって熟読する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 3
授業コード	249125
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	片山 聡一郎 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 3
授業コード	249127
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	杉田 洋 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

解析学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analysis 3
授業コード	249284
No.	24MATH7F104
単位数	9
担当教員	塩沢 裕一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	解析学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト輪読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 複素解析学、偏微分方程式論、関数解析学、確率論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 1
授業コード	249086
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	大鹿 健一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 1
授業コード	249650
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	金 英子 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 1
授業コード	249090
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	菊池 和徳 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	幾何学の分野における深い知識の内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における文献の内容を深く理解し、それをセミナーで発表するための準備をする。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 1
授業コード	249089
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	榎 一郎 居室 :
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 1
授業コード	249087
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	太田 慎一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、大域解析学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 2
授業コード	249098
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	菊池 和徳 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	幾何学の分野における深い知識の内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて身につけ、博士論文の準備を進める。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における文献の内容を深く理解し、それをセミナーで発表するための準備をする。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 2
授業コード	249094
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	大鹿 健一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 2
授業コード	249651
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	金 英子 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 2
授業コード	249097
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	榎 一郎 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 2
授業コード	249093
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	太田 慎一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、大域解析学などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 3
授業コード	249105
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	榎 一郎 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 3
授業コード	249106
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	菊池 和徳 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	幾何学の分野における深い知識の内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における文献の内容を深く理解し、それをセミナーで発表するための準備をする。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 3
授業コード	249102
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	大鹿 健一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 3
授業コード	249101
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	太田 慎一 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

幾何学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Geometry 3
授業コード	249652
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	金 英子 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	幾何学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 微分幾何学、複素多様体、位相幾何学、結び目理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

現代数理学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Science 1
授業コード	249181
No.	24MATH7F100
単位数	9
担当教員	永友 清和 居室：
質問受付	月曜 2 限
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	現代数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 物理学に現れる偏微分方程式、代数解析などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

現代数理学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Science 2
授業コード	249182
No.	24MATH7F100
単位数	9
担当教員	永友 清和 居室：
質問受付	月曜 2 限
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	現代数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 物理学に現れる偏微分方程式、代数解析などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

現代数理学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Science 3
授業コード	249183
No.	24MATH7F100
単位数	9
担当教員	永友 清和 居室：
質問受付	月曜 2 限
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	現代数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 物理学に現れる偏微分方程式、代数解析などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

実験数学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Experimental Mathematics 1
授業コード	249176
No.	24MATH7F105
単位数	9
担当教員	茶碗谷 毅 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	実験数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 力学系、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

実験数学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Experimental Mathematics 1
授業コード	249266
No.	24MATH7F105
単位数	9
担当教員	藤原 彰夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	実験数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	テキスト講読・セミナー発表を通じて、課題内容を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 応用整数論、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

実験数学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Experimental Mathematics 1
授業コード	249261
No.	24MATH7F105
単位数	9
担当教員	渡部 隆夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	実験数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	自ら研究課題を見つけるための思考法と課題解決のための方法論をセミナー発表等を通じて身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 応用整数論、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、研究課題の探索・課題解決のための技術的方法を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

実験数学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Experimental Mathematics 2
授業コード	249262
No.	24MATH7F105
単位数	9
担当教員	渡部 隆夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	実験数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	自ら研究課題を見つけるための思考法と課題解決のための方法論をセミナー発表等を通じて身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 応用整数論、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、研究課題の探索・課題解決のための技術的方法を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

実験数学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Experimental Mathematics 2
授業コード	249267
No.	24MATH7F105
単位数	9
担当教員	藤原 彰夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	実験数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	テキスト講読・セミナー発表を通じて、課題内容を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 応用整数論、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

実験数学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Experimental Mathematics 2
授業コード	249178
No.	24MATH7F105
単位数	9
担当教員	茶碗谷 毅 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	実験数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 力学系、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

実験数学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Experimental Mathematics 3
授業コード	249180
No.	24MATH7F105
単位数	9
担当教員	茶碗谷 毅 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	実験数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 力学系、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

実験数学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Experimental Mathematics 3
授業コード	249268
No.	24MATH7F105
単位数	9
担当教員	藤原 彰夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	実験数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	テキスト講読・セミナー発表を通じて、課題内容を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 応用整数論、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

実験数学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Experimental Mathematics 3
授業コード	249263
No.	24MATH7F105
単位数	9
担当教員	渡部 隆夫 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	実験数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	自ら研究課題を見つけるための思考法と課題解決のための方法論をセミナー発表等を通じて身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 応用整数論、数値計算などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、研究課題の探索・課題解決のための技術的方法を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 1
授業コード	249070
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	森山 知則 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における標準的な文献の内容を理解し、それを他者に説明することができる。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 1
授業コード	249069
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	今野 一宏 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 1
授業コード	249002
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	藤野 修 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 1
授業コード	249553
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	有木 進 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 1
授業コード	249676
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	中村 博昭 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 1
授業コード	249671
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	宇野 勝博 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 1
授業コード	249647
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	大川 新之介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 1
授業コード	249269
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	高橋 篤史 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	専門分野における最新の文献の内容を理解し、自ら研究に取り組み、成果を取りまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野 (整数論、代数幾何学、可換環論、組合せ論、表現論、群論など) についてセミナーを行う。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 2
授業コード	249672
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	宇野 勝博 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 2
授業コード	249006
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	藤野 修 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 2
授業コード	249554
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	有木 進 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 2
授業コード	249270
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	高橋 篤史 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	専門分野における最新の文献の内容を理解し、自ら研究に取り組み、成果を取りまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野 (整数論、代数幾何学、可換環論、組合せ論、表現論、群論など) についてセミナーを行う。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 2
授業コード	249075
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	今野 一宏 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 2
授業コード	249076
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	森山 知則 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における標準的な文献の内容を理解し、それを他者に説明することができる。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 2
授業コード	249677
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	中村 博昭 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 2
授業コード	249648
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	大川 新之介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 3
授業コード	249555
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	有木 進 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 3
授業コード	249271
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	高橋 篤史 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	専門分野における最新の文献の内容を理解し、自ら研究に取り組み、成果を取りまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 代数学の分野 (整数論、代数幾何学、可換環論、組合せ論、表現論、群論など) についてセミナーを行う。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 3
授業コード	249649
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	大川 新之介 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 3
授業コード	249081
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	今野 一宏 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 3
授業コード	249678
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	中村 博昭 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 3
授業コード	249009
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	藤野 修 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 3
授業コード	249673
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	宇野 勝博 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

代数学特別セミナー3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Algebra 3
授業コード	249082
No.	24MATH7F102
単位数	9
担当教員	森山 知則 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	代数学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 整数論、可換環論、組合せ論、代数幾何学、群論、組合せゲーム理論などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	専門分野における標準的な文献の内容を理解し、それを他者に説明することができる。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

大域数理学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Structures in the Large 1
授業コード	249701
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	山ノ井 克俊 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

大域数理学特別セミナー1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Structures in the Large 1
授業コード	249157
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	後藤 竜司 居室：
質問受付	.
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	大域数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	.
履修条件	.
特記事項	.
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	.
教科書	.
参考文献	.
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

大域数理学特別セミナー 1

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Structures in the Large 1
授業コード	249666
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	糟谷 久矢 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	学生は修士論文レベルから博士論文レベルの研究に移行することができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	セミナーの準備
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

大域数理学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Structures in the Large 2
授業コード	249702
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	山ノ井 克俊 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

大域数理学特別セミナー 2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Structures in the Large 2
授業コード	249165
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	後藤 竜司 居室：
質問受付	.
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	.
履修条件	.
特記事項	.
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	.
教科書	.
参考文献	.
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

大域数理学特別セミナー2

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Structures in the Large 2
授業コード	249667
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	糟谷 久矢 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	学生は博士論文に価する研究テーマを見つけることができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	セミナーの準備
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

大域数理学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Structures in the Large 3
授業コード	249668
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	糟谷 久矢 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野における深い知識を与えると同時に、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	学生は博士論文に価する論文を執筆することができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	セミナーの準備
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

大域数理学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Structures in the Large 3
授業コード	249703
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	山ノ井 克俊 居室：
質問受付	
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	課題内容をテキスト講読・セミナー発表を通じて、身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	テキストの精読・関係図書資料の調査などを通じて、課題内容を確実に理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

大域数理学特別セミナー 3

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Structures in the Large 3
授業コード	249173
No.	24MATH7F103
単位数	9
担当教員	後藤 竜司 居室：
質問受付	.
履修対象	数学専攻 博士後期課程 3 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	大域数理学の分野における深い知識を与えるとともに、博士論文の準備のための研究指導をする。
学習目標	.
履修条件	.
特記事項	.
授業計画	【講義内容】 大域解析学、代数多様体などの分野についてセミナーを行う。
授業外における学習	.
教科書	.
参考文献	.
成績評価	セミナーにおける発表などにより、総合的に評価する。
コメント	特別セミナー 1、2、3 はそれぞれ 1 年次、2 年次、3 年次に履修する。

第2章 物理学専攻

2.1 物理学専攻 A コース (理論系: 基礎物理学・量子物理学コース) 前期課程

(春～夏学期) 原子核理論半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Theoretical Nuclear Physics I
授業コード	240982
No.	24PHYS6F308
単位数	4
担当教員	浅川 正之 居室： 赤松 幸尚 居室： 北澤 正清 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、原子核物理の最先端のテーマについて自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(春～夏学期) 原子核理論半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Theoretical Nuclear Physics II
授業コード	249304
No.	24PHYS6F308
単位数	4
担当教員	保坂 淳 居室 : 石井 理修 居室 : 緒方 一介 居室 :
質問受付	随時
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。それぞれの指導教員のアドバイスのもと、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	学術論文に掲載できる水準の研究が共同研究によって遂行できることを目標とする。
履修条件	
特記事項	指導教員が行う講義を通算2年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。
授業計画	指導教員に毎週定期的に学習研究の進捗状況を説明するとともに、研究方針について議論する。年に2回程 度研究室全体場で、研究の進捗、および関連分野の研究について報告する。
授業外における学習	物理学学会、国内の研究集会、国際研究集会などへの出席などの出席、および可能であれば成果発表の場を活用する。
教科書	Advanced quantum mechanics, field theory などに関する国際水準の教科書、および原著論文。
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 高エネルギープラズマ物性理論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Theory of High Energy Density Physics
授業コード	241718
No.	24PHYS5F305
単位数	4
担当教員	千徳 靖彦 居室 : Email : sentoku-y@ile.osaka-u.ac.jp
質問受付	随時、しかし email でアポイントを取ること。
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	高エネルギー密度科学の概論的に学んだのち、レーザープラズマ、宇宙プラズマなどの各トピックスを紹介し、個別課題を設けて議論を行う。
学習目標	高エネルギー密度プラズマの基礎を理解し、必要な基礎知識を習得するとともに、問題解決能力を養うことを目的とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 高エネルギー密度物理概論 第 2 回 プラズマ物理基礎 (I) 第 3 回 プラズマ物理基礎 (II) 第 4 回 レーザープラズマ物理基礎 第 5 回 超高高度レーザーと物質の相互作用 第 6 回 レーザーイオン加速 (I) 第 7 回 レーザーイオン加速 (II) 第 8 回 数値計算技法 (I) 数値計算基礎 第 9 回 数値計算技法 (II) 電磁場の数値計算 第 10 回 数値計算技法 (III) 荷電粒子の電磁場中での運動計算 第 11 回 数値計算技法 (IV) プラズマ粒子シミュレーション技法 第 12 回 数値計算技法 (V) MHD シミュレーション技法 第 13 回 レーザー核融合 第 14 回 総合討論 (I):グループ討論 第 15 回 総合討論 (II):発表、講評
	この授業計画は学生の理解レベル、興味により変更される可能性がある。
授業外における学習	
教科書	教員が用意したスライドやプリントを利用する
参考文献	Basic Space Plasma Physics, W. Baumjohan & R. A. Treumann Short Pulse Laser Interaction with Matter, P. Gibbon
成績評価	授業での討論及び発表・レポートの内容で評価する
コメント	

(春～夏学期) 場の理論半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Field Theory I
授業コード	240980
No.	24PHYS6F308
単位数	4
担当教員	橋本 幸土 居室 : 山口 哲 居室 : 飯塚 則裕 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、素粒子論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(春～夏学期) 場の理論半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Field Theory II
授業コード	240981
No.	24PHYS6F308
単位数	4
担当教員	尾田 欣也 居室： H716 兼村 晋哉 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 講義内容指導教員が行うものを通算 2 年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。 平成 17 年度以前入学者については、4.5 単位科目のセミナーの単位も修了要件として認める。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 数理物理学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Mathematical Physics
授業コード	249319
No.	24PHYS5F305
単位数	4
担当教員	浅野 建一 居室 : 大橋 琢磨 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、物性論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(春～夏学期) 多体問題半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Many-Body Problem I
授業コード	240984
No.	24PHYS5F315
単位数	4
担当教員	阿久津 泰弘 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、多体問題の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(春～夏学期) 多体問題半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Many-Body Problem II
授業コード	240985
No.	24PHYS5F315
単位数	4
担当教員	菊池 誠 居室 : 吉野 元 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、統計物理学の研究に必要な基礎知識を身につけ、統計物理学の最先端のテーマについて自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表 70%
コメント	

(春～夏学期) 物性理論半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Condensed Matter Theory I
授業コード	240986
No.	24PHYS5F305
単位数	4
担当教員	黒木 和彦 居室 : Keith Slevin 居室 : 坂本 好史 居室 : 越智 正之 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、物性理論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(春～夏学期) 物性理論半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Condensed Matter Theory II
授業コード	249314
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	小口 多美夫 居室 : 山内 邦彦 居室 : 白井 光雲 居室 : 粂田 浩義 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 講義内容指導教員が行うものを通算2年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。 平成17年度以前入学者については、4.5単位科目のセミナーの単位も修了要件として認める。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 物性理論半期セミナー III

英語表記	Semestral Seminar in Condensed Matter Theory III
授業コード	241712
No.	24PHYS5F305
単位数	4
担当教員	越野 幹人 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、物性理論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 原子核理論半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Theoretical Nuclear Physics I
授業コード	249298
No.	24PHYS6F308
単位数	4
担当教員	浅川 正之 居室 : 赤松 幸尚 居室 : 北澤 正清 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、原子核物理の最先端のテーマについて自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 原子核理論半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Theoretical Nuclear Physics II
授業コード	249305
No.	24PHYS6F308
単位数	4
担当教員	保坂 淳 居室 : 石井 理修 居室 : 緒方 一介 居室 :
質問受付	随時
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。それぞれの指導教員のアドバイスのもと、文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	学術論文に掲載できる水準の研究が共同研究によって遂行できることを目標とする。
履修条件	
特記事項	指導教員が行う講義を通算 2 年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。
授業計画	指導教員に毎週定期的に学習研究の進捗状況を説明するとともに、研究方針について議論する。年に 2 回程 度研究室全体場で、研究の進捗、および関連分野の研究について報告する。
授業外における学習	物理学会学会、国内の研究集会、国際研究集会などへの出席などの出席、および可能であれば成果発表の場を活用する。
教科書	Advanced quantum mechanics, field theory などに関する国際水準の教科書、および原著論文。
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 高エネルギープラズマ物性理論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Theory of High Energy Density Physics
授業コード	249721
No.	24PHYS5F305
単位数	4
担当教員	千徳 靖彦 居室 : Email : sentoku-y@ile.osaka-u.ac.jp
質問受付	随時、しかし email でアポイントを取ることを。
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	高エネルギー密度科学の概論的に学んだのち、レーザープラズマ、宇宙プラズマなどの各トピックスを紹介し、個別課題を設けて議論を行う。
学習目標	高エネルギー密度プラズマの基礎を理解し、必要な基礎知識を習得するとともに、問題解決能力を養うことを目的とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 高エネルギー密度物理概論 第2回 宇宙プラズマ物理 (I) 第3回 宇宙プラズマ物理 (II) 第4回 強磁場中のプラズマ物理 第5回 数値計算技法 (I) 強磁場中の電磁波の電波のシミュレーション 第6回 数値計算技法 (II) 超高強度レーザーの吸収と電子加速のシミュレーション 第7回 超高強度レーザー照射下の X 線輻射の物理 第8回 数値計算技法 (III) レーザー駆動 X 線輻射のシミュレーション技法 第9回 X 線自由電子レーザー (XFEL) 第10回 数値計算技法 (IV) XFEL に物質の加熱のシミュレーション 第11回 レーザープラズマの応用 第12回 レーザー核融合 第13回 総合討論 (I):グループ討論 第14回 総合討論 (II):グループ討論 第15回 総合討論 (II):発表、講評 この授業計画は学生の理解レベル、興味により変更される可能性がある。
授業外における学習	
教科書	教員が用意したスライドやプリントを利用する
参考文献	Basic Space Plasma Physics, W. Baumjohan & R. A. Treumann Short Pulse Laser Interaction with Matter, P. Gibbon
成績評価	授業での討論及び発表・レポートの内容で評価する
コメント	

(秋～冬学期) 場の理論半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Field Theory I
授業コード	249294
No.	24PHYS6F308
単位数	4
担当教員	橋本 幸士 居室 : 山口 哲 居室 : 飯塚 則裕 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、素粒子論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 場の理論半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Field Theory II
授業コード	249297
No.	24PHYS6F308
単位数	4
担当教員	尾田 欣也 居室： H716 Email： odakin@phys.sci.osaka-u.ac.jp 兼村 晋哉 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 講義内容指導教員が行うものを通算2年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。 平成17年度以前入学者については、4.5単位科目のセミナーの単位も修了要件として認める。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 数理物理学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Mathematical Physics
授業コード	249320
No.	24PHYS5F305
単位数	4
担当教員	浅野 建一 居室： 大橋 琢磨 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、物性論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 多体問題半期セミナーⅠ

英語表記	Semestral Seminar in Many-Body Problem I
授業コード	249306
No.	24PHYS5F315
単位数	4
担当教員	阿久津 泰弘 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、多体問題の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 多体問題半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Many-Body Problem II
授業コード	249307
No.	24PHYS5F315
単位数	4
担当教員	菊池 誠 居室： 吉野 元 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、統計物理学の研究に必要な基礎知識を身につけ、統計物理学の最先端のテーマについて自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表 70%
コメント	

(秋～冬学期) 物性理論半期セミナーⅠ

英語表記	Semestral Seminar in Condensed Matter Theory I
授業コード	249310
No.	24PHYS5F305
単位数	4
担当教員	黒木 和彦 居室 : Keith Slevin 居室 : 坂本 好史 居室 : 越智 正之 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、物性理論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 物性理論半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Condensed Matter Theory II
授業コード	249315
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	小口 多美夫 居室： 山内 邦彦 居室： 白井 光雲 居室： 粂田 浩義 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 講義内容指導教員が行うものを通算 2 年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。 平成 17 年度以前入学者については、4.5 単位科目のセミナーの単位も修了要件として認める。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 物性理論半期セミナー III

英語表記	Semestral Seminar in Condensed Matter Theory III
授業コード	249717
No.	24PHYS5F305
単位数	4
担当教員	越野 幹人 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各自の研究テーマにそって理論研究を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 講義内容指導教員が行うものを通算2年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

2.2 物理学専攻 A コース (理論系：基礎物理学・量子物理学コース) 後期課程

原子核理論特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Theory
授業コード	249207
No.	24PHYS7F308
単位数	9
担当教員	浅川 正之 居室： 北澤 正清 居室： 赤松 幸尚 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士後期課程
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、原子核物理の最先端のテーマについて自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

高エネルギープラズマ物性理論特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Theory of High Energy Density Physics
授業コード	241719
No.	24PHYS7F305
単位数	9
担当教員	千徳 靖彦 居室： Email: sentoku-y@ile.osaka-u.ac.jp
質問受付	随時、ただしメールでアポイントをとること。
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	高エネルギー密度科学を深く理解し、実際に研究で使われているシミュレーション技法などを学び、自身の博士研究に役立つ知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。
学習目標	高エネルギー密度プラズマの専門家となるために必要な基礎と、研究者として独り立ちしていけるように、数値計算技法を習得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 高エネルギー密度物理特論 第2回 プラズマ物理特論 (I) 第3回 プラズマ物理特論 (II) 第4回 レーザープラズマ物理 第5回 超高高度レーザーと物質の相互作用の理論 第6回 数値計算技法 (I) プラズマ粒子 (PIC) シミュレーション技法 第7回 数値計算技法 (II) MHD シミュレーション技法 第8回 超高強度レーザープラズマ相互作用に関する PIC シミュレーション 第9回 宇宙プラズマの MHD シミュレーション 第10回 総合討論 (I):グループ討論・課題設定 第11回 高エネルギー密度プラズマ中の X 線輻射物理 第12回 数値計算技法 (III) 非平衡輻射プラズマのシミュレーション技法 第13回 総合討論 (II):グループ討論・課題の進捗、問題点の議論 第14回 総合討論 (III):グループ討論・課題のまとめ 第15回 総合討論 (II):発表、講評
	セミナーの内容は学生の興味、理解度などで変更されることもありえる。
授業外における学習	
教科書	教員が用意したスライドやプリントを利用する
参考文献	Basic Space Plasma Physics, W. Baumjohan & R. A. Treumann Short Pulse Laser Interaction with Matter, P. Gibbon
成績評価	授業での討論及び発表・レポートの内容で評価する
コメント	

場の数理特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Field Theory
授業コード	240289
No.	24PHYS7F308
単位数	9
担当教員	橋本 幸士 居室： 山口 哲 居室： 飯塚 則裕 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、素粒子論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

場の理論特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Quantum Field Theory
授業コード	240288
No.	24PHYS7F308
単位数	9
担当教員	尾田 欣也 居室： H716 兼村 晋哉 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

数理物理学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mathematical Physics
授業コード	249274
No.	24PHYS7F305
単位数	9
担当教員	浅野 建一 居室： 大橋 琢磨 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、物性論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

多体問題特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Many-Body Problems
授業コード	249194
No.	24PHYS7F308
単位数	9
担当教員	保坂 淳 居室： 石井 理修 居室： 緒方 一介 居室：
質問受付	随時
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。それぞれの指導教員のアドバイスのもと、文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	学術論文に掲載できる水準の研究が自ら遂行できることを目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	指導教員に毎週定期的に学習研究の進捗状況を説明するとともに、研究方針について議論する。年に 2 回程度研究室全体場で、研究の進捗、および関連分野の研究について報告する。
授業外における学習	物理学学会、国内の研究集会、国際研究集会などへの出席などの出席、成果発表の場を活用する。
教科書	Advanced quantum mechanics, field theory などに関する国際水準の教科書、および原著論文。
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

統計物理学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Statistical Physics
授業コード	240294
No.	24PHYS7F315
単位数	9
担当教員	阿久津 泰弘 居室： 菊池 誠 居室： 吉野 元 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士後期課程
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、統計物理学の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

物性理論特別セミナー I

英語表記	Advanced Seminar in Condensed Matter Theory I	
授業コード	241022	
No.	24PHYS7F305	
単位数	9	
担当教員	黒木 和彦	居室：
	Keith Slevin	居室：
	坂本 好史	居室：
	越智 正之	居室：
質問受付		
履修対象	物理学専攻 博士前期課程	
開講時期	通年	
場所	その他	
授業形態		
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。	
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、物性理論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。	
履修条件		
特記事項		
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～29 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 30 回 研究成果のまとめの発表	
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。	
教科書		
参考文献		
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%	
コメント		

物性理論特別セミナーII

英語表記	Advanced Seminar in Condensed Matter Theory II		
授業コード	249391		
No.	24PHYS7F305		
単位数	9		
担当教員	小口 多美夫	居室 :	
	白井 光雲	居室 :	
	山内 邦彦	居室 :	
	梶田 浩義	居室 :	
質問受付			
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修		
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態			
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。		
学習目標			
履修条件			
特記事項			
授業計画			
授業外における学習			
教科書			
参考文献			
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。		
コメント			

物性理論特別セミナー III

英語表記	Advanced Seminar in Condensed Matter Theory III
授業コード	241713
No.	24PHYS7F305
単位数	9
担当教員	越野 幹人 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。各自のテーマに沿って理論研究を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

2.3 物理学専攻 B コース (実験系：素粒子・核物理学コース) 前期課程

(春～夏学期) レプトン核科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Lepton-Nuclear Science
授業コード	240997
No.	24PHYS5F308
単位数	4
担当教員	阪口 篤志 居室： 吉田 斉 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通して、研究に必要な基礎知識を身に付け、素粒子・核物理学の最先端のテーマを自分で設定し、研究を遂行する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	初回はガイダンスを行う。研究グループのミーティングに参加し、そこで行われている研究発表を聞きながら、教員との議論を通して自らの研究テーマを設定し、研究を進める。研究の進捗状況を研究グループでのミーティングで定期的に発表し、コメント(批判や助言)を受けることで、研究としての完成度を高める。
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 加速器科学半期セミナー

英語表記	Semestral Semina in Accelerator Science
授業コード	241125
No.	24PHYS5F308
単位数	4
担当教員	福田 光宏 居室： 核物理研究センター 301 号室 電話： 8931 Fax： 06-6879-8899 Email： mhfukuda@rcnp.osaka-u.ac.jp 依田 哲彦 居室： 核物理研究センター 302 号室 電話： 8914 Fax： 06-6879-8899 Email： yorita@rcnp.osaka-u.ac.jp
質問受付	いつでも。まずメールすること。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	加速器の動作原理とその背景にある物理を深く理解すると共に、加速器物理とその応用技術について習得する。また、研究動向のレビューや各自の研究の進捗状況の報告、議論等を通じて加速器科学の総合的理解を目指す。
学習目標	このセミナーでは、加速器科学に関わる荷電粒子運動学、イオン光学、電磁気学、高周波技術、ビーム計測学などをベースにした加速器物理とその応用技術の習得を目指す。その中で設定した各自の研究テーマについて、その領域の研究動向のレビューを行うとともに、各自の研究の進捗報告と議論を行うことにより、総合的に理解を深める。さらに、研究をデザインする能力、実践する能力、さらに成果を取りまとめる能力を育て、最終的に各自の修士論文を完成させる。これらの過程において、専門書や最新論文の紹介および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他の研究者(大学院生を含む)との質疑応答、プレゼンテーション技術などが訓練される。具体的な研究課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは、荷電粒子運動学、イオン光学、電磁気学、高周波技術、線形加速器、サイクロトロン、シンクロトロン、FFAG、医療用加速器と関連装置、加速粒子の特性計測などである。
履修条件	なし
特記事項	
授業計画	以下の内容から構成される(状況により順序の変更はあり得る)。 (第1回) オリエンテーション 「物理学」における加速器科学の位置づけを説明し、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 (第2～9回) 研究論文の紹介 加速器科学分野の基礎と応用、最新の重要な文献の内容などを履修生が発表し、加速器の設計手法、加速器要素の詳細、加速粒子の特性計測法を学び、測定結果の解釈、加速器科学における意義と波及効果などについて議論を行う。 (第10～14回) 研究進捗報告プレゼンテーション 【講義内容】

2.3. 物理学専攻 B コース (実験系：素粒子・核物理学コース) 前期課程

指導教員が行うものを通算 2 年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。

授業外における学習	関連する専門分野の文献などを調査し、授業で発表すること
教科書	適宜指示する。
参考文献	Nuclear Instruments and Methods in Physics Research, Review of Scientific Instruments, IEEE などの重要論文
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	授業を受講するにあたり、特別な配慮を必要とする場合は事前に申し出ること

(春～夏学期) 核反応計測学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Instrumentation
授業コード	240996
No.	24PHYS5F308
単位数	4
担当教員	能町 正治 居室 : 嶋 達志 居室 : 菅谷 頼仁 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、素粒子論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(春～夏学期) 原子核構造半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Structure I
授業コード	240993
No.	24PHYS5F306
単位数	4
担当教員	小田原 厚子 居室： H428 電話： 5745 Fax： 5746 Email： odahara@phys.sci.osaka-u.ac.jp 清水 俊 居室：
質問受付	特に指定しない。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、実験研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、実験原子核物理学のテーマを自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	特になし。
特記事項	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2-14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習を行う。
教科書	教科書は適宜、必要な時に提示する。
参考文献	参考文献も必要な時に適宜紹介する。
成績評価	研究成果のまとめの発表 30%、グループワークにおける発表内容 60%、レポート 10%で評価する。
コメント	特になし。

(春～夏学期) 原子核構造半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Structure II
授業コード	240994
No.	24PHYS5F306
単位数	4
担当教員	松多 健策 居室： H418 電話： 5520 Email： matsuta@phys.sci.osaka-u.ac.jp 福田 光順 居室： H420 電話： 6736 Email： mfukuda@phys.sci.osaka-u.ac.jp 三原 基嗣 居室： H417 電話： 6734 Email： mihara@phys.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 1,2 年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、原子核反応や構造に関する実験研究を行う。
学習目標	研究遂行に必要な素養として、基礎知識、基礎観測技術を身につける。その上で、原子核構造の最先端の研究テーマを、新しい着眼点に基づいて自ら見つけ、研究を遂行できる能力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 研究遂行に必要な事務上、安全上、その他のガイダンス 第2～第14回 原子核構造に関する英文テキストと論文輪読、 独自のテーマによる実験や解析 グループミーティング 第15回 研究成果報告
授業外における学習	自ら選んだ研究テーマに関わる最新の学術論文の検討、実験遂行のための装置の開発、実験条件決定のための検討や計算を行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果報告 30% 研究課題に対する取り組み姿勢やグループミーティングでの発表 70%
コメント	

(春～夏学期) 高エネルギー物理学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in High-Energy Physics I
授業コード	240990
No.	24PHYS5F307
単位数	4
担当教員	山中 卓 居室： 廣瀬 穰 居室： 南條 創 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	論文輪講、実験により素粒子物理学の研究を行う。
学習目標	研究に必要な取りくみ方、基礎知識、技術を身につけ、素粒子物理学実験について主体的に研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～15 回 実験による研究と論文輪講
授業外における学習	参考文献の参照、実験、解析、課題設定を行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	論文輪講、研究遂行状況に応じて総合的に評価を行う。
コメント	

(春～夏学期) 高エネルギー物理学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in High-Energy Physics II
授業コード	240991
No.	24PHYS5F307
単位数	4
担当教員	久野 良孝 居室 : 佐藤 朗 居室 : 青木 正治 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、素粒子実験物理学の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や実験など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(春～夏学期) 高エネルギー密度物理半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in High Energy-Density Physics
授業コード	240998
No.	24PHYS6J605
単位数	4
担当教員	藤岡 慎介 居室 : 電話 : 8479 Email : sfujioka@ile.osaka-u.ac.jp 有川 安信 居室 : 電話 : 8750 Email : arikawa-y@ile.osaka-u.ac.jp
質問受付	特に無し.
履修対象	理学研究科物理学専攻 藤岡研究室 配属者 1, 2 年 必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高出力レーザー等を用いて生成した高エネルギー密度物質の物理に関する理解を深める.
学習目標	・ テキスト及び学術論文の輪読を通じて高エネルギー密度物質の物理の理解を得る. ・ 高エネルギー密度物質における最新の研究成果を知る. ・ 高エネルギー密度物質の研究を行い, 成果をまとめる.
履修条件	
特記事項	
授業計画	セミナーの開催日及び内容は随時, 登録者に連絡します.
授業外における学習	・ 論文紹介の当番の際には, 参加者にわかり易く説明できるように資料等を準備することを勧めます. また当番でない学生も予め論文に目を通し予習をすることを勧めます. ・ 成果を発表する際には, 研究目的, 手法, 結果, 考察をまとめた資料を事前に用意すること.
教科書	
参考文献	P. Drake, High Energy Density Physics (http://www.springer.com/us/book/9783540293149) S. Atzeni and J. Meyer-Ter-Vehn, The Physics of Inertial Fusion (http://www.oupcanada.com/catalog/9780199568017.html)
成績評価	セミナーにおける発表, 議論の中身を重視すると共に, 研究成果も考慮しながら成績を評価します.
コメント	

(秋～冬学期) レプトン核科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Lepton-Nuclear Science
授業コード	249345
No.	24PHYS5F308
単位数	4
担当教員	阪口 篤志 居室 : 吉田 斉 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通して、研究に必要な基礎知識を身に付け、素粒子・核物理学の最先端のテーマを自分で設定し、研究を遂行する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	初回はガイダンスを行う。研究グループのミーティングに参加し、そこで行われている研究発表を聞きながら、教員との議論を通して自らの研究テーマを設定し、研究を進める。研究の進捗状況を研究グループでのミーティングで定期的に発表し、コメント(批判や助言)を受けることで、研究としての完成度を高める。
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 加速器科学半期セミナー

英語表記	Semestral Semina in Accelerator Science
授業コード	249504
No.	24PHYS5F308
単位数	4
担当教員	福田 光宏 居室: 核物理研究センター 301 号室 電話: 8931 Fax: 06-6879-8899 Email: mhfukuda@rcnp.osaka-u.ac.jp 依田 哲彦 居室: 核物理研究センター 302 号室 電話: 8914 Fax: 06-6879-8899 Email: yorita@rcnp.osaka-u.ac.jp
質問受付	いつでも。まずメールすること。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	加速器の動作原理とその背景にある物理を深く理解すると共に、加速器物理とその応用技術について習得する。また、研究動向のレビューや各自の研究の進捗状況の報告、議論等を通じて加速器科学の総合的理解を目指す。
学習目標	このセミナーでは、加速器科学に関わる荷電粒子運動学、イオン光学、電磁気学、高周波技術、ビーム計測学などをベースにした加速器物理とその応用技術の習得を目指す。その中で設定した各自の研究テーマについて、その領域の研究動向のレビューを行うとともに、各自の研究の進捗報告と議論を行うことにより、総合的に理解を深める。さらに、研究をデザインする能力、実践する能力、さらに成果を取りまとめる能力を育て、最終的に各自の修士論文を完成させる。これらの過程において、専門書や最新論文の紹介および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他の研究者(大学院生を含む)との質疑応答、プレゼンテーション技術などが訓練される。具体的な研究課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは、荷電粒子運動学、イオン光学、電磁気学、高周波技術、線形加速器、サイクロトロン、シンクロトロン、FFAG、医療用加速器と関連装置、加速粒子の特性計測などである。
履修条件	なし
特記事項	
授業計画	以下の内容から構成される(状況により順序の変更はあり得る)。 (第1回) オリエンテーション 「物理学」における加速器科学の位置づけを説明し、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 (第2～9回) 研究論文の紹介 加速器科学分野の基礎と応用、最新の重要な文献の内容などを履修生が発表し、加速器の設計手法、加速器要素の詳細、加速粒子の特性計測法を学び、測定結果の解釈、加速器科学における意義と波及効果などについて議論を行う。 (第10～14回) 研究進捗報告プレゼンテーション 【講義内容】

第2章 物理学専攻

指導教員が行うものを通算2年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。

授業外における学習	関連する専門分野の文献などを調査し、授業で発表すること
教科書	適宜指示する。
参考文献	Nuclear Instruments and Methods in Physics Research, Review of Scientific Instruments, IEEE などの重要論文
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	授業を受講するにあたり、特別な配慮を必要とする場合は事前に申し出ること

(秋～冬学期) 核反応計測学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Instrumentation
授業コード	249342
No.	24PHYS5F308
単位数	4
担当教員	能町 正治 居室 : 嶋 達志 居室 : 菅谷 頼仁 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、素粒子論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 原子核構造半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Structure I
授業コード	249329
No.	24PHYS5F306
単位数	4
担当教員	小田原 厚子 居室： H428 電話： 5745 Fax： 5746 Email： odahara@phys.sci.osaka-u.ac.jp 清水 俊 居室：
質問受付	特に指定しない。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、実験研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、実験原子核物理学のテーマを自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	特になし。
特記事項	特になし。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2-14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習を行う。
教科書	教科書は適宜、必要な時に提示する。
参考文献	参考文献も必要な時に適宜紹介する。
成績評価	研究成果のまとめの発表 30%、グループワークにおける発表内容 60%、レポート 10%で評価する。
コメント	特になし。

(秋～冬学期) 原子核構造半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Structure II
授業コード	249332
No.	24PHYS5F306
単位数	4
担当教員	松多 健策 居室： H418 電話： 5520 Email： matsuta@phys.sci.osaka-u.ac.jp 福田 光順 居室： H420 電話： 6736 Email： mfukuda@phys.sci.osaka-u.ac.jp 三原 基嗣 居室： H417 電話： 6734 Email： mihara@phys.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 1,2 年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、原子核反応や構造に関する実験研究を行う。
学習目標	研究遂行に必要な素養として、基礎知識、基礎観測技術を身につける。その上で、原子核構造の最先端の研究テーマを、新しい着眼点に基づいて自ら見つけ、研究を遂行できる能力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1～第 14 回 原子核構造に関する英文テキストと論文輪読、 独自のテーマによる実験や解析 グループミーティング 第 15 回 研究成果報告
授業外における学習	自ら選んだ研究テーマに関わる最新の学術論文の検討、実験遂行のための装置の開発、実験条件決定のための検討や計算を行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果報告 30% 研究課題に対する取り組み姿勢やグループミーティングでの発表 70%
コメント	

(秋～冬学期) 高エネルギー物理学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in High-Energy Physics I
授業コード	249322
No.	24PHYS5F307
単位数	4
担当教員	山中 卓 居室 : 廣瀬 穰 居室 : 南條 創 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	論文輪講、実験により素粒子物理学の研究を行う。
学習目標	研究に必要な取りくみ方、基礎知識、技術を身につけ、素粒子物理学実験について主体的に研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～15回 実験による研究と論文輪講
授業外における学習	参考文献の参照、実験、解析、課題設定を行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	論文輪講、研究遂行状況に応じて総合的に評価を行う。
コメント	

(秋～冬学期) 高エネルギー物理学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in High-Energy Physics II
授業コード	249323
No.	24PHYS5F307
単位数	4
担当教員	久野 良孝 居室： 佐藤 朗 居室： 青木 正治 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、素粒子実験物理学の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や実験など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 高エネルギー密度物理半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in High Energy-Density Physics
授業コード	249348
No.	24PHYS6J605
単位数	4
担当教員	藤岡 慎介 居室 : 電話 : 8749 Email : sfujioka@ile.osaka-u.ac.jp 有川 安信 居室 : 電話 : 8750 Email : arikawa-y@ile.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	理学研究科物理学専攻博士前期課程 藤岡研究室 配属者 1, 2 必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高出力レーザー等を用いて生成した高エネルギー密度物質の物理に関する理解を深める.
学習目標	・ テキスト及び学術論文の輪読を通じて高エネルギー密度物質の物理の理解を得る. ・ 高エネルギー密度物質における最新の研究成果を知る. ・ 高エネルギー密度物質の研究を行い, 成果をまとめる.
履修条件	
特記事項	
授業計画	セミナーの開催日及び内容は随時, 履修登録者に連絡します.
授業外における学習	・ 論文紹介の当番の際には, 参加者にわかり易く説明できるように資料等を準備することを勧めます. また当番でない学生も予め論文に目を通し予習をすることを勧めます. ・ 成果を発表する際には, 研究目的, 手法, 結果, 考察をまとめた資料を事前に用意すること.
教科書	
参考文献	P. Drake, High Energy Density Physics (http://www.springer.com/us/book/9783540293149) S. Atzeni and J. Meyer-Ter-Vehn, The Physics of Inertial Fusion (http://www.oupcanada.com/catalog/9780199568017.html)
成績評価	セミナーにおける発表, 議論の中身を重視すると共に, 研究成果も考慮しながら成績を評価します.
コメント	

2.4 物理学専攻 B コース (実験系：素粒子・核物理学コース) 後期課程

バリオン核分光学特別セミナー

英語表記	Seminar for Baryon Nuclear Spectroscopy
授業コード	240299
No.	24PHYS7F308
単位数	9
担当教員	阪口 篤志 居室： 吉田 斉 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通して、研究に必要な基礎知識を身に付け、素粒子・核物理学の最先端のテーマを自分で設定し、研究を遂行する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	初回はガイダンスを行う。研究グループのミーティングに参加し、そこで行われている研究発表を聞く中で、教員との議論を通して自らの研究テーマを設定し、研究を進める。プロGRESSを研究グループでのミーティングで定期的に発表し、コメント(批判や助言)を受けることで、研究としての完成度を高める。
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

加速器科学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Research in Nuclear Accelerator Physics		
授業コード	249507		
No.	24PHYS7F308		
単位数	9		
担当教員	福田 光宏	居室：	核物理研究センター 301 号室 電話： 8931 Fax： 06-6879-8899 Email： mhfukuda@rcnp.osaka-u.ac.jp
	神田 浩樹	居室：	核物理研究センター 312 号室 電話： 8935 Fax： 06-6879-8899 Email： kandra@rcnp.osaka-u.ac.jp
	依田 哲彦	居室：	核物理研究センター 302 号室 電話： 8914 Fax： 06-6879-8899 Email： yorita@rcnp.osaka-u.ac.jp
質問受付	いつでも。まずメールすること。		
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修		
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態	演習科目		
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。加速器物理に関する文献輪講、加速器やイオン源の要素開発、性能試験、ビーム利用実験等を通じて加速器研究を行う。		
学習目標	このセミナーでは、加速器科学に関わる荷電粒子運動学、イオン光学、電磁気学、高周波技術、ビーム計測学などをベースにした加速器物理とその応用技術の習得を目指す。その中で設定した各自の研究テーマについて、その領域の研究動向のレビューを行うとともに、各自の研究の進捗報告と議論を行うことにより、総合的に理解を深める。さらに、研究をデザインする能力、実践する能力、さらに成果を取りまとめる能力を育て、最終的に各自の修士論文を完成させる。これらの過程において、専門書や最新論文の紹介および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他の研究者 (大学院生を含む) との質疑応答、プレゼンテーション技術などが訓練される。具体的な研究課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは、荷電粒子運動学、イオン光学、電磁気学、高周波技術、線形加速器、サイクロトロン、シンクロトロン、FFAG、医療用加速器と関連装置、加速粒子の特性計測などである。		
履修条件	なし		
特記事項			
授業計画	以下の内容から構成される (状況により順序の変更はあり得る)。 (第 1～9 回) 研究論文の紹介 加速器科学分野の基礎と応用、最新の重要な文献の内容などを履修生が発表し、加速器の設計手法、加速器要素の詳細、加速粒子の特性計測法を学び、測定結果の解釈、加速器科学における意義と波及効果などについて議論を行う。 (第 10～14 回) 研究進捗報告プレゼンテーション 【講義内容】		

第2章 物理学専攻

指導教員が行うものを通算3年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。

授業外における学習	関連する専門分野の文献などを調査し、授業で発表すること
教科書	適宜指示する。
参考文献	Nuclear Instruments and Methods in Physics Research, Review of Scientific Instruments, IEEE などの重要論文
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	授業を受講するにあたり、特別な配慮を必要とする場合は事前に申し出ること

核反応計測学特別セミナー

英語表記	Seminar for Instrumentation for Nuclear Reactions
授業コード	240300
No.	24PHYS7F308
単位数	9
担当教員	能町 正治 居室： 嶋 達志 居室： 菅谷 頼仁 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、素粒子論の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

原子核構造特別セミナー I

英語表記	Advanced Seminar in Nuclear Structure I		
授業コード	241027		
No.	24PHYS7F306		
単位数	9		
担当教員	小田原 厚子	居室：	H428
		電話：	5745
		Fax：	5746
		Email：	odahara@phys.sci.osaka-u.ac.jp
	清水 俊	居室：	
質問受付	特に指定しない。		
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 必修		
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、実験研究を行う。		
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、実験原子核物理学のテーマを自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。		
履修条件	特になし。		
特記事項	特になし。		
授業計画	第1回 ガイダンス		
	第2-14回 学生が選んだテーマによるグループワーク		
	第15回 研究成果のまとめの発表		
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週4時間程度のセミナーのための予習復習を行う。		
教科書	教科書は適宜、必要な時に提示する。		
参考文献	参考文献も必要な時に適宜紹介する。		
成績評価	研究成果のまとめの発表 30%、グループワークにおける発表内容 60%、レポート 10%で評価する。		
コメント	特になし。		

原子核構造特別セミナー II

英語表記	Advanced Seminar in Nuclear Structure II		
授業コード	241028		
No.	24PHYS7F306		
単位数	9		
担当教員	松多 健策	居室： H418 電話： 5520 Email： matsuta@phys.sci.osaka-u.ac.jp	
	福田 光順	居室： H420 電話： 6736 Email： mfukuda@phys.sci.osaka-u.ac.jp	
	三原 基嗣	居室： H417 電話： 6734 Email： mihara@phys.sci.osaka-u.ac.jp	
質問受付			
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 1、2、3 年 選択必修		
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態			
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、原子核反応や構造に関する実験研究を行う。		
学習目標	研究遂行上の基礎知識や基礎技術を身につけ、それを基礎にして、原子核構造の最先端の研究テーマを、新しい着眼点に基づいて自ら見つけ、研究を遂行できる能力を身につける。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～第 29 回 論文輪読 独自のテーマによる実験や解析 グループミーティング 第 30 回 研究成果報告		
授業外における学習	自ら選んだ研究テーマに関わる最新の学術論文の検討、実験遂行のための装置の開発、実験条件決定のための検討や計算を行う。		
教科書			
参考文献			
成績評価	研究成果報告 30% 研究課題に対する取り組み姿勢やグループミーティングでの発表 70%		
コメント			

高エネルギー物理学特別セミナー I

英語表記	Advanced Seminar in High Energy Physics I
授業コード	241025
No.	24PHYS7F307
単位数	9
担当教員	山中 卓 居室 : 廣瀬 穰 居室 : 南條 創 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士後期課程
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	論文輪講、実験により素粒子物理学の研究を行う。
学習目標	研究に必要な取りくみ方、基礎知識、技術を身につけ、素粒子物理学実験について主体的に研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～15回 実験による研究と論文輪講
授業外における学習	参考文献の参照、実験、解析、課題設定を行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	論文輪講、研究遂行状況に応じて総合的に評価を行う。
コメント	

高エネルギー物理学特別セミナー II

英語表記	Advanced Seminar in High Energy Physics II
授業コード	241026
No.	24PHYS7F307
単位数	9
担当教員	久野 良孝 居室： 佐藤 朗 居室： 青木 正治 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実技科目
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、素粒子実験物理学の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や実験など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

高エネルギー密度物理特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in High Energy-Density Physics		
授業コード	241031		
No.	24PHYS7J605		
単位数	9		
担当教員	藤岡 慎介	居室 :	
		電話 :	8749
		Email :	sfujioka@ile.osaka-u.ac.jp
	有川 安信	居室 :	
		電話 :	8750
		Email :	arikawa-y@ile.osaka-u.ac.jp
質問受付			
履修対象	理学研究科物理学専攻藤岡研究室に配属されている博士後期課程学生 1, 2, 3 必修		
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	高出力レーザー等を用いて生成した高エネルギー密度物質の物理に関して理解し研究を行う。		
学習目標	・ テキスト及び学術論文の輪読を通じて高エネルギー密度物質の物理の理解する。 ・ 高エネルギー密度物質における最新の研究成果を理解し, 自らの研究に生かす。 ・ 高エネルギー密度物質の研究を行い, 成果を国際的に発信できるようになる。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	セミナーの開催日及び内容は随時, 登録者に連絡します。		
授業外における学習	・ 論文紹介の当番の際には, 参加者にわかり易く説明できるように資料等を準備することを勧めます。また当番でない学生も予め論文に目を通し予習をすることを勧めます。 ・ 成果を発表する際には, 研究目的, 手法, 結果, 考察をまとめた資料を事前に用意すること。		
教科書			
参考文献	P. Drake, High Energy Density Physics (http://www.springer.com/us/book/9783540293149) S. Atzeni and J. Meyer-Ter-Vehn, The Physics of Inertial Fusion (http://www.oupcanada.com/catalog/9780199568017.html)		
成績評価	研究成果 (会議発表, 論文発表, 特許等) を重視し, セミナーにおける発表, 議論の中身も考慮し評価します。		
コメント			

2.5 物理学専攻 C コース (実験系：物性物理学コース) 前期課程

(春～夏学期) メゾスコピック物理半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Mesoscopic Physics
授業コード	241429
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	小林 研介 居室 : 荒川 智紀 居室 : 新見 康洋 居室 :
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。先端的な物理学に関する研究を自ら進んで行うことにより、物理現象に対する理解や、個々の問題を解決する能力を高める。
学習目標	学生は、先端的な物理学に関する研究を自ら進んで行うことにより、物理現象に対する理解を深め、個々の問題を解決できるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。 【授業計画】 第一回 オリエンテーション (担当:小林、新見、荒川) 研究テーマの決定期日などの案内を行う。また、研究の進め方について概略を講義する。研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第二回以降 (担当:小林、新見、荒川) 各自研究テーマにより、研究室の教員の指導のもと、定期的に、最新の文献の調査・発表・討論を行う。また、研究を進め、進行状況の報告と討論を行う。(100 時間以上)
授業外における学習	授業で取り扱ったトピックスを自ら深め、研究に資するように、主体的に取り組むこと。
教科書	
参考文献	なし。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 強磁場物理半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in High Magnetic Field Physics
授業コード	241007
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	萩原 政幸 居室： 先端強磁場科学研究センター 2 階 電話： 6685 Email： hagiwara@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp 木田 孝則 居室： 先端強磁場科学研究センター 2 階 電話： 6687 Email： kida@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp 赤木 暢 居室： 強磁場共同利用棟 2 階 電話： 6683 Email： akaki@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp 鳴海 康雄 居室： 強磁場共同利用棟 2 階 電話： 6684 Email： narumi@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	予定が入っていない場合はいつでも OK だが、事前にメールで連絡すること。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究を行う。
学習目標	大学院博士前期課程の学生が強磁場を用いた物性科学に関して理解し、自ら実験を行い、データを解析して実験結果をまとめ、発表することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 講義内容指導教員が行うものを通算 2 年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。
授業外における学習	研究テーマに関する論文を読み、研究室セミナーで発表する事。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 光物性半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Solid-State Spectroscopy
授業コード	241456
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	木村 真一 居室： 生命機能研究科ナノバイオロジー棟 D205 号室 電話： 吹田 4600 Fax： 06-6879-4601 Email： kimura@fbs.osaka-u.ac.jp 渡辺 純二 居室： 大坪 嘉之 居室： 渡邊 浩 居室：
質問受付	随時。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、実験研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、光物性物理学の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	学部レベルの量子力学・統計力学・物性物理学を身につけていること。
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週2時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	特になし。
参考文献	特になし。
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(春～夏学期) 質量分析物理半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Mass Spectrometry Physics
授業コード	241001
No.	24PHYS6F310
単位数	4
担当教員	豊田 岐聡 居室 : Email : toyodam@phys.sci.osaka-u.ac.jp 石原 盛男 居室 : 青木 順 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、質量分析学に関する最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や実験結果の解析など週 4 時間程度の予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(春～夏学期) 超伝導半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Superconductivity
授業コード	241002
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	田島 節子 居室： 宮坂 茂樹 居室： 中島 正道 居室：
質問受付	いつでも
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	最先端の研究手法や考え方を学ぶ。実験装置の原理や使い方を修得し、他人に教えられるようになる。実験データから意味のある結果を引き出すことができる。実験結果の意味を考察できるようになる。英語で書かれた論文をほぼ辞書なしで読めるようになる。研究成果を論文にまとめ、他人にわかるように論理的な構成で口頭発表することができる。
履修条件	学部を卒業していること。物理学の知識があること。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 講義内容指導教員が行うものを通算2年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。 平成17年度以前入学者については、4.5単位科目のセミナーの単位も修了要件として認める。
授業外における学習	学内外の研究会、学会に参加し、他の研究者の発表を聞いて、自らの研究に生かせるような情報を収集する。科学雑誌に掲載されている最先端の研究論文を読み、自らの研究の参考にする。
教科書	特に指定なし。
参考文献	特になし。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 半導体半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Semiconductor Physics
授業コード	241004
No.	24PHYS6F401
単位数	4
担当教員	大岩 顕 居室： 長谷川 繁彦 居室： 木山 治樹 居室： 藤田 高史 居室：
質問受付	随時。ただし、メールで事前に連絡すること。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。 このセミナーの前半では、半導体物理と低次元量子伝導を中心に、スピントロニクスや量子情報などの分野の重要な論文を選択し、内容を理解したうえで論文の紹介を行う。その過程で発表する能力を養う。後半では、各自の研究について、背景や目的を含めて進捗状況を発表するプレゼンテーション能力を養うと同時に、本セミナーでの実験手法や実験結果に対する議論を通じて、物理的議論を行う能力を訓練する。
学習目標	専門分野の先端論文を精読することで科学的知識と科学的思考を身に着けることができる。また論文紹介により発表技術を身に着けることができる。研究進捗報告を通じ、研究計画を自ら立て、それを遂行することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	本講義は以下の構成で行われる。ただし、下記の項目はあくまでも予定であり、状況に応じて変更することもある。 第1回「オリエンテーション」 本講義の目的と課題を説明したうえで本講義の進め方を指導する。 第2回「関連論文レビュー」 第3回「関連論文レビュー」 第4回「関連論文レビュー」 第5回「関連論文レビュー」 第6回「関連論文レビュー」 第7回「関連論文レビュー」 対象となる分野から関連重要論文を選択し、その結果と解釈などについてわかりやすく説明してもらい、その内容に関して議論を行う。 第8回「研究進捗報告」 第9回「研究進捗報告」 第10回「研究進捗報告」 第11回「研究進捗報告」 第12回「研究進捗報告」 第13回「研究進捗報告」

第2章 物理学専攻

第14回「研究進捗報告」

第15回「研究進捗報告」

各自の研究課題について、目的や研究方法、実験結果について発表し議論を行う。

講義内容指導教員が行うものを通算2年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。

授業外における学習	
教科書	
参考文献	Nature、Science やそれらの系列雑誌、Physical Review Letters, Physical Review, Applied Physics Letters など物理・材料系主要重要雑誌で発表された論文
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 量子物性半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Solid State Physics
授業コード	241328
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	花咲 徳亮 居室: H328 Email: hanasaki[at]phys.sci.osaka-u.ac.jp 村川 寛 居室: H327 Email: murakawa[at]phys.sci.osaka-u.ac.jp 酒井 英明 居室: H326 Email: sakai[at]phys.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	質問は随時受け付ける。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 各学期 必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究を行う。先端的な物理学に関する実験を自ら進んで行うことにより、物理現象に対する理解や、個々の問題を解決する能力を高める。
学習目標	実験研究を行い自分オリジナルの成果を出し、物理学会で発表できるようになる。研究に関連する論文(英語)を探し、理解し、説明できるようになる。
履修条件	指導教員が行うものを通算2年間履修すること。
特記事項	なし
授業計画	【内容】 強相関電子系における巨大磁気抵抗、熱電効果等の交差物性、ディラック電子系の実験的研究 【授業計画】 修士1年4月:研究課題の決定、実験研究の開始、課題研究に関連する文献調査 毎日研究室において、実験的研究を行う。研究室でゼミナールが定期的に行われるが、関連する学術論文の調査を行うとともに、実験等の研究結果について指導教員と議論を行ない、研究方針について確認する。 春および秋の日本物理学会や国際会議で研究成果を発表する。 修士2年2月:修士論文提出、修論発表会、
授業外における学習	授業外でも、関連する論文を調べるなどの学習が必要である。
教科書	N.W.Ashcroft and N.D.Mermin Solid State Physics (Brooks Cole) ISBN-13: 978-0030839931 必要に応じて示す。
参考文献	必要に応じて示す。
成績評価	研究成果、各種発表、修士論文、修論発表等により総合的に評価する。
コメント	発見を通じて、自主的に研究する楽しさを知ってほしい。また、多くの人との交流によって、大人としてのマナーも身につけてほしい。

(秋～冬学期) メゾスコピック物理半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Mesoscopic Physics
授業コード	249658
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	小林 研介 居室 : 荒川 智紀 居室 : 新見 康洋 居室 :
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。先端的な物理学に関する研究を自ら進んで行うことにより、物理現象に対する理解や、個々の問題を解決する能力を高める。
学習目標	学生は、先端的な物理学に関する研究を自ら進んで行うことにより、物理現象に対する理解を深め、個々の問題を解決できるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。 【授業計画】 第一回 オリエンテーション (担当:小林、新見、荒川) 研究テーマの決定期日などの案内を行う。また、研究の進め方について概略を講義する。研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第二回以降 (担当:小林、新見、荒川) 各自研究テーマにより、研究室の教員の指導のもと、定期的に、最新の文献の調査・発表・討論を行う。また、研究を進め、進行状況の報告と討論を行う。(100 時間以上)
授業外における学習	授業で取り扱ったトピックスを自ら深め、研究に資するように、主体的に取り組むこと。
教科書	
参考文献	なし。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 強磁場物理半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in High Magnetic Field Physics
授業コード	249377
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	萩原 政幸 居室： 先端強磁場科学研究センター本棟 2 階 電話： 6685 Email： hagiwara@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp 木田 孝則 居室： 先端強磁場科学研究センター 2 階 電話： 6687 Email： kida@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp 赤木 暢 居室： 強磁場共同利用棟 2 階 電話： 6683 Email： akaki@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp 鳴海 康雄 居室： 強磁場共同利用棟 2 階 電話： 6684 Email： narumi@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	予定が入っていない場合はいつでも OK だが、事前にメールで連絡すること。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究を行う。
学習目標	博士前期課程の学生が強磁場を用いた物性科学に関して理解し、自ら実験を行い、実験結果を解析してまとめ、研究成果を学会などで発表できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 講義内容指導教員が行うものを通算 2 年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。
授業外における学習	研究テーマに関する論文を読み、研究室セミナーで発表する準備を行う事。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 光物性半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Solid-State Spectroscopy
授業コード	249681
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	木村 真一 居室： 生命機能研究科ナノバイオロジー棟 D205 号室 電話： 吹田 4600 Fax： 06-6879-4601 Email： kimura@fbs.osaka-u.ac.jp 渡辺 純二 居室： 大坪 嘉之 居室： 渡邊 浩 居室：
質問受付	随時。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、実験研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、光物性物理学の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	学部レベルの量子力学・統計力学・物性物理学を身につけていること。
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週2時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。
教科書	特になし。
参考文献	特になし。
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 質量分析物理半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Mass Spectrometry Physics
授業コード	249361
No.	24PHYS6F310
単位数	4
担当教員	豊田 岐聡 居室： 石原 盛男 居室： 青木 順 居室：
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、質量分析学に関する最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や実験結果の解析など週4時間程度の予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

(秋～冬学期) 超伝導半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Superconductivity
授業コード	249362
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	田島 節子 居室： 宮坂 茂樹 居室： 中島 正道 居室：
質問受付	いつでも
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	最先端の研究手法や考え方を学ぶ。実験装置の原理や使い方を修得し、他人に教えられるようになる。実験データから意味のある結果を引き出すことができる。実験結果の意味を考察できるようになる。英語で書かれた論文をほぼ辞書なしで読めるようになる。研究成果を論文にまとめ、他人にわかるように論理的な構成で口頭発表することができる。
履修条件	学部を卒業していること。物理学の知識があること。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 講義内容指導教員が行うものを通算2年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。 平成17年度以前入学者については、4.5単位科目のセミナーの単位も修了要件として認める。
授業外における学習	学内外の研究会、学会に参加し、他の研究者の発表を聞いて、自らの研究に生かせるような情報を収集する。科学雑誌に掲載されている最先端の研究論文を読み、自らの研究の参考にする。
教科書	特に指定なし。
参考文献	特になし。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 半導体半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Semiconductor Physics
授業コード	249368
No.	24PHYS6F401
単位数	4
担当教員	大岩 顕 居室： 木山 治樹 居室： 藤田 高史 居室： 長谷川 繁彦 居室：
質問受付	随時。ただし、メールで事前に連絡すること
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。 このセミナーの前半では、半導体物理と低次元量子伝導を中心に、スピントロニクスや量子情報などの分野の重要な論文を選択し、内容を理解したうえで論文の紹介を行う。その過程で発表する能力を養う。後半では、各自の研究について、背景や目的を含めて進捗状況を発表するプレゼンテーション能力を養うと同時に、本セミナーでの実験手法や実験結果に対する議論を通じて、物理的議論を行う能力を訓練する。
学習目標	専門分野の先端論文を精読することで科学的知識と科学的思考を身に着けることができる。また論文紹介により発表技術を身に着けることができる。研究進捗報告を通じ、研究計画を自ら立て、それを遂行することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	本講義は以下の構成で行われる。ただし、下記の項目はあくまでも予定であり、状況に応じて変更することもある。 第1回「オリエンテーション」 本講義の目的と課題を説明したうえで本講義の進め方を指導する。 第2回「関連論文レビュー」 第3回「関連論文レビュー」 第4回「関連論文レビュー」 第5回「関連論文レビュー」 第6回「関連論文レビュー」 第7回「関連論文レビュー」 対象となる分野から関連重要論文を選択し、その結果と解釈などについてわかりやすく説明してもらい、その内容に関して議論を行う。 第8回「研究進捗報告」 第9回「研究進捗報告」 第10回「研究進捗報告」 第11回「研究進捗報告」 第12回「研究進捗報告」 第13回「研究進捗報告」

第2章 物理学専攻

第14回「研究進捗報告」

第15回「研究進捗報告」

各自の研究課題について、目的や研究方法、実験結果について発表し議論を行う。

講義内容指導教員が行うものを通算2年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。

授業外における学習	
教科書	
参考文献	Nature、Science やそれらの系列雑誌、Physical Review Letters, Physical Review, Applied Physics Letters など物理・材料系主要重要雑誌で発表された論文
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 量子物性半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Solid State Physics
授業コード	249616
No.	24PHYS6F305
単位数	4
担当教員	花咲 徳亮 居室: H328 Email: hanasaki[at]phys.sci.osaka-u.ac.jp 酒井 英明 居室: H326 Email: sakai[at]phys.sci.osaka-u.ac.jp 村川 寛 居室: H327 Email: murakawa[at]phys.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	質問は随時受け付ける。
履修対象	物理学専攻 博士前期課程 各学年 各学期 必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	修士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究を行う。先端的な物理学に関する実験を自ら進んで行うことにより、物理現象に対する理解や、個々の問題を解決する能力を高める。
学習目標	実験研究を行い自分オリジナルの成果を出し、物理学会で発表できるようになる。 研究に関連する論文(英語)を探し、理解し、説明できるようになる。
履修条件	指導教員が行うものを通算2年間履修すること。
特記事項	なし
授業計画	【内容】 強相関電子系における巨大磁気抵抗、熱電効果等の交差物性、ディラック電子系の実験的研究 【授業計画】 修士1年4月:研究課題の決定、実験研究の開始、課題研究に関連する文献調査 毎日研究室において、実験的研究を行う。研究室でゼミナールが定期的に行われるが、関連する学術論文の調査を行うとともに、実験等の研究結果について指導教員と議論を行ない、研究方針について確認する。春および秋の日本物理学会や国際会議で研究成果を発表する。 修士2年2月:修士論文提出、修論発表会
授業外における学習	授業外でも、関連する論文を調べるなどの学習が必要である。
教科書	N.W.Ashcroft and N.D.Mermin Solid State Physics (Brooks Cole) ISBN-13: 978-0030839931 必要に応じて示す。
参考文献	必要に応じて示す。
成績評価	研究成果、各種発表、修士論文、修論発表等により総合的に評価する。
コメント	発見を通じて、自主的に研究する楽しさを知ってほしい。また、多くの人との交流によって、大人としてのマナーも身につけてほしい。

2.6 物理学専攻 C コース (実験系：物性物理学コース) 後期課程

メゾスコピック物理特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in Mesoscopic Physics
授業コード	241430
No.	24PHYS7F305
単位数	9
担当教員	小林 研介 居室： 荒川 智紀 居室： 新見 康洋 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。先端的な物理学に関する研究を自ら進んで行うことにより、物理現象に対する理解や、個々の問題を解決する能力を高める。
学習目標	学生は、先端的な物理学に関する研究を自ら進んで行うことにより、物理現象に対する理解を深め、個々の問題を解決できるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。 【授業計画】 第一回 オリエンテーション (担当:小林、新見、荒川) 研究テーマの決定期日などの案内を行う。また、研究の進め方について概略を講義する。研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第二回以降 (担当:小林、新見、荒川) 各自研究テーマにより、研究室の教員の指導のもと、定期的に、最新の文献の調査・発表・討論を行う。また、研究を進め、進行状況の報告と討論を行う。(200 時間以上)
授業外における学習	授業で取り扱ったトピックスを自ら深め、研究に資するように、主体的に取り組むこと。
教科書	
参考文献	なし。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

強磁場物理特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in High Magnetic Field Physics	
授業コード	241032	
No.	24PHYS7F305	
単位数	9	
担当教員	萩原 政幸 居室： 先端強磁場科学研究センター本棟 2 階 電話： 6685 Email： hagiwara@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp 木田 孝則 居室： 先端強磁場科学研究センター 2 階 電話： 6687 Email： kida@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp 赤木 暢 居室： 鳴海 康雄 居室： 強磁場共同利用棟 2 階 電話： 6684 Email： narumi@ahmf.sci.osaka-u.ac.jp	
質問受付	予定が入っていない場合はいつでも OK だが、事前にメールで連絡すること。	
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修	
開講時期	通年	
場所	その他	
授業形態	実験科目	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究を行う。	
学習目標	博士後期課程の学生が自ら実験装置を作成したり、試料を合成したりして実験を行い、実験結果を解析し、英文ジャーナルに投稿できる論文を作成できる。	
履修条件		
特記事項		
授業計画	【講義内容】 指導教員が行うものを通算 3 年間履修すること。同じセミナーを繰り返して履修してもよい。	
授業外における学習	研究テーマに関する論文を読み、研究室セミナーで発表する準備を行う事。	
教科書		
参考文献		
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。	
コメント		

光物性特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Solid-State Spectroscopy		
授業コード	241460		
No.	24PHYS7F305		
単位数	9		
担当教員	木村 真一	居室：	生命機能研究科ナノバイオロジー棟 D205 号室
		電話：	吹田 4600
		Fax：	06-6879-4601
		Email：	kimura@fbs.osaka-u.ac.jp
	渡辺 純二	居室：	
	大坪 嘉之	居室：	
	渡邊 浩	居室：	
質問受付	随時。		
履修対象	物理学専攻 博士前期課程		
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態			
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、実験研究を行う。		
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、光物性物理学の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。		
履修条件	学部レベルの量子力学・統計力学・物性物理学をマスターしていること。		
特記事項			
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2～14 回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第 15 回 研究成果のまとめの発表		
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照や計算など週 4 時間程度のセミナーのための予習復習をおこなう。		
教科書	特になし。		
参考文献	特になし。		
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%		
コメント			

質量分析物理特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mass Spectroscopy
授業コード	249247
No.	24PHYS7F310
単位数	9
担当教員	豊田 岐聡 居室 : 青木 順 居室 : 石原 盛男 居室 :
質問受付	
履修対象	物理学専攻 博士前期課程
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。文献輪講、理論研究を行う。
学習目標	セミナーを通じて、研究に必要な基礎知識を身につけ、質量分析学の最先端のテーマ自分で問題設定を行い、研究を遂行できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2～14回 学生が選んだテーマによるグループワーク 第15回 研究成果のまとめの発表
授業外における学習	時間外で、参考文献の参照やデータ解析など週4時間程度の予習復習をおこなう。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果のまとめの発表 30% グループワークにおける発表内容 60% レポート授業への参加態度 10%
コメント	

超伝導特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in Superconductivity
授業コード	241034
No.	24PHYS7F305
単位数	9
担当教員	田島 節子 居室： 宮坂 茂樹 居室： 中島 正道 居室：
質問受付	随時
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。
学習目標	最先端の研究の中で独自の研究テーマを設定し、実験研究を行い、結果の考察も含め論文にまとめる。英語の論文を読むこと、書くことが自在にできるようになる。
履修条件	修士号を取得していること。
特記事項	
授業計画	実験計画は、年度頭にテーマを設定した段階で自ら設計する。 月 2 回程度、実験結果について議論し、その先の研究の方針を検討する。
授業外における学習	学会に参加して、自ら発表を行うと同時に他の研究発表を聴講する。研究テーマに関連した文献を読み、知識を広げる。
教科書	特に指定なし。
参考文献	特になし。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

半導体特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Semiconductor Physics
授業コード	249244
No.	24PHYS7F401
単位数	9
担当教員	大岩 顕 居室： 長谷川 繁彦 居室： 木山 治樹 居室： 藤田 高史 居室：
質問受付	随時。ただし、メールで事前に連絡すること
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究、理論研究を行う。このセミナーの前半では、半導体物理と低次元量子伝導を中心に、スピントロニクスや量子情報などの分野の重要な論文を選択し、内容を理解したうえで論文の紹介を行う。その過程で発表する能力を養う。後半では、各自の研究について、背景や目的を含めて進捗状況を発表するプレゼンテーション能力を養うと同時に、本セミナーでの実験手法や実験結果に対する議論を通じて、物理的議論を行う能力を訓練する。
学習目標	専門分野の先端論文を精読することで科学的知識と科学的思考を身に着けることができる。また論文紹介により発表技術を身に着けることができる。研究進捗報告を通じ、研究計画を自ら立て、それを遂行することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	本講義は以下の構成で行われる。ただし、下記の項目はあくまでも予定であり、状況に応じて変更することもある。 第1回「オリエンテーション」 本講義の目的と課題を説明したうえで本講義の進め方を指導する。 第2回「関連論文レビュー」 第3回「関連論文レビュー」 第4回「関連論文レビュー」 第5回「関連論文レビュー」 第6回「関連論文レビュー」 第7回「関連論文レビュー」 対象となる分野から関連重要論文を選択し、その結果と解釈などについてわかりやすく説明してもらい、その内容に関して議論を行う。 第8回「研究進捗報告」 第9回「研究進捗報告」 第10回「研究進捗報告」 第11回「研究進捗報告」 第12回「研究進捗報告」 第13回「研究進捗報告」 第14回「研究進捗報告」

2.6. 物理学専攻 C コース (実験系：物性物理学コース) 後期課程

第 15 回「研究進捗報告」

各自の研究課題について、目的や研究方法、実験結果について発表し議論を行う。

授業外における学習	
教科書	
参考文献	Nature、Science やそれらの系列雑誌、Physical Review Letters, Physical Review, Applied Physics Letters など物理・材料系主要重要雑誌で発表された論文
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

量子物性特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in Quantum Solid State Physics
授業コード	241329
No.	24PHYS7F305
単位数	9
担当教員	花咲 徳亮 居室： H328 Email： hanasaki[at]phys.sci.osaka-u.ac.jp 酒井 英明 居室： H326 Email： sakai[at]phys.sci.osaka-u.ac.jp 村川 寛 居室： H327 Email： murakawa[at]phys.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	質問は随時受け付ける。
履修対象	物理学専攻 博士後期課程 各学年 必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	博士論文作成のためのセミナーである。各研究室に所属し、文献輪講、実験研究を行う。先端的な物理学に関する実験を自ら進んで行うことにより、物理現象に対する理解や、個々の問題を解決する能力を高める。
学習目標	自分で研究テーマを設定し、実験研究を行える。実験研究を行い自分オリジナルの成果を出し、物理学会および国際会議で発表できるようになる。英語の学術論文を執筆して発表できるようになる。外国人研究者とも研究に関して議論できるようになる。
履修条件	指導教員が行うものを通常通算3年間履修すること。
特記事項	なし
授業計画	【内容】 強相関電子系における巨大磁気抵抗、熱電効果等の交差物性やディラック電子系における輸送現象の実験的研究 【授業計画】 博士1年次4月:研究課題の決定、実験研究の開始、課題研究に関連する文献調査 毎日研究室において、実験的研究を行う。研究室でゼミナールが定期的に行われるが、関連する学術論文の調査を行うとともに、実験等の研究結果について指導教員と議論を行い、研究方針について確認する。春および秋の日本物理学会や国際会議で研究成果を発表する。 博士3年次2月:博士論文の提出、博士論文の審査及び公聴会
授業外における学習	授業外でも、関連する論文を調べるなどの学習が必要である。
教科書	N.W.Ashcroft and N.D.Mermin Solid State Physics (Brooks Cole) ISBN-13: 978-0030839931 必要に応じて示す。
参考文献	必要に応じて示す。
成績評価	研究成果、各種発表、学術論文の出版、博士論文、博士論文の公聴会等により総合的に評価する。
コメント	発見を通じて、自主的に研究する楽しさを知ってほしい。また、多くの人との交流によって、大人としてのマナーも身につけてほしい。

第3章 化学専攻

第3章 化学専攻

3.1 化学専攻 A・Bコース共通 BMC科目 前期課程

インタラクティブセミナーII(化学専攻)

英語表記	Interactive Seminar II
授業コード	241183
No.	24CHEM6G014
単位数	1
担当教員	化学専攻教務委員 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	近年の科学は、非常に細かい専門分野に細分化され、各分野とも高度化・専門化し、その専門知識を修得するのは容易ではない。そのため、ともすれば細分化された非常に狭い専門分野のみの学習・研究のみに汲々とし、専門分野以外の基本的知識の欠如さらには無関心という問題を引き起こしている。そこで、本セミナーでは、他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の修士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。
学習目標	化学に対する広い視野を身につける
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の修士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。 【授業計画】 他の研究室が主催するセミナーに参加する。
授業外における学習	関連する文献を読む
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、レポート、テストなどにより総合的に評価
コメント	

3.2 化学専攻 A・Bコース共通 BMC科目 後期課程

インタラクティブ特別セミナー1(化学専攻)

英語表記	Interactive Seminar for Advanced Research 1
授業コード	241431
No.	24CHEM7G000
単位数	1
担当教員	化学専攻教務委員 居室： 村田 道雄 居室：
質問受付	随時
履修対象	博士後期課程 1,2,3 年 必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	近年の科学は、非常に細かい専門分野に細分化され、各分野とも高度化・専門化し、その専門知識を修得するのは容易ではない。そのため、ともすれば細分化された非常に狭い専門分野のみの学習・研究のみに汲々とし、専門分野以外の基本的知識の欠如さらには無関心という問題を引き起こしている。そこで、本セミナーでは、他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の博士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。
学習目標	他研究室の教員と討論することで、自身の研究内容のレベル向上をはかる
履修条件	指導教官と相談のうえ履修する
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の博士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。 【授業計画】 他の研究室が主催するセミナーに参加する。
授業外における学習	関連する国際誌を理解し、自身の研究に活用する
教科書	指導教官と相談する
参考文献	指導教官と相談する
成績評価	出席、レポート、テストなどにより総合的に評価
コメント	博士学位取得予定年度の前年度に、本科目の単位を取得すること。

インタラクティブ特別セミナー2(化学専攻)

英語表記	Interactive Seminar for Advanced Research 2
授業コード	241432
No.	24CHEM7G000
単位数	1
担当教員	化学専攻教務委員 居室： 村田 道雄 居室：
質問受付	随時
履修対象	博士後期課程 1,2,3 年 必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	近年の科学は、非常に細かい専門分野に細分化され、各分野とも高度化・専門化し、その専門知識を修得するのは容易ではない。そのため、ともすれば細分化された非常に狭い専門分野のみの学習・研究のみに汲々とし、専門分野以外の基本的知識の欠如さらには無関心という問題を引き起こしている。そこで、本セミナーでは、他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の博士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。
学習目標	他研究室の教員と討論することで、自身の研究内容のレベル向上をはかる
履修条件	指導教官と相談のうえ履修する
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の博士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。 【授業計画】 他の研究室が主催するセミナーに参加する。
授業外における学習	関連する国際誌を理解し、自身の研究に活用する
教科書	指導教官と相談する
参考文献	指導教官と相談する
成績評価	出席、レポート、テストなどにより総合的に評価
コメント	博士学位取得予定年度の前年度に、本科目の単位を取得すること。

3.3 化学専攻 A コース前期課程

(春～夏学期) 核化学半期セミナー AI

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Chemistry AI
授業コード	241064
No.	24CHEM6G012
単位数	4
担当教員	篠原 厚 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(春～夏学期) 核化学半期セミナー AII

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Chemistry AII
授業コード	241066
No.	24CHEM6G012
単位数	4
担当教員	篠原 厚 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(春～夏学期) 核化学半期セミナー BI

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Chemistry BI
授業コード	241065
No.	24CHEM6G012
単位数	4
担当教員	吉村 崇 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	原子核に関連した化学の先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(春～夏学期) 核化学半期セミナー BII

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Chemistry BII
授業コード	241067
No.	24CHEM6G012
単位数	4
担当教員	吉村 崇 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	原子核に関連した化学の先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(春～夏学期) 核磁気共鳴分光学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Magnetic Resonance Spectroscopy I		
授業コード	241070		
No.	24CHEM6G200		
単位数	4		
担当教員	上田 貴洋	居室：	全学教育実験棟 (サイエンスコモンズ)215 号室
		電話：	5778
		Email：	ueda@museum.osaka-u.ac.jp
	豊田 二郎	居室：	
	宮久保 圭祐	居室：	
質問受付			
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修		
開講時期	春～夏学期		
場所	その他		
授業形態			
目的と概要	物理化学、とくに核磁気共鳴や分子のダイナミクスに関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。		
学習目標	核磁気共鳴や分子のダイナミクスの基礎を理解し、研究が行えるようにする。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。		
授業外における学習	自身の研究テーマに関連する研究論文の調査や、研究分野の基礎となる科目の予習・復習を実施すること。		
教科書			
参考文献			
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、理解度、成果および各種発表により総合的に評価する。		
コメント			

(春～夏学期) 核磁気共鳴分光学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Magnetic Resonance Spectroscopy II		
授業コード	241071		
No.	24CHEM6G200		
単位数	4		
担当教員	上田 貴洋	居室：	全学教育実験棟 (サイエンスコモンズ)215 号室
		電話：	5778
		Email：	ueda@museum.osaka-u.ac.jp
	豊田 二郎	居室：	
	宮久保 圭祐	居室：	
質問受付			
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修		
開講時期	春～夏学期		
場所	その他		
授業形態			
目的と概要	物理化学、とくに核磁気共鳴や分子のダイナミクスに関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。		
学習目標	核磁気共鳴や分子のダイナミクスの基礎を理解し、研究が行えるようにする。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。		
授業外における学習	自身の研究テーマに関連する研究論文の調査や、研究分野の基礎となる科目の予習・復習を実施すること。		
教科書			
参考文献			
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、理解度、成果および各種発表により総合的に評価する。		
コメント			

(春～夏学期)凝縮系物理化学半期セミナーⅠ

英語表記	Semestral Seminar in Physical Chemistry of Condensed Matter I
授業コード	241076
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	中澤 康浩 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	主体的な研究活動ができるようになる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	論文、関連研究の調査し様々な側面から考察をする
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、日々の活動、研究成果等を総合的に評価
コメント	

(春～夏学期) 凝縮系物理化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Physical Chemistry of Condensed Matter II
授業コード	241077
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	中澤 康浩 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	主体的な研究活動ができるようになる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	論文、関連研究の調査し様々な側面から考察をする
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、日々の活動、研究成果などを総合的に評価
コメント	

(春～夏学期) 構造錯体化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Structural Coordination Chemistry I
授業コード	241062
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	今野 巧 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	錯体化学の研究の基礎知識と技術を習得し、錯体化学の研究を行えるようにする
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果によって評価する。
コメント	

(春～夏学期) 構造錯体化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Structural Coordination Chemistry II
授業コード	241063
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	今野 巧 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	錯体化学の研究の専門知識と技術を習得し、錯体化学の研究を実行する
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果によって評価する。
コメント	

(春～夏学期) 構造熱科学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Structural Thermodynamics I
授業コード	241252
No.	24CHEM6G002
単位数	4
担当教員	中野 元裕 居室 : 長野 八久 居室 : 宮崎 裕司 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(春～夏学期) 構造熱科学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Structural Thermodynamics II
授業コード	241253
No.	24CHEM6G002
単位数	4
担当教員	中野 元裕 居室 : 長野 八久 居室 : 宮崎 裕司 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(春～夏学期) 構造物性化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Solid State Chemistry I
授業コード	241082
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	谷口 正輝 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	研究課題の学術的・社会的な位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行する。さらに、研究成果を論文や発表でまとめ・公表し、対話をしながら研究を発展させていく能力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究課題と関連分野の研究論文を読むとともに、異なる研究分野の文献を読み、知識の幅を広げる。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究、発表、および論文の内容により総合評価する。
コメント	

(春～夏学期) 構造物性化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Solid State Chemistry II
授業コード	241083
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	谷口 正輝 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	研究課題の学術的・社会的な位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行する。さらに、研究成果を論文や発表でまとめ・公表し、対話をしながら研究を発展させていく能力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究課題と関連分野の研究論文を読むとともに、異なる研究分野の文献を読み、知識の幅を広げる。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究、発表、および論文の内容により総合評価する。
コメント	

(春～夏学期) 生体分子化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Molecular Biochemistry I
授業コード	241096
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	村田 道雄 居室 : 花島 慎弥 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	有機化学および生物化学、生物物理学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	有機化学および生物化学、生物物理学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深める。
履修条件	特になし。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	日頃の文献調査や総説の学習などを通じて、背景情報を十分に収集すること。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーやミーティングの出席と実験報告・文献紹介の評価で総合的に行う。原則的にすべてのセミナーへに出席すること。
コメント	

(春～夏学期) 生体分子化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Molecular Biochemistry II
授業コード	241097
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	村田 道雄 居室 : 花島 慎弥 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	有機化学および生物化学、生物物理学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	有機化学および生物化学、生物物理学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深める。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	日頃より、文献を精読するなどして、研究の背景に関する情報を収集しておくこと。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーやミーティングの出席と実験報告・文献紹介の評価で総合的に行う。原則的にすべてのセミナーに出席すること。
コメント	

(春～夏学期) 生体分子機能構造計測学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Structural Molecular Biology I
授業コード	241263
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をとおして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。これまでに測定ができなかった構造機能情報を得るための実験法開発についても学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	物理化学、構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、テラヘルツ波を利用した NMR の超高感度化とその応用、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 生体分子機能構造計測学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Structural Molecular Biology II
授業コード	241264
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をとおして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。これまでに測定ができなかった構造機能情報を得るための実験法開発についても学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	物理化学、構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、テラヘルツ波を利用した NMR の超高感度化とその応用、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 生物物理化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Biophysical Chemistry I
授業コード	241074
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	水谷 泰久 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物物理化学に関連した先端的研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	生物物理化学化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	生物物理化学に関する先端的研究課題の指導を行う。先端的分光法を用いたタンパク質の機能発現機構解明について基礎から最新の研究を学ぶ。また、学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	関連分野に関する文献を読み、生物物理化学に対する理解を深める。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

(春～夏学期) 生物物理化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Biophysical Chemistry II
授業コード	241075
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	水谷 泰久 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物物理化学に関連した先端的研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	生物物理化学化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	生物物理化学に関する先端的研究課題の指導を行う。先端的分光法を用いたタンパク質の機能発現機構解明について基礎から最新の研究を学ぶ。また、学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	関連分野に関する文献を読み、生物物理化学に対する理解を深める。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

(春～夏学期) 生物無機化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Bioinorganic Chemistry I
授業コード	241054
No.	24CHEM6G214
単位数	4
担当教員	船橋 靖博 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	先端的な研究分野についての理解に基づき、生物無機化学に関連したより発展的な研究を遂行する。
学習目標	学術論文を注意深く読み、理学的な実験研究を行い、その進捗状況を報告すること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	生物無機化学研究室における研究内容は「研究科紹介・化学専攻」を参照されたい。 http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/pamphlet/pamphlet-2017k/
授業外における学習	学術論文を読んだり、新たな研究の提案や研究の進捗状況の報告を準備する。
教科書	
参考文献	
成績評価	学術的な背景の説明と研究提案、ならびにその成果発表が評価されます。
コメント	

(春～夏学期) 生物無機化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Bioinorganic ChemistryII
授業コード	241055
No.	24CHEM6G214
単位数	4
担当教員	船橋 靖博 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	先端的な研究分野についての理解に基づき、生物無機化学に関連したより発展的な研究を遂行する。
学習目標	学術論文を注意深く読み、理学的な実験研究を行い、その進捗状況を報告すること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	生物無機化学研究室における研究内容は「研究科紹介・化学専攻」を参照されたい。 http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/pamphlet/pamphlet-2017k/
授業外における学習	学術論文を読んだり、新たな研究の提案や研究の進捗状況の報告を準備する。
教科書	
参考文献	
成績評価	学術的な背景の説明と研究提案、ならびにその成果発表が評価されます。
コメント	

(春～夏学期) 反応化学半期セミナーⅠ

英語表記	Semestral Seminar in Chemical Reaction Dynamics I
授業コード	241072
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	松本 卓也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	自ら課題について、学術上の位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行し、外部に対する発表ができる。 論文執筆ができる。
履修条件	学生便覧参照
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究室のマシントime、学会発表の締め切りなどを勘案し、時間に制約を設けず、目標を達成する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、プロセス、成果を総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 反応化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Chemical Reaction Dynamics II
授業コード	241073
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	松本 卓也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	自ら課題について、学術上の位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行し、外部に対する発表ができる。 論文執筆ができる。
履修条件	学生便覧参照
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究室のマシントime、学会発表の締め切りなどを勘案し、時間に制約を設けず、目標を達成する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、プロセス、成果を総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 表面化学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Surface Chemistry I
授業コード	241078
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	固体表面の物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。 隔週ごとに実験報告と論文紹介を交代で行う。 外国人が出席するときにはレジメは英語とする。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーの出席、参加態度および発表で評価する。
コメント	

(春～夏学期) 表面化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Surface Chemistry II
授業コード	241079
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	固体表面の物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。 隔週ごとに実験紹介と論文紹介を交代で行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーの出席、参加態度および発表で評価する。
コメント	

(春～夏学期) 物性錯体化学半期セミナー AI

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry AI
授業コード	241058
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	石川 直人 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(春～夏学期) 物性錯体化学半期セミナー AII

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry AII
授業コード	241060
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	石川 直人 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(春～夏学期) 物性錯体化学半期セミナー BI

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry BI
授業コード	241059
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	山口 和也 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。論文・実験についての指導と助言を行う。
学習目標	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深める。具体的な研究の進め方や考え方などを修得する。指導と助言により研究を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学習目標達成のために、各自主体的に取り組むこと。
教科書	最新刊の雑誌
参考文献	Chemistry of the Elements, Greenwood Earnshaw, Second Ed., 1997, Butterworth Heinemann. Advanced Inorganic Chemistry, F. Albert Cotton, G. Wilkinson, C.A. Murrillo, and M. Bochmann, Sixth Ed. 1999, John Wiley & Sons, Inc.
成績評価	論文発表、プレゼンテーション、質問、理解度等を含めて総合的に行う。
コメント	

(春～夏学期) 物性錯体化学半期セミナー BII

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry BII
授業コード	241061
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	山口 和也 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。論文・実験についての指導と助言を行う。
学習目標	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深める。具体的な研究の進め方や考え方を修得する。指導と助言により研究を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学習目標達成のために、各自主体的に取り組むこと。
教科書	最新刊の雑誌
参考文献	Chemistry of the Elements, Greenwood Earnshaw, Second Ed., 1997, Butterworth Heinemann. Advanced Inorganic Chemistry, F. Albert Cotton, G. Wilkinson, C.A. Murrillo, and M. Bochmann, Sixth Ed. 1999, John Wiley & Sons, Inc.
成績評価	論文発表、プレゼンテーション、質問、理解度等を含めて総合的に行う。
コメント	

(春～夏学期) 分析化学半期セミナーⅠ

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry I
授業コード	241056
No.	24CHEM6G206
単位数	4
担当教員	塚原 聡 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学に関連した先端的な研究について理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方について指導を行う。
学習目標	与えられた研究課題に対して、具体的な実験方法を考案して構築し、データを得ることができる。得たデータを解析し、議論することができる。さらに自分で考え、新しい課題の設定をすることができる。 最新の分析化学に関する論文を読み、それを研究室の構成員に対して判りやすく紹介できる。紹介後の質問にも適切に答えられる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【内容】 主に、界面分析法の開発、電場・磁場を利用する微粒子分離法、キラル光学分析法の開発 について研究する。
授業外における学習	予め論文を読み、その背景や実験方法、解析法について調べる。 紹介後は、そのときの質問事項について充分答えられたかを自己チェックし、不十分であった場合は、後日回答を追加する。
教科書	随時指定する
参考文献	随時指定する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する
コメント	

(春～夏学期) 分析化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry II
授業コード	241057
No.	24CHEM6G206
単位数	4
担当教員	塚原 聡 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学の先端的研究を行い, 研究の実施方法について指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。英語論文の作成法を指導する。
学習目標	与えられた研究課題に対して, 具体的な実験方法を考案して構築し, データを得ることができる。得たデータを解析し, 議論することができる。さらに自分で考え, 新しい課題の設定をすることができる。 最新の分析化学に関する論文を読み, それを研究室の構成員に対して判りやすく紹介できる。紹介後の質問にも適切に答えられる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主に, 界面分析法の開発, 電場・磁場を利用する微粒子分離法, キラル光学分析法の開発 について研究する。
授業外における学習	予め論文を読み, その背景や実験方法, 解析法について調べる。 紹介後は, そのときの質問事項について充分答えられたかを自己チェックし, 不十分であった場合は, 後日回答を追加する。
教科書	随時指定する
参考文献	随時指定する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢, 成果, 各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 粒子ビーム化学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Beam Chemistry I
授業コード	241261
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	岡田 美智雄 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、特に表面化学反応に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定する。最先端の研究教育機器の開発を通じて、ものづくりに根ざした物理化学研究を展開する。特に独自の先端機器を開発しながら、原子や分子により構成される粒子ビームが固体表面で引き起こす化学反応素過程について研究し、その制御を目指す。一方で、粒子ビームを利用したオリジナルの表面分析機器の開発にも取り組み、幅広い意味での表面科学の諸問題の解決を目指す。
授業外における学習	研究課題に関連する論文や専門書を読み、理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する
コメント	

(春～夏学期) 粒子ビーム化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Beam Chemistry II
授業コード	241262
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	岡田 美智雄 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、特に表面化学反応に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定する。最先端の研究教育機器の開発を通じて、ものづくりに根ざした物理化学研究を展開する。特に独自の先端機器を開発しながら、原子や分子により構成される粒子ビームが固体表面で引き起こす化学反応素過程について研究し、その制御を目指す。一方で、粒子ビームを利用したオリジナルの表面分析機器の開発にも取り組み、幅広い意味での表面科学の諸問題の解決を目指す。
授業外における学習	研究課題に関連する論文や専門書を読み、理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組む姿勢、 成果、 各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 量子化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Chemistry I
授業コード	241068
No.	24CHEM6G007
単位数	4
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	量子化学を使った研究を行う基礎を理解し、研究を行えるようにする
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	参考論文などを読む。
教科書	
参考文献	
成績評価	負担の取り組む姿勢 (50%) と成果 (50%) を総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 量子化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Chemistry II
授業コード	241069
No.	24CHEM6G007
単位数	4
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	量子化学の研究の基礎を身につけ、研究を実行する
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	参考論文などを読む
教科書	
参考文献	
成績評価	負担の取り組む姿勢 (50%) と成果 (50%) を総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 核化学半期セミナー AI

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Chemistry AI
授業コード	249455
No.	24CHEM6G012
単位数	4
担当教員	篠原 厚 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(秋～冬学期) 核化学半期セミナー AII

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Chemistry AII
授業コード	249457
No.	24CHEM6G012
単位数	4
担当教員	篠原 厚 居室 :
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(秋～冬学期) 核化学半期セミナー BI

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Chemistry BI
授業コード	249456
No.	24CHEM6G012
単位数	4
担当教員	吉村 崇 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	原子核に関連した化学の先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(秋～冬学期) 核化学半期セミナー BII

英語表記	Semestral Seminar in Nuclear Chemistry BII
授業コード	249458
No.	24CHEM6G012
単位数	4
担当教員	吉村 崇 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	原子核に関連した化学の先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(秋～冬学期) 核磁気共鳴分光学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Magnetic Resonance Spectroscopy I
授業コード	249461
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	上田 貴洋 居室： 全学教育実験棟 (サイエンスコモンズ)215 号室 電話： 5778 Email： ueda@museum.osaka-u.ac.jp 豊田 二郎 居室： 宮久保 圭祐 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	核磁気共鳴分光学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	核磁気共鳴や分子のダイナミクスの基礎を理解し、研究が行えるようにする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	自身の研究テーマに関連する研究論文の調査や、研究分野の基礎となる科目の予習・復習を実施すること。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、理解度、成果および各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 核磁気共鳴分光学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Magnetic Resonance Spectroscopy II		
授業コード	249462		
No.	24CHEM6G200		
単位数	4		
担当教員	上田 貴洋	居室 :	全学教育実験棟 (サイエンスcommons)215 号室
		電話 :	5778
		Email :	ueda@museum.osaka-u.ac.jp
	豊田 二郎	居室 :	
	宮久保 圭祐	居室 :	
質問受付			
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修		
開講時期	秋～冬学期		
場所	その他		
授業形態			
目的と概要	核磁気共鳴分光学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。		
学習目標	核磁気共鳴や分子のダイナミクスの基礎を理解し、研究が行えるようにする。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。		
授業外における学習	自身の研究テーマに関連する研究論文の調査や、研究分野の基礎となる科目の予習・復習を実施すること。		
教科書			
参考文献			
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、理解度、成果および各種発表により総合的に評価する。		
コメント			

(秋～冬学期)凝縮系物理化学半期セミナーⅠ

英語表記	Semestral Seminar in Physical Chemistry of Condensed Matter I
授業コード	249467
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	中澤 康浩 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	主体的な研究活動ができるようになる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	論文、関連研究の調査し様々な側面から考察をする
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、日々の活動、研究成果などを総合的に評価
コメント	

(秋～冬学期) 凝縮系物理化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Physical Chemistry of Condensed Matter II
授業コード	249468
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	中澤 康浩 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	主体的な研究活動ができるようになる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	論文、関連研究の調査し様々な側面から考察をする
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、日々の活動、研究成果などを総合的な評価
コメント	

(秋～冬学期) 構造錯体化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Structural Coordination Chemistry I
授業コード	249453
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	今野 巧 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	錯体化学の研究の基礎知識と技術を習得し、錯体化学の研究を実行する
履修条件	
特記事項	各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果によって評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 構造錯体化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Structural Coordination Chemistry II
授業コード	249454
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	今野 巧 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	錯体化学の研究の専門知識と技術を習得し、錯体化学の研究を実行する
履修条件	
特記事項	各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果によって評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 構造熱科学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Structural Thermodynamics I
授業コード	249544
No.	24CHEM6G002
単位数	4
担当教員	中野 元裕 居室 : 長野 八久 居室 : 宮崎 裕司 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(秋～冬学期) 構造熱科学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Structural Thermodynamics II
授業コード	249545
No.	24CHEM6G002
単位数	4
担当教員	中野 元裕 居室 : 長野 八久 居室 : 宮崎 裕司 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(秋～冬学期) 構造物性化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Solid State Chemistry I
授業コード	249473
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	谷口 正輝 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	研究課題の学術的・社会的な位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行する。さらに、研究成果を論文や発表でまとめ・公表し、対話をしながら研究を発展させていく能力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究課題と関連分野の研究論文を読むとともに、異なる研究分野の文献を読み、知識の幅を広げる。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究、発表、および論文の内容により総合評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 構造物性化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Solid State Chemistry II
授業コード	249474
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	谷口 正輝 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	研究課題の学術的・社会的な位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行する。さらに、研究成果を論文や発表でまとめ・公表し、対話をしながら研究を発展させていく能力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究課題と関連分野の研究論文を読むとともに、異なる研究分野の文献を読み、知識の幅を広げる。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究、発表、および論文の内容により総合評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生体分子化学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Molecular Biochemistry I
授業コード	249487
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	村田 道雄 居室： 花島 慎弥 居室：
質問受付	特に指定しない (アポイントを取ってから、面会に来るように)。
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学、生物物理学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	有機化学および生物化学、生物物理学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深める。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。 生体分子化学および生体膜、モデル膜について、原著論文を読み解くことによって、研究知識を蓄積する。と同時に、論理的思考ができるように科学的考えて方を学ぶ。
授業外における学習	日頃の文献調査や総説の精読を通じて、背景情報を十分に収集すること。
教科書	原著論文をテキストとすることが多いので、特に指定しない。
参考文献	
成績評価	セミナーおよびミーティングにおける出席点と発表内容によって評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生体分子化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Molecular Biochemistry II
授業コード	249488
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	村田 道雄 居室 : 花島 慎弥 居室 :
質問受付	特に指定しない (アポイントを取ってから、面会に来るように)。
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学、生物物理学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	有機化学および生物化学、生物物理学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深める。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。 生体分子化学および生体膜、モデル膜について、原著論文を読み解くことによって、研究知識を蓄積する。と同時に、論理的思考ができるように科学的考えて方を学ぶ。
授業外における学習	日頃の文献調査や総説の精読を通じて、背景情報を十分に収集すること。
教科書	原著論文をテキストとすることが多いので、特に指定しない。
参考文献	
成績評価	セミナーおよびミーティングにおける出席点と発表内容によって評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生体分子機能構造計測学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Structural Molecular Biology I
授業コード	249560
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をとおして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。これまでに測定ができなかった構造機能情報を得るための実験法開発についても学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	物理化学、構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、テラヘルツ波を利用した NMR の超高感度化とその応用、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 生体分子機能構造計測学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Structural Molecular Biology II
授業コード	249561
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をとおして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。これまでに測定ができなかった構造機能情報を得るための実験法開発についても学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	物理化学、構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、テラヘルツ波を利用した NMR の超高感度化とその応用、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 生物物理化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Biophysical Chemistry I
授業コード	249465
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	水谷 泰久 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物物理化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	生物物理化学化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	生物物理化学に関する先端的研究課題の指導を行う。先端的分光法を用いたタンパク質の機能発現機構解明について基礎から最新の研究を学ぶ。また、学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	関連分野に関する文献を読み、生物物理化学に対する理解を深める。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生物物理化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Biophysical Chemistry II
授業コード	249466
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	水谷 泰久 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物物理化学に関連した先端的研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	生物物理化学化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	生物物理化学に関する先端的研究課題の指導を行う。先端的分光法を用いたタンパク質の機能発現機構解明について基礎から最新の研究を学ぶ。また、学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	関連分野に関する文献を読み、生物物理化学に対する理解を深める。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生物無機化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Bioinorganic Chemistry I
授業コード	249445
No.	24CHEM6G214
単位数	4
担当教員	船橋 靖博 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	先端的な研究分野についての理解に基づき、生物無機化学に関連したより発展的な研究を遂行する。
学習目標	学術論文を注意深く読み、理学的な実験研究を行い、その進捗状況を報告すること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	生物無機化学研究室における研究内容は「研究科紹介・化学専攻」を参照されたい。 http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/pamphlet/pamphlet-2017k/
授業外における学習	学術論文を読んだり、新たな研究の提案や研究の進捗状況の報告を準備する。
教科書	
参考文献	
成績評価	学術的な背景の説明と研究提案、ならびにその成果発表が評価されます。
コメント	

(秋～冬学期) 生物無機化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Bioinorganic Chemistry II
授業コード	249446
No.	24CHEM6G214
単位数	4
担当教員	船橋 靖博 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	先端的な研究分野についての理解に基づき、生物無機化学に関連したより発展的な研究を遂行する。
学習目標	学術論文を注意深く読み、理学的な実験研究を行い、その進捗状況を報告すること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	生物無機化学研究室における研究内容は「研究科紹介・化学専攻」を参照されたい。 http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/pamphlet/pamphlet-2017k/
授業外における学習	学術論文を読んだり、新たな研究の提案や研究の進捗状況の報告を準備する。
教科書	
参考文献	
成績評価	学術的な背景の説明と研究提案、ならびにその成果発表が評価されます。
コメント	

(秋～冬学期) 反応化学半期セミナーⅠ

英語表記	Semestral Seminar in Chemical Reaction Dynamics I
授業コード	249463
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	松本 卓也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	自ら課題について、学術上の位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行し、外部に対する発表ができる。 論文執筆ができる。
履修条件	学生便覧参照
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究室のマシントime、学会発表の締め切りなどを勘案し、時間に制約を設けず、目標を達成する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、プロセス、成果を総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 反応化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Chemical Reaction Dynamics II
授業コード	249464
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	松本 卓也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	自ら課題について、学術上の位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行し、外部に対する発表ができる。 論文執筆ができる。
履修条件	学生便覧参照
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究室のマシントime、学会発表の締め切りなどを勘案し、時間に制約を設けず、目標を達成する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、プロセス、成果を総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 表面化学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Surface Chemistry I
授業コード	249469
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	固体表面の物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。 隔週ごとに実験報告と論文紹介を交代で行う。 外国人が出席するときにはレジメは英語とする。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーの出席、参加態度および発表で評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 表面化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Surface Chemistry II
授業コード	249470
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	固体表面の物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。 隔週ごとに実験報告と論文紹介を交代で行う。 外国人が出席するときにはレジメは英語とする。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーの出席、参加態度および発表で評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 物性錯体化学半期セミナー AI

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry AI
授業コード	249449
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	石川 直人 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(秋～冬学期) 物性錯体化学半期セミナー AII

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry AII
授業コード	249451
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	石川 直人 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

(秋～冬学期) 物性錯体化学半期セミナー BI

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry BI
授業コード	249450
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	山口 和也 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。論文・実験についての指導と助言を行う。
学習目標	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深める。具体的な研究の進め方や考え方などを修得する。指導と助言により研究を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学習目標達成のために、各自主体的に取り組むこと。
教科書	最新刊の雑誌
参考文献	Chemistry of the Elements, Greenwood Earnshaw, Second Ed., 1997, Butterworth Heinemann. Advanced Inorganic Chemistry, F. Albert Cotton, G. Wilkinson, C.A. Murrillo, and M. Bochmann, Sixth Ed. 1999, John Wiley & Sons, Inc.
成績評価	論文発表、プレゼンテーション、質問、理解度等を含めて総合的に行う。
コメント	

(秋～冬学期) 物性錯体化学半期セミナー BII

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry BII
授業コード	249452
No.	24CHEM6G008
単位数	4
担当教員	山口 和也 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。論文・実験についての指導と助言を行う。
学習目標	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深める。具体的な研究の進め方や考え方を修得する。指導と助言により研究を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学習目標達成のために、各自主体的に取り組むこと。
教科書	最新刊の雑誌
参考文献	Chemistry of the Elements, Greenwood Earnshaw, Second Ed., 1997, Butterworth Heinemann. Advanced Inorganic Chemistry, F. Albert Cotton, G. Wilkinson, C.A. Murrillo, and M. Bochmann, Sixth Ed. 1999, John Wiley & Sons, Inc.
成績評価	論文発表、プレゼンテーション、質問、理解度等を含めて総合的に行う。
コメント	

(秋～冬学期) 分析化学半期セミナーⅠ

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry I
授業コード	249447
No.	24CHEM6G206
単位数	4
担当教員	塚原 聡 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学に関連した先端的な研究について理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方について指導を行う。
学習目標	与えられた研究課題に対して、具体的な実験方法を考案して構築し、データを得ることができる。得たデータを解析し、議論することができる。さらに自分で考え、新しい課題の設定をすることができる。 最新の分析化学に関する論文を読み、それを研究室の構成員に対して判りやすく紹介できる。紹介後の質問にも適切に答えられる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主に、界面分析法の開発、電場・磁場を利用する微粒子分離法、キラル光学分析法の開発 について研究する。
授業外における学習	予め論文を読み、その背景や実験方法、解析法について調べる。 紹介後は、そのときの質問事項について充分答えられたかを自己チェックし、不十分であった場合は、後日回答を追加する。
教科書	随時指定する
参考文献	随時指定する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 分析化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Coordination Chemistry II
授業コード	249448
No.	24CHEM6G206
単位数	4
担当教員	塚原 聡 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学の先端的研究を行い, 研究の実施方法について指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。英語論文の作成法を指導する。
学習目標	与えられた研究課題に対して, 具体的な実験方法を考案して構築し, データを得ることができる。得たデータを解析し, 議論することができる。さらに自分で考え, 新しい課題の設定をすることができる。 最新の分析化学に関する論文を読み, それを研究室の構成員に対して判りやすく紹介できる。紹介後の質問にも適切に答えられる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主に, 界面分析法の開発, 電場・磁場を利用する微粒子分離法, キラル光学分析法の開発 について研究する。
授業外における学習	予め論文を読み, その背景や実験方法, 解析法について調べる。 紹介後は, そのときの質問事項について充分答えられたかを自己チェックし, 不十分であった場合は, 後日回答を追加する。
教科書	随時指定する
参考文献	随時指定する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢, 成果, 各種発表により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 粒子ビーム化学半期セミナーI

英語表記	Semestral Seminar in Beam Chemistry I
授業コード	249558
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	岡田 美智雄 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、特に表面化学反応に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定する。最先端の研究教育機器の開発を通じて、ものづくりに根ざした物理化学研究を展開する。特に独自の先端機器を開発しながら、原子や分子により構成される粒子ビームが固体表面で引き起こす化学反応素過程について研究し、その制御を目指す。一方で、粒子ビームを利用したオリジナルの表面分析機器の開発にも取り組み、幅広い意味での表面科学の諸問題の解決を目指す。
授業外における学習	研究課題に関連する論文や専門書を読み、理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組む姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 粒子ビーム化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Beam Chemistry II
授業コード	249559
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	岡田 美智雄 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、特に表面化学反応に関連した先端的な分野についての基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定する。最先端の研究教育機器の開発を通じて、ものづくりに根ざした物理化学研究を展開する。特に独自の先端機器を開発しながら、原子や分子により構成される粒子ビームが固体表面で引き起こす化学反応素過程について研究し、その制御を目指す。一方で、粒子ビームを利用したオリジナルの表面分析機器の開発にも取り組み、幅広い意味での表面科学の諸問題の解決を目指す。
授業外における学習	研究課題に関連する論文や専門書を読み、理解する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組む姿勢、 成果、 各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 量子化学半期セミナーⅠ

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Chemistry I
授業コード	249459
No.	24CHEM6G007
単位数	4
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	参考論文などを読む
教科書	
参考文献	適宜指示する。
成績評価	負担の取り組む姿勢 (50%) と成果 (50%) を総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 量子化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Quantum Chemistry II
授業コード	249460
No.	24CHEM6G007
単位数	4
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	量子化学の基礎を身につけ、研究を行う
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	参考論文などを読む
教科書	
参考文献	
成績評価	負担の取り組む姿勢 (50%) と成果 (50%) を総合的に評価する。
コメント	

3.4 化学専攻 A コース後期課程

核化学特別セミナー AI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Chemistry AI
授業コード	241483
No.	24CHEM7G012
単位数	9
担当教員	篠原 厚 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

核化学特別セミナー AII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Chemistry AII
授業コード	241484
No.	24CHEM7G012
単位数	9
担当教員	篠原 厚 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

核化学特別セミナー AIII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Chemistry AIII
授業コード	241485
No.	24CHEM7G012
単位数	9
担当教員	篠原 厚 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

核化学特別セミナー BI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Chemistry BI
授業コード	241486
No.	24CHEM7G012
単位数	9
担当教員	吉村 崇 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	原子核に関連した化学分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

核化学特別セミナー BII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Chemistry BII
授業コード	241487
No.	24CHEM7G012
単位数	9
担当教員	吉村 崇 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	原子核に関連した化学分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

核化学特別セミナー BIII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Chemistry BIII
授業コード	241488
No.	24CHEM7G012
単位数	9
担当教員	吉村 崇 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	原子核に関連した化学分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

核磁気共鳴分光学特別セミナー I

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Magnetic Resonance Spectroscopy I
授業コード	241492
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	上田 貴洋 居室： 全学教育実験棟 (サイエンスコモンズ)215 号室 電話： 5778 Email： ueda@museum.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、とくに核磁気共鳴分光学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	核磁気共鳴や分子のダイナミクスの基礎を理解し、研究が行えるようにする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	自身の研究テーマに関連する研究論文の調査や、研究分野の基礎となる科目の予習・復習を実施すること。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、理解度、成果および各種発表により総合的に評価する。
コメント	

核磁気共鳴分光学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Magnetic Resonance Spectroscopy II
授業コード	241493
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	上田 貴洋 居室： 全学教育実験棟 (サイエンスコモンズ)215 号室 電話： 5778 Email： ueda@museum.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、とくに核磁気共鳴分光学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	核磁気共鳴や分子のダイナミクスの基礎を理解し、研究が行えるようにする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	自身の研究テーマに関連する研究論文の調査や、研究分野の基礎となる科目の予習・復習を実施すること。
教科書	
参考文献	
成績評価	究課題に対する取り組み姿勢、理解度、成果および各種発表により総合的に評価する。
コメント	

核磁気共鳴分光学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Magnetic Resonance Spectroscopy III
授業コード	241494
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	上田 貴洋 居室： 全学教育実験棟 (サイエンスコモンズ)215 号室 電話： 5778 Email： ueda@museum.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、とくに核磁気共鳴分光学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	核磁気共鳴や分子のダイナミクスの基礎を理解し、研究が行えるようにする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	自身の研究テーマに関連する研究論文の調査や、研究分野の基礎となる科目の予習・復習を実施すること。
教科書	
参考文献	
成績評価	究課題に対する取り組み姿勢、理解度、成果および各種発表により総合的に評価する。
コメント	

凝縮系物理化学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Physical Chemistry of Condensed Matter I
授業コード	241504
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	中澤 康浩 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	主体的な研究活動ができるようになる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	論文、関連研究の調査し様々な側面から考察をする
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、日々の活動、研究成果などを総合的に評価
コメント	

凝縮系物理化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Physical Chemistry of Condensed Matter II
授業コード	241505
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	中澤 康浩 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	主体的な研究活動ができるようになる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	論文、関連研究の調査し様々な側面から考察をする
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、日々の活動、研究成果などを総合的に評価
コメント	

凝縮系物理化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Physical Chemistry of Condensed Matter III
授業コード	241506
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	中澤 康浩 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	主体的な研究活動ができるようになる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	論文、関連研究の調査し様々な側面から考察をする
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、日々の活動、研究成果などを総合的に評価
コメント	

構造錯体化学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Research in Structural Coordination Chemistry I
授業コード	241480
No.	24CHEM7G008
単位数	9
担当教員	今野 巧 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	錯体化学の研究を行う能力を身につけること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果によって評価する。
コメント	

構造錯体化学特別セミナーII

英語表記	Seminar for Advanced Research in Structural Coordination Chemistry II
授業コード	241481
No.	24CHEM7G008
単位数	9
担当教員	今野 巧 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	錯体化学の研究を行う能力を身につけること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果によって評価する。
コメント	

構造錯体化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Research in Structural Coordination Chemistry III
授業コード	241482
No.	24CHEM7G008
単位数	9
担当教員	今野 巧 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	錯体化学の研究を行う能力を身につけること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果によって評価する。
コメント	

構造熱科学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Thermodynamics I
授業コード	241510
No.	24CHEM7G002
単位数	9
担当教員	中野 元裕 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

構造熱科学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Thermodynamics II
授業コード	241511
No.	24CHEM7G002
単位数	9
担当教員	中野 元裕 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

構造熱科学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Thermodynamics III
授業コード	241512
No.	24CHEM7G002
単位数	9
担当教員	中野 元裕 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	
コメント	

構造物性化学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Solid State Chemistry I
授業コード	241513
No.	24CHEM7G002
単位数	9
担当教員	谷口 正輝 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	研究課題の学術的・社会的な位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行する。さらに、研究成果を論文や発表でまとめ・公表し、対話をしながら研究を発展させていく能力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究課題と関連分野の研究論文を読むとともに、異なる研究分野の文献を読み、知識の幅を広げる。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究、発表、および論文の内容により総合評価する。
コメント	

構造物性化学特別セミナーII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Solid State Chemistry II
授業コード	241514
No.	24CHEM7G002
単位数	9
担当教員	谷口 正輝 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	研究課題の学術的・社会的な位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行する。さらに、研究成果を論文や発表でまとめ・公表し、対話をしながら研究を発展させていく能力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究課題と関連分野の研究論文を読むとともに、異なる研究分野の文献を読み、知識の幅を広げる。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究、発表、および論文の内容により総合評価する。
コメント	

構造物性化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Solid State Chemistry III
授業コード	241515
No.	24CHEM7G002
単位数	9
担当教員	谷口 正輝 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	研究課題の学術的・社会的な位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行する。さらに、研究成果を論文や発表でまとめ・公表し、対話をしながら研究を発展させていく能力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究課題と関連分野の研究論文を読むとともに、異なる研究分野の文献を読み、知識の幅を広げる。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究、発表、および論文の内容により総合評価する。
コメント	

生体分子機能構造計測学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Molecular Biology I
授業コード	241522
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をとおして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。これまでに測定ができなかった構造機能情報を得るための実験法開発についても学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	物理化学、構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、テラヘルツ波を利用した NMR の超高感度化とその応用、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対して積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

生体分子機能構造計測学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Molecular Biology II
授業コード	241523
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をとおして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。これまでに測定ができなかった構造機能情報を得るための実験法開発についても学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	物理化学、構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、テラヘルツ波を利用した NMR の超高感度化とその応用、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

生体分子機能構造計測学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Molecular Biology III
授業コード	241524
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をとおして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。これまでに測定ができなかった構造機能情報を得るための実験法開発についても学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	物理化学、構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、テラヘルツ波を利用した NMR の超高感度化とその応用、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対して積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

生体分子動的解析学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Molecular Biophysics I
授業コード	241519
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	バイオインフォマティクス (生命情報科学) は、生命体の持つ遺伝情報の情報学的解析により生命現象を理解しようとする新しい学問領域であり、生物学・化学・物理・数学・情報学などの学際分野である。データベース解析とシミュレーション計算の手法を習得し、それらを用いたバイオインフォマティクス研究による生命活動をシステムとして理解する。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	データベース解析とシミュレーション計算の手法を習得し、それらを用いたバイオインフォマティクス研究による生命活動をシステムとして理解することができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。データベース解析による統合的解析研究、分子シミュレーションの実践による物理化学に基づいた演繹的な生体分子系の理解、多数の異なる蛋白質分子が協同的に働いて情報を伝達する様を網羅的に解析するプロテオミクスを対象としたバイオインフォマティクス研究、より高次の細胞間ネットワークに関するシミュレーション等の理論的アプローチの研究。
授業外における学習	教科書・教材、参考文献を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。

生体分子動的解析学特別セミナーII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Molecular Biophysics II
授業コード	241520
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	バイオインフォマティクス (生命情報科学) は、生命体の持つ遺伝情報の情報学的解析により生命現象を理解しようとする新しい学問領域であり、生物学・化学・物理・数学・情報学などの学際分野である。データベース解析とシミュレーション計算の手法を習得し、それらを用いたバイオインフォマティクス研究による生命活動をシステムとして理解する。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	データベース解析とシミュレーション計算の手法を習得し、それらを用いたバイオインフォマティクス研究による生命活動をシステムとして理解することができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。データベース解析による統合的解析研究、分子シミュレーションの実践による物理化学に基づいた演繹的な生体分子系の理解、多数の異なる蛋白質分子が協同的に働いて情報を伝達する様を網羅的に解析するプロテオミクスを対象としたバイオインフォマティクス研究、より高次の細胞間ネットワークに関するシミュレーション等の理論的アプローチの研究。
授業外における学習	教科書・教材、参考文献を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。

生体分子動的解析学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Molecular Biophysics III
授業コード	241521
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	バイオインフォマティクス (生命情報科学) は、生命体の持つ遺伝情報の情報学的解析により生命現象を理解しようとする新しい学問領域であり、生物学・化学・物理・数学・情報学などの学際分野である。データベース解析とシミュレーション計算の手法を習得し、それらを用いたバイオインフォマティクス研究による生命活動をシステムとして理解する。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	データベース解析とシミュレーション計算の手法を習得し、それらを用いたバイオインフォマティクス研究による生命活動をシステムとして理解することができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。データベース解析による統合的解析研究、分子シミュレーションの実践による物理化学に基づいた演繹的な生体分子系の理解、多数の異なる蛋白質分子が協同的に働いて情報を伝達する様を網羅的に解析するプロテオミクスを対象としたバイオインフォマティクス研究、より高次の細胞間ネットワークに関するシミュレーション等の理論的アプローチの研究。
授業外における学習	教科書・教材、参考文献を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。

生物物理化学特別セミナーI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Biophysical Chemistry I
授業コード	241501
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	水谷 泰久 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	生物物理化学化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	生物物理化学に関する先端的研究課題の指導を行う。先端的分光法を用いたタンパク質の機能発現機構解明について基礎から最新の研究を学ぶ。また、学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	関連分野に関する文献を読み、生物物理化学に対する理解を深める。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

生物物理化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Biophysical Chemistry II
授業コード	241502
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	水谷 泰久 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	生物物理化学化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	生物物理化学に関する先端的研究課題の指導を行う。先端的分光法を用いたタンパク質の機能発現機構解明について基礎から最新の研究を学ぶ。また、学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	関連分野に関する文献を読み、生物物理化学に対する理解を深める。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

生物物理化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Biophysical Chemistry III
授業コード	241503
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	水谷 泰久 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	生物物理化学化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	生物物理化学に関する先端的研究課題の指導を行う。先端的分光法を用いたタンパク質の機能発現機構解明について基礎から最新の研究を学ぶ。また、学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	関連分野に関する文献を読み、生物物理化学に対する理解を深める。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

生物無機化学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Research in Bioinorganic Chemistry I
授業コード	241468
No.	24CHEM7G214
単位数	9
担当教員	船橋 靖博 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	先端的な研究分野についての深い理解に基づき、生物無機化学に関連したより発展的な研究を遂行する。
学習目標	学術論文を注意深く読み、理学的な実験研究を行い、その進捗状況を報告すること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	生物無機化学研究室における研究内容は「研究科紹介・化学専攻」を参照されたい。 http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/pamphlet/pamphlet-2017k/
授業外における学習	学術論文を読み、新たな研究の提案や研究の進捗状況の報告を準備する。
教科書	
参考文献	
成績評価	学術的な背景の説明と研究提案、ならびにその成果発表が評価されます。
コメント	

生物無機化学特別セミナーII

英語表記	Seminar for Advanced Research in Bioinorganic Chemistry II
授業コード	241469
No.	24CHEM7G214
単位数	9
担当教員	船橋 靖博 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	先端的な研究分野についての深い理解に基づき、生物無機化学に関連したより発展的な研究を遂行する。
学習目標	学術論文を注意深く読み、理学的な実験研究を行い、その進捗状況を報告すること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	生物無機化学研究室における研究内容は「研究科紹介・化学専攻」を参照されたい。 http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/pamphlet/pamphlet-2017k/
授業外における学習	学術論文を読み、新たな研究の提案や研究の進捗状況の報告を準備する。
教科書	
参考文献	
成績評価	学術的な背景の説明と研究提案、ならびにその成果発表が評価されます。
コメント	

生物無機化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Research in Bioinorganic Chemistry III
授業コード	241470
No.	24CHEM7G214
単位数	9
担当教員	船橋 靖博 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	先端的な研究分野についての深い理解に基づき、生物無機化学に関連したより発展的な研究を遂行する。
学習目標	学術論文を注意深く読み、理学的な実験研究を行い、その進捗状況を報告すること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	生物無機化学研究室における研究内容は「研究科紹介・化学専攻」を参照されたい。 http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/pamphlet/pamphlet-2017k/
授業外における学習	学術論文を読み、新たな研究の提案や研究の進捗状況の報告を準備する。
教科書	
参考文献	
成績評価	学術的な背景の説明と研究提案、ならびにその成果発表が評価されます。
コメント	

反応化学特別セミナーI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Chemical Reaction Dynamics I
授業コード	241495
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	松本 卓也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	自ら課題について、学術上の位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行し、外部に対する発表ができる。 論文執筆ができる。
履修条件	学生便覧参照
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究室のマシントime、学会発表の締め切りなどを勘案し、時間に制約を設けず、目標を達成する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、プロセス、成果を総合的に評価する。
コメント	

反応化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Chemical Reaction Dynamics II
授業コード	241496
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	松本 卓也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	自ら課題について、学術上の位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行し、外部に対する発表ができる。 論文執筆ができる。
履修条件	学生便覧参照
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究室のマシントime、学会発表の締め切りなどを勘案し、時間に制約を設けず、目標を達成する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、プロセス、成果を総合的に評価する。
コメント	

反応化学特別セミナーIII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Chemical Reaction Dynamics III
授業コード	241497
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	松本 卓也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験についての指導と助言を行う。
学習目標	自ら課題について、学術上の位置づけを理解し、自ら研究計画を立てて実行し、外部に対する発表ができる。 論文執筆ができる。
履修条件	学生便覧参照
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究室のマシントime、学会発表の締め切りなどを勘案し、時間に制約を設けず、目標を達成する。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、プロセス、成果を総合的に評価する。
コメント	

表面化学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Research in Surface Chemistry I
授業コード	241507
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	固体表面の物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。 隔週ごとに実験報告と論文紹介を交代で行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーの出席、参加態度および発表で評価する。
コメント	

表面化学特別セミナーII

英語表記	Seminar for Advanced Research in Surface Chemistry II
授業コード	241508
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	固体表面の物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。 隔週ごとに実験報告と論文紹介を交代で行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーの出席、参加態度および発表で評価する。
コメント	

表面化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Research in Surface Chemistry III
授業コード	241509
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	固体表面の物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。 隔週ごとに実験報告と論文紹介を交代で行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーの出席、参加態度および発表で評価する。
コメント	

物性錯体化学特別セミナー AI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Coordination Chemistry AI
授業コード	241474
No.	24CHEM7G008
単位数	9
担当教員	石川 直人 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

物性錯体化学特別セミナー AII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Coordination Chemistry AII
授業コード	241475
No.	24CHEM7G008
単位数	9
担当教員	石川 直人 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

物性錯体化学特別セミナー AIII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Coordination Chemistry AIII
授業コード	241476
No.	24CHEM7G008
単位数	9
担当教員	石川 直人 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

物性錯体化学特別セミナー BI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Coordination Chemistry BI
授業コード	241477
No.	24CHEM7G008
単位数	9
担当教員	山口 和也 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。論文・実験についての指導と助言を行う。
学習目標	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深める。具体的な研究の進め方や考え方を修得する。指導と助言により研究を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学習目標達成のために、各自主体的に取り組むこと。
教科書	最新刊の雑誌
参考文献	Chemistry of the Elements, Greenwood Earnshaw, Second Ed., 1997, Butterworth Heinemann. Advanced Inorganic Chemistry, F. Albert Cotton, G. Wilkinson, C.A. Murrillo, and M. Bochmann, Sixth Ed. 1999, John Wiley & Sons, Inc.
成績評価	論文発表、プレゼンテーション、質問、理解度等を含めて総合的に行う。
コメント	

物性錯体化学特別セミナー BII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Coordination Chemistry BII
授業コード	241478
No.	24CHEM7G008
単位数	9
担当教員	山口 和也 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。論文・実験についての指導と助言を行う。
学習目標	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深める。具体的な研究の進め方や考え方を修得する。指導と助言により研究を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学習目標達成のために、各自主体的に取り組むこと。
教科書	最新刊の雑誌
参考文献	Chemistry of the Elements, Greenwood Earnshaw, Second Ed., 1997, Butterworth Heinemann. Advanced Inorganic Chemistry, F. Albert Cotton, G. Wilkinson, C.A. Murrillo, and M. Bochmann, Sixth Ed. 1999, John Wiley & Sons, Inc.
成績評価	論文発表、プレゼンテーション、質問、理解度等を含めて総合的に行う。
コメント	

物性錯体化学特別セミナー BIII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Coordination Chemistry BIII
授業コード	241479
No.	24CHEM7G008
単位数	9
担当教員	山口 和也 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。論文・実験についての指導と助言を行う。
学習目標	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深める。具体的な研究の進め方や考え方を修得する。指導と助言により研究を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学習目標達成のために、各自主体的に取り組むこと。
教科書	最新刊の雑誌
参考文献	Chemistry of the Elements, Greenwood Earnshaw, Second Ed., 1997, Butterworth Heinemann. Advanced Inorganic Chemistry, F. Albert Cotton, G. Wilkinson, C.A. Murrillo, and M. Bochmann, Sixth Ed. 1999, John Wiley & Sons, Inc.
成績評価	論文発表、プレゼンテーション、質問、理解度等を含めて総合的に行う。
コメント	

物性有機化学特別セミナーI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Physical Organic Chemistry I
授業コード	241528
No.	24CHEM7G209
単位数	9
担当教員	小川 琢治 居室：
質問受付	随時
履修対象	必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	研究室内において行われている研究内容について、研究者による発表と議論を行い、研究内容を深めると同時に、知識を深める。
学習目標	自らの研究内容について説明し、最近1ヶ月程度の研究の進展について報告する。その結果を研究室全体で議論して、研究内容についての議論を深める。他の学生やスタッフの研究内容についても、質問や議論を行う事で、研究を行う上で必要なロジックや基礎知識を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	原則、毎週水曜日の9時から12時に行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	成績評価は、出席と発言で行う。病欠や、やむを終わえない事情による欠席は、欠席とカウントしない。
コメント	

分析化学特別セミナー I

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analytical Chemistry I
授業コード	241471
No.	24CHEM7G206
単位数	9
担当教員	塚原 聡 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 1 年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学に関連した分野の先端的な研究の指導を通じて、緻密な思考力と創造的な発想力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	与えられた研究課題に対して、具体的な実験方法を考案して構築し、データを得ることができる。得たデータを解析し、議論することができる。さらに自分で考え、新しい課題の設定をすることができる。 最新の分析化学に関する論文を読み、それを研究室の構成員に対して判りやすく紹介できる。紹介後の質問にも適切に答えられる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主に、界面分析法の開発、電場・磁場を利用する微粒子分離法、キラル光学分析法の開発 について研究する。
授業外における学習	予め論文を読み、その背景や実験方法、解析法について調べる。 紹介後は、そのときの質問事項について充分答えられたかを自己チェックし、不十分であった場合は、後日回答を追加する。
教科書	随時指定する
参考文献	随時指定する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

分析化学特別セミナーII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analytical Chemistry II
授業コード	241472
No.	24CHEM7G206
単位数	9
担当教員	塚原 聡 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 2 年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学に関連した分野の先端的な研究の指導を通じて、緻密な思考力と創造的な発想力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	与えられた研究課題に対して、具体的な実験方法を考案して構築し、データを得ることができる。得たデータを解析し、議論することができる。さらに自分で考え、新しい課題の設定をすることができる。 最新の分析化学に関する論文を読み、それを研究室の構成員に対して判りやすく紹介できる。紹介後の質問にも適切に答えられる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主に、界面分析法の開発、電場・磁場を利用する微粒子分離法、キラル光学分析法の開発 について研究する。
授業外における学習	予め論文を読み、その背景や実験方法、解析法について調べる。 紹介後は、そのときの質問事項について充分答えられたかを自己チェックし、不十分であった場合は、後日回答を追加する。
教科書	随時指定する
参考文献	随時指定する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

分析化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Analytical Chemistry III
授業コード	241473
No.	24CHEM7G206
単位数	9
担当教員	塚原 聡 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 3 年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	分析化学に関連した分野の先端的な研究の指導を通じて、緻密な思考力と創造的な発想力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	与えられた研究課題に対して、具体的な実験方法を考案して構築し、データを得ることができる。得たデータを解析し、議論することができる。さらに自分で考え、新しい課題の設定をすることができる。 最新の分析化学に関する論文を読み、それを研究室の構成員に対して判りやすく紹介できる。紹介後の質問にも適切に答えられる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主に、界面分析法の開発、電場・磁場を利用する微粒子分離法、キラル光学分析法の開発 について研究する。
授業外における学習	予め論文を読み、その背景や実験方法、解析法について調べる。 紹介後は、そのときの質問事項について充分答えられたかを自己チェックし、不十分であった場合は、後日回答を追加する。
教科書	随時指定する
参考文献	随時指定する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

粒子ビーム化学特別セミナーI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Beam Chemistry I
授業コード	241498
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	岡田 美智雄 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、特に表面化学反応に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定する。最先端の研究教育機器の開発を通じて、ものづくりに根ざした物理化学研究を展開する。特に独自の先端機器を開発しながら、原子や分子により構成される粒子ビームが固体表面で引き起こす化学反応素過程について研究し、その制御を目指す。一方で、粒子ビームを利用したオリジナルの表面分析機器の開発にも取り組み、幅広い意味での表面科学の諸問題の解決を目指す。最先端の表面化学に加え、関連する表面物理学、材料科学などについても調査研究を行うとともに、セミナー発表、学会発表、論文作成を通じて、企画力ならびに発表力を養う。
授業外における学習	研究課題に関連する論文や専門書を読み、理解し、研究課題解決に応用できるようにする。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組む姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	

粒子ビーム化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Beam Chemistry II
授業コード	241499
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	岡田 美智雄 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、特に表面化学反応に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定する。最先端の研究教育機器の開発を通じて、ものづくりに根ざした物理化学研究を展開する。特に独自の先端機器を開発しながら、原子や分子により構成される粒子ビームが固体表面で引き起こす化学反応素過程について研究し、その制御を目指す。一方で、粒子ビームを利用したオリジナルの表面分析機器の開発にも取り組み、幅広い意味での表面科学の諸問題の解決を目指す。最先端の表面化学に加え、関連する表面物理学、材料科学などについても調査研究を行うとともに、セミナー発表、学会発表、論文作成を通じて、企画力ならびに発表力を養う。
授業外における学習	研究課題に関連する論文や専門書を読み、理解し、研究課題解決に応用できるようにする。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組む姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	

粒子ビーム化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Beam Chemistry III
授業コード	241500
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	岡田 美智雄 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	物理化学、特に表面化学反応に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定する。最先端の研究教育機器の開発を通じて、ものづくりに根ざした物理化学研究を展開する。特に独自の先端機器を開発しながら、原子や分子により構成される粒子ビームが固体表面で引き起こす化学反応素過程について研究し、その制御を目指す。一方で、粒子ビームを利用したオリジナルの表面分析機器の開発にも取り組み、幅広い意味での表面科学の諸問題の解決を目指す。最先端の表面化学に加え、関連する表面物理学、材料科学などについても調査研究を行うとともに、セミナー発表、学会発表、論文作成を通じて、企画力ならびに発表力を養う。
授業外における学習	研究課題に関連する論文や専門書を読み、理解し、研究課題解決に応用できるようにする。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組む姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	

量子化学特別セミナー I

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Quantum Chemistry I
授業コード	241489
No.	24CHEM7G007
単位数	9
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	量子化学を元に、研究を行う能力を身につけること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	最先端の研究論文などを読む
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に取り組む姿勢 (50%) と成果 (50%) を元に評価する。
コメント	

量子化学特別セミナーII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Quantum Chemistry II
授業コード	241490
No.	24CHEM7G007
単位数	9
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	量子化学を元に、研究を行う能力を身につけること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	最先端の研究論文などを読む
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に取り組む姿勢 (50%) と成果 (50%) を元に評価する。
コメント	

量子化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Quantum Chemistry III
授業コード	241491
No.	24CHEM7G007
単位数	9
担当教員	奥村 光隆 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	量子化学を元に、研究を行う能力を身につけること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究に取り組む姿勢 (50%) と成果 (50%) を元に評価する。
コメント	

3.5 化学専攻 B コース前期課程

(春～夏学期) ゲノム化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Genome Chemistry I
授業コード	241098
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	中谷 和彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	ゲノム化学に関わる諸課題について、その背景を知るとともに、その課題の本質を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得する
学習目標	ゲノム化学に関わる諸課題について、その背景を知るとともに、その課題の本質を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得できる
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	全体的に判断する
コメント	

(春～夏学期) ゲノム化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Genome Chemistry II
授業コード	241099
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	中谷 和彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	ゲノム化学に関わる諸課題について、その背景を知るとともに、その課題の本質を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得する
学習目標	ゲノム化学に関わる諸課題について、その背景を知るとともに、その課題の本質を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得できる
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	全体的に判断する
コメント	

(春～夏学期) プロテオミクス分析化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar for Analytical Chemistry for Proteomics I
授業コード	241108
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) プロテオミクス分析化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar for Analytical Chemistry for Proteomics II
授業コード	241109
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 機能性分子化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Functional Molecular ChemistryI
授業コード	241102
No.	24CHEM6G205
単位数	4
担当教員	笹井 宏明 居室 : 鈴木 健之 居室 : 滝澤 忍 居室 : 産研 F406 電話 : 8466 Fax : 06-6879-8469 Email : taki@sanken.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	新規性、先進性、独創性のある研究成果をだして、プレゼンする。
履修条件	前期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	日々の実験研究
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果とプレゼン
コメント	

(春～夏学期) 機能性分子化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Functional Molecular Chemistry II
授業コード	241103
No.	24CHEM6G205
単位数	4
担当教員	笹井 宏明 居室 : 鈴木 健之 居室 : 滝澤 忍 居室 : 産研 F406 電話 : 8466 Fax : 06-6879-8469 Email : taki@sanken.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	新規性、先進性、独創性のある研究成果を得る。
履修条件	前期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	実験研究
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果とセミナーでのプレゼン
コメント	

(春～夏学期) 構造有機化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Structural Organic Chemistry I
授業コード	241090
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	久保 孝史 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	π 電子系有機化合物の合成に関する専門知識と技術が習得できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学術文献と専門書を常日頃から読んでおく。
教科書	大学院講義有機化学、東京化学同人 March's Advanced Organic Chemistry: Reactions, Mechanisms, and Structure Modern Physical Organic Chemistry
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果により評価する。
コメント	

(春～夏学期) 構造有機化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Structural Organic Chemistry II
授業コード	241091
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	久保 孝史 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	π 電子系有機化合物の合成に関する専門知識と技術が習得できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学術文献と専門書を常日頃から読んでおく。
教科書	大学院講義有機化学、東京化学同人 March's Advanced Organic Chemistry: Reactions, Mechanisms, and Structure Modern Physical Organic Chemistry
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果により評価する。
コメント	

(春～夏学期) 生体分子動的解析学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Molecular Biophysics I
授業コード	241086
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生体分子の溶液中および生体膜などにおける立体構造形成と運動性、および他の分子との相互作用による分子認識のしくみと、それを解析するための理論・計算手法について、基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方について指導を行う。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	生体分子の溶液中および生体膜などにおける立体構造形成と運動性、および他の分子との相互作用による分子認識のしくみと、それを解析するための理論・計算手法について、理解することができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。分子シミュレーションの実践による物理化学に基づいた演繹的な生体分子系の理解、生体分子の電子伝達や酵素反応等の機能発現をそれら分子の電子状態から解析する量子化学による理論・計算による研究。
授業外における学習	参考文献を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。

(春～夏学期) 生体分子動的解析学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Molecular Biophysics II
授業コード	241087
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生体分子の溶液中および生体膜などにおける立体構造形成と運動性、および他の分子との相互作用による分子認識のしくみと、それを解析するための理論・計算手法について、基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方について指導を行う。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	生体分子の溶液中および生体膜などにおける立体構造形成と運動性、および他の分子との相互作用による分子認識のしくみと、それを解析するための理論・計算手法について理解することができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。分子シミュレーションの実践による物理化学に基づいた演繹的な生体分子系の理解、生体分子の電子伝達や酵素反応等の機能発現をそれら分子の電子状態から解析する量子化学による理論・計算による研究。
授業外における学習	教科書・教材、および参考書を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。

(春～夏学期) 蛋白質分子化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Protein Chemistry I
授業コード	241106
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	北條 裕信 居室 : 川上 徹 居室 :
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	ペプチド合成の基礎を説明できること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。ライゲーション法に基づく (糖) 蛋白質の合成化学、蛋白質の化学的変換による合成ブロックの調製法、反応場としてのミセルと脂質、膜蛋白質の精製法と確認法、膜蛋白質の構造形成を指向した膜蛋白質・脂質複合体の調製法、膜蛋白質の構造解析法、修飾蛋白質の特異的検出手法の開発と蛋白質の解析
授業外における学習	定期的に雑誌を読み、最新の研究成果に触れておくこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 蛋白質分子化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Protein Chemistry II
授業コード	241107
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	北條 裕信 居室 : 川上 徹 居室 :
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	1. ライゲーションによるタンパク質合成の基礎を説明できること 2. 糖タンパク質合成法の基礎を説明できること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。ライゲーション法に基づく (糖) 蛋白質の合成化学、蛋白質の化学的変換による合成ブロックの調製法、反応場としてのミセルと脂質、膜蛋白質の精製法と確認法、膜蛋白質の構造形成を指向した膜蛋白質・脂質複合体の調製法、膜蛋白質の構造解析法、修飾蛋白質の特異的検出手法の開発と蛋白質の解析
授業外における学習	ライゲーションや糖タンパク質合成に関する最新の論文をサーチすること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 天然物有機化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Natural Product Chemistry I
授業コード	241321
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	深瀬 浩一 居室 : 樺山 一哉 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 天然物化学、有機化学および有機生物化学に関する先端的研究課題の指導を行う。生物活性分子の有機合成、構造決定について基礎から最新の研究を学習する。特に生体内において様々な認識に関与する細胞表層糖鎖や複合糖質を主な対象として、それらの有機合成研究、活性鍵構造の同定と活性発現機構の解明や生体反応の制御を目指した研究について学ぶ。また学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	研究のために、期間を通じて常に学習を継続する。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

(春～夏学期) 天然物有機化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Natural Product Chemistry II
授業コード	241322
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	深瀬 浩一 居室 : 樺山 一哉 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 天然物化学、有機化学および有機生物化学に関する先端的研究課題の指導を行う。生物活性分子の有機合成、構造決定について基礎から最新の研究を学習する。特に生体内において様々な認識に関与する細胞表層糖鎖や複合糖質を主な対象として、それらの有機合成研究、活性鍵構造の同定と活性発現機構の解明や生体反応の制御を目指した研究について学ぶ。また学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	研究のために、期間を通じて常に学習を継続する。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

(春～夏学期) 物性有機化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Physical Organic Chemistry I
授業コード	241092
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	小川 琢治 居室：
質問受付	随時
履修対象	必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	最新の物性有機化学研究の現状を学ぶ。その内容を理解するのに必要な基礎的な文献を学ぶ。
学習目標	最近 1 年間に発行された重要論文を読み、議論をすることで、物性有機化学分野における研究の最先端を知る。それと同時に、基礎的なレビューとそこに出てくる論文を読み、最新の研究を理解するための基礎知識を得る。
履修条件	
特記事項	
授業計画	原則、毎週土曜日 10 時から 12 時。開講日数が足りないときには、月曜日の 9 時から 12 時にも行うときがある。
授業外における学習	自分の研究テーマに関わる過去から最新までの論文を検索読解する。自らの研究の進展について報告し、研究室メンバーと議論する。
教科書	
参考文献	各自で探す。
成績評価	セミナーにおいては、発表するか質問するかを義務とする。発言が無い人は、出席していると認めない。成績評価は、発言内容により行うので、発言が無いときには欠席と同じ評価とする。病欠や、やむを終えない事情による欠席は、カウントしない。
コメント	

(春～夏学期) 物性有機化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Physical Organic Chemistry II
授業コード	241093
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	小川 琢治 居室：
質問受付	
履修対象	必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	最新の物性有機化学研究の現状を学ぶ。その内容を理解するのに必要な基礎的な文献を学ぶ。
学習目標	最近1年間に発行された重要論文を読み、議論をすることで、物性有機化学分野における研究の最先端を知る。それと同時に、基礎的なレビューとそこに出てくる論文を読み、最新の研究を理解するための基礎知識を得る。
履修条件	
特記事項	
授業計画	原則、毎週土曜日 10 時から 12 時。開講日数が足りないときには、月曜日の 9 時から 12 時にも行うときがある。
授業外における学習	自分の研究テーマに関わる過去から最新までの論文を検索読解する。自らの研究の進展について報告し、研究室メンバーと議論する。
教科書	
参考文献	各自で探す。
成績評価	セミナーにおいては、発表するか質問するかを義務とする。発言が無い人は、出席していると認めない。成績評価は、発言内容により行うので、発言が無いときには欠席と同じ評価とする。病欠や、やむを終えない事情による欠席は、カウントしない。
コメント	

(春～夏学期) 有機生物化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Organic Biochemistry I
授業コード	241094
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	梶原 康宏 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。
学習目標	最先端の糖質研究、糖鎖科学、タンパク質化学を理解する
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	1:最新糖質化学 1 2:最新糖質化学 2 3:最新糖鎖化学 1 4:最新糖鎖化学 2 5:最新タンパク質化学 1 6:最新タンパク質化学 2 7:最新糖タンパク質化学 1 8:最新糖タンパク質化学 2 9:最新複合糖質化学 1 10:最新複合糖質化学 2 11:タンパク質フォールディング 1 12:タンパク質フォールディング 2 13:翻訳後修飾 1 14:翻訳後修飾 2 15:翻訳後修飾 3
授業外における学習	国際誌を常に読み先端研究の流れを理解する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

(春～夏学期) 有機生物化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Organic Biochemistry II
授業コード	241095
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	梶原 康宏 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。
学習目標	最先端の有機化学、糖質化学、タンパク質化学を理解する
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	1:糖鎖の酵素合成、 2:複合糖質の半化学合成、 3:タンパク質の半合成、 4:糖鎖、タンパク質関連の先端生物有機化学 1 5:糖鎖、タンパク質関連の先端生物有機化学 2 6: 糖鎖、タンパク質関連の先端生物有機化学 3 7:糖鎖、タンパク質関連の先端生物有機化学 4
授業外における学習	国際誌を常によみ先端研究を理解する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

(秋～冬学期) ゲノム化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Genome Chemistry I
授業コード	249489
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	中谷 和彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	ゲノム化学に関わる諸課題について、その背景を知るとともに、その課題の本質を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得する
学習目標	ゲノム化学に関わる諸課題について、その背景を知るとともに、その課題の本質を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得できる
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	全体的に判断する
コメント	

(秋～冬学期) ゲノム化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Genome Chemistry II
授業コード	249490
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	中谷 和彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	ゲノム化学に関わる諸課題について、その背景を知るとともに、その課題の本質を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得する
学習目標	ゲノム化学に関わる諸課題について、その背景を知るとともに、その課題の本質を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得できる
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	全体的に判断する
コメント	

(秋～冬学期) プロテオミクス分析化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar for Analytical Chemistry for Proteomics I
授業コード	249499
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) プロテオミクス分析化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar for Analytical Chemistry for Proteomics II
授業コード	249500
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 機能性分子化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Functional Molecular ChemistryI
授業コード	249493
No.	24CHEM6G205
単位数	4
担当教員	笹井 宏明 居室 : 鈴木 健之 居室 : 滝澤 忍 居室 : 産研 F406 電話 : 8466 Fax : 06-6879-8469 Email : taki@sanken.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	新規性、先進性、独創性のある研究成果を得る。
履修条件	前期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	実験研究
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果とセミナーでのプレゼン
コメント	

(秋～冬学期) 機能性分子化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Functional Molecular Chemistry II
授業コード	249494
No.	24CHEM6G205
単位数	4
担当教員	笹井 宏明 居室 : 鈴木 健之 居室 : 滝澤 忍 居室 : 産研 F406 電話 : 8466 Fax : 06-6879-8469 Email : taki@sanken.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	新規性、先進性、独創性のある研究成果を得る。
履修条件	前期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	実験研究
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果とセミナーでのプレゼン
コメント	

(秋～冬学期) 構造有機化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Structural Organic Chemistry I
授業コード	249481
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	久保 孝史 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	π 電子系有機化合物の合成に関する専門知識と技術が習得できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学術文献と専門書を常日頃から読んでおく
教科書	大学院講義有機化学、東京化学同人 March's Advanced Organic Chemistry: Reactions, Mechanisms, and Structure Modern Physical Organic Chemistry
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果により評価する
コメント	

(秋～冬学期) 構造有機化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Structural Organic Chemistry II
授業コード	249482
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	久保 孝史 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	π 電子系有機化合物の合成に関する専門知識と技術が習得できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学術文献と専門書を常日頃から読んでおく。
教科書	大学院講義有機化学、東京化学同人 March's Advanced Organic Chemistry: Reactions, Mechanisms, and Structure Modern Physical Organic Chemistry
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果により評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生体分子動的解析学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Molecular Biophysics I
授業コード	249477
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生体分子の溶液中および生体膜などにおける立体構造形成と運動性、および他の分子との相互作用による分子認識のしくみと、それを解析するための理論・計算手法について、基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方について指導を行う。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	生体分子の立体構造形成と運動性、および他の分子との相互作用のメカニズムと、それを解析するための理論・計算手法について基礎的な理解を深めることができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。分子シミュレーションの実践による物理化学に基づいた演繹的な生体分子系の理解、生体分子の電子伝達や酵素反応等の機能発現をそれら分子の電子状態から解析する量子化学による理論・計算による研究。
授業外における学習	教科書・教材、参考文献を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。

(秋～冬学期) 生体分子動的解析学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Molecular Biophysics II
授業コード	249478
No.	24CHEM6G200
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生体分子の溶液中および生体膜などにおける立体構造形成と運動性、および他の分子との相互作用による分子認識のしくみと、それを解析するための理論・計算手法について、基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方について指導を行う。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	生体分子の立体構造形成と運動性、および他の分子との相互作用のメカニズムと、それを解析するための理論・計算手法について、基礎的な理解を深めることができる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。分子シミュレーションの実践による物理化学に基づいた演繹的な生体分子系の理解、生体分子の電子伝達や酵素反応等の機能発現をそれら分子の電子状態から解析する量子化学による理論・計算による研究。
授業外における学習	教科書・教材、参考文献を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。

(秋～冬学期) 蛋白質分子化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Protein Chemistry I
授業コード	249497
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	北條 裕信 居室 : 川上 徹 居室 :
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	ペプチド合成の基礎を説明できること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。ライゲーション法に基づく (糖) 蛋白質の合成化学、蛋白質の化学的変換による合成ブロックの調製法、反応場としてのミセルと脂質、膜蛋白質の精製法と確認法、膜蛋白質の構造形成を指向した膜蛋白質・脂質複合体の調製法、膜蛋白質の構造解析法、修飾蛋白質の特異的検出手法の開発と蛋白質の解析
授業外における学習	定期的に雑誌を読み、最新の研究成果に触れておくこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 蛋白質分子化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Protein Chemistry II
授業コード	249498
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	北條 裕信 居室 : 川上 徹 居室 :
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	1. ライゲーションによるタンパク質合成の基礎を説明できること 2. 糖タンパク質合成法の基礎を説明できること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。ライゲーション法に基づく (糖) 蛋白質の合成化学、蛋白質の化学的変換による合成ブロックの調製法、反応場としてのミセルと脂質、膜蛋白質の精製法と確認法、膜蛋白質の構造形成を指向した膜蛋白質・脂質複合体の調製法、膜蛋白質の構造解析法、修飾蛋白質の特異的検出手法の開発と蛋白質の解析
授業外における学習	ライゲーションや糖タンパク質合成に関する最新の論文をサーチすること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 天然物有機化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Natural Product Chemistry I
授業コード	249613
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	深瀬 浩一 居室 : 樺山 一哉 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 天然物化学、有機化学および有機生物化学に関する先端的研究課題の指導を行う。生物活性分子の有機合成、構造決定について基礎から最新の研究を学習する。特に生体内において様々な認識に関与する細胞表層糖鎖や複合糖質を主な対象として、それらの有機合成研究、活性鍵構造の同定と活性発現機構の解明や生体反応の制御を目指した研究について学ぶ。また学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 天然物有機化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Natural Product Chemistry II
授業コード	249614
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	深瀬 浩一 居室 : 樺山 一哉 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した先端的な研究分野の基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文実験および修士論文作成についての指導と助言を行う。
学習目標	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 天然物化学、有機化学および有機生物化学に関する先端的研究課題の指導を行う。生物活性分子の有機合成、構造決定について基礎から最新の研究を学習する。特に生体内において様々な認識に関与する細胞表層糖鎖や複合糖質を主な対象として、それらの有機合成研究、活性鍵構造の同定と活性発現機構の解明や生体反応の制御を目指した研究について学ぶ。また学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	研究のために、期間を通じて常に学習を継続する。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 物性有機化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Physical Organic Chemistry I
授業コード	249483
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	小川 琢治 居室：
質問受付	随時
履修対象	必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	最新の物性有機化学研究の現状を学ぶ。その内容を理解するのに必要な基礎的な文献を学ぶ。
学習目標	自分の研究テーマに関わる過去から最新までの論文を検索読解する。自らの研究の進展について報告し、研究室メンバーと議論する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	原則、毎週土曜日 10 時から 12 時。開講日数が足りないときには、月曜日の 9 時から 12 時にも行うときがある。
授業外における学習	自主的に、自分の研究テーマに関わる論文を検索して、読む。
教科書	
参考文献	各自で探す。
成績評価	セミナーにおいては、発表するか質問するかを義務とする。発言が無い人は、出席していると認めない。成績評価は、発言内容により行うので、発言が無いときには欠席と同じ評価とする。病欠や、やむを終わえない事情による欠席は、カウントしない。
コメント	

(秋～冬学期) 物性有機化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Physical Organic Chemistry II
授業コード	249484
No.	24CHEM6G209
単位数	4
担当教員	小川 琢治 居室：
質問受付	随時
履修対象	必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	最新の物性有機化学研究の現状を学ぶ。その内容を理解するのに必要な基礎的な文献を学ぶ。
学習目標	自分の研究テーマに関わる過去から最新までの論文を検索読解する。自らの研究の進展について報告し、研究室メンバーと議論する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	原則、毎週土曜日 10 時から 12 時。開講日数が足りないときには、月曜日の 9 時から 12 時にも行うときがある。
授業外における学習	自主的に、自分の研究テーマに関わる論文を検索して、読む。
教科書	
参考文献	各自で探す。
成績評価	セミナーにおいては、発表するか質問するかを義務とする。発言が無い人は、出席していると認めない。成績評価は、発言内容により行うので、発言が無いときには欠席と同じ評価とする。病欠や、やむを終わえない事情による欠席は、カウントしない。
コメント	

(秋～冬学期) 有機生物化学半期セミナー I

英語表記	Semestral Seminar in Organic Biochemistry I
授業コード	249485
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	梶原 康宏 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。
学習目標	最先端の糖質研究、糖鎖科学、タンパク質化学を理解する
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	1:最新糖質化学 1 2:最新糖質化学 2 3:最新糖鎖化学 1 4:最新糖鎖化学 2 5:最新タンパク質化学 1 6:最新タンパク質化学 2 7:最新糖タンパク質化学 1 8:最新糖タンパク質化学 2 9:最新複合糖質化学 1 10:最新複合糖質化学 2 11:タンパク質フォールディング 1 12:タンパク質フォールディング 2 13:翻訳後修飾 1 14:翻訳後修飾 2 15:翻訳後修飾 3
授業外における学習	国際誌を常に読み先端研究の流れを理解する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

(秋～冬学期) 有機生物化学半期セミナー II

英語表記	Semestral Seminar in Organic Biochemistry II
授業コード	249486
No.	24CHEM6G216
単位数	4
担当教員	梶原 康宏 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。
学習目標	最先端の糖質研究、糖鎖科学、タンパク質化学を理解する
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	1:最新糖質化学 1 2:最新糖質化学 2 3:最新糖鎖化学 1 4:最新糖鎖化学 2 5:最新タンパク質化学 1 6:最新タンパク質化学 2 7:最新糖タンパク質化学 1 8:最新糖タンパク質化学 2 9:最新複合糖質化学 1 10:最新複合糖質化学 2 11:タンパク質フォールディング 1 12:タンパク質フォールディング 2 13:翻訳後修飾 1 14:翻訳後修飾 2 15:翻訳後修飾 3
授業外における学習	国際誌を常に読み先端研究の流れを理解する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

3.6 化学専攻 B コース後期課程

ゲノム化学特別セミナーI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Genome Chemistry I
授業コード	241540
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	中谷 和彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	ゲノム化学に関わる諸課題を探索、提案するために、背景を知るとともに、その課題の本質的な意味を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得する
学習目標	ゲノム化学に関わる諸課題を探索、提案するために、背景を知るとともに、その課題の本質的な意味を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得できる
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	全体的に判断する
コメント	

ゲノム化学特別セミナーII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Genome Chemistry II
授業コード	241541
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	中谷 和彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	ゲノム化学に関わる諸課題を探索、提案するために、背景を知るとともに、その課題の本質的な意味を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得する
学習目標	ゲノム化学に関わる諸課題を探索、提案するために、背景を知るとともに、その課題の本質的な意味を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得できる
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	全体的に判断する
コメント	

ゲノム化学特別セミナーIII

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Genome Chemistry III
授業コード	241542
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	中谷 和彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	ゲノム化学に関わる諸課題を探索、提案するために、背景を知るとともに、その課題の本質的な意味を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得する
学習目標	ゲノム化学に関わる諸課題を探索、提案するために、背景を知るとともに、その課題の本質的な意味を明らかにするための実験の計画、実施、考察を通して、ゲノム化学に対する知識と技術を獲得できる
履修条件	
特記事項	
授業計画	
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	全体的に判断する
コメント	

プロテオミクス分析化学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Research in Analytical Chemistry for Proteomics I
授業コード	241552
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

プロテオミクス分析化学特別セミナーII

英語表記	Seminar for Advanced Research in Analytical Chemistry for Proteomics II
授業コード	241553
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

プロテオミクス分析化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Research in Analytical Chemistry for Proteomics III
授業コード	241554
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

機能性分子化学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Research in Functional Molecular Chemistry I
授業コード	241546
No.	24CHEM7G205
単位数	9
担当教員	笹井 宏明 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	新規性、先進性、独創性のある研究成果を得て、プレゼンする
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目(特別セミナー)を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	日々の実験研究
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果とプレゼン
コメント	

機能性分子化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Research in Functional Molecular Chemistry II
授業コード	241547
No.	24CHEM7G205
単位数	9
担当教員	笹井 宏明 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	新規性、先進性、独創性のある研究成果を得て、プレゼンする
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	日々の実験研究
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果とプレゼン
コメント	

機能性分子化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Research in Functional Molecular Chemistry III
授業コード	241548
No.	24CHEM7G205
単位数	9
担当教員	笹井 宏明 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	新規性、先進性、独創性のある研究成果を挙げて効果的にプレゼンする。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	日々の実験研究
教科書	
参考文献	
成績評価	研究成果とプレゼン能力に基づいて評価する
コメント	

構造有機化学特別セミナー I

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Organic Chemistry I
授業コード	241525
No.	24CHEM7G209
単位数	9
担当教員	久保 孝史 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	構造有機化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	π 電子系有機化合物の合成に関する高度な専門知識と技術が習得できる。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学術文献と専門書を常日頃から読んでおく。
教科書	大学院講義有機化学、東京化学同人 March's Advanced Organic Chemistry: Reactions, Mechanisms, and Structure Modern Physical Organic Chemistry
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果により評価する。
コメント	

構造有機化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Organic Chemistry II
授業コード	241526
No.	24CHEM7G209
単位数	9
担当教員	久保 孝史 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	構造有機化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	π 電子系有機化合物の合成に関する高度な専門知識と技術が習得できる。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学術文献と専門書を常日頃から読んでおく
教科書	大学院講義有機化学、東京化学同人 March's Advanced Organic Chemistry: Reactions, Mechanisms, and Structure Modern Physical Organic Chemistry
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果により評価する。
コメント	

構造有機化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Organic Chemistry III
授業コード	241527
No.	24CHEM7G209
単位数	9
担当教員	久保 孝史 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	構造有機化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	π 電子系有機化合物の合成に関する高度な専門知識と技術が習得できる。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	学術文献と専門書を常日頃から読んでおく。
教科書	大学院講義有機化学、東京化学同人 March's Advanced Organic Chemistry: Reactions, Mechanisms, and Structure Modern Physical Organic Chemistry
参考文献	
成績評価	研究に対する取り組み、およびその成果により評価する。
コメント	

生体分子化学特別セミナーI

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Molecular Biochemistry I
授業コード	241531
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	村田 道雄 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	生物化学、生物物理学およびそれらの基礎となる有機化学に関連した先端的な研究分野の専門的理解を深め、学位論文作成に役立てる。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目(特別セミナー)を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	日頃より原著論文を読み、自分の実験に行かせるか、結果の解釈に役立つかを考える習慣をつける。
教科書	原著論文を用いるので、教科書等は特に必要としない。
参考文献	
成績評価	セミナーやミーティングの出席と実験報告・文献紹介の評価で総合的に行う。原則的にすべてのセミナーへに出席すること。
コメント	

生体分子化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Molecular Biochemistry II
授業コード	241532
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	村田 道雄 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	生物化学、生物物理学およびそれらの基礎となる有機化学に関連した先端的な研究分野の専門的理解を深め、学位論文作成に役立てる。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	日頃より原著論文を読み、自分の実験に行かせるか、結果の解釈に役立つかを考える習慣を身につける。
教科書	原著論文を用いるので、教科書等は特に必要としない。
参考文献	
成績評価	セミナーやミーティングの出席と実験報告・文献紹介の評価で総合的に行う。原則的にセミナーへは出席すること。
コメント	

生体分子化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Molecular Biochemistry III
授業コード	241533
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	村田 道雄 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	生物化学、生物物理学およびそれらの基礎となる有機化学に関連した先端的な研究分野の専門的理解を深め、学位論文作成に役立てる。
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	日頃より原著論文を読み、自分の実験に行かせるか、結果の解釈に役立つかを考える習慣を身につける。
教科書	原著論文を用いるので、教科書等は特に必要としない。
参考文献	
成績評価	出席点を重視する。セミナーやミーティングの出席と実験報告・文献紹介の評価で総合的に行う。原則的にセミナーへは出席すること。
コメント	

蛋白質分子化学特別セミナー I

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Protein Chemistry I
授業コード	241549
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	北條 裕信 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	タンパク質、糖タンパク質の化学合成ルートをデザインできるようになること タンパク質、糖タンパク質の機能解析の基礎ができること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	随時論文をサーチすること。
教科書	適宜配布する。
参考文献	適宜助言する。
成績評価	実験に対する取り組み、自主的な文献調査、実験報告会でのプレゼン、学会発表、雑誌への投稿意欲、等を総合的に判断する。
コメント	

蛋白質分子化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Protein Chemistry II
授業コード	241550
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	北條 裕信 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	タンパク質、糖タンパク質の化学合成ルートをデザインできるようになること タンパク質、糖タンパク質の機能解析の基礎ができること
履修条件	後期課程における指導教員の担当している科目 (特別セミナー) を履修すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	随時論文をサーチすること。
教科書	適宜配布する。
参考文献	適宜助言する。
成績評価	実験に対する取り組み、自主的な文献調査、実験報告会でのプレゼン、学会発表、雑誌への投稿意欲、等を総合的に判断する。
コメント	

蛋白質分子化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Protein Chemistry III
授業コード	241551
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	北條 裕信 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	有機化学および生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	タンパク質、糖タンパク質の化学合成ルートをデザインできるようになること タンパク質、糖タンパク質の機能解析の基礎ができること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	随時論文をサーチすること。
教科書	適宜配布する。
参考文献	適宜助言する。
成績評価	実験に対する取り組み、自主的な文献調査、実験報告会でのプレゼン、学会発表、雑誌への投稿意欲、等を総合的に判断する。
コメント	

天然物有機化学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Natural Product Chemistry I
授業コード	241537
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	深瀬 浩一 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定するが、代表的な研究例を以下に示す。様々な生物活性分子の中でも、免疫、感染、アレルギー、癌化など生体の防御や恒常性維持などの重要な生命現象に関わる分子を主な対象として、それらの機能や役割を明らかにする研究を行う。特に生体内における様々な認識に関与する細胞表層糖鎖ならびに複合糖質を主な対象として、有機合成化学を主としたアプローチにより、活性鍵構造の同定と活性発現機構の解明や生体反応の制御を目指した研究を展開する。また生体分子の体内における動的挙動を解明するために、新たな標識化法の開発とイメージングへの展開についても研究を行う。 最先端の天然物化学、有機化学、有機生物化学などに加え、関連する生物学、免疫学などについても調査研究を行うとともに、セミナー発表、学会発表、論文作成を通じて、企画力ならびに発表力を養う。
授業外における学習	研究のために、期間を通じて常に学習を継続する。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

天然物有機化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Natural Product Chemistry II
授業コード	241538
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	深瀬 浩一 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野について、研究遂行能力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定するが、代表的な研究例を以下に示す。様々な生物活性分子の中でも、免疫、感染、アレルギー、癌化など生体の防御や恒常性維持などの重要な生命現象に関わる分子を主な対象として、それらの機能や役割を明らかにする研究を行う。特に生体内における様々な認識に関与する細胞表層糖鎖ならびに複合糖質を主な対象として、有機合成化学を主としたアプローチにより、活性鍵構造の同定と活性発現機構の解明や生体反応の制御を目指した研究を展開する。また生体分子の体内における動的挙動を解明するために、新たな標識化法の開発とイメージングへの展開についても研究を行う。 最先端の天然物化学、有機化学、有機生物化学などに加え、関連する生物学、免疫学などについても調査研究を行うとともに、セミナー発表、学会発表、論文作成を通じて、企画力ならびに発表力を養う。
授業外における学習	研究のために、期間を通じて常に学習を継続する。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

天然物有機化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Natural Product Chemistry III
授業コード	241539
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	深瀬 浩一 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定するが、代表的な研究例を以下に示す。様々な生物活性分子の中でも、免疫、感染、アレルギー、癌化など生体の防御や恒常性維持などの重要な生命現象に関わる分子を主な対象として、それらの機能や役割を明らかにする研究を行う。特に生体内における様々な認識に関与する細胞表層糖鎖ならびに複合糖質を主な対象として、有機合成化学を主としたアプローチにより、活性鍵構造の同定と活性発現機構の解明や生体反応の制御を目指した研究を展開する。また生体分子の体内における動的挙動を解明するために、新たな標識化法の開発とイメージングへの展開についても研究を行う。 最先端の天然物化学、有機化学、有機生物化学などに加え、関連する生物学、免疫学などについても調査研究を行うとともに、セミナー発表、学会発表、論文作成を通じて、企画力ならびに発表力を養う。
授業外における学習	研究のために、期間を通じて常に学習を継続する。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

物性有機化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Physical Organic Chemistry II
授業コード	241529
No.	24CHEM7G209
単位数	9
担当教員	小川 琢治 居室：
質問受付	随時
履修対象	必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	研究室内において行われている研究内容について、研究者による発表と議論を行い、研究内容を深めると同時に、知識を深める。
学習目標	自らの研究内容について説明し、最近 1 ヶ月程度の研究の進展について報告する。その結果を研究室全体で議論して、研究内容についての議論を深める。他の学生やスタッフの研究内容についても、質問や議論を行う事で、研究を行う上で必要なロジックや基礎知識を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	原則、毎週水曜日の 9 時から 12 時に行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	成績評価は、出席と発言で行う。病欠や、やむを終えない事情による欠席は、欠席とカウントしない。
コメント	

物性有機化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Physical Organic Chemistry III
授業コード	241530
No.	24CHEM7G209
単位数	9
担当教員	小川 琢治 居室：
質問受付	随時
履修対象	必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	研究室内において行われている研究内容について、研究者による発表と議論を行い、研究内容を深めると同時に、知識を深める。
学習目標	自らの研究内容について説明し、最近1ヶ月程度の研究の進展について報告する。その結果を研究室全体で議論して、研究内容についての議論を深める。他の学生やスタッフの研究内容についても、質問や議論を行う事で、研究を行う上で必要なロジックや基礎知識を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	原則、毎週水曜日の9時から12時に行う。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	成績評価は、出席と発言で行う。病欠や、やむを終わえない事情による欠席は、欠席とカウントしない。
コメント	

有機生物化学特別セミナーⅠ

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Organic Biochemistry I
授業コード	241534
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	梶原 康宏 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。
学習目標	最先端の糖質研究、糖鎖科学、タンパク質化学を理解する
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 配属された研究室において、各自が各々選択した化学に関する最新のテーマについて研究を行う。 第1回:研究テーマの概要説明 第2回:研究に必要な課題の修得 第3回:研究に必要な課題の修得 第4回:研究に必要な課題の修得 第5回:研究に必要な課題の修得 第6回:研究に必要な課題の修得 第7回:研究に必要な課題の修得 第8回:研究に必要な課題の修得 第9回:研究に必要な課題の修得 第10回:研究に必要な課題の修得 第11回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第12回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第13回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第14回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第15回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第16回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第17回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第18回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第19回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第20回:学生が選んだテーマの課題研究の中間報告 第21回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第22回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第23回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第24回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第25回:学生が選んだテーマの課題研究の実施

第3章 化学専攻

- 第26回:学生が選んだテーマの課題研究の実施
第27回:学生が選んだテーマの課題研究の研究報告の作製についての説明
第28回:学生が選んだテーマの課題研究の実施
第29回:学生が選んだテーマの課題研究の口頭発表
第30回:学生が選んだテーマの課題研究のレポート提出と修正

授業外における学習	国際誌を常に読み先端研究の流れを理解する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

有機生物化学特別セミナー II

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Organic Biochemistry II
授業コード	241535
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	梶原 康宏 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。
学習目標	最先端の糖質研究、糖鎖科学、タンパク質化学を理解する
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 配属された研究室において、各自が各々選択した化学に関する最新のテーマについて研究を行う。 第1回:研究テーマの概要説明 第2回:研究に必要な課題の修得 第3回:研究に必要な課題の修得 第4回:研究に必要な課題の修得 第5回:研究に必要な課題の修得 第6回:研究に必要な課題の修得 第7回:研究に必要な課題の修得 第8回:研究に必要な課題の修得 第9回:研究に必要な課題の修得 第10回:研究に必要な課題の修得 第11回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第12回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第13回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第14回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第15回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第16回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第17回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第18回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第19回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第20回:学生が選んだテーマの課題研究の中間報告 第21回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第22回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第23回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第24回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第25回:学生が選んだテーマの課題研究の実施

第3章 化学専攻

- 第26回:学生が選んだテーマの課題研究の実施
第27回:学生が選んだテーマの課題研究の研究報告の作製についての説明
第28回:学生が選んだテーマの課題研究の実施
第29回:学生が選んだテーマの課題研究の口頭発表
第30回:学生が選んだテーマの課題研究のレポート提出と修正

授業外における学習	国際誌を常に読み先端研究の流れを理解する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

有機生物化学特別セミナー III

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Organic Biochemistry III
授業コード	241536
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	梶原 康宏 居室：
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。
学習目標	最先端の糖質研究、糖鎖科学、タンパク質化学を理解する
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 配属された研究室において、各自が各々選択した化学に関する最新のテーマについて研究を行う。 第1回:研究テーマの概要説明 第2回:研究に必要な課題の修得 第3回:研究に必要な課題の修得 第4回:研究に必要な課題の修得 第5回:研究に必要な課題の修得 第6回:研究に必要な課題の修得 第7回:研究に必要な課題の修得 第8回:研究に必要な課題の修得 第9回:研究に必要な課題の修得 第10回:研究に必要な課題の修得 第11回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第12回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第13回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第14回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第15回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第16回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第17回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第18回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第19回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第20回:学生が選んだテーマの課題研究の中間報告 第21回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第22回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第23回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第24回:学生が選んだテーマの課題研究の実施 第25回:学生が選んだテーマの課題研究の実施

第3章 化学専攻

- 第26回:学生が選んだテーマの課題研究の実施
第27回:学生が選んだテーマの課題研究の研究報告の作製についての説明
第28回:学生が選んだテーマの課題研究の実施
第29回:学生が選んだテーマの課題研究の口頭発表
第30回:学生が選んだテーマの課題研究のレポート提出と修正

授業外における学習	国際誌を常に読み先端研究の流れを理解する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

3.7 化学専攻 A・B コース共通 BMC 科目 前期課程 (秋入学者用)

インタラクティブセミナーI(化学専攻)

英語表記	Interactive Seminar I
授業コード	241182
No.	24CHEM6G014
単位数	1
担当教員	化学専攻教務委員 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	近年の科学は、非常に細かい専門分野に細分化され、各分野とも高度化・専門化し、その専門知識を修得するのは容易ではない。そのため、ともすれば細分化された非常に狭い専門分野のみの学習・研究のみに汲々とし、専門分野以外の基本的知識の欠如さらには無関心という問題を引き起こしている。そこで、本セミナーでは、他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の修士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。
学習目標	化学に対する広い視野を身につける
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の修士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。 【授業計画】 他の研究室が主催するセミナーに参加する。
授業外における学習	関連する文献を読む
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、レポート、テストなどにより総合的に評価
コメント	

化学アドバンスト実験

英語表記	Advanced Chemical Experiment
授業コード	241176
No.	24CHEM6G206
単位数	1
担当教員	花島 慎弥 居室 : 高城 大輔 居室 : 平尾 泰一 居室 : 水野 操 居室 : 下山 敦史 居室 : 鈴木 健之 居室 : 深瀬 浩一 居室 : 福田 貴光 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	集中
場所	未定
授業形態	実習科目
目的と概要	化学、高分子科学、生物科学間の境界領域での研究を大学院レベルですすめる際には、専門分野を越えて要求される先端かつ高度な研究法を習得する必要がある。そのような方法を効率良く身につけるため、講義と実習をあわせた集中的な講習を行い、各種実験手法の原理や使い方を学習する。専門以外の分野での実験手法を広く知り、その基本技術を習得し、研究の幅広い展開のために役立てる実践的科目である。
学習目標	各種実験手法について、原理を学習し、基本技術を習得する。
履修条件	講習には種目に応じて定員が決まっているため、希望しても必ずしも全員が受講できるとは限らない。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 以下の講習の中から複数種目を受講する。 1) NMR 分析講習 2) 質量分析講習 3) X 線回折講習 4) ラマン・赤外スペクトル測定講習 5) 熱分析講習 6) 微細構造制御実習 7) 磁化率測定 (SQUID) 講習 8) 電子スピン共鳴 (ESR) 講習
授業外における学習	実習に関連した復習をする。
教科書	講習内容ごとに指示する。
参考文献	
成績評価	講習ごとに評価する。講習修了後に修了証を発行する。
コメント	それぞれの講習の時期、スケジュールについては変則的になるためアナウンス、掲示に注意すること。選択した講習には全時間出席することを単位取得の前提条件とする。

第3章 化学専攻

*豊中キャンパスの学生

4月上旬の説明会に必ず参加すること。

*産研の学生

4月中旬の「新入生のための機器分析講習会」に必ず参加すること。

*蛋白研の学生

藤原研究室で講習を受けること。

インタラクティブセミナーI(化学専攻)(博士前期課程秋入学者用)

英語表記	Interactive Seminar I
授業コード	247033
No.	24CHEM6G014
単位数	1
担当教員	化学専攻教務委員 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 1 年次 選択必修
開講時期	年度跨り
場所	その他
授業形態	
目的と概要	近年の科学は、非常に細かい専門分野に細分化され、各分野とも高度化・専門化し、その専門知識を修得するのは容易ではない。そのため、ともすれば細分化された非常に狭い専門分野のみの学習・研究のみに汲々とし、専門分野以外の基本的知識の欠如さらには無関心という問題を引き起こしている。そこで、本セミナーでは、他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の修士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。
学習目標	化学に対する広い視野を身につける
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の修士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。 【授業計画】 他の研究室が主催するセミナーに参加する。
授業外における学習	関連する文献を読む
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、レポート、テストなどにより総合的に評価
コメント	

インタラクティブセミナーII(化学専攻)(博士前期課程秋入学者用)

英語表記	Interactive Seminar II
授業コード	247034
No.	24CHEM6G014
単位数	1
担当教員	化学専攻教務委員 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 2 年次 選択必修
開講時期	年度跨り
場所	その他
授業形態	
目的と概要	近年の科学は、非常に細かい専門分野に細分化され、各分野とも高度化・専門化し、その専門知識を修得するのは容易ではない。そのため、ともすれば細分化された非常に狭い専門分野のみの学習・研究のみに汲々とし、専門分野以外の基本的知識の欠如さらには無関心という問題を引き起こしている。そこで、本セミナーでは、他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の修士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。
学習目標	化学に対する広い視野を身につける
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 他の研究室が主催するセミナーに参加し、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の修士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受ける。 【授業計画】 他の研究室が主催するセミナーに参加する。
授業外における学習	関連する文献を読む
教科書	
参考文献	
成績評価	出席、レポート、テストなどにより総合的に評価
コメント	

化学アドバンスト実験 (秋入学者用)

英語表記	Advanced Chemical Experiment
授業コード	247050
No.	24CHEM6G206
単位数	1
担当教員	花島 慎弥 居室 : 高城 大輔 居室 : 平尾 泰一 居室 : 水野 操 居室 : 下山 敦史 居室 : 鈴木 健之 居室 : 深瀬 浩一 居室 : 福田 貴光 居室 :
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士前期課程 (秋入学者用) 各学年 選択必修
開講時期	年度跨り
場所	未定
授業形態	実験科目
目的と概要	化学、高分子科学、生物科学間の境界領域での研究を大学院レベルですすめる際には、専門分野を越えて要求される先端的かつ高度な研究法を習得する必要がある。そのような方法を効率良く身につけるため、講義と実習をあわせた集中的な講習を行い、各種実験手法の原理や使い方を学習する。専門以外の分野での実験手法を広く知り、その基本技術を習得し、研究の幅広い展開のために役立てる実践的科目である。
学習目標	各種実験手法について、原理を学習し、基本技術を習得する。
履修条件	BMC インテグレートッド教育プログラムに関係した専攻の博士前期課程。講習には種目に応じて定員が決まっているため、希望しても必ずしも全員が受講できるとは限らない。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 以下の講習の中から複数種目を受講する。 1) NMR 分析講習 2) 質量分析講習 3) X 線回折講習 4) ラマン・赤外スペクトル測定講習 5) 熱分析講習 6) 微細構造制御実習 7) 磁化率測定 (SQUID) 講習 8) 電子スピン共鳴 (ESR) 講習
授業外における学習	実習に関連した復習をする。
教科書	講習内容ごとに指示する。
参考文献	
成績評価	講習ごとに評価する。講習修了後に修了証を発行する。
コメント	それぞれの講習の時期、スケジュールについては変則的になるためアナウンス、掲示に注意すること。選択した講習には全時間出席することを単位取得の前提条件とする。

第3章 化学専攻

※秋入学者用時間割コードです。

3.8 化学専攻 A コース後期課程 (秋入学者用)

核化学特別セミナー AIII(秋入学者用)

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Chemistry AIII
授業コード	247069
No.	24CHEM7G012
単位数	9
担当教員	篠原 厚 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	年度跨り
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	分析化学、無機化学、放射化学および物理化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 各研究室で個別に行う。 各研究室における研究内容は「化学専攻・専攻紹介」を参照されたい。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表により総合的に評価する。
コメント	

生体分子機能構造計測学特別セミナーII(秋入学者用)

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Molecular Biology II
授業コード	247095
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	年度跨り
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をとおして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。これまでに測定ができなかった構造機能情報を得るための実験法開発についても学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	物理化学、構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、テラヘルツ波を利用した NMR の超高感度化とその応用、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

生体分子機能構造計測学特別セミナーIII(秋入学者用)

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Molecular Biology III
授業コード	247096
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	藤原 敏道 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	年度跨り
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をとおして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。これまでに測定ができなかった構造機能情報を得るための実験法開発についても学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	物理化学、構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、テラヘルツ波を利用した NMR の超高感度化とその応用、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

生物物理化学特別セミナー III(秋入学者用)

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Biophysical Chemistry III
授業コード	247105
No.	24CHEM7G200
単位数	9
担当教員	水谷 泰久 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	年度跨り
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物物理化学に関連した先端的な研究分野について基礎的な理解を深め、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
学習目標	生物物理化学化学に関連した分野について、基礎的な研究遂行能力を獲得する。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	生物物理化学に関する先端的研究課題の指導を行う。先端的分光法を用いたタンパク質の機能発現機構解明について基礎から最新の研究を学ぶ。また、学会発表や論文作成など研究成果のまとめ方や発表の方法について学ぶ。
授業外における学習	関連分野に関する文献を読み、生物物理化学に対する理解を深める。
教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

3.9 化学専攻 B コース後期課程 (秋入学者用)

天然物有機化学特別セミナー III(秋入学者用)

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Natural Product Chemistry III
授業コード	247078
No.	24CHEM7G216
単位数	9
担当教員	深瀬 浩一 居室：
質問受付	
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	年度跨り
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者を育成することを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言も行う。
学習目標	天然物化学、有機化学および有機生物化学に関連した分野についての先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力を獲得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的な課題は教員と相談の上決定するが、代表的な研究例を以下に示す。様々な生物活性分子の中でも、免疫、感染、アレルギー、癌化など生体の防御や恒常性維持などの重要な生命現象に関わる分子を主な対象として、それらの機能や役割を明らかにする研究を行う。特に生体内における様々な認識に関与する細胞表層糖鎖ならびに複合糖質を主な対象として、有機合成化学を主としたアプローチにより、活性鍵構造の同定と活性発現機構の解明や生体反応の制御を目指した研究を展開する。また生体分子の体内における動的挙動を解明するために、新たな標識化法の開発とイメージングへの展開についても研究を行う。 最先端の天然物化学、有機化学、有機生物化学などに加え、関連する生物学、免疫学などについても調査研究を行うとともに、セミナー発表、学会発表、論文作成を通じて、企画力ならびに発表力を養う。
授業外における学習	研究のために、期間を通じて常に学習を継続する。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究、セミナー発表、学会発表、作成した論文内容により総合評価する。
コメント	

第4章 生物学専攻

第 4 章 生物科学専攻

4.1 生物科学専攻 前期課程

(春～夏学期)1 分子生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Single Molecule Biology
授業コード	241433
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	上田 昌宏 居室 : 宮永 之寛 居室 :
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	細胞や多細胞体が環境変化に対して応答・適応する際の細胞内シグナル伝達や遺伝子の発現調節に関する基礎知識ならびに実験技術、理論的な考え方について講義を行なう。また、学生各自の携わる研究課題に関連して、その研究領域の学問的歴史・背景について学生各自が調査、レビューを行なうことで基礎的な知識を習得する。
学習目標	主に扱う研究領域としては、細胞内シグナル伝達、細胞内自己組織化、細胞運動、細胞極性、多細胞体形成、遺伝子発現調節、先端的光学顕微鏡による細胞動態計測、細胞動態の理論と計算機シミュレーション、などが挙げられる。これらの研究領域に関連した基礎知識の講義、及び、学生各自の携わる研究課題に関連した専門書の講読や古典的論文の紹介、他の研究者との質疑応答・討論、プレゼンテーションの訓練などを行なう。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第 1 回 オリエンテーション (担当:上田昌宏): 授業の概要ならびに文献紹介・発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第 2 回 研究領域の講義 1 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 神経細胞の興奮現象と筋収縮の研究から 1 分子動態の研究へ至る研究の歴史 (1 分子生物学の誕生) について講義する。 第 3 回 研究領域の講義 2 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 1 分子計測技術 (イメージング、ナノ操作、力計測、電流計測) と生体分子への適用について講義をする。 第 4 回 研究領域の講義 3 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 細胞内 1 分子計測技術 (主にイメージング) と 1 分子統計解析法について講義をする。 第 5 回 研究領域の講義 4 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 分子反応ネットワークの時空間動態の定量解析法、分子反応ネットワークの自己組織化やパターン形成、機能発現について講義をする。 第 6 回 研究領域の講義 5 (担当:上田昌宏、宮永之寛):

第4章 生物科学専攻

細胞および多細胞体の時空間動態の定量解析法、細胞行動のゆらぎと柔軟な環境適応について講義をする。

第7回～第14回 研究課題に関連した歴史的文献の調査と紹介 (担当:上田昌宏、宮永之寛):
教員の指導のもと、各自の研究課題を決定し、関連した歴史的文献の調査を行なう。各自の研究課題に関連して習得すべき基礎知識や実験技術・理論などの研究方法を整理する。文献の内容と意義に関する発表・討論を通して他の研究者からの批判・批評を十分に受けることにより、学生各自が習得すべき知識、研究技術、解析方法などの理解を深める。

第15回 最終回 (担当:上田昌宏、宮永之寛):
最終発表および各教員による講評。

授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	特に定めない。学術雑誌に掲載された重要文献を適宜紹介する。
参考文献	「Physical Biology of the Cell」(Garland Science 出版)を主読本とし、各学生に応じて適宜適切な参考書・参考資料を紹介する。
成績評価	セミナーへの出席(20%)の他、発表内容(20%)、討論時の積極性(20%)などを勘案し、研究課題に対する取り組み姿勢(20%)、研究成果(20%)により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) オルガネラバイオロジー半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Organelle Biology
授業コード	241716
No.	24BISC5K104
単位数	4
担当教員	中井 正人 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	真核細胞を対象として、細胞内小器官を含めて細胞を構成する様々な部品の働きや生合成機構を、原子レベルの構造から反応機構、代謝機能、個体における生理作用、さらにはそれらの進化的変遷や、それらの知見を利用した応用研究など、幅広い視点で理解する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	細胞の成り立ちを分子レベルから個体レベルまで様々な視点で捉えるために必要な基礎知識を習得するとともに、問題提起や作業仮説の設定とその解決能力、および科学討論力を養う事を目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 真核細胞構築の基本概念、光化学系と呼吸鎖蛋白質超分子複合体、オルガネラ形成と維持に関わる分子装置、細胞の様々な代謝機能および生理機能、オルガネラ蛋白質の細胞内輸送、蛋白質の膜透過、オルガネラと核のクロストーク、植物のゲノム研究、植物機能の改変・開発
授業外における学習	学習目標を達成するため、各授業に先立って、関連分野の文献を読むなどして、予備知識の習得を各自が行う。また、授業後に、さらに関連分野の論文等を深く読む事により発展的学習を進める。また、得られた知識を応用や利用に繋げていく可能性についても、自ら考え、担当教員と議論する。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 核機能学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Nuclear Functions
授業コード	241282
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	久保田 弓子 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	ゲノム情報の伝達と発現制御機構を解明する上で最も重要な課題である核の構造と機能について基本的な理解を深め、また最先端の研究成果を理解する能力を修得することを目的とする。関連の基礎的な知識および実験技術の習得にも努める。実験を自ら企画・実施して、その成果を取りまとめる能力を育てる。
学習目標	専門書や最新論文の読解および批判的論評ができるようになる。 研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションなど、一連の研究活動が出来るようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 クロマチン構造、ヌクレオソームからクロマチン繊維、染色体の構築、染色体構造の変化、核と細胞質の相互作用、クロマチン形成、核内の過程、クロマチンとトランス因子の作用、クロマチン構造とプロセッシング酵素の相互作用など
授業外における学習	研究課題、論文発表の準備を行う
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。 研究課題に対する取り組み 50% 研究成果や各種発表への取り組み 50%
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識と統合することで、どのような考察が可能であるかを自ら考える、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 感覚生理学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Sensory Physiology
授業コード	241289
No.	24BISC5K112
単位数	4
担当教員	橘木 修志 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生物は外界からの刺激を情報とし、種々の生物的活動を営んでいる。外界からの刺激には、光 (視覚)、ニオイ (嗅覚)、味 (味覚)、音 (聴覚) などがある。本セミナーでは、特に脊椎動物の視覚をはじめとする各種感覚について、刺激受容機構と情報処理機構やそれらの仕組みを学ぶとともに、感覚ごとに備わる仕組みの共通性と違いについて理解する。また、これらに関連する基礎的な知識および実験技術の理解・修得にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。 この目的のために、当該分野や関連分野の最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、を行わせる。また、自身の研究結果の取りまとめと発表に関する指導、修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	特に脊椎動物の視覚をはじめとする各種感覚について、刺激受容機構と情報処理機構やそれらの仕組みについて説明できる。脊椎動物の視覚についての実験を自らデザイン、実施できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 脊椎動物視細胞における光応答の発生機構、停止機構、光感度決定機構、時間分解能決定機構、順応機構、シナプス伝達様式決定機構、ビタミン A の代謝機構。
授業外における学習	演習で示す参考文献・教材について、予習・復習を十分に行うこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加を強く求める。論文を購読する場合には、書かれていることを自身で理解するだけでなく、理解したことをどのように聞き手に伝えれば理解を得られるか考えることを強く求める。また、要領よく伝えるにはどうすべきかも考えて欲しい。実験する場合には、目的をはっきりと設定し、明快な筋立てで実験をデザインすることを希望する。このような習慣をつけることで、問題の設定、解決する能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 機能・発現プロテオミクス学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Profiling and Functional Proteomics
授業コード	241293
No.	24BISC5K117
単位数	4
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	蛋白質・遺伝子データベースを利用して生体内の総発現蛋白質を網羅的に解析するプロテオミクス研究を行うための蛋白質分析化学を学び、それを様々な細胞や生体から得られる微量試料に応用し、新しい蛋白質機能や構造を探索する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 1. 蛋白質一次構造解析のための質量分析法や化学的手法 2. 蛋白質翻訳後修飾(糖鎖、脂質、リン酸化など)の構造解析 3. 尿などの生体試料のプロテオミクス 4. 質量分析におけるペプチド、糖鎖のフラグメンテーション 上記研究課題の中で、各種質量分析法、各種微量クロマトグラフィー、ゲル電気泳動、微量試料調製法、蛋白質および糖鎖の質量分析、蛋白質アミノ酸配列決定法、蛋白質翻訳後修飾の検出および解析法、安定同位体ラベル化法、データ解析およびデータベース構築法等の基礎を修得する。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 極限生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Extreme Ecobiophysics
授業コード	241306
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	久富 修 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	生物はその誕生から現在に至るまで、光と大きな関わりを持ってきた。本セミナーでは、光をキーワードとして、オプトジェネティック (光遺伝学) ツールや生体物質の光制御法の開発などを行うとともに、生体情報の受容と伝達の機構や、生物の環境への適応を解明することを目的とする。また、研究活動を通じ、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。また、修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	タンパク質の取り扱いを習得し、機能メカニズムを解明するための様々な手法を使いこなすことができる。新しい遺伝子やタンパク質を設計することができるようになる。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 オプトジェネティックツールの開発、遺伝子の転写や酵素活性の光制御、光を用いた転写因子の機能解析や、新規生体ナノマシンの作成、光情報の受容・伝達および光エネルギー変換の分子機構、環境への適応など。
授業外における学習	指示されたことを遂行するだけの実習にならないよう、授業外の時間も利用して、自らの意欲で研究を進めること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に取り組む姿勢、各種発表、および研究成果により総合的に評価する。
コメント	研究にあたっては、本人の主体性が強く求められる。また、文献に書かれていることを単なる知識としてだけではなく、自分の中で咀嚼して有機的なつながりを持つ理解に変えてほしい。議論では積極的に参加するのはもちろんのこと、周囲の考えを理解し、自身の研究を発展させる方向に舵取りしていく力を培ってほしい。

(春～夏学期) 系統進化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Evolutionary Biology
授業コード	241283
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	古屋 秀隆 居室： 伊藤 一男 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生物および生命現象には普遍性と多様性という二面的な特性がある。このセミナーでは、動物を対象としてこの二面性をふまえ、その多様な体制の発達を、個体発生と系統発生の両面から理解することを目指す。専門書や最新論文の読解、教員や研究室メンバーとの討論などを通じて、実験を立案、遂行し、また結果をまとめる能力の涵養につとめる。
学習目標	教員や研究室メンバーとの討論などを通じて、個体発生と系統発生の関係を熟知し、実験を立案、遂行し、また結果をまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 以下のようなトピックに関して課題を設定する。 1 中生動物の分類 2 中生動物の生態 3 中生動物の発生 4 中生動物の微細構造 5 中生動物の分子系統 6 中生動物の生物地理 7 頭足類の分類 8 頭足類の分子系統 9 頭足類の微細構造 10 頭足類の生物地理 11 頭足類と中生動物との共進化 12 腹毛動物の分類 13 腹毛動物の生態 14 腹毛動物の発生 15 腹毛動物の微細構造
授業外における学習	授業計画に即した論文や専門書を事前に熟読しておくこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	セミナーに対する取り組み姿勢、質問、議論への参加を考慮し、総合的に評価する。各評価の割合は、セミナーに対する取り組み姿勢 60%、質問 20%、議論への参加 20%とする。

コメント	論文の読み方、研究の進め方、まとめ方、発表の仕方等を習得するのみならず、常に自然そのもの、動物そのものに対する関心を培ってほしい。
------	---

(春～夏学期) 光合成反応学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Molecular Mechanism of Photosynthesis
授業コード	241652
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	大岡 宏造 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	光合成反応の分子機構についての構造的基盤に関する理解を深めることを主な目的とする。これらに関連する分光学的方法、および生化学・分子生物学的方法をも理解する。
学習目標	光合成反応の分子機構について最新の研究状況を把握し、自身の研究成果を論理的に報告できる。
履修条件	
特記事項	光合成によるエネルギー変換機構、および光合成色素の合成に関与する蛋白質をとりあげ、それらの分子生物学・生化学・分光学的手による機能解析および構造生物学的解析を扱う。また人工光合成の基盤を構築するために、生物学的水素生産を担う酵素反応の諸性質の解析にも取り組む。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 研究テーマ紹介 3. 論文紹介 4. 研究報告 5. ディスカッション
授業外における学習	学生は研究報告のための ppt ファイルを作成することが求められる。また参考文献を精読し、研究背景を理解すること。
教科書	特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。
成績評価	プレゼンテーションや討論などにより総合的に評価する
コメント	本セミナーの参加には能動的姿勢が求められる。論文を講読することを通じて、生物科学の背景や動向も理解する。またプレゼンテーションを通じて、多様な見方、問題点の捉え方やその解決方法を考察する能力を養う。

(春～夏学期) 構造分子生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Structural Molecular Biology
授業コード	241312
No.	24BISC5K116
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室 : 松木 陽 居室 : 担当未定 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をととして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 高次脳機能学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Advanced Brain Functions
授業コード	241738
No.	24BISC5K000
単位数	4
担当教員	疋田 貴俊 居室：
質問受付	随時。
履修対象	生物科学専攻博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	高次脳機能学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学に関わる広範な分野の大きな発見を報告した重要な論文を精読し、その研究領域のバックグラウンドの知識を習得するとともに、討論を通じて論文を「建設的に批判的に」読む力を養う。
学習目標	学生はこの授業を通じて高次脳機能学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学などの分野における基礎知識を身に付けることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 前もって与えられた論文を詳細に読み、授業で各指導教員の指導のもと発表・討論を行う。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション (担当:疋田) 各自担当の論文などの案内を行うほか、論文の読み方やプレゼンテーション方法について講義をする。 第2回以降 (担当:疋田、山口) 各自に割り当てられた論文について、担当教員の指導のもと、論文内容について発表と討論を行う。各1時間半の授業を毎週1回行う。
授業外における学習	学生は指定された教科書や総説を読む。
教科書	特に定めない。随時文献を紹介する。
参考文献	
成績評価	出席点のほか、発表内容、討論時の積極性などを勘案する。
コメント	

(春～夏学期) 細胞システム学半期セミナー

英語表記	Seminar for systems biology of the cells
授業コード	241694
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	岡田 眞里子 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	近年のゲノム科学の進展により、生物の設計図である遺伝子のほとんどすべてを同定・計測できるようになり、これらの遺伝子間のつながりをシステムとして捉え、理解しようとするシステム生物学が発展してきました。 システム生物学には大まかに分けて、2つの大きなアプローチがあります。ひとつは、遺伝子、産物である蛋白質あるいは代謝物を「網羅的」に計測し、その発現、修飾、相互作用、局在の関係から、細胞や組織の状態との関連性を大局的に明らかにしようとするものです(オミックスあるいはトップダウン型システム生物研究)。もうひとつは、生物の機能と関連することが知られる比較的少数の遺伝子や蛋白質の相互作用や制御関係の時間変化から、細胞情報の入力と出力との関係を明らかにし、「定量的」「動的」に、生物を理解しようとするものです(ボトムアップ型システム生物研究)。この2つのアプローチは、現存する生物が時間をかけて進化してきたその生き残り戦略や、またそれが破綻した状態である疾病のメカニズムを理解する方法としても利用することもできます。この2つのアプローチでは、実験解析とともにコンピュータ解析も用います。 本セミナーでは、がんや免疫などのヒトの疾患に深く関与するシグナル伝達系や転写制御を対象として、これら2つのアプローチを用いた細胞システム学研究の基礎を学びます。
学習目標	1. 代表的な研究事例の文献調査や討論により、システム生物学における基本的な考え方や解析手法を学ぶ 2. モデリング、バイオインフォマティクス、公共データベースなどを利用した研究に必要なコンピュータ解析の基礎と応用を学ぶ 3. 遺伝子発現データなどの網羅的データの解読法の基礎と応用を学ぶ 4. モデリングや遺伝子発現データを利用した細胞機能解析の基礎と応用を学ぶ 5. 基礎から応用まで、細胞のシステム学の手法全般を学ぶ
履修条件	細胞生物学や生化学の基礎を学んでいること コンピュータ計算に興味をもっていること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 1. 代表的な研究事例の文献紹介 2. モデリング、バイオインフォマティクス、公共データベースなどの使い方 3. 遺伝子発現データなどの網羅的データの解析基礎 4. モデリングや遺伝子発現データを利用した細胞機能解析の基礎 5. 細胞のシステム学手法の俯瞰
授業外における学習	教科書・教材にあげた参考書、配布資料にあげる参考文献について自主学習

教科書	適宜、指定します。
参考文献	1. 細胞のシステム生物学. 江口至洋 (共立出版) 2. システム生物学入門-生物回路の設計原理-. Uri Alon 著 倉田博之・宮野悟訳 (共立出版) 3. Molecular Biology of the Cell. 5th edition. 第7章、15章、Alberts, Johnson, Lewis, Raff, Roberts & Walter 著 (Garland Science) など、アマゾン等から購入可能です。 その他、以下のレクチャー (英語) など。 Uri Alon' s Systems Biology Lecture-YouTube. http://www.youtube.com/watch?v=Z__BHVFPOLk 適宜、システム生物学の有意義な総説論文 (英語) をお知らせします。
成績評価	出席・レポート・試験・口頭発表などにより総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 細胞核ネットワーク学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Networks in Cell Nucleus
授業コード	241555
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	加納 純子 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	真核生物の生命維持に必要な様々な細胞核内シグナル伝達ネットワークについて解析する。具体的には、様々な実験技術の習得、実験デザインの訓練、研究室内外の他の研究者とのディスカッション、学会発表などを通じて、研究能力の向上を目指す。さらに、関連分野の最新学術論文を読み、それを研究室内で発表、議論することによって、様々な基礎知識を習得する。
学習目標	実験、論文購読、ディスカッションを通して、分子生物学、分子遺伝学、生化学、細胞生物学などの基本技術、および研究の基本理念が習得できる。さらに、学会発表、学術論文をまとめる能力を習得することができる。
履修条件	研究活動への積極的な参加が強く求められる。指示されるのを待つだけでなく、自分で問題点を探し、自ら研究レベルを向上させる能力を習得してほしい。教員や他の研究者との積極的なディスカッションも望まれる。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 学生個人の研究課題は、教員と相談の上、決定する。具体的には、分子生物学、細胞生物学、生化学的手法を用いて、以下の研究内容に関連したテーマに取り組む。 1) 染色体末端に存在する構造体であるテロメア/サブテロメアの機能解析。特に、テロメア/サブテロメアに結合しているタンパク質群の様々な制御機構やテロメア/サブテロメアタンパク質による染色体機能ネットワークの分子基盤の解明。 2) 放射線や紫外線などによって染色体 DNA が損傷した時や、様々な細胞外環境の変化が起こった時などのシグナル伝達に関与するタンパク質群の機能解析。さらに、それらが形成するタンパク質ネットワークの分子基盤の解明。 以上のテーマの順序で講義を進める。ただし、これは予定であり、変更することがある。 【授業計画】 各自の研究テーマを決定し、各指導教員の指導のもと、文献講読・研究・発表・討論などを行う。具体的には、次の内容を適宜進めることで授業を完了する。 1. 研究テーマ (研究計画) の決定。 2. 関連する文献の講読 (専門書や最新論文の読解および批評含む)。 3. 関連する基礎的知識の解説や最新知識の紹介を研究室内で行う。 4. 基本的実験技術や解析手法を習得する。 5. 研究テーマに沿った実験等を実施する。 6. 引き続き、研究テーマに沿った実験等を実施する。 7. 研究成果について研究室内で発表し、議論する。

第4章 生物科学専攻

8. 引き続き、研究テーマに沿った実験等を実施する。適宜、研究テーマに関連する文献の紹介を行う。
9. 学会に参加し、研究成果を発表、または最新情報を得て研究室外の研究者と議論する。
10. 学会で得られた情報、助言を参考にして、研究テーマを推進する。
11. 引き続き、研究テーマに沿った実験を実施する。
12. 研究成果を修士論文研究としてまとめる。
13. まとめた修士論文研究を研究室内で議論し、修正する。
14. 修士論文研究発表を準備し、研究室内で議論する。
15. 修士論文研究発表

授業外における学習	
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究に対する取り組み方によって評価する。
コメント	

(春～夏学期) 細胞機能構造学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Cell Structure and Function
授業コード	241313
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	平岡 泰 居室 : 原口 徳子 居室 : 近重 裕次 居室 :
質問受付	連絡先:078-969-2241 連絡時間:随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	細胞の構造と機能に関して高度な知識と、それを解明するための細胞生物学的な方法論について履修することを目的とする。 最新の論文の読解と批判的論評、実験デザインや研究成果に関する発表と議論、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	最新の論文の読解と批判的論評、実験デザインや研究成果に関する発表と議論、プレゼンテーションの訓練など通じて、学生は、細胞の構造と機能に関して高度な知識と、それを解明するための細胞生物学的な方法論について学ぶことができる。
履修条件	細胞生物学の基本的な講義を履修していることが望ましい
特記事項	必要に応じて指定する
授業計画	【講義内容】 細胞構造解析のための方法論、蛍光顕微鏡の原理、蛍光顕微鏡を用いた細胞構造解析、細胞核構造と機能 (高等生物および下等真核下等)、核細胞質間分子輸送、核膜タンパク質と機能、染色体の構造と機能、減数分裂における染色体構造と機能、染色体構造の制御。 【授業計画】 適宜行う
授業外における学習	直面するテーマや問題について、関連する専門用語や基本的知識を教科書等により確認しておくこと。
教科書	適宜、論文などを用いる
参考文献	Molecular Biology of the Cell
成績評価	発表や討論を通して総合的に評価する
コメント	必要に応じて指定する

(春～夏学期) 細胞生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Cell Biology
授業コード	241434
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	松野 健治 居室 : 山川 智子 居室 : 稲木 美紀子 居室 :
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物の発生過程において細胞がはたしている機能について、遺伝子レベルで解明するための考え方や方法を理解することを目標とする。
学習目標	発生学、細胞生物学の最新の知見を自ら調べて理解できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 動物発生を細胞レベルで理解するための研究で最新のトピックスを紹介し、内容に関する討論を行うことで理解を深める。 【授業計画】 第1回 ショウジョウバエの卵でのパターン形成 (担当:松野健治) 第2回 ショウジョウバエの胚でのパターン形成とモルフォゲン (担当:松野健治) 第3回 ショウジョウバエの神経形成 (担当:松野健治) 第4回 ショウジョウバエの原腸陥入と上皮細胞の再編成 (担当:松野健治) 第5回 上皮細胞での細胞極性形成とその機能 (担当:松野健治) 第6回 細胞接着と発生 (担当:松野健治) 第7回 細胞骨格と発生 (担当:松野健治) 第8回 細胞と力学 (担当:松野健治)
授業外における学習	文献を読んでおく。
教科書	文献をテキストとして用いる。
参考文献	随時文献を用いる。
成績評価	出席点、発表の内容、討論への参加の様子によって評価する。
コメント	

(春～夏学期) 情報伝達機構学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Signal Transduction
授業コード	241303
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	岡田 雅人 居室 : 梶原 健太郎 居室 : 名田 茂之 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	動物細胞における細胞外情報の受容機構および情報受容から細胞応答に至る細胞内シグナル伝達機構を個体、細胞、分子レベルで解析し、それらの動物個体の構築、維持、活動における役割を理解する。特に、動物固有の生化学反応である蛋白質チロシンリン酸化のシグナル伝達における本質的な意義、およびその異常による「がん化」のメカニズムを理解する。一方で、関連する基礎的な知識および実験技術の習得をサポートし、研究を自らデザインし得られた成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインおよび成果に関する議論、研究者間の交流、論文作成やプレゼンテーションの訓練を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。細胞接着・運動の制御における蛋白質チロシンリン酸化の役割、上皮系細胞の増殖・分化制御とチロシンキナーゼシグナル、チロシンキナーゼシグナルの破綻による細胞がん化機構、原始的な多細胞動物におけるチロシンキナーゼシグナルの役割解析、チロシンキナーゼシグナルの構造生物学的解析。
授業外における学習	
教科書	Alberts B. 他:Molecular Biology of the Cell, Darnell J. 他:Molecular Cell Biology. Weinberg RA: The Biology of Cancer.
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究成果とその取りまとめ方、各種発表への取り組み方などにより総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。当初の課題についてその関連知識や研究デザインを十分咀嚼して批判的な姿勢で取り組んで欲しい。実験の意義を十分理解した上でその手技手法を積極的に習得する姿勢が重要である。また、得られた結果を慎重に評価し新たな問題点を見逃さない目を養ってほしい。得意な手法や好きな実験系にいち早く巡り会え、成果を取りまとめる喜びが感じられるような研究活動を期待したい。

(春～夏学期) 植物細胞生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Plant Cell Biology
授業コード	241284
No.	24BISC5K104
単位数	4
担当教員	高木 慎吾 居室： 浅田 哲弘 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	植物の環境応答や成長現象の仕組み (how)、生理学的意義 (why) について、特に細胞レベルにおける過程に注目し、自立して研究テーマの設定および遂行をできるようにする。教員の指導のもと、関連文献の輪読、研究進捗状況の報告、討論、成果のプレゼンテーション、論文執筆などに取り組む。
学習目標	植物細胞生物学に関する基礎的な知識、先行研究の内容、研究を進めるための方法論などについてディスカッションを通して修得し、修士論文の完成を目指す。
履修条件	特になし。
特記事項	履修生が取り組む研究テーマは全て、中学校および高等学校の専修免許状教科「理科」の科目区分「生物学」に関わるものであり、文献講読、研究方法に関する高度な知識と技能を修得できる。
授業計画	以下の内容から構成される (状況により順序の変更がある)。 第1回:オリエンテーション 「生物学」における植物細胞生物学の位置づけを解説し、文献調査の方法、発表資料の作成法、プレゼンテーションの方法などについて講義する。 第2～7回:関連論文の紹介 植物細胞生物学分野の重要な文献の内容を履修生が紹介し、問題の提示法、研究材料の選択、研究手法の開発、実験結果の解釈などについて討論する。適宜、関連する基礎的知識の解説や最新知見の紹介を行なう。 第8～13回:研究進捗状況の報告 各履修生が取り組んでいる研究テーマについて、研究計画の進捗状況を報告し、研究材料、研究手法についての検討、実験結果の解釈、テーマの展開方向などを詳細に討論する。 第14～15回:総合討論、論文執筆 研究成果のプレゼンテーションを行なう。学会発表、研究科内中間発表の予行などを含む。必要に応じて、論文の添削指導を受ける。
授業外における学習	必要に応じて授業中に指示。
教科書	特になし。発表資料は履修生が準備する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	課題への取り組みの態度、議論の姿勢、発表に対する努力などを総合的に評価する。
コメント	「自分で考える」ためには何が必要か、常に意識して臨んでほしい。

(春～夏学期) 植物生長生理学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Plant Growth and Development
授業コード	241280
No.	24BISC5K104
単位数	4
担当教員	柿本 辰男 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	形態形成、環境応答、植物ホルモンの代謝や植物ホルモン応答、細胞内構造や機能の一般性と多様性を理解し、これらに関わる問題を、分子生物学、遺伝学、細胞生物学的に深く理解することを目的とする。そのために、分子生物学、遺伝学、細胞生物学等の一般のおよび最新の知識の修得にも務める。セミナーにおいては、学生がテーマを決めて論文や専門書を読解し、内容の発表と議論を行う。また、自身の研究結果の発表と議論を行う。また、自立した研究者として自覚をもって研究出来るようにする。
学習目標	専門分野については専門家のレベルで理解し、議論できる。自ら有効な研究アイデアを考え、新知見を得る事ができる様になる。信頼性の高い研究を行う事ができる様になる。論理的な研究論文を書くことが出来る様になる。
履修条件	よく考え、真剣に取り組むこと。自分の意見を持つこと。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主に扱う内容は、植物の形態形成、環境応答、植物ホルモンの代謝や植物ホルモン応答、細胞内機能に関するものであるが、重要な内容であればこれらに限定されることはない。セミナーにおいては、毎回、学生が自主的に、あるいは教員と相談の上決定する。また、自身の研究目的、進捗、計画についての発表も行い、議論する。また、毎日の研究においては、大学院生は、研究室のメンバーと積極的にかかわり、議論し、研究を進める。
授業外における学習	研究について常に深く考えること。関連論文を熟読することは必須である。
教科書	指定しない。
参考文献	植物の形を決める分子機構、岡田清孝ら監修、1999(秀潤社) 朝倉植物生理学講座シリーズ全5巻 Plant Physiology, Taiz and Zeiger eds. 2002 Sinauer 社 植物ホルモンの分子細胞生物学 2006年 講談社サイエンティフィック 植物のシグナル伝達 共立出版柿本ら ed. 2010年
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、テーマや発表論文の理解の深さ、セミナーにおいては積極的に議論に参加しているかなどにより総合的に評価する。研究室セミナーは基本的にすべて参加すること。研究活動は、朝10時から夕方6時はコアタイムとし、授業休業期間も含む全ての平日の7割は研究に専念する事。

コメント	論文セミナーでの発表論文に関しては、徹底的に深く読むことが求められる。また、セミナー参加学生による活発な議論も求められる。さらにこれらの活動を通じて新しい問題点を見だし、自身による新しい発見につなげて欲しい。日常の研究では、研究者としての誇りをもって自分の意見を持つとともに、多くの人とコミュニケーションをとり、柔軟に考える事が重要である。
------	--

(春～夏学期) 神経可塑性生理学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Synaptic Plasticity
授業コード	241288
No.	24BISC5K112
単位数	4
担当教員	富永 恵子 居室： 生命機能研究科 細胞棟 Email： tomyk[at]fbs.
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	哺乳類の脳機能に関する研究課題に取り組む。また、神経生理学、神経生化学、細胞構造、細胞運動、遺伝子発現、細胞分化、細胞間相互作用、個体行動、疾病などの神経科学の文献を読み、古典から最新までの幅広い知識を習得するとともに、それらの実験結果を生み出した観測・測定技術について学び、各自の研究に活用する。学会での発表、論文での発表にも積極的に取り組ませ、批判を受けとめる能力とそれを次の研究に生かす能力とを涵養する。
学習目標	研究の遂行に必要な一連の基本的作業を習得する。その中には、文献調査、研究計画の立案、研究の実施、結果の整理、成果の発表、などが含まれる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 哺乳類の脳を研究対象とし、体内時計機構、幼若期環境と脳発達、脳の可塑性などの中から、受講生の資質と興味、当該分野の世界的状況、研究室で利用可能な技術を勘案して、教員と相談の上で研究課題を選定する。これら諸領域の古典から最新までの文献について紹介し、原著講読・質疑応答・討論を通じて理解の深化を図る。また、各自の研究課題に関して進捗状況を定期的に紹介し、相互批判を通じて多様な観点を養成する。 【授業計画】 講義は研究室セミナーで行う。 研究指導は随時
授業外における学習	自身の研究課題に直結する知識・技術だけではなく、より幅広い知識・技術を貪欲に吸収するよう心がける。
教科書	適宜紹介する。
参考文献	資料は適宜配布する。
成績評価	研究室での発表に関しては、自分の発表と他受講生の発表に対する質疑応答の様子をあわせて判定する。学会発表・論文発表に関しては、自己主張する能力と他者から批評を受ける能力とをバランスよく持てたかどうかを評価する。研究に関しては、実験に取り組む姿勢、自分がえた結果に対する客観的判断、他研究者がえた結果との比較対照、理論化などを総合したトータルな研究活動を評価する。
コメント	

(春～夏学期) 生体高分子溶液学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Biomacromolecular Solutions
授業コード	241415
No.	24BISC5K118
単位数	4
担当教員	佐藤 尚弘 居室： 寺尾 憲 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などを行う。具体的課題は、教員と相談の上で決定する。修士論文の作成に際しての指導と助言も行う。主として扱うトピックは以下のようなものである。疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合などによって溶液中で形成された生体高分子およびその集合体の構造とその形成機構、高分子集合体間や高分子集合体と低分子・高分子間の相互作用、生体高分子の溶液物性、生体高分子の構造と相互作用のキャラクタリゼーション方法論(光・小角 X 線散乱法、蛍光法、円二色性測定、超遠心法、サイズ排除クロマトグラフィー、核磁気共鳴法、赤外吸収法等)。
学習目標	溶液中での生体高分子およびその集合体の構造、溶液物性、集合体構造と相互作用のキャラクタリゼーション方法論等について、基本から理解することを目的とする。関連する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育て、修士論文の作成を目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション 「化学」における高分子凝集論の位置づけを説明し、研究テーマを決定する。また、授業の概要と研究発表に必要な資料作成法、プレゼンテーション方法について講義する。 第2回 リサーチプロポーザル 決定したテーマに基づき、履修生が具体的な修士論文の研究内容を提案し、指導教員と議論する。 第3～9回 研究論文の紹介 高分子凝集論分野の最新の重要な文献の内容をセミナーに参加している履修生が発表し、研究手法・結果の解釈・生物学における意義について議論を行う。 第10～14回 研究進捗報告プレゼンテーション 高分子凝集論分野における履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について質疑応答を行う。 第15回:総合討論
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	指定しない

成績評価	研究報告ならびにセミナーへの参加状況 (質問・コメントなどの発言) により総合的に判定する。
コメント	

(春～夏学期) 生体超分子科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Supramolecular Science of Biomacromolecules
授業コード	241414
No.	24MASC6G403
単位数	4
担当教員	山口 浩靖 居室： G613 電話： 5460 Fax： 5457 Email： hiroyasu@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	生体高分子により形成される超分子、およびその超分子特有の性質を利用した機能発現について基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文の作成に際しての指導と助言を行う。
学習目標	超分子機能化学に関連する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育て、修士論文の作成を目標とする。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 生体高分子の機能化に関する研究を行う。生体高分子をビルディングブロックとして形成される超分子や、生体高分子と機能性低分子化合物との複合体形成によって発現される特異的な機能を探究する。機能性超分子錯体を構築するための生体高分子の合成をテーマとした研究を実施し、その結果をまとめ、報告する方法を指導する。 【授業計画】 生体高分子特有の機能、生体高分子の集積化もしくは人工分子と生体高分子との超分子形成により発現される機能の探求を行う。 1. 生体高分子における分子認識 2. 生体内に存在する機能性分子・超分子 3. 生体高分子 (タンパク質) の構造と機能の相関 4. タンパク質の機能 1< 触媒 > 5. タンパク質の機能 2< 電子移動・エネルギー変換 > 6. タンパク質と補因子との錯体の機能 7. 生体高分子と人工低分子との融合 8. 生体高分子を1つのユニットとする超分子合成 9. 生体超分子のキャラクタリゼーション 1< 反応追跡法 > 10. 生体超分子のキャラクタリゼーション 2< 構造観察法 > 11. 生体超分子の機能化 1< 特異的センシング > 12. 生体超分子の機能化 2< 触媒・立体制御 > 13. 生体超分子の機能化 3< エネルギー生産 > 14. 総合討論 15. 総括 なお、上記の記載順序は進行度合に応じて変更することがある。

授業外における学習	授業計画に記載の内容を授業外においても行う。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	レポート等を総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 生体分子機械学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Biomacromolecular Machines
授業コード	241416
No.	24BISC5K118
単位数	4
担当教員	今田 勝巳 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 A コース 博士前期課程各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生体内で機能する分子機械について、形成機構および作動機構を立体構造に基づいて理解することを目的とする。関連する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	自ら研究計画を立て、実施し、まとめる一連の研究活動を行うことができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 生体分子モーター、タンパク質輸送装置、走化性センサーなどのタンパク質複合体、酸化還元酵素、蛍光タンパク質、並びにこれらを研究するための生化学的、生物物理学的、構造生物学的研究手法。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的な参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢が必要である。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題解決だけでなく、問題を発見する能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 生体分子反応科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Biomolecular Reaction
授業コード	241677
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	黒田 俊一 居室： 立松 健司 居室： 岡島 俊英 居室： 曾宮 正晴 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻博士前期課程 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	分子生物学、細胞生物学、生化学に関する研究指導を行う。特に、最新論文の紹介及び批判的論評、自身の研究成果のとりまとめと発表、国内外の研究者との質疑応答、プレゼンテーションの訓練を行う。担当する具体的課題は教員と相談の上で決定する。主な研究課題は下記の通りである。細胞膜融合、エンドサイトーシス、細網内皮系ファゴサイトーシス、エンドソーム脱出、核移行、遺伝子発現、ウイルス、オキシダーゼ、デヒドロゲナーゼ、二成分伝達系
学習目標	生体内では、多数の生体分子が連続的に相互作用 (反応) して、種々の生命現象を維持している。このセミナーでは、生命現象の基本である細胞間・細胞内情報伝達、生体内・細胞内物質輸送、酵素反応などにおける分子機構について、分子生物学、細胞生物学、生化学の観点から総理解を目指す。また、関連する基礎的知識ならびに実験技術の習得、研究立案能力、研究推進能力、研究発表能力を育てる。最終的に各自の修士論文の完成を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション (黒田・岡島・立松・中井) 全体を俯瞰した説明を行い、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義を行い、各履修生に研究テーマを設定する。 第2回 細胞膜融合に関する研究論文紹介 (黒田) 最新の重要文献の内容を履修生が発表し、その目的、方法、結果、考察の各項目について意義解説や批判的論評を行って議論する (第11回まで同じ要領) 第3回 エンドサイトーシスに関する研究論文紹介 (黒田) 第4回 細網内皮系ファゴサイトーシスに関する研究論文紹介 (黒田) 第5回 エンドソーム脱出に関する研究論文紹介 (黒田) 第6回 核移行に関する研究論文紹介 (立松) 第7回 遺伝子発現に関する研究論文紹介 (立松) 第8回 ウイルスに関する研究論文紹介 (黒田) 第9回 オキシダーゼに関する研究論文紹介 (岡島・中井) 第10回 デヒドロゲナーゼに関する研究論文紹介 (岡島・中井) 第11回 二成分伝達系に関する研究論文紹介 (岡島) 第12回 研究進捗状況報告と指導 (特に序論の書き方)(黒田) 履修生の研究進捗状況報告 (約30分)、質疑応答 (約30分)、および論文の書き方

第4章 生物科学専攻

の指導(約30分)を行う(第14回まで同じ要領)

第13回 研究進捗状況報告と指導(特に研究方法、結果の書き方)(黒田)

第14回 研究進捗状況報告と指導(特に考察の書き方)(黒田)

第15回 総合討論(黒田・岡島・立松・中井)

授業外における学習	授業期間外であっても,可能な限り文献調査,実験,論文執筆を進めること.
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題・関連研究課題に対して取り組む姿勢50%、成果50%により総合的に判断する。
コメント	

(春～夏学期) 生物分子情報学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Systems Biology
授業コード	249563
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	猪股 秀彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	各自、独立した研究テーマを教員と相談し決定する。研究テーマ遂行のために、論文の読解力を深め、自身で具体的な研究方針・研究計画を立案できるように指導を行う。具体的には、教員とのディスカッションによる研究の進捗状況の確認、セミナーにおける文献紹介、プロGRESSによるプレゼンテーションの実践・指導を行う。本授業では主に、変形する発生場における濃度勾配依存的なパターン形成、分泌蛋白質の時空間制御、体液動態と発生システムの相互機序、発生システムの頑強性、に注目して研究を行う。 主な研究内容: アフリカツメガエル・ゼブラフィッシュを用いた胚操作、インジェクション、変異体・トランスジェニックの作製、モルフォゲンのイメージング・解析、体液動態のイメージング・解析、画像解析、化学物質・光活性型蛋白質を用いた時空間制御、生化学的手法を用いた定量解析
学習目標	複雑な発生システムを理解するためには、胚を構成する細胞間の相互制御を理解する必要がある。本授業では、細胞間コミュニケーションの中心的な役割を担っている分泌蛋白質に注目して、発生システムの動的なパターン形成・頑強性・発生場の変形を議論できるようにする。さらに、人為的に細胞間の相互制御をコントロールすることにより、自由自在に発生システムを操る新規技術の開発を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下に示す流れで授業をすすめる。 1. 研究の概要を学び、自身の研究テーマを決定する 2. セミナー、ディスカッションを通じて、文献を適切に理解・評価できるようにする 3. プロGRESS、ディスカッションを通じて、実験結果を適切に解析・評価できるようにする 4. 文献、研究結果をもとに自身で研究計画を立案できるようにする 5. 上記を通じて、プレゼンテーション技術の向上、及び博士論文の発表を目指す
授業外における学習	関連する文献を読み、理解すること。
教科書	適宜提示する。
参考文献	論文 (Cell, Nature, Science, Developmental Cell, Development など) 教科書 (Developmental Biology/Gilbert など)
成績評価	研究に対する取り組み、ディスカッション、セミナー、プロGRESS、研究成果を総合して判断する。
コメント	

(春～夏学期) 生物分子情報学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Systems Biology
授業コード	249656
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	北島 智也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	研究テーマを教員と相談の上で決定し、課題に必要な基礎知識を学習するとともに、具体的な研究指導を行う。重要な学術論文の紹介および論評、実験技術の訓練、データの正しい取り扱い方の習得、質疑応答および議論、プレゼンテーション技術の習得と実践などが含まれる。主として扱うトピックは、以下のとおりである。 染色体分配、染色体接着、動原体、紡錘体形成、減数分裂、卵母細胞、細胞の顕微操作法、生細胞の観察法、画像の処理および定量的解析法、軸形成、濃度勾配、胚発生、スケーリング、発生場の制御、胚操作、発生過程のイメージング、発生場の頑強性
学習目標	動物の発生過程を理解するには、細胞分裂、細胞間コミュニケーション、形態形成などの生命現象が、時空間的にどのように制御されているかを解明し、それらを統合した発生システムとして理解することが重要である。 このセミナーでは、発生過程における個々の生命現象について基礎的知識を身に付ける。また、研究計画をデザインし、実験結果を正しくまとめ、その結果について考察する能力を養う。自身の研究をプレゼンテーションする技術を学び、最終的に修士論文の完成を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	各自の研究テーマを決定し、それにもとづいて文献講読・研究・発表・討論などを行う。具体的には、次の内容を適宜進めることで授業を完了する。 1. 研究分野の概要を学習し、研究テーマ(研究計画)を決定する。 2. 各自の研究テーマに関連する文献(専門書や重要論文)を読解し、各自がその内容について紹介・批評を行う。また、適宜、関連する基礎的知識の解説や最新知識の紹介を行う。 3. 各自の研究の進捗状況をプレゼンテーション形式で報告し、実験デザインの妥当性、実験結果の正しい取り扱い、実験結果の解釈および考察などについて、質疑応答および議論を行う。
授業外における学習	次回の授業について予習し、専門用語等の意味を理解しておくこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	Nature, Cell, Science, Gene. Dev., Development などの重要論文。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 生命誌学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Biohistory
授業コード	241314
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	蘇 智慧 居室： 橋本 主税 居室： 小田 広樹 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物の共通性と多様性について、分子生物学、発生生物学、細胞生物学、分子系統進化学、形態学、生態学、等の、種々の観点からの理解を深める。一方、それらの理解を統合して、「生命とはなにか」についての一般的理解を進める努力を行う。また、得られた(生物学的)知見を、社会に向けて発信する方法についても理解する。以上に関連する基礎的なおよび(実験)技術の理解にも努める。また、研究を自ら計画し、実施し、成果を取りまとめるのに必要な力も育成する。
学習目標	学生は生物学の基礎となる進化、発生と生態などの種々の観点から生物の共通性と多様性に関する理解を深めることができる。 学生は研究を自ら計画し、実施し、成果を取りまとめるのに必要な力を育成することができる。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	(1) 院生自身の作成した研究計画および研究結果についての議論、(2) 専門書や最新論文の読解および批評、(3) プレゼンテーションの訓練、などを含む。具体的な課題・資料については、主として以下のようなトピックを扱ったものの中から、教員とよく相談した上で決定する。 生物多様性の分子機構、分子に基づく生物の系統進化、共進化に関わる生物の分子系統、昆虫と植物の共生・共進化、昆虫の味覚受容と食草選択、昆虫の形態と機能の関連性、細胞システムと発生メカニズムの進化、両生類のパターン形成、科学に関するコミュニケーション。また、専門書や論文を使用する場合は、以上のものに関連する「周辺」のトピック、および「基礎的知識」を述べたものも、適宜取り上げる。
授業外における学習	関連の学術論文や専門書を利用して予習と復習を行う。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題や文献資料に対して取り組む姿勢と、その成果等を総合的に判断して評価する。
コメント	学生の主体的参加を強く希望する。自分の研究に関わるものについては言うまでもなく、文献資料に取り組む場合においても、それらを「理解」するだけでなく、的確に「批評」し、問題点があれば、それを克服する方法の「提案」なども望みたい。また、他者の発表を聞くにあたっても、同様の積極的な態度を希望している。その中で、自分で研究を進める力を育成してほしいと願っている。

(春～夏学期) 代謝調節機構学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Mechanisms of Metabolic Control
授業コード	241302
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	奥村 宣明 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	この授業では、生物学における生化学ならびに生理学分野に関する研究指導を行う。専門書や最新論文の紹介および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他の研究者との質疑応答、プレゼンテーションの訓練を通じて、学生はこの分野の研究者に必要なとされる基礎的な思考力と表現力を身につけることができる。具体的課題は教員と相談の上決定する。主として扱うトピックスを以下に示す。蛋白質・ペプチドの代謝、糖代謝、酵素の構造と機能、ホルモンと自律神経、エネルギー代謝調節機構、消化と吸収。
学習目標	生物学を理解する上で、生体内での物質代謝やエネルギー代謝の恒常性 (ホメオスタシス) 維持機構を解明することは基本的に重要である。このセミナーでは、哺乳類の代謝、摂食、消化吸收、血糖調節などの機構とそのホルモンや神経による調節機構について、生化学、生理学、分子生物学などの観点から統合的に理解することを目指す。そのために、関連する基礎的知識と技術の理解に努め、自ら実験を計画し、実践し、成果を取りまとめる能力を身につけるようにする。最終的に各自の修士論文の完成を目指す。
履修条件	なし。
特記事項	なし。
授業計画	以下の内容から構成される。(状況により順序の変更がある)。 第1回:オリエンテーション 「生物学」における生化学、生理学の位置づけを説明し、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第2?9回:研究論文の紹介 生化学、生理学分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究手法・結果の解釈・生物学における意義について議論を行う。 第10?14回:研究進捗報告プレゼンテーション 生化学、生理学分野における履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について質疑応答を行う。 第15回:総合討論
授業外における学習	専門分野における過去の論文、ならびに最新の論文を調査し、専門の知識と考え方を身につける。また、研究室内外の交流、学会への参加を通じ、他の研究者とのディスカッションを行う。
教科書	特に定めない。随時文献を紹介する。
参考文献	特に定めない。随時文献を紹介する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、論文や学会発表などの各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。

コメント	知識を網羅的に紹介するではなく、新たな発見や方法論の開発などの過程を解説し、それを体験させて科学的な研究のすすめ方を体得させたい。
------	---

(春～夏学期) 蛋白質ナノ科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Nanobiology
授業コード	241692
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	原田 慶恵 居室： 蛋白質研究所本館 622 電話： 8627 Email： yharada@protein.osaka-u.ac.jp 担当未定 居室：
質問受付	月～金 9:30～18:30
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	タンパク質が働くしくみについての基礎的な知識、タンパク質分子の機能解析についての先行研究の内容、研究の方法論などについて理解し、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	タンパク質が働くしくみについて、生物物理学的手法によってこれまでどのようなことが明らかになったのか、まだわかっていないことについて調べるにはどのような実験をしたらよいのかについて論じることができるようになる。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	第1回:オリエンテーション 「生物学」においてタンパク質分子の機能解析の位置づけとその重要性について解説し、文献調査の方法、発表資料の作成法、プレゼンテーションの方法などについて講義する。 第2～15回:タンパク質が働くしくみについて、生物物理学的手法によって行われた研究のうち、学生が選んだテーマについてグループワーク、グループディスカッションを行う。
授業外における学習	テーマの選択および、グループワーク、グループディスカッションのための資料作成
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	日常の向上心、探究心、努力や研究成果などを総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 蛋白質結晶学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Crystallography
授業コード	241268
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	栗栖 源嗣 居室 : 田中 秀明 居室 :
質問受付	月～土,9:30-18:00
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	蛋白質結晶学に関連した研究分野の基礎的理解を深めさせ、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。修士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	蛋白質の多様な機能を、結晶構造や NMR など分光測定の情報に基づいて論じることができるようになる。特に、光合成タンパク質や分子モーターのエネルギー変換の仕組みを、構成科学的に他者へ説明できるようになる。
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 蛋白質の機能に関する先端的研究課題の指導、とくに理論、実験法、データ解析法、研究成果発表法について指導する。 第 1～15 回 学生が選んだテーマによるグループワーク、グループディスカッション
授業外における学習	蛋白質立体構造データベースなどを併用することにより、最新情報を取り入れて学習すること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	日常の向上心・努力と研究成果で評価する。
コメント	特になし

(春～夏学期) 蛋白質細胞生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Cell Biology
授業コード	241300
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	篠原 彰 居室： 松崎 健一郎 居室：
質問受付	随時、在室するときはいつでも質問など受け付け可能
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	真核生物における組換え、体細胞分裂期の DNA2 重鎖切断修復、減数分裂期のキアズマ形成の分子メカニズムを理解する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	最新の論文を読解することで、科学的な素養を育成する。特に科学的思考を身につけることを目標にする。そのためには、研究の目的の明確化し、実験のデザイン力、実験を立案する力を身につける。さらには、実験成果を客観的、かつ定量的に判断する能力の養う。その上で、新規的な概念を提唱できるような思考力も身につける。
履修条件	基本的な分子生物学の知識を必要とする
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 相同組換えや減数分裂期組換えに関わる遺伝子、蛋白質の分子レベルでの機能の解明 テロメアの組換えによる伸長反応の解析 細胞内での組換え反応の解析 ヒストンの修飾の組換えへの関わりの解析 減数分裂期の細胞周期の制御機構の解析 遺伝子治療
授業外における学習	関連分野の論文や創設を定期的の読み込む。修士1年なら、2週間に1報、2年なら2報読んでほしい。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるか、そしてそこから新規性をいかに生み出すかを考えていく、積極的な姿勢を必要とする。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培って欲しい。

(春～夏学期) 蛋白質物理化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Physical Chemistry
授業コード	241309
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	後藤 祐児 居室 : LEE YOUNG HO 居室 : 宗 正智 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	蛋白質は生命現象を支える代表的な生体高分子である。アミノ酸が一次元的に配列した蛋白質は、フォールディングして特異的な立体構造を形成することにより、機能物質としての多様な役割を果たす。また、間違ったフォールディング反応がさまざまな病気の原因となることも明らかになってきている。セミナーでは、蛋白質の構造、物性、フォールディング反応に関連する基礎的な知識および実験技術の理解に努める。また、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	学生は、蛋白質の構造、物性、フォールディング反応に関連する基礎的な知識および実験技術を理解することができる。また、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめることができる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションなどができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。蛋白質の構造と物性、蛋白質の変性、蛋白質のフォールディング、フォールディングと分子シャペロン、ミスフォールディングと病気、酵素の構造安定性と機能、蛋白質の分子設計。
授業外における学習	学生は、蛋白質の構造、物性、フォールディング反応に関連する基礎的な知識および実験技術を理解し、また、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめるためのさまざまな学習を主体的に行う。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他とどのような関連性を持っているのか、どのような考察が可能であるかを考えていく。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 蛋白質有機化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Organic Chemistry
授業コード	241292
No.	24BISC5K117
単位数	4
担当教員	北條 裕信 居室 : 川上 徹 居室 : 朝比奈 雄也 居室 :
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	実験や論文の講読を通して、生物学ならびに化学の視点から広く蛋白質分子を考察できる人材の育成を目指して指導を行う。すなわち、アミノ酸・ペプチド・蛋白質の分子構造と化学的性質、これらの分子の人為的合成における反応、精製、確認法等についての基礎的事項を習得させるとともに、膜蛋白質ならびに修飾蛋白質の構造解析の手法や機能発現機構を分子レベルで理解させる。さらに、研究の企画、研究結果の取りまとめと発表の訓練などを行う。
学習目標	1. ペプチド合成の基礎について説明できること 2. ライゲーション法の基礎について説明できること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 ライゲーション法に基づく蛋白質の合成化学、蛋白質の化学的変換による合成ブロックの調製法、反応場としてのミセルと脂質、膜蛋白質の精製法と確認法、膜蛋白質の構造形成を指向した膜蛋白質・脂質複合体の調製法、膜蛋白質の構造解析法、修飾蛋白質の特異的検出手法の開発と蛋白質の解析
授業外における学習	タンパク質、糖タンパク質の最新論文をサーチすること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	蛋白質の合成化学的研究により開発された手法を生命現象の解明に応用することにより、独自の生物科学の展開を目指す。この営みを通して研究指導を行う。

(春～夏学期) 超分子構造解析学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Supramolecular Crystallography
授業コード	241295
No.	24BISC5K116
単位数	4
担当教員	中川 敦史 居室 : 山下 栄樹 居室 : 鈴木 守 居室 :
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生体超分子複合体やタンパク質の立体構造決定と構造を通じた機能の解明を行う。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。 具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	生体超分子複合体やタンパク質の立体構造決定と構造を通じた機能の解明を行うことができる。関連の基礎的な知識および実験技術を理解できる。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。 主として扱うトピックは以下のようなものである。 蛋白質複合体やウイルスなどの生体超分子複合体の構造解析、タンパク質の構造解析、X 線結晶構造解析法の開発など。
授業外における学習	参考資料等を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 糖鎖生化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Sugar Chain Biochemistry
授業コード	241305
No.	24BISC5K118
単位数	4
担当教員	梶原 康宏 居室 : 岡本 亮 居室 :
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。
学習目標	生体内での糖質、タンパク質の機能を含め先端研究を原子、分子レベルで理解する。
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	1:最新糖質化学 1 2:最新糖質化学 2 3:最新糖鎖化学 1 4:最新糖鎖化学 2 5:最新タンパク質化学 1 6:最新タンパク質化学 2 7:最新糖タンパク質化学 1 8:最新糖タンパク質化学 2 9:最新複合糖質化学 1 10:最新複合糖質化学 2 11:タンパク質フォールディング 1 12:タンパク質フォールディング 2 13:翻訳後修飾 1 14:翻訳後修飾 2 15:翻訳後修飾 3
授業外における学習	国際誌を読み先端研究を理解する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

(春～夏学期) 発生生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Developmental Biology
授業コード	241285
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	西田 宏記 居室： 理学棟 C411 室 電話： 5472 Fax： 06-6850-5472 Email： hnishida[at]bio.sci. 今井 薫 居室： 小沼 健 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	動物の胚発生に関し、発生運命の決定、形態形成などの過程を分子および細胞レベルで理解する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。
学習目標	実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめることができるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。発生過程の観察、遺伝子の発現とその役割の解析などに関して、顕微胚操作、遺伝子工学的手法、顕微イメージングなどを駆使し、動物の胚発生に関する理解を深める。特に、卵細胞内に蓄えられている情報、発生が始まってから起こる誘導的細胞間相互作用に焦点を置く。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
授業外における学習	特になし。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることでどのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢が必要となる。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(春～夏学期) 比較神経生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Comparative Neurobiology
授業コード	241690
No.	24BISC5K112
単位数	4
担当教員	志賀 向子 居室： 長谷部 政治 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	動物の生理学、特に神経生物学、時間生物学に関する基礎知識ならびに実験技術、理論的な考え方について講義を行なう。また、学生各自の携わる研究課題に関連して、その研究領域の学問的歴史・背景について学生各自が調査、レビューを行なうことで基礎的な知識を習得する。
学習目標	1. 代表的な研究事例の文献調査や討論により、神経生物学、時間生物学における基本的な考え方や研究手法を学ぶ 2. 各自のテーマを設定し、実験をデザインし、研究成果を取りまとめ発表することができるようになる
履修条件	
特記事項	
授業計画	1 比較神経生物学および時間生物学概論 2-3 解析方法 4-5 これからの課題 6-8 学生による神経生物学、時間生物学分野の文献紹介 9-11 学生が設定したテーマのための実験デザインの紹介と討論 12 成果発表の方法 13-15 成果発表と討論
授業外における学習	関連論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	時間生物学 海老原史樹文、吉村崇著 化学同人 Chronobiology Biological timekeeping Dunlap JC et al. ed, Sinauer
成績評価	各課題に対する取り組み過程、発表内容により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 分子遺伝学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Molecular Genetics
授業コード	241279
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	中川 拓郎 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生命現象を分子レベルで解明し、それらを統合して全体像を理解する。このセミナーでは、生命の本質である、クロマチン構造、染色体複製、DNA 組換え、DNA 損傷修復、細胞周期制御などについて、遺伝学、生化学、細胞生物学などのアプローチを駆使して総合的理解をめざす。生物学における分子遺伝学分野に関する研究指導を行う。専門書や最新論文の紹介および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他の研究者(大学院生を含む)との質疑応答、プレゼンテーションの訓練が含まれる。具体的な研究テーマを学生と教員で相談の上で決定する。 主として扱うトピックを以下に示す。 真核生物の染色体異常の発生メカニズム、染色体異常の抑制メカニズム、複製フォークの安定維持機構、クロマチン構造と染色体維持との関連、セントロメア機能、テロメア機能、染色体凝縮、染色体接着、染色体分配
学習目標	このセミナーでは生命の基本である「染色体の安定維持機構」を研究する上で必要となる基礎的知識、及び、実験技術を習得する。また、研究をデザインする能力、実践する能力、さらに成果を取りまとめる能力を身に付ける。そして、自分自身が筆頭著者となる論文を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 以下の内容から構成される(状況により順序の変更がある)。 第1回 オリエンテーション 「生物学」における分子遺伝学の位置づけを説明し、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第2～7回:研究論文の紹介 分子遺伝学分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究手法・結果の解釈・生物学における意義について議論を行う。 第8～14回:研究進捗報告プレゼンテーション 分子遺伝学分野における履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について質疑応答を行う。 第15回:総合討論
授業外における学習	セミナーで取り上げる科学論文とその背景について、事前のリサーチが求められる。また、セミナー後に発表に対する意見を記入したワークシートを提出する。
教科書	適宜指示する

参考文献	Nature, Cell, Science などの重要論文
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する
コメント	本セミナーで取り組む研究テーマは、中学校ならびに高等学校の専修免許教科「理科」の科目区分「生物学」の文献講読、研究方法に関する高度な知識と能力を獲得できる。

(春～夏学期) 分子細胞運動学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on cell motility
授業コード No.	241669 24BISC5K115
単位数	4
担当教員	昆 隆英 居室： 理学研究科本館 A313 Email： takahide.kon@bio.sci.osaka-u.ac.jp 山本 遼介 居室： 理学研究科本館 A301 今井 洋 居室： 理学研究科本館 A301
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	細胞移動, 細胞分裂, 細胞内物質輸送を駆動する分子機構を原子レベルで深く理解することを目的とする. そのために, 構造生物学, 細胞生物学, 分子生物学の一般のおよび最先端の知識の修得に務める. セミナーにおいては, 学生がテーマを決めて学術論文や専門書を深く読解し, 内容の発表と議論を行う. また, 自身の研究についての進捗状況と課題・成果の発表報告を行い, 教員や他の大学院生と議論を深めることで, 問題を解決し新たな研究の方向性を見出す機会とする.
学習目標	研究分野の知識と成果について, 世界の第一人者となるべく全力を尽くす. 自ら研究アイデアを常に考え, その目的を達成するために最適な技術要素を検討し, 試行錯誤で研究を遂行し, 必要に応じて共同研究を展開し, 他研究者を十分納得させられるだけの質と量のデータを出し, そして学術論文としてまとめることを目標とする.
履修条件	
特記事項	
授業計画	主に扱う研究テーマは, 細胞移動, 細胞分裂, 細胞内物質輸送に関してそのしくみを原子レベルで理解することを目標とするものであるが, 生物学的に重要な課題であれば, これらに限定されることはない. セミナーでの発表内容は, 基本的に学生が自主的に決めるべきものであるが, 必要に応じて, 教員と相談の上で決定してもよい.
授業外における学習	授業期間外であっても, 可能な限り文献調査, 実験, 論文執筆を進めること.
教科書	指定しない.
参考文献	指定しない.
成績評価	以下のポイントを基に総合的に評価する ・ 研究課題に真剣に全力で取り組んでいるか. ・ 論文セミナーでは, 論文を徹底的に深く読み込み, 質問に対しては適切に対応できているか ・ 研究室セミナーは基本的すべて出席しているか.
コメント	

(春～夏学期) 分子創製学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Synthesis and Expression
授業コード	241435
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	高木 淳一 居室 : 岩崎 憲治 居室 : 北郷 悠 居室 : 担当未定 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	多細胞生物の生理機能に必須であるレセプターを介したシグナル伝達機構に関する総合的な理解を深めるため、構造生物学の手法を駆使したアプローチをとった最先端の研究を遂行し、同時に世界のトップクラスの研究者による最新の論文の批判的に深く読み込むことで研究者としての素養を養う。
学習目標	自身の研究テーマの内容と背景に精通し、その進捗状況も含めて理解しやすい発表ができるようになる。また、関連分野の重要な論文をサーベイし、その内容について把握する。
履修条件	日常的に研究室における実験研究を遂行するとともに、月に2～3回程度行われる研究室セミナーに参加する。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 (1) レセプター細胞外および膜貫通領域の構造決定、(2) レセプター・リガンド間の親和性を決定する構造因子の同定とその利用、(3) 構造解析や精密な生化学的・物理化学的実験に供するための、困難な組み替えタンパク質の発現・精製系の構築
授業外における学習	自らの研究テーマに関連する最新の科学トピックスについて、最新の情報を常にアップデートすることを心がけること。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、知識・技術の取得、研究成果などにより総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 分子発生学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Molecular and Developmental Biology
授業コード	241436
No.	24BISC5K112
単位数	4
担当教員	古川 貴久 居室 : 大森 義裕 居室 : 茶屋 太郎 居室 :
質問受付	随時。
履修対象	生物科学専攻博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	発生学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学に関わる広範な分野の大きな発見を報告した重要な論文を精読し、その研究領域のバックグラウンドの知識を習得するとともに、討論を通じて論文を「建設的に批判的に」読む力を養う。
学習目標	学生はこの授業を通じて発生学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学などの分野における基礎知識を身に付けることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 前もって与えられた論文を詳細に読み、授業で各指導教員の指導のもと発表・討論を行う。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション (担当:古川) 各自担当の論文などの案内を行うほか、論文の読み方やプレゼンテーション方法について講義をする。 第2回以降 (担当:古川、大森、茶屋) 各自に割り当てられた論文について、担当教員の指導のもと、論文内容について発表と討論を行う。各1時間半の授業を毎週1回行う。
授業外における学習	学生は指定された教科書や総説を読む。
教科書	特に定めない。随時文献を紹介する。
参考文献	
成績評価	出席点のほか、発表内容、討論時の積極性などを勘案する。
コメント	

(春～夏学期) 膜蛋白質化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Membrane Protein Chemistry
授業コード	241267
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	三間 穰治 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	膜蛋白質化学を研究手法・実験技術の中心とした、メンブレントラフィック分野の研究において、その領域の研究動向を調査しつつ、各自の研究テーマについて研究・実験を進める。定期的に中間発表を行い、研究・実験と共に討論を通じて修士論文の発表へと繋げる。
学習目標	膜蛋白質化学を研究手法・実験技術の中心とした、メンブレントラフィック分野の研究において、その領域の知識を得るとともに、主体的に研究計画・研究デザイン・実験データ取得・実験データ解析と考察を行い、修士論文の発表へと繋げる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 膜蛋白質化学・メンブレントラフィック分野における各自の研究テーマを決定し、指導教員の指導のもと、研究・実験・発表・討論を行う。また、当該分野の最新かつトップレベルの研究論文を精読し、最新研究情報を収集すると共に、自身の研究計画・デザインに活かす。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション 各人の研究テーマの設定についてミーティングを行い、研究課題を決定した後、その具体的な研究・実験方法や戦略、予想される展開などについて指導及び討論を行う。 第2回以降 各自研究テーマにより、担当教員の指導のもと、研究・実験を進め、定期的に研究・実験成果の発表および議論を行うとともに、随時研究の方向性・実験方法や技術について指導を行う。また、最新の文献についても定期的に発表・討論を行う。 最終回 最終発表および教員による評価・講評。
授業外における学習	教科書・教材にあげた参考書、配布資料にあげる参考文献について自主学習。
教科書	特に定めない。随時文献などを紹介する。
参考文献	特に定めない。随時文献などを紹介する。
成績評価	各人の研究テーマへの取り組み、研究発表、討論について、総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 理論生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in theoretical biology
授業コード	241291
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	藤本 仰一 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	1. 生命現象に対する数理的な思考能力と解析能力の基礎を身につける。 2. 数理モデル作成に必要な数学、物理、プログラミングの能力を身につける。 3. 興味ある生命現象の数理モデルを構築し、計算機実験を行い、これらの能力を深める。 4. 学習や研究の成果を発表する技術をつける。 5. 議論する能力をつける。
学習目標	
履修条件	C 言語等のプログラミングや学部 1,2 年レベルの数学と物理の素養があることが望ましいが、必要条件ではない。 これらの発展を積極的に学ぶ意欲。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理科学の基礎的事項を手計算と計算機実験を通して身につけるとともに、それらの生命科学への応用例を論文講読を通じて学ぶ。 加えて、数理モデルを独力で新規に構築し、モデル作成能力と定量的な解析能力を養う。 【授業計画】 常微分方程式、線形代数、確率過程、拡散、振動波動などの数理科学の基礎の手計算による演習。 関連する解析を行った生物実験の論文講読。 常微分方程式の解の振る舞いを記述するプログラムを作成し、計算機実験を行う。 上記基礎的事項の復習と、解析的には解けない非線形系の学習を計算機実験により行う。 理論生物学の古典的論文の講読、および、関連する数理モデルの計算機実験。 興味ある現象の数理モデル構築および計算機実験による解析。 生物実験データの定量的な解析への応用。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	Physical Biology of the Cell (Gerland. 2008) Alon, An introduction to Systems Biology (CRC press. 2006) Kaplan and Glass, Understanding Nonlinear Dynamics (Springer. 1995) など
成績評価	学習、計算機実験、議論、発表への積極な取り組み。 数理科学的な思考能力や解析能力と、プログラミング能力の習得度。
コメント	

(秋～冬学期)1 分子生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Single Molecule Biology
授業コード	249659
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	上田 昌宏 居室 : 宮永 之寛 居室 :
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	1 分子生物学半期セミナーで習得した基礎的な知識を土台として、細胞内シグナル伝達、細胞応答、細胞運動、環境適応、発生・分化などの研究領域における最新の研究動向のレビューを行なうことで生物学の最新の高度な知識を習得する。加えて、各自の携わる研究課題について、その実施に必要な研究方法に関する最新の知識の習得を通じて、修士論文の発表へ繋げる。
学習目標	1 分子生物学半期セミナーに引き続き、主に扱う研究領域としては、細胞内シグナル伝達、細胞内自己組織化、細胞運動、細胞極性、多細胞体形成、遺伝子発現調節、先端的光学顕微鏡による細胞動態計測、細胞動態の理論と計算機シミュレーション、などが挙げられる。これらの研究領域に関連した最新の論文の紹介、及び、学生各自の携わる研究課題に関連した専門書の講読や最新論文の紹介、他の研究者との質疑応答・討論、プレゼンテーションの訓練などを含む。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション (担当:上田昌宏): 授業の概要ならびに文献紹介・発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第2回 研究領域の講義1 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 細胞内分子の時空間動態の定量計測手法と不規則時系列データ解析法、スペクトル解析法等について講義する。 第3回 研究領域の講義2 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 多細胞体内の細胞の時空間動態の定量計測手法と時系列データ解析法、スペクトル解析法等について講義する。 第4回 研究領域の講義3 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 超解像光学顕微鏡法や質量イメージング法など最新のイメージング計測手法とその応用について講義する。 第5回 研究領域の講義4 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 細胞内の分子反応ネットワークの自己組織化やパターン形成を記述するための反応拡散方程式とそれを生命現象に適用した実例について講義をする。

第 6 回 ～ 第 14 回 研究課題に関連した最新文献の調査と紹介 (担当:上田昌宏、宮永之寛):
各自の研究課題に関連した最新の文献について調査し、紹介する。各自の研究課題に関連して習得すべき最新の知識や研究方法を整理し、発表・討論を通して他の研究者からの批判・批評を十分に受けることにより、学生各自が習得すべき最新の知識、研究技術、解析方法などの理解を深め、各自の修士論文の発表へと繋げる。

第 15 回 最終回 (担当:上田昌宏、宮永之寛):
最終発表および各教員による講評。

授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	特に定めない。学術雑誌に掲載された重要文献、最新の文献を適宜紹介する。
参考文献	「Physical Biology of the Cell」(Garland Science 出版) を主読本とし、各学生の理解・進展に応じて適宜適切な参考書・参考資料を紹介する。
成績評価	セミナーへの出席 (20%) の他、発表内容 (20%)、討論時の積極性 (20%) などを勘案し、研究課題に対する取り組み姿勢 (20%)、研究成果 (20%) により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) オルガネラバイオロジー半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Organelle Biology
授業コード	249720
No.	24BISC5K104
単位数	4
担当教員	中井 正人 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	真核細胞を対象として、細胞内小器官を含めて細胞を構成する様々な部品の働きや生合成機構を、原子レベルの構造から反応機構、代謝機能、個体における生理作用、さらにはそれらの進化的変遷や、それらの知見を利用した応用研究など、幅広い視点で理解する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	細胞の成り立ちを分子レベルから個体レベルまで様々な視点で捉えるために必要な基礎知識を習得するとともに、問題提起や作業仮説の設定とその解決能力、および科学討論力を養う事を目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 真核細胞構築の基本概念、光化学系と呼吸鎖蛋白質超分子複合体、オルガネラ形成と維持に関わる分子装置、細胞の様々な代謝機能および生理機能、オルガネラ蛋白質の細胞内輸送、蛋白質の膜透過、オルガネラと核のクロストーク、植物のゲノム研究、植物機能の改変・開発
授業外における学習	学習目標を達成するため、各授業に先立って、関連分野の文献を読むなどして、予備知識の習得を各自が行う。また、授業後に、さらに関連分野の論文等を深く読む事により発展的学習を進める。また、得られた知識を応用や利用に繋げていく可能性についても、自ら考え、担当教員と議論する。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 核機能学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Nuclear Functions
授業コード	249573
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	久保田 弓子 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	ゲノム情報の伝達と発現制御機構を解明する上で最も重要な課題である核の構造と機能について基本的な理解を深め、また最先端の研究成果を理解する能力を修得することを目的とする。関連の基礎的な知識および実験技術の習得にも努める。実験を自ら企画・実施して、その成果を取りまとめる能力を育てる。
学習目標	専門書や最新論文の読解および批判的論評ができるようになる。 研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションなど、一連の研究活動が出来るようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 クロマチン構造、ヌクレオソームからクロマチン繊維、染色体の構築、染色体構造の変化、核と細胞質の相互作用、クロマチン形成、核内の過程、クロマチンとトランス因子の作用、クロマチン構造とプロセッシング酵素の相互作用など
授業外における学習	研究課題、論文発表の準備を行う
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。 研究課題に対する取り組み 50% 研究成果や各種発表への取り組み 50%
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識と統合することで、どのような考察が可能であるかを自ら考える、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 感覚生理学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Sensory Physiology
授業コード	249580
No.	24BISC5K112
単位数	4
担当教員	橘木 修志 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生物は外界からの刺激を情報とし、種々の生物的活動を営んでいる。外界からの刺激には、光 (視覚)、ニオイ (嗅覚)、味 (味覚)、音 (聴覚) などがある。本セミナーでは、特に脊椎動物の視覚をはじめとする各種感覚について、刺激受容機構と情報処理機構やそれらの仕組みを学ぶとともに、感覚ごとに備わる仕組みの共通性と違いについて理解する。また、これらに関連する基礎的な知識および実験技術の理解・修得にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。 この目的のために、当該分野や関連分野の最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、を行わせる。また、自身の研究結果の取りまとめと発表に関する指導、修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	特に脊椎動物の視覚をはじめとする各種感覚について、刺激受容機構と情報処理機構やそれらの仕組みについて説明できる。脊椎動物の視覚についての実験を自らデザイン、実施できる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 脊椎動物視細胞における光応答の発生機構、停止機構、光感度決定機構、時間分解能決定機構、順応機構、シナプス伝達様式決定機構、ビタミン A の代謝機構。
授業外における学習	演習中に示す教科書、参考文献について、十分に予習・復習をすること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加を強く求める。論文を購読する場合には、書かれていることを自身で理解するだけでなく、理解したことをどのように聞き手に伝えれば理解を得られるか考えることを強く求める。また、要領よく伝えるにはどうすべきかも考えて欲しい。実験する場合には、目的をはっきりと設定し、明快な筋立てで実験をデザインすることを希望する。このような習慣をつけることで、問題の設定、解決する能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 機能・発現プロテオミクス学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Profiling and Functional Proteomics
授業コード	249584
No.	24BISC5K117
単位数	4
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	蛋白質・遺伝子データベースを利用して生体内の総発現蛋白質を網羅的に解析するプロテオミクス研究を行うための蛋白質分析化学を学び、それを様々な細胞や生体から得られる微量試料に応用し、新しい蛋白質機能や構造を探索する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 1. 蛋白質一次構造解析のための質量分析法や化学的手法 2. 蛋白質翻訳後修飾(糖鎖、脂質、リン酸化など)の構造解析 3. 尿などの生体試料のプロテオミクス 4. 質量分析におけるペプチド、糖鎖のフラグメンテーション 上記研究課題の中で、各種質量分析法、各種微量クロマトグラフィー、ゲル電気泳動、微量試料調製法、蛋白質および糖鎖の質量分析、蛋白質アミノ酸配列決定法、蛋白質翻訳後修飾の検出および解析法、安定同位体ラベル化法、データ解析およびデータベース構築法等の基礎を修得する。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 極限生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Extreme Ecobiophysics
授業コード	249597
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	久富 修 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物はその誕生から現在に至るまで、光と大きな関わりを持ってきた。本セミナーでは、光をキーワードとして、オプトジェネティック (光遺伝学) ツールや生体物質の光制御法の開発などを行うとともに、生体情報の受容と伝達の機構や、生物の環境への適応を解明することを目的とする。また、研究活動を通じ、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。また、修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	タンパク質の取り扱いを習得し、機能メカニズムを解明するための様々な手法を使いこなすことができる。新しい遺伝子やタンパク質を設計することができるようになる。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 オプトジェネティックツールの開発、遺伝子の転写や酵素活性の光制御、光を用いた転写因子の機能解析や、新規生体ナノマシンの作成、光情報の受容・伝達および光エネルギー変換の分子機構、環境への適応など。
授業外における学習	指示されたことを遂行するだけの実習にならないよう、授業外の時間も利用して、自らの意欲で研究を進めること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に取り組む姿勢、各種発表、および研究成果により総合的に評価する。
コメント	研究にあたっては、本人の主体性が強く求められる。また、文献に書かれていることを単なる知識としてだけではなく、自分の中で咀嚼して有機的なつながりを持つ理解に変えてほしい。議論では積極的に参加するのはもちろんのこと、周囲の考えを理解し、自身の研究を発展させる方向に舵取りしていく力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 系統進化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Evolutionary Biology
授業コード	249574
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	古屋 秀隆 居室： 伊藤 一男 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生物および生命現象には普遍性と多様性という二面的な特性がある。このセミナーでは、動物を対象としてこの二面性をふまえ、その多様な体制の発達を、個体発生と系統発生の両面から理解することを目指す。専門書や最新論文の読解、教員や研究室メンバーとの討論などを通じて、実験を立案、遂行し、また結果をまとめる能力の涵養につとめる。
学習目標	教員や研究室メンバーとの討論などを通じて、個体発生と系統発生の関係を熟知し、実験を立案、遂行し、また結果をまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 以下のようなトピックに関して課題を設定する。 1 腹毛動物の分子系統 2 腹毛動物の生物地理 3 纖毛虫下毛類の分類 4 纖毛虫下毛類の生態 5 纖毛虫下毛類の発生 6 纖毛虫下毛類の微細構造 7 纖毛虫下毛類の分子系統 8 纖毛虫下毛類の生物地理 9 神経冠細胞の移動 10 神経冠細胞の分化 11 神経冠細胞の発生運命決定機構 12 神経冠細胞由来幹細胞の多分化能形成機構 13 神経冠細胞由来幹細胞の多分化能維持・増殖機構 14 神経冠の進化的起源 15 脊椎動物の体制成立機構の起源
授業外における学習	授業計画に即した論文や専門書を事前に熟読しておくこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	セミナーに対する取り組み姿勢、質問、議論への参加を考慮し、総合的に評価する。各評価の割合は、セミナーに対する取り組み姿勢 60%、質問 20%、議論への参加 20%とする。

コメント	論文の読み方、研究の進め方、まとめ方、発表の仕方等を習得するのみならず、常に自然そのもの、動物そのものに対する関心を培ってほしい。
------	---

(秋～冬学期) 光合成反応学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Molecular Mechanism of Photosynthesis
授業コード	249700
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	大岡 宏造 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	光合成反応の分子機構についての構造的基盤に関する理解を深めることを主な目的とする。これらに関連する分光学的方法、および生化学・分子生物学的方法をも理解する。
学習目標	光合成反応の分子機構について最新の研究状況を把握し、自身の研究成果を論理的に報告できる。
履修条件	
特記事項	光合成によるエネルギー変換機構、および光合成色素の合成に関与する蛋白質をとりあげ、それらの分子生物学・生化学・分光学的手による機能解析および構造生物学的解析を扱う。また人工光合成の基盤を構築するために、生物学的水素生産を担う酵素反応の諸性質の解析にも取り組む。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 研究テーマ紹介 3. 論文紹介 4. 研究報告 5. ディスカッション
授業外における学習	学生は研究報告のための ppt ファイルを作成することが求められる。また参考文献を精読し、研究背景を理解すること。
教科書	特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。
成績評価	プレゼンテーションや討論などにより総合的に評価する
コメント	本セミナーの参加には能動的姿勢が求められる。論文を講読することを通じて、生物科学の背景や動向も理解する。またプレゼンテーションを通じて、多様な見方、問題点の捉え方やその解決方法を考察する能力を養う。

(秋～冬学期) 構造分子生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Structural Molecular Biology
授業コード	249603
No.	24BISC5K116
単位数	4
担当教員	藤原 敏道 居室 : 松木 陽 居室 : 担当未定 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をととして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 高次脳機能学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Advanced Brain Functions
授業コード	249723
No.	24BISC5K000
単位数	4
担当教員	疋田 貴俊 居室：
質問受付	随時。
履修対象	生物科学専攻博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	高次脳機能学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学に関わる広範な分野の大きな発見を報告した重要な論文を精読し、その研究領域のバックグラウンドの知識を習得するとともに、討論を通じて論文を「建設的に批判的に」読む力を養う。
学習目標	学生はこの授業を通じて高次脳機能学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学などの分野における基礎知識を身に付けることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 前もって与えられた論文を詳細に読み、授業で各指導教員の指導のもと発表・討論を行う。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション (担当:疋田) 各自担当の論文などの案内を行うほか、論文の読み方やプレゼンテーション方法について講義をする。 第2回以降 (担当:疋田、山口) 各自に割り当てられた論文について、担当教員の指導のもと、論文内容について発表と討論を行う。各1時間半の授業を毎週1回行う。
授業外における学習	学生は指定された教科書や総説を読む。
教科書	特に定めない。随時文献を紹介する。
参考文献	
成績評価	出席点のほか、発表内容、討論時の積極性などを勘案する。
コメント	

(秋～冬学期) 細胞システム学半期セミナー

英語表記	Seminar for systems biology of the cells
授業コード	249714
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	岡田 眞里子 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	近年のゲノム科学の進展により、生物の設計図である遺伝子のほとんどすべてを同定・計測できるようになり、これらの遺伝子間のつながりをシステムとして捉え、理解しようとするシステム生物学が発展してきました。 システム生物学には大まかに分けて、2つの大きなアプローチがあります。ひとつは、遺伝子、産物である蛋白質あるいは代謝物を「網羅的」に計測し、その発現、修飾、相互作用、局在の関係から、細胞や組織の状態との関連性を大局的に明らかにしようとするものです(オミックスあるいはトップダウン型システム生物研究)。もうひとつは、生物の機能と関連することが知られる比較的少数の遺伝子や蛋白質の相互作用や制御関係の時間変化から、細胞情報の入力と出力との関係を明らかにし、「定量的」「動的」に、生物を理解しようとするものです(ボトムアップ型システム生物研究)。この2つのアプローチは、現存する生物が時間をかけて進化してきたその生き残り戦略や、またそれが破綻した状態である疾病のメカニズムを理解する方法としても利用することもできます。この2つのアプローチでは、実験解析とともにコンピュータ解析も用います。 本セミナーでは、がんや免疫などのヒトの疾患に深く関与するシグナル伝達系や転写制御を対象として、これら2つのアプローチを用いた細胞システム学研究の基礎を学びます。
学習目標	1. 代表的な研究事例の文献調査や討論により、システム生物学における基本的な考え方や解析手法を学ぶ 2. モデリング、バイオインフォマティクス、公共データベースなどを利用した研究に必要なコンピュータ解析の基礎と応用を学ぶ 3. 遺伝子発現データなどの網羅的データの解読法の基礎と応用を学ぶ 4. モデリングや遺伝子発現データを利用した細胞機能解析の基礎と応用を学ぶ 5. 基礎から応用まで、細胞のシステム学の手法全般を学ぶ
履修条件	細胞生物学や生化学の基礎を学んでいること コンピュータ計算に興味をもっていること
特記事項	
授業計画	【講義内容】
授業外における学習	教科書・教材にあげた参考書、配布資料にあげる参考文献について自主学習
教科書	適宜、指定します。
参考文献	1. 細胞のシステム生物学. 江口至洋 (共立出版) 2. システム生物学入門-生物回路の設計原理-. Uri Alon 著 倉田博之・宮野悟訳 (共立出版) 3. Molecular Biology of the Cell. 5th edition. 第7章、15章、Alberts, Johnson, Lewis, Raff, Roberts & Walter 著 (Garland Science)

など、アマゾン等から購入可能です。

その他、以下のレクチャー (英語) など。

Uri Alon' s Systems Biology Lecture-YouTube.

http://www.youtube.com/watch?v=Z__BHVFPOLk

適宜、システム生物学の有意義な総説論文 (英語) をお知らせします。

成績評価	出席・レポート・試験・口頭発表などにより総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 細胞核ネットワーク学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Networks in Cell Nucleus
授業コード	249685
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	加納 純子 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	真核生物の生命維持に必要な様々な細胞核内シグナル伝達ネットワークについて解析する。具体的には、様々な実験技術の習得、実験デザインの訓練、研究室内外の他の研究者とのディスカッション、学会発表などを通じて、研究能力の向上を目指す。さらに、関連分野の最新学術論文を読み、それを研究室内で発表、議論することによって、様々な基礎知識を習得する。
学習目標	実験、論文購読、ディスカッションを通して、分子生物学、分子遺伝学、生化学、細胞生物学などの基本技術、および研究の基本理念が習得できる。さらに、学会発表、学術論文をまとめる能力を習得することができる。
履修条件	研究活動への積極的な参加が強く求められる。指示されるのを待つだけでなく、自分で問題点を探し、自ら研究レベルを向上させる能力を習得してほしい。教員や他の研究者との積極的なディスカッションも望まれる。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 学生個人の研究課題は、教員と相談の上、決定する。具体的には、分子生物学、細胞生物学、生化学的手法を用いて、以下の研究内容に関連したテーマに取り組む。 1) 染色体末端に存在する構造体であるテロメアの機能解析。特に、テロメアに結合しているタンパク質群の様々な制御機構やテロメアタンパク質による染色体機能ネットワークの分子基盤の解明。 2) 放射線や紫外線などによって染色体 DNA が損傷した時や、様々な細胞外環境の変化が起こった時などのシグナル伝達に関与するタンパク質群の機能解析。さらに、それらが形成するタンパク質ネットワークの分子基盤の解明。 以上のテーマの順序で講義を進める。ただし、これは予定であり、変更することがある。 【授業計画】 各自の研究テーマを決定し、各指導教員の指導のもと、文献講読・研究・発表・討論などを行う。具体的には、次の内容を適宜進めることで授業を完了する。 1. 研究テーマ (研究計画) の決定。 2. 関連する文献の講読 (専門書や最新論文の読解および批評含む)。 3. 関連する基礎的知識の解説や最新知識の紹介を研究室内で行う。 4. 基本的実験技術や解析手法を習得する。 5. 研究テーマに沿った実験等を実施する。 6. 引き続き、研究テーマに沿った実験等を実施する。 7. 研究成果について研究室内で発表し、議論する。

8. 引き続き、研究テーマに沿った実験等を実施する。適宜、研究テーマに関連する文献の紹介を行う。
9. 学会に参加し、研究成果を発表、または最新情報を得て研究室外の研究者と議論する。
10. 学会で得られた情報、助言を参考にして、研究テーマを推進する。
11. 引き続き、研究テーマに沿った実験を実施する。
12. 研究成果を修士論文研究としてまとめる。
13. まとめた修士論文研究を研究室内で議論し、修正する。
14. 修士論文研究発表を準備し、研究室内で議論する。
15. 修士論文研究発表

授業外における学習

教科書 適宜指示する。

参考文献 適宜指示する。

成績評価 研究に対する取り組み方によって評価する。

コメント

(秋～冬学期) 細胞機能構造学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Cell Structure and Function
授業コード	249604
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	平岡 泰 居室 : 原口 徳子 居室 : 近重 裕次 居室 :
質問受付	連絡先:078-969-2241 連絡時間:随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	細胞の構造と機能に関して高度な知識と、それを解明するための細胞生物学的な方法論について履修することを目的とする。 最新の論文の読解と批判的論評、実験デザインや研究成果に関する発表と議論、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	最新の論文の読解と批判的論評、実験デザインや研究成果に関する発表と議論、プレゼンテーションの訓練などを通じて、学生は、細胞の構造と機能に関して高度な知識と、それを解明するための細胞生物学的な方法論について学ぶことができる。
履修条件	細胞生物学の基本的な講義を履修していることが望ましい
特記事項	必要に応じて指定する
授業計画	【講義内容】 細胞構造解析のための方法論、蛍光顕微鏡の原理、蛍光顕微鏡を用いた細胞構造解析、細胞核構造と機能 (高等生物および下等真核下等)、核細胞質間分子輸送、核膜タンパク質と機能、染色体の構造と機能、減数分裂における染色体構造と機能、染色体構造の制御。 【授業計画】 適宜行う
授業外における学習	直面するテーマや問題について、関連する専門用語や基本的知識を教科書等により確認しておくこと。
教科書	適宜、論文などを用いる
参考文献	Molecular Biology of the Cell
成績評価	発表や討論を通して総合的に評価する
コメント	必要に応じて指定する

(秋～冬学期) 細胞生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Cell Biology
授業コード	249660
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	松野 健治 居室 : 山川 智子 居室 : 稲木 美紀子 居室 :
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物の発生過程において細胞がはたしている機能について、遺伝子レベルで解明するための考え方や方法を理解することを目標とする。
学習目標	発生生物学、細胞生物学の実験について、計画、解釈が自分でできる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 動物発生を細胞レベルで理解するための研究で最新のトピックスを紹介し、内容に関する討論を行うことで理解を深める。
授業外における学習	論文を読む。
教科書	文献をテキストとして用いる。
参考文献	随時文献を用いる。
成績評価	出席点、発表の内容、討論への参加の様子によって評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 情報伝達機構学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Signal Transduction
授業コード	249594
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	岡田 雅人 居室 : 梶原 健太郎 居室 : 名田 茂之 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	動物細胞における細胞外情報の受容機構および情報受容から細胞応答に至る細胞内シグナル伝達機構を個体、細胞、分子レベルで解析し、それらの動物個体の構築、維持、活動における役割を理解する。特に、動物固有の生化学反応である蛋白質チロシンリン酸化のシグナル伝達における本質的な意義、およびその異常による「がん化」のメカニズムを理解する。一方で、関連する基礎的な知識および実験技術の習得をサポートし、研究を自らデザインし得られた成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインおよび成果に関する議論、研究者間の交流、論文作成やプレゼンテーションの訓練を行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。細胞接着・運動の制御における蛋白質チロシンリン酸化の役割、上皮系細胞の増殖・分化制御とチロシンキナーゼシグナル、チロシンキナーゼシグナルの破綻による細胞がん化機構、原始的な多細胞動物におけるチロシンキナーゼシグナルの役割解析、チロシンキナーゼシグナルの構造生物学的解析。
授業外における学習	
教科書	Alberts B. 他:Molecular Biology of the Cell, Darnell J. 他:Molecular Cell Biology. Weinberg RA: The Biology of Cancer.
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究成果とその取りまとめ方、各種発表への取り組み方などにより総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。当初の課題についてその関連知識や研究デザインを十分咀嚼して批判的な姿勢で取り組んで欲しい。実験の意義を十分理解した上でその手技手法を積極的に習得する姿勢が重要である。また、得られた結果を慎重に評価し新たな問題点を見逃さない目を養ってほしい。得意な手法や好きな実験系にいち早く巡り会え、成果を取りまとめる喜びが感じられるような研究活動を期待したい。

(秋～冬学期) 植物細胞生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Plant Cell Biology
授業コード	249575
No.	24BISC5K104
単位数	4
担当教員	高木 慎吾 居室： 浅田 哲弘 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	植物の環境応答や成長現象の仕組み (how)、生理学的意義 (why) について、特に細胞レベルにおける過程に注目し、自立して研究テーマの設定および遂行をできるようにする。教員の指導のもと、関連文献の輪読、研究進捗状況の報告、討論、成果のプレゼンテーション、論文執筆などに取り組む。
学習目標	植物細胞生物学に関する基礎的な知識、先行研究の内容、研究を進めるための方法論などについてディスカッションを通して修得し、修士論文の完成を目指す。
履修条件	特になし。
特記事項	履修生が取り組む研究テーマは全て、中学校および高等学校の専修免許状教科「理科」の科目区分「生物学」に関わるものであり、文献講読、研究方法に関する高度な知識と技能を修得できる。
授業計画	以下の内容から構成される (状況により順序の変更がある)。 第1回:オリエンテーション 「生物学」における植物細胞生物学の位置づけを解説し、文献調査の方法、発表資料の作成法、プレゼンテーションの方法などについて講義する。 第2～7回:関連論文の紹介 植物細胞生物学分野の重要な文献の内容を履修生が紹介し、問題の提示法、研究材料の選択、研究手法の開発、実験結果の解釈などについて討論する。適宜、関連する基礎的知識の解説や最新知見の紹介を行なう。 第8～13回:研究進捗状況の報告 各履修生が取り組んでいる研究テーマについて、研究計画の進捗状況を報告し、研究材料、研究手法についての検討、実験結果の解釈、テーマの展開方向などを詳細に討論する。 第14～15回:総合討論、論文執筆 研究成果のプレゼンテーションを行なう。学会発表、研究科内中間発表の予行などを含む。必要に応じて、論文の添削指導を受ける。
授業外における学習	必要に応じて授業中に指示。
教科書	特になし。発表資料は履修生が準備する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	課題への取り組みの態度、議論の姿勢、発表に対する努力などを総合的に評価する。
コメント	「自分で考える」ためには何が必要か、常に意識して臨んでほしい。

(秋～冬学期) 植物生長生理学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Plant Growth and Development
授業コード	249571
No.	24BISC5K104
単位数	4
担当教員	柿本 辰男 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	形態形成、環境応答、植物ホルモンの代謝や植物ホルモン応答、細胞内構造や機能の一般性と多様性を理解し、これらに関わる問題を、分子生物学、遺伝学、細胞生物学的に深く理解することを目的とする。そのために、分子生物学、遺伝学、細胞生物学等の一般のおよび最新の知識の修得にも務める。セミナーにおいては、学生がテーマを決めて論文や専門書を読解し、内容の発表と議論を行う。また、自身の研究結果の発表と議論を行う。また、自立した研究者として自覚をもって研究出来るようにする。
学習目標	専門分野については専門家のレベルで理解し、議論できる。自ら有効な研究アイデアを考え、新知見を得る事ができる様になる。信頼性の高い研究を行う事ができる様になる。論理的な研究論文を書くことが出来る様になる。
履修条件	よく考え、真剣に取り組むこと。自分の意見を持つこと。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主に扱う内容は、植物の形態形成、環境応答、植物ホルモンの代謝や植物ホルモン応答、細胞内機能に関するものであるが、重要な内容であればこれらに限定されることはない。セミナーにおいては、毎回、学生が自主的に、あるいは教員と相談の上決定する。また、自身の研究目的、進捗、計画についての発表も行い、議論する。また、毎日の研究においては、大学院生は、研究室のメンバーと積極的にかかわり、議論し、研究を進める。
授業外における学習	研究について常に深く考えること。関連論文を熟読することは必須である。
教科書	指定しない。
参考文献	植物の形を決める分子機構、岡田清孝ら監修、1999(秀潤社) 朝倉植物生理学講座シリーズ全5巻 Plant Physiology, Taiz and Zeiger eds. 2002 Sinauer 社 植物ホルモンの分子細胞生物学 2006 年 講談社サイエンティフィック 植物のシグナル伝達 共立出版柿本ら ed. 2010 年
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、テーマや発表論文の理解の深さ、セミナーにおいては積極的に議論に参加しているかなどにより総合的に評価する。研究室セミナーは基本的にすべて参加すること。研究活動は、朝 10 時から夕方 6 時はコアタイムとし、授業休業期間も含む全ての平日の 7 割は研究に専念する事。

コメント	論文セミナーでの発表論文に関しては、徹底的に深く読むことが求められる。また、セミナー参加学生による活発な議論も求められる。さらにこれらの活動を通じて新しい問題点を見だし、自身による新しい発見につなげて欲しい。日常の研究では、研究者としての誇りをもって自分の意見を持つとともに、多くの人とコミュニケーションをとり、柔軟に考える事が重要である。
------	--

(秋～冬学期) 神経可塑性生理学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Synaptic Plasticity
授業コード	249579
No.	24BISC5K112
単位数	4
担当教員	富永 恵子 居室： 生命機能研究科 細胞棟 Email： tomyk[at]fbs.
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	哺乳類の脳機能に関する研究課題に取り組む。また、神経生理学、神経生化学、細胞構造、細胞運動、遺伝子発現、細胞分化、細胞間相互作用、個体行動、疾病などの神経科学の文献を読み、古典から最新までの幅広い知識を習得するとともに、それらの実験結果を生み出した観測・測定技術について学び、各自の研究に活用する。学会での発表、論文での発表にも積極的に取り組ませ、批判を受けとめる能力とそれを次の研究に生かす能力とを涵養する。
学習目標	研究の遂行に必要な一連の基本的作業を習得する。その中には、文献調査、研究計画の立案、研究の実施、結果の整理、成果の発表、などが含まれる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 哺乳類の脳を研究対象とし、体内時計機構、幼若期環境と脳発達、脳の可塑性などの中から、受講生の資質と興味、当該分野の世界的状況、研究室で利用可能な技術を勘案して、教員と相談の上で研究課題を選定する。これら諸領域の古典から最新までの文献について紹介し、原著講読・質疑応答・討論を通じて理解の深化を図る。また、各自の研究課題に関して進捗状況を定期的に紹介し、相互批判を通じて多様な観点を養成する。 【授業計画】 講義は研究室セミナーで行う。 研究指導は随時
授業外における学習	自身の研究課題に直結する知識・技術だけではなく、より幅広い知識・技術を貪欲に吸収するよう心がける。
教科書	適宜紹介する。
参考文献	資料は適宜配布する。
成績評価	研究室内の発表に関しては、自分の発表と他受講生の発表に対する質疑応答の様子をあわせて判定する。学会発表・論文発表に関しては、自己主張する能力と他者から批評を受ける能力とをバランスよく持てたかどうかを評価する。研究に関しては、実験に取り組む姿勢、自分がえた結果に対する客観的判断、他研究者がえた結果との比較対照、理論化などを総合したトータルな研究活動を評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生体高分子溶液学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Biomacromolecular Solutions
授業コード	249618
No.	24BISC5K118
単位数	4
担当教員	佐藤 尚弘 居室： c445 電話： (06)6850-5461 Fax： (06)6850-5461 Email： tsato@chem.sci.osaka-u.ac.jp 寺尾 憲 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などを行う。具体的課題は、教員と相談の上で決定する。修士論文の作成に際しての指導と助言も行う。主として扱うトピックは以下のようなものである。疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合などによって溶液中で形成された生体高分子およびその集合体の構造とその形成機構、高分子集合体間や高分子集合体と低分子・高分子間の相互作用、生体高分子の溶液物性、生体高分子の構造と相互作用のキャラクタリゼーション方法論(光・小角 X 線散乱法、蛍光法、円二色性測定、超遠心法、サイズ排除クロマトグラフィー、核磁気共鳴法、赤外吸収法等)。
学習目標	溶液中での生体高分子およびその集合体の構造、溶液物性、集合体構造と相互作用のキャラクタリゼーション方法論等について、基本から理解することを目的とする。関連する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育て、修士論文の作成を目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション 「化学」における高分子凝集論の位置づけを説明し、研究テーマを決定する。また、授業の概要と研究発表に必要な資料作成法、プレゼンテーション方法について講義する。 第2回 リサーチプロポーザル 決定したテーマに基づき、履修生が具体的な修士論文の研究内容を提案し、指導教員と議論する。 第3～9回 研究論文の紹介 高分子凝集論分野の最新の重要な文献の内容をセミナーに参加している履修生が発表し、研究手法・結果の解釈・生物学における意義について議論を行う。 第10～14回 研究進捗報告プレゼンテーション 高分子凝集論分野における履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について質疑応答を行う。 第15回:総合討論

第4章 生物科学専攻

授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	指定しない
成績評価	研究報告ならびにセミナーへの参加状況 (質問・コメントなどの発言) により総合的に判定する。
コメント	

(秋～冬学期) 生体超分子科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Supramolecular Science of Biomacromolecules
授業コード	249617
No.	24MASC6G403
単位数	4
担当教員	山口 浩靖 居室： G613 電話： 5460 Fax： 5457 Email： hiroyasu@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	生体高分子により形成される超分子、およびその超分子特有の性質を利用した機能発現について基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文の作成に際しての指導と助言を行う。
学習目標	生体超分子に関する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育て、修士論文の作成を目標とする。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 生体高分子の機能化に関する研究を行う。生体高分子をビルディングブロックとして形成される超分子や、生体高分子と機能性低分子化合物との複合体形成によって発現される特異的な機能を探究する。機能性超分子錯体を構築するための生体高分子の合成をテーマとした研究を実施し、その結果をまとめ、報告する方法を指導する。 【授業計画】 生体高分子特有の機能、生体高分子の集積化もしくは人工分子と生体高分子との超分子形成により発現される機能の探求を行う。 1. 生体高分子における分子認識 2. 生体内に存在する機能性分子・超分子 3. 生体高分子 (タンパク質) の構造と機能の相関 4. タンパク質の機能 1< 触媒 > 5. タンパク質の機能 2< 電子移動・エネルギー変換 > 6. タンパク質と補因子との錯体の機能 7. 生体高分子と人工低分子との融合 8. 生体高分子を 1 つのユニットとする超分子合成 9. 生体超分子のキャラクタリゼーション 1< 反応追跡法 > 10. 生体超分子のキャラクタリゼーション 2< 構造観察法 > 11. 生体超分子の機能化 1< 特異的センシング > 12. 生体超分子の機能化 2< 触媒・立体制御 > 13. 生体超分子の機能化 3< エネルギー生産 > 14. 総合討論 15. 総括 ただし、上記記載の項目は進行度合に応じて適宜順序を変更して実施する場合がある。

第4章 生物科学専攻

授業外における学習	授業計画に記載の内容を授業外においても行う。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	実験・研究への参加態度、レポート等を総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生体分子機械学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Biomacromolecular Machines
授業コード	249619
No.	24BISC5K118
単位数	4
担当教員	今田 勝巳 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 A コース 博士前期課程各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生体内で機能する分子機械について、形成機構および作動機構を立体構造に基づいて理解することを目的とする。関連する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	生体内で機能する分子機械について、形成機構および作動機構を立体構造に基づいて理解する。自ら研究計画を立て、実施し、まとめる一連の研究活動を行うことができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 生体分子モーター、タンパク質輸送装置、走化性センサーなどのタンパク質複合体、酸化還元酵素、蛍光タンパク質、並びにこれらを研究するための生化学的、生物物理学的、構造生物学的研究手法。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的な参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢が必要である。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題解決だけでなく、問題を発見する能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 生体分子反応科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Biomolecular Reaction
授業コード	249709
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	黒田 俊一 居室 : 立松 健司 居室 : 岡島 俊英 居室 : 曾宮 正晴 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻博士前期課程 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生物工学、細胞工学、薬物送達学に関する研究指導を行う。特に、最新論文の紹介及び批判的論評、自身の研究成果のとりまとめと発表、国内外の研究者との質疑応答、プレゼンテーションの訓練を行う。担当する具体的課題は教員と相談の上で決定する。主な研究課題は下記の通りである。動物細胞、幹細胞、ハイブリドーマ、再生医学、抗体医薬、ナノメディシン、ナノキャリア、DDS、遺伝子治療、ワクチン。
学習目標	生体内では、多数の生体分子が連続的に相互作用(反応)して、種々の生命現象を維持している。このセミナーでは、生命現象の基本である細胞間・細胞内情報伝達、生体内・細胞内物質輸送、酵素反応などにおける分子機構について、分子生物学、細胞生物学、生化学の観点から総理解を目指す。また、関連する基礎的知識ならびに実験技術の習得、研究立案能力、研究推進能力、研究発表能力を育てる。最終的に各自の修士論文の完成を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション(黒田・岡島・立松・中井) 全体を俯瞰した説明を行い、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義を行い、各履修生に研究テーマを設定する。 第2回 動物細胞工学に関する研究論文紹介(黒田) 最新の重要文献の内容を履修生が発表し、その目的、方法、結果、考察の各項目について意義解説や批判的論評を行って議論する(第11回まで同じ要領) 第3回 幹細胞工学に関する研究論文紹介(黒田) 第4回 ハイブリドーマに関する研究論文紹介(黒田) 第5回 再生医学に関する研究論文紹介(黒田) 第6回 抗体医薬に関する研究論文紹介(立松) 第7回 ナノメディシンに関する研究論文紹介(立松) 第8回 ナノキャリアに関する研究論文紹介(黒田) 第9回 DDSに関する研究論文紹介(岡島・中井) 第10回 遺伝子治療に関する研究論文紹介(岡島・中井) 第11回 ワクチンに関する研究論文紹介(岡島) 第12回 研究進捗状況報告と指導(特に序論の書き方)(黒田) 履修生の研究進捗状況報告(約30分)、質疑応答(約30分)、および論文の書き方の指導(約30分)を行う(第14回まで同じ要領)

第 13 回 研究進捗状況報告と指導 (特に研究方法、結果の書き方)(黒田)

第 14 回 研究進捗状況報告と指導 (特に考察の書き方)(黒田)

第 15 回 総合討論 (黒田・岡島・立松・中井)

授業外における学習	授業期間外であっても,可能な限り文献調査,実験,論文執筆を進めること.
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題・関連研究課題に対して取り組む姿勢 50%、成果 50%により総合的に判断する。
コメント	

(秋～冬学期) 生物分子情報学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Systems Biology
授業コード	249657
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	北島 智也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	研究テーマを教員と相談の上で決定し、課題に必要な基礎知識を学習するとともに、具体的な研究指導を行う。重要な学術論文の紹介および論評、実験技術の訓練、データの正しい取り扱い方の習得、質疑応答および議論、プレゼンテーション技術の習得と実践などが含まれる。主として扱うトピックは、以下のとおりである。 染色体分配、染色体接着、動原体、紡錘体形成、減数分裂、卵母細胞、細胞の顕微操作法、生細胞の観察法、画像の処理および定量的解析法、軸形成、濃度勾配、胚発生、スケーリング、発生場の制御、胚操作、発生過程のイメージング、発生場の頑強性
学習目標	動物の発生過程を理解するには、細胞分裂、細胞間コミュニケーション、形態形成などの生命現象が、時空間的にどのように制御されているかを解明し、それらを統合した発生システムとして理解することが重要である。 このセミナーでは、発生過程における個々の生命現象について基礎的知識を身に付ける。また、研究計画をデザインし、実験結果を正しくまとめ、その結果について考察する能力を養う。自身の研究をプレゼンテーションする技術を学び、最終的に修士論文の完成を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	各自の研究テーマを決定し、それにもとづいて文献講読・研究・発表・討論などを行う。具体的には、次の内容を適宜進めることで授業を完了する。 1. 研究分野の概要を学習し、研究テーマ(研究計画)を決定する。 2. 各自の研究テーマに関連する文献(専門書や重要論文)を読解し、各自がその内容について紹介・批評を行う。また、適宜、関連する基礎的知識の解説や最新知識の紹介を行う。 3. 各自の研究の進捗状況をプレゼンテーション形式で報告し、実験デザインの妥当性、実験結果の正しい取り扱い、実験結果の解釈および考察などについて、質疑応答および議論を行う。
授業外における学習	次回の授業について予習し、専門用語等の意味を理解しておくこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	Nature, Cell, Science, Gene. Dev., Development などの重要論文。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生物分子情報学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Systems Biology
授業コード	249607
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	猪股 秀彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	各自、独立した研究テーマを教員と相談し決定する。研究テーマ遂行のために、論文の読解力を深め、自身で具体的な研究方針・研究計画を立案できるように指導を行う。具体的には、教員とのディスカッションによる研究の進捗状況の確認、セミナーにおける文献紹介、プロGRESSによるプレゼンテーションの実践・指導を行う。本授業では主に、変形する発生場における濃度勾配依存的なパターン形成、分泌蛋白質の時空間制御、体液動態と発生システムの相互機序、発生システムの頑強性、に注目して研究を行う。 主な研究内容: アフリカツメガエル・ゼブラフィッシュを用いた胚操作、インジェクション、変異体・トランスジェニックの作製、モルフォゲンのイメージング・解析、体液動態のイメージング・解析、画像解析、化学物質・光活性型蛋白質を用いた時空間制御、生化学的手法を用いた定量解析
学習目標	複雑な発生システムを理解するためには、胚を構成する細胞間の相互制御を理解する必要がある。本授業では、細胞間コミュニケーションの中心的な役割を担っている分泌蛋白質に注目して、発生システムの動的なパターン形成・頑強性・発生場の変形を議論できるようにする。さらに、人為的に細胞間の相互制御をコントロールすることにより、自由自在に発生システムを操る新規技術の開発を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下に示す流れで授業をすすめる。 1. 研究の概要を学び、自身の研究テーマを決定する 2. セミナー、ディスカッションを通じて、文献を適切に理解・評価できるようにする 3. プロGRESS、ディスカッションを通じて、実験結果を適切に解析・評価できるようにする 4. 文献、研究結果をもとに自身で研究計画を立案できるようにする 5. 上記を通じて、プレゼンテーション技術の向上、及び博士論文の発表を目指す
授業外における学習	関連する文献を読み、理解すること。
教科書	適宜提示する。
参考文献	論文 (Cell, Nature, Science, Developmental Cell, Development など) 教科書 (Developmental Biology/Gilbert など)
成績評価	研究に対する取り組み、ディスカッション、セミナー、プロGRESS、研究成果を総合して判断する。
コメント	

(秋～冬学期) 生命誌学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Biohistory
授業コード	249605
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	蘇 智慧 居室 : 橋本 主税 居室 : 小田 広樹 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物の共通性と多様性について、分子生物学、発生生物学、細胞生物学、分子系統進化学、形態学、生態学、等の、種々の観点からの理解を深める。一方、それらの理解を統合して、「生命とはなにか」についての一般的理解を進める努力を行う。また、得られた(生物学的)知見を、社会に向けて発信する方法についても理解する。以上に関連する基礎的なおよび(実験)技術の理解にも努める。また、研究を自ら計画し、実施し、成果を取りまとめるのに必要な力も育成する。
学習目標	学生は生物学の基礎となる進化、発生と生態などの種々の観点から生物の共通性と多様性に関する理解を深めることができる。 学生は研究を自ら計画し、実施し、成果を取りまとめるのに必要な力を育成することができる。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	(1) 院生自身の作成した研究計画および研究結果についての議論、(2) 専門書や最新論文の読解および批評、(3) プレゼンテーションの訓練、などを含む。具体的な課題・資料については、主として以下のようなトピックを扱ったものの中から、教員とよく相談した上で決定する。 生物多様性の分子機構、分子に基づく生物の系統進化、共進化に関わる生物の分子系統、昆虫と植物の共生・共進化、昆虫の味覚受容と食草選択、昆虫の形態と機能の関連性、細胞システムと発生メカニズムの進化、両生類のパターン形成、科学に関するコミュニケーション。また、専門書や論文を使用する場合は、以上のものに関連する「周辺」のトピック、および「基礎的知識」を述べたものも、適宜取り上げる。
授業外における学習	関連の学術論文や専門書を利用して予習と復習を行う。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題や文献資料に対して取り組む姿勢と、その成果等を総合的に判断して評価する。
コメント	学生の主体的参加を強く希望する。自分の研究に関わるものについては言うまでもなく、文献資料に取り組む場合においても、それらを「理解」するだけでなく、的確に「批評」し、問題点があれば、それを克服する方法の「提案」なども望みたい。また、他者の発表を聞くにあたっては、同様の積極的な態度を希望している。その中で、自分で研究を進める力を育成してほしいと願っている。

(秋～冬学期) 代謝調節機構学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Mechanisms of Metabolic Control
授業コード	249593
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	奥村 宣明 居室： 115(蛋白研本館) 電話： 06-6879-4312 Fax： 06-6879-4332 Email： nokumura@protein.osaka-u.ac.jp
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	この授業では、生物学における生化学ならびに生理学分野に関する研究指導を行う。専門書や最新論文の紹介および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他の研究者との質疑応答、プレゼンテーションの訓練を通じて、学生はこの分野の研究者に必要なとされる基礎的な思考力と表現力を身につけることができる。具体的課題は教員と相談の上決定する。主として扱うトピックスを以下に示す。蛋白質・ペプチドの代謝、糖代謝、酵素の構造と機能、ホルモンと自律神経、エネルギー代謝調節機構、消化と吸収。
学習目標	生物学を理解する上で、生体内での物質代謝やエネルギー代謝の恒常性 (ホメオスタシス) 維持機構を解明することは基本的に重要である。このセミナーでは、哺乳類の代謝、摂食、消化吸收、血糖調節などの機構とそのホルモンや神経による調節機構について、生化学、生理学、分子生物学などの観点から統合的に理解することを目指す。そのために、関連する基礎的知識と技術の理解に努め、自ら実験を計画し、実践し、成果を取りまとめる能力を身につけるようにする。最終的に各自の博士論文の完成を目指す。
履修条件	なし。
特記事項	なし。
授業計画	以下の内容から構成される。(状況により順序の変更がある)。 第1回:オリエンテーション 「生物学」における生化学、生理学の位置づけを説明し、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第2?9回:研究論文の紹介 生化学、生理学分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究手法・結果の解釈・生物学における意義について議論を行う。 第10?14回:研究進捗報告プレゼンテーション 生化学、生理学分野における履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について質疑応答を行う。 第15回:総合討論
授業外における学習	専門分野における過去の論文、ならびに最新の論文を調査し、専門の知識と考え方を身につける。また、研究室内外の交流、学会への参加を通じ、他の研究者とのディスカッションを行う。
教科書	特に定めない。随時文献を紹介する。
参考文献	特に定めない。随時文献を紹介する。

成績評価	研究課題に対する取組み姿勢、成果、論文や学会発表などの各種発表への取組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	知識を網羅的に紹介するではなく、新たな発見や方法論の開発などの過程を解説し、それを体験させて科学的な研究のすすめ方を体得させたい。

(秋～冬学期) 蛋白質ナノ科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Nanobiology
授業コード	249715
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	原田 慶恵 居室 : 担当未定 居室 :
質問受付	月～金 9:30～18:30
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	タンパク質が働くしくみについての基礎的な知識、タンパク質分子の機能解析についての先行研究の内容、研究の方法論などについて理解し、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	タンパク質が働くしくみについて、生物物理学的手法によってこれまでどのようなことが明らかになったのか、まだわかっていないことについて調べるにはどのような実験をしたらよいのかについて論じることができるようになる。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	第1～15回:タンパク質が働くしくみについて、生物物理学的手法によって行われた研究のうち、学生が選んだテーマについてグループワーク、グループディスカッションを行う。
授業外における学習	テーマの選択および、グループワーク、グループディスカッションのための資料作成
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	日常の向上心、探究心、努力や研究成果などを総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 蛋白質結晶学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Crystallography
授業コード	249566
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	栗栖 源嗣 居室 : 田中 秀明 居室 :
質問受付	月～土,9:30-18:00
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	蛋白質結晶学に関連した研究分野の基礎的理解を深めさせ、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。修士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	蛋白質の多様な機能を、結晶構造や NMR など分光測定の情報に基づいて論じることができるようになる。特に、光合成タンパク質や分子モーターのエネルギー変換の仕組みを、構造科学的に他者へ説明できるようになる。
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 蛋白質の機能に関する先端的研究課題の指導、とくに理論、実験法、データ解析法、研究成果発表法について指導する。 第1～15回 学生が選んだテーマによるグループワーク、グループディスカッション
授業外における学習	蛋白質立体構造データベースなどを併用することにより、最新情報を取り入れて学習すること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	日常の向上心・努力と研究成果で評価する。
コメント	特になし

(秋～冬学期) 蛋白質細胞生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Cell Biology
授業コード	249591
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	篠原 彰 居室 : 松崎 健一郎 居室 :
質問受付	随時、在室するときはいいつでも質問など受け付け可能
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	真核生物における組換え、体細胞分裂期の DNA2 重鎖切断修復、減数分裂期のキアズマ形成の分子メカニズムを理解する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	ゲノム、染色体の関わる生命現象の論文を講読することで、研究の成り立ちを理解することをメインに、自分の関わっている研究分野の最新の情報を俯瞰的に取得することで、理解度を深化させる。特に、研究の目的、結果の確実な理解を目指す。さらには、批判的に読む姿勢を身につけることで、より確実な研究を行う、つまり自分自身の研究を客観視出来る姿勢を身につける。
履修条件	分子遺伝学、分子生物学、生化学の基本的な知識を有している
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 相同組換えや減数分裂期組換えに関わる遺伝子、蛋白質の分子レベルでの機能の解明 テロメアの組換えによる伸長反応の解析 細胞内での組換え反応の解析 ヒストンの修飾の組換えへの関わりの解析 減数分裂期の細胞周期の制御機構の解析
授業外における学習	関連論文を読むことで、自身の行っている研究分野の状況を俯瞰的に理解し、自身の理解度を再度確認する。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるか、そしてそこから新規性をいかに生み出すかを考えていく、積極的な姿勢を必要とする。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培って欲しい。

(秋～冬学期) 蛋白質物理化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Physical Chemistry
授業コード	249600
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	後藤 祐児 居室 : LEE YOUNG HO 居室 : 宗 正智 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	蛋白質は生命現象を支える代表的な生体高分子である。アミノ酸が一次元的に配列した蛋白質は、フォールディングして特異的な立体構造を形成することにより、機能物質としての多様な役割を果たす。また、間違ったフォールディング反応がさまざまな病気の原因となることも明らかになってきている。セミナーでは、蛋白質の構造、物性、フォールディング反応に関連する基礎的な知識および実験技術の理解に努める。また、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	学生は、蛋白質の構造、物性、フォールディング反応に関連する基礎的な知識および実験技術を理解することができる。また、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめることができる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションをすることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。蛋白質の構造と物性、蛋白質の変性、蛋白質のフォールディング、フォールディングと分子シャペロン、ミスフォールディングと病気、酵素の構造安定性と機能、蛋白質の分子設計。
授業外における学習	学生は、蛋白質の構造、物性、フォールディング反応に関連する基礎的な知識および実験技術を理解するための学習、また、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめるための学習を、授業外で行う。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他とどのような関連性を持っているのか、どのような考察が可能であるかを考えていく。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 蛋白質有機化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Organic Chemistry
授業コード	249583
No.	24BISC5K117
単位数	4
担当教員	北條 裕信 居室 : 川上 徹 居室 : 朝比奈 雄也 居室 :
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	実験や論文の講読を通して、生物学ならびに化学の視点から広く蛋白質分子を考察できる人材の育成を目指して指導を行う。すなわち、アミノ酸・ペプチド・蛋白質の分子構造と化学的性質、これらの分子の人為的合成における反応、精製、確認法等についての基礎的事項を習得させるとともに、膜蛋白質ならびに修飾蛋白質の構造解析の手法や機能発現機構を分子レベルで理解させる。さらに、研究の企画、研究結果の取りまとめと発表の訓練などを行う。
学習目標	1. ペプチド合成の基礎について説明できること 2. ライゲーション法の基礎について説明できること
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 ライゲーション法に基づく蛋白質の合成化学、蛋白質の化学的変換による合成ブロックの調製法、反応場としてのミセルと脂質、膜蛋白質の精製法と確認法、膜蛋白質の構造形成を指向した膜蛋白質・脂質複合体の調製法、膜蛋白質の構造解析法、修飾蛋白質の特異的検出手法の開発と蛋白質の解析
授業外における学習	タンパク質、糖タンパク質の最新論文をサーチすること
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	蛋白質の合成化学的研究により開発された手法を生命現象の解明に応用することにより、独自の生物科学の展開を目指す。この営みを通して研究指導を行う。

(秋～冬学期) 超分子構造解析学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Supramolecular Crystallography
授業コード	249586
No.	24BISC5K116
単位数	4
担当教員	中川 敦史 居室 : 山下 栄樹 居室 : 鈴木 守 居室 :
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生体超分子複合体やタンパク質の立体構造決定と構造を通じた機能の解明を行う。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。 具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	生体超分子複合体やタンパク質の立体構造決定と構造を通じた機能の解明を行うことができる。関連の基礎的な知識および実験技術を理解できる。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。 主として扱うトピックは以下のようなものである。 蛋白質複合体やウイルスなどの生体超分子複合体の構造解析、タンパク質の構造解析、X線結晶構造解析法の開発など。
授業外における学習	参考資料を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 糖鎖生化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Sugar Chain Biochemistry
授業コード	249596
No.	24BISC5K118
単位数	4
担当教員	梶原 康宏 居室 : 岡本 亮 居室 :
質問受付	随時
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。
学習目標	最先端の糖質研究、糖鎖科学、タンパク質化学を理解する
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	1:最新糖質化学 1 2:最新糖質化学 2 3:最新糖鎖化学 1 4:最新糖鎖化学 2 5:最新タンパク質化学 1 6:最新タンパク質化学 2 7:最新糖タンパク質化学 1 8:最新糖タンパク質化学 2 9:最新複合糖質化学 1 10:最新複合糖質化学 2 11:タンパク質フォールディング 1 12:タンパク質フォールディング 2 13:翻訳後修飾 1 14:翻訳後修飾 2 15:翻訳後修飾 3
授業外における学習	国際誌を常に読み先端研究の流れを理解する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

(秋～冬学期) 発生生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Developmental Biology
授業コード	249576
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	西田 宏記 居室： 理学棟 C411 室 電話： 5472 Fax： 06-6850-5472 Email： hnishida[at]bio.sci. 今井 薫 居室： 小沼 健 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	動物の胚発生に関し、発生運命の決定、形態形成などの過程を分子および細胞レベルで理解する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。
学習目標	実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめることができるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。発生過程の観察、遺伝子の発現とその役割の解析などに関して、顕微胚操作、遺伝子工学的手法、顕微イメージングなどを駆使し、動物の胚発生に関する理解を深める。特に、卵細胞内に蓄えられている情報、発生が始まってから起こる誘導的細胞間相互作用に焦点を置く。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
授業外における学習	特になし。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることでどのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢が必要となる。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

(秋～冬学期) 分子遺伝学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Molecular Genetics
授業コード	249570
No.	24BISC5K113
単位数	4
担当教員	中川 拓郎 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生命現象を分子レベルで解明し、それらを統合して全体像を理解する。このセミナーでは、生命の本質である、クロマチン構造、染色体複製、DNA 組換え、DNA 損傷修復、細胞周期制御などについて、遺伝学、生化学、細胞生物学などのアプローチを駆使して総合的理解をめざす。生物学における分子遺伝学分野に関する研究指導を行う。専門書や最新論文の紹介および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他の研究者(大学院生を含む)との質疑応答、プレゼンテーションの訓練が含まれる。具体的な研究テーマを学生と教員で相談の上で決定する。 主として扱うトピックを以下に示す。 真核生物の染色体異常の発生メカニズム、染色体異常の抑制メカニズム、複製フォークの安定維持機構、クロマチン構造と染色体維持との関連、セントロメア機能、テロメア機能、染色体凝縮、染色体接着、染色体分配
学習目標	このセミナーでは生命の基本である「染色体の安定維持機構」を研究する上で必要となる基礎的知識、及び、実験技術を習得する。また、研究をデザインする能力、実践する能力、さらに成果を取りまとめる能力を身に付ける。そして、自分自身が筆頭著者となる論文を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 以下の内容から構成される(状況により順序の変更がある)。 第1回 オリエンテーション 「生物学」における分子遺伝学の位置づけを説明し、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第2～7回:研究論文の紹介 分子遺伝学分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究手法・結果の解釈・生物学における意義について議論を行う。 第8～14回:研究進捗報告プレゼンテーション 分子遺伝学分野における履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について質疑応答を行う。 第15回:総合討論
授業外における学習	セミナーで取り上げる科学論文とその背景について、事前のリサーチが求められる。また、セミナー後に発表に対する意見を記入したワークシートを提出する。
教科書	適宜指示する

参考文献	Nature, Cell, Science などの重要論文
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する
コメント	本セミナーで取り組む研究テーマは、中学校ならびに高等学校の専修免許教科「理科」の科目区分「生物学」の文献講読、研究方法に関する高度な知識と能力を獲得できる。

(秋～冬学期) 分子細胞運動学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on cell motility
授業コード	249707
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	昆 隆英 居室： 理学研究科本館 A313 Email： takahide.kon@bio.sci.osaka-u.ac.jp 山本 遼介 居室： 理学研究科本館 A301 今井 洋 居室： 理学研究科本館 A301
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	細胞移動, 細胞分裂, 細胞内物質輸送を駆動する分子機構を原子レベルで深く理解することを目的とする. そのために, 構造生物学, 細胞生物学, 分子生物学の一般および最先端の知識の修得に務める. セミナーにおいては, 学生がテーマを決めて学術論文や専門書を深く読解し, 内容の発表と議論を行う. また, 自身の研究についての進捗状況と課題・成果の発表報告を行い, 教員や他の大学院生と議論を深めることで, 問題を解決し新たな研究の方向性を見出す機会とする.
学習目標	研究分野の知識と成果について, 世界の第一人者となるべく全力を尽くす. 自ら研究アイデアを常に考え, その目的を達成するために最適な技術要素を検討し, 試行錯誤で研究を遂行し, 必要に応じて共同研究を展開し, 他研究者を十分納得させられるだけの質と量のデータを出し, そして学術論文としてまとめることを目標とする.
履修条件	
特記事項	
授業計画	主に扱う研究テーマは, 細胞移動, 細胞分裂, 細胞内物質輸送に関してそのしくみを原子レベルで理解することを目標とするものであるが, 生物学的に重要な課題であれば, これらに限定されることはない. セミナーでの発表内容は, 基本的に学生が自主的に決めるべきものであるが, 必要に応じて, 教員と相談の上で決定してもよい.
授業外における学習	授業期間外であっても, 可能な限り文献調査, 実験, 論文執筆を進めること.
教科書	指定しない.
参考文献	指定しない.
成績評価	以下のポイントを基に総合的に評価する ・ 研究課題に真剣に全力で取り組んでいるか. ・ 論文セミナーでは, 論文を徹底的に深く読み込み, 質問に対しては適切に対応できているか ・ 研究室セミナーは基本的すべて出席しているか.
コメント	

(秋～冬学期) 分子創製学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Protein Synthesis and Expression
授業コード	249661
No.	24BISC5K114
単位数	4
担当教員	高木 淳一 居室 : 岩崎 憲治 居室 : 北郷 悠 居室 : 担当未定 居室 :
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	多細胞生物の生理機能に必須であるレセプターを介したシグナル伝達機構に関する総合的な理解を深めるため、構造生物学の手法を駆使したアプローチをとった最先端の研究を遂行し、同時に世界のトップクラスの研究者による最新の論文の批判的に深く読み込むことで研究者としての素養を養う。
学習目標	自身の研究テーマの内容と背景に精通し、その進捗状況も含めて理解しやすい発表ができるようになる。また、関連分野の重要な論文をサーベイし、その内容について把握する。
履修条件	日常的に研究室における実験研究を遂行するとともに、月に2～3回程度行われる研究室セミナーに参加する。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 (1) レセプター細胞外および膜貫通領域の構造決定、(2) レセプター・リガンド間の親和性を決定する構造因子の同定とその利用、(3) 構造解析や精密な生化学的・物理化学的実験に供するための、困難な組み替えタンパク質の発現・精製系の構築
授業外における学習	自らの研究テーマに関連する最新の科学トピックスについて、最新の情報を常にアップデートすることを心がけること。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、知識・技術の取得、研究成果などにより総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 分子発生学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Molecular and Developmental Biology
授業コード	249662
No.	24BISC5K112
単位数	4
担当教員	古川 貴久 居室 : 大森 義裕 居室 : 茶屋 太郎 居室 :
質問受付	随時。
履修対象	生物科学専攻博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	発生学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学に関わる広範な分野の大きな発見を報告した重要な論文を精読し、その研究領域のバックグラウンドの知識を習得するとともに、討論を通じて論文を「建設的に批判的に」読む力を養う。
学習目標	学生はこの授業を通じて発生学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学などの分野における基礎知識を身に付けることができる。
履修条件	発生学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学に関わる広範な分野の大きな発見を報告した重要な論文を精読し、その研究領域のバックグラウンドの知識を習得するとともに、討論を通じて論文を「建設的に批判的に」読む力を養う。
特記事項	
授業計画	【授業計画】 第1回 オリエンテーション (担当:古川) 各自担当の論文などの案内を行うほか、論文の読み方やプレゼンテーション方法について講義をする。 第2回以降 (担当:古川、大森、茶屋) 各自に割り当てられた論文について、担当教員の指導のもと、論文内容について発表と討論を行う。各1時間半の授業を毎週1回行う。
授業外における学習	学生は指定された教科書や総説を読む。
教科書	特に定めない。随時文献を紹介する。
参考文献	
成績評価	出席点のほか、発表内容、討論時の積極性などを勘案する。
コメント	

(秋～冬学期) 膜蛋白質化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar on Membrane Protein Chemistry
授業コード	249565
No.	24BISC5K115
単位数	4
担当教員	三間 穰治 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	膜蛋白質化学を研究手法・実験技術の中心とした、メンブレントラフィック分野の研究において、その領域の研究動向を調査しつつ、各自の研究テーマについて研究・実験を進める。定期的に中間発表を行い、研究・実験と共に討論を通じて修士論文の発表へと繋げる。
学習目標	膜蛋白質化学を研究手法・実験技術の中心とした、メンブレントラフィック分野の研究において、その領域の研究背景と最新の研究動向を把握・理解しつつ、各自の研究テーマについて研究・実験を主体的に進める。定期的に中間発表を行い、研究・実験と共に討論を通じて、研究背景・目的を十分に理解したうえで取得した実験データの解析・考察までに行い、修士論文の発表へと繋げる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 膜蛋白質化学・メンブレントラフィック分野における各自の研究テーマを決定し、指導教員の指導のもと、研究・実験・発表・討論を行う。また、当該分野の最新かつトップレベルの研究論文を精読し、最新研究情報を収集すると共に、自身の研究計画・デザインに活かす。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション 各人の研究テーマの設定についてミーティングを行い、研究課題を決定した後、その具体的な研究・実験方法や戦略、予想される展開などについて指導及び討論を行う。 第2回以降 各自研究テーマにより、担当教員の指導のもと、研究・実験を進め、定期的に研究・実験成果の発表および議論を行うとともに、随時研究の方向性・実験方法や技術について指導を行う。また、最新の文献についても定期的に発表・討論を行う。 最終回 最終発表および教員による評価・講評。
授業外における学習	特に定めない
教科書	特に定めない。随時文献などを紹介する。
参考文献	特に定めない。随時文献などを紹介する。
成績評価	各人の研究テーマへの取り組み、研究発表、討論について、総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 理論生物学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in theoretical biology
授業コード	249582
No.	24BISC5K111
単位数	4
担当教員	藤本 仰一 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	1. 生命現象に対する数理的な思考能力と解析能力の基礎を身につける。 2. 数理モデル作成に必要な数学、物理、プログラミングの能力を身につける。 3. 興味ある生命現象の数理モデルを構築し、計算機実験を行い、これらの能力を深める。 4. 学習や研究の成果を発表する技術をつける。
学習目標	
履修条件	C 言語等のプログラミングや学部 1,2 年レベルの数学と物理の素養があることが望ましいが、必要条件ではない。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理科学の基礎的事項を手計算と計算機実験を通して身につけるとともに、それらの生命科学への応用例を論文講読を通じて学ぶ。 加えて、数理モデルを独力で新規に構築し、モデル作成能力と定量的な解析能力を養う。 【授業計画】 常微分方程式、線形代数、確率過程、拡散、振動波動などの数理科学の基礎の手計算による演習。 関連する解析を行った生物実験の論文講読。 常微分方程式の解の振る舞いを記述するプログラムを作成し、計算機実験を行う。 上記基礎的事項の復習と、解析的には解けない非線形系の学習を計算機実験により行う。 理論生物学の古典的論文の講読、および、関連する数理モデルの計算機実験。 興味ある現象の数理モデル構築および計算機実験による解析。 生物実験データの定量的な解析への応用。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	U.Alon “An introduction to Systems Biology” (CRC press. 2006)
成績評価	学習、計算機実験、議論、発表への積極な取り組み。 数理科学的な思考能力や解析能力と、プログラミング能力の習得度。
コメント	

生物科学インタラクティブセミナーI

英語表記	Interactive Seminar I for Research in Biological Sciences
授業コード	241198
No.	24BISC9K130
単位数	1
担当教員	藤本 仰一 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 1 年次 選択
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	複数の研究室に所属することにより、幅広い世界を知り、異分野の感覚を吸収し、主専攻での活動の位置を素直に認識できるようになることが一つの目標である。また、社会に羽ばたいた時に、仕事を客観的に捉えることができることの助けになれば幸いである。
学習目標	受講生は、視野の広い見方で研究を考える事ができる様になる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主配属の研究室とは違った研究室の活動に参加し、副配属研究室の教官により、セミナーなどの指導が行われる。副配属研究室は、化学、高分子専攻、生物科学専攻の研究室の中から一つを選択する。 【授業計画】 受講生は、主配属の研究室以外の研究室に副配属され、副配属研究室のセミナーや研究活動に参加する。副研究室では研究発表を行い議論するとともに、副研究室で行われている分野の研究を理解する。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	副配属の研究室セミナー等での取り組みを通じて評価する。
コメント	

生物科学インタラクティブセミナー II

英語表記	Interactive Seminar II for Research in Biological Sciences
授業コード	241199
No.	24BISC9K130
単位数	1
担当教員	藤本 仰一 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 2 年次 選択
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	複数の研究室に所属することにより、幅広い世界を知り、異分野の感覚を吸収し、主専攻での活動の位置を素直に認識できるようになることが一つの目標である。また、社会に羽ばたいた時に、仕事を客観的に捉えることができることの助けになれば幸いである。
学習目標	受講生は、視野の広い見方で研究を考える事ができる様になる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主配属の研究室とは違った研究室の活動に参加し、副配属研究室の教官により、セミナーなどの指導が行われる。副配属研究室は、化学、高分子専攻、生物科学専攻の研究室の中から一つを選択する 【授業計画】 受講生は、主配属の研究室以外の研究室に副配属され、副配属研究室のセミナーや研究活動に参加する。副研究室では研究発表を行い議論するとともに、副研究室で行われている分野の研究を理解する。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	副配属の研究室セミナー等での取り組みを通じて評価する。
コメント	

4.2 生物科学専攻 後期課程

1 分子生物学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Single Molecule Biology
授業コード	241437
No.	24BISC7K114
単位数	9
担当教員	上田 昌宏 居室 : 宮永 之寛 居室 :
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	細胞内シグナル伝達、細胞内自己組織化、細胞応答、細胞運動、細胞極性、多細胞体形成、遺伝子発現調節、環境適応、発生・分化などの動的な生命現象について、定量計測および理論・計算機シミュレーションを用いた基礎的な研究を行なう。先端的光学顕微鏡の開発、画像処理手法の開発、細胞動態の理論・計算機シミュレーション法の開発などの技術開発も含む。教員との相談の上、これらの研究領域から各自で研究課題を決定し、研究を実施する。また、得られた研究成果を科学的にまとめ、発表する能力、問題点を討論する能力を習得し、原著論文・博士論文の発表へと繋げる。
学習目標	各自の携わる研究課題を自ら実施する。研究計画立案、実施、研究の進捗状況の整理と報告、他の研究者との質疑応答・討論、プレゼンテーションの訓練など、実践的な研究指導を通じて、基礎的な知識・技術を習得し、自立した研究者としての基礎を充実させる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション (担当:上田昌宏): 研究課題の決定までのプロセスや期日などの案内を行なうほか、研究の進捗状況の発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法、安全に実験を行なうための安全衛生管理、研究不正の防止等について講義をする。 第2回 研究課題の立案と報告 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 教員の指導のもと、各自の研究課題を決定し、関連した歴史的文献、最新の文献の調査を行い、各自の研究課題の内容とその意義について発表・討論を行なう。 第3回 研究実施計画の立案の報告 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 教員の指導のもと、各自の研究課題に関連して習得すべき基礎知識や実験技術・理論などの研究方法を整理し、研究の実施計画を立案する。セミナーにおいて、研究計画を発表・討論することにより、他の研究者からの批判・批評を十分に受けた上で各自の研究課題の実施方法をさらに練り上げる。 第4回～第27回 研究進捗状況の報告 (担当:上田昌宏、宮永之寛): 各自の研究課題について、担当教員の指導のもと研究を進め、研究の進捗状況の報告、中間発表、討論を行なう。他の研究者からの批判・批評を自身の研究の進め方にフィードバックさせることを通じて、自立的に研究を進める方法を学ぶ。

第4章 生物科学専攻

第28回 研究成果の公表 (担当:上田昌宏、宮永之寛):

研究の進展に応じて、学会等における発表を行なう。学会発表のための資料作成、英語による口頭発表・ポスター発表の準備について指導する。研究の進展に依存するため、全ての学生に求めるものではない。

第29回 研究成果の原著論文の作成 (担当:上田昌宏、宮永之寛):

研究の進展に応じて、原著論文の発表を行なう。原著論文の執筆方法、学術雑誌への投稿方法、査読者からのコメントへの対応など原著論文が受理されるまでの一連のプロセスについて学生に対して個別に指導する。研究の進展に依存するため、全ての学生に求めるものではない。

第30回 最終回 (担当:上田昌宏、宮永之寛):

最終発表および各教員による講評。

授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	特に定めない。各学生に応じて適宜適切な原著論文や総説等の文献を紹介する。
参考文献	特に定めない。各学生に応じて適宜適切な参考書・参考資料を紹介する。
成績評価	研究課題に取り組む日々の姿勢 (25%) の他、セミナーへの出席 (25%)、研究の進捗状況に関する発表の内容 (25%)、討論時の積極性 (25%) などを勘案し、総合的に評価する。
コメント	

オルガネラバイオロジー特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Organelle Biology
授業コード	241717
No.	24BISC7K113
単位数	9
担当教員	中井 正人 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	真核細胞を対象として、細胞内小器官を含めて細胞を構成する様々な部品の働きや生合成機構を、原子レベルの構造から反応機構、代謝機能、個体における生理作用、さらにはそれらの進化的変遷や、それらの知見を利用した応用研究など、幅広い視点で理解する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者などとの議論、などが含まれる。
学習目標	細胞の成り立ちを分子レベルから個体レベルまで様々な視点で捉えるために必要な基礎知識を習得するとともに、問題提起や作業仮説の設定とその解決能力、および科学討論力を養う事を目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 真核細胞構築の基本概念、光化学系と呼吸鎖蛋白質超分子複合体、オルガネラ形成と維持に関わる分子装置、細胞の様々な代謝機能および生理機能、オルガネラ蛋白質の細胞内輸送、蛋白質の膜透過、オルガネラと核のクロストーク、植物のゲノム研究、植物機能の改変・開発
授業外における学習	学習目標を達成するため、各授業に先立って、関連分野の文献を読むなどして、予備知識の習得を各自が行う。また、授業後に、さらに関連分野の論文等を深く読む事により発展的学習を進める。また、得られた知識を応用や利用に繋げていく可能性についても、自ら考え、担当教員と議論する。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。

コメント	学生の主体的参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでない、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。
------	---

核機能学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Nuclear Functions
授業コード	240875
No.	24BISC7K113
単位数	9
担当教員	久保田 弓子 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	ゲノム情報の伝達と発現制御機構を解明する上で最も重要な課題である核の構造と機能について基本的な理解を深め、また最先端の研究成果を理解する能力を修得することを目的とする。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究企画に関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者とのなどとの議論、などが含まれる。
学習目標	核の構造と機能について、最新の研究成果をもとに、教員や学生と議論できるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。クロマチン構造、ヌクレオソームからクロマチン繊維、染色体の構築、染色体構造の変化、核と細胞質の相互作用、クロマチン形成、核内の過程、クロマチンとトランス因子の作用、クロマチン構造とプロセッシング酵素の相互作用など
授業外における学習	研究課題、論文発表の準備を行う
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。 研究課題への取り組み姿勢 50% 各種発表への取り組み姿勢 50%
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識と統合することで、どのような考察が可能であるかを考える、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

感覚生理学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Sensory Physiology
授業コード	240882
No.	24BISC7K112
単位数	9
担当教員	橘木 修志 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生物は外界からの刺激を情報とし、種々の生物的活動を営んでいる。外界からの刺激には、光 (視覚)、ニオイ (嗅覚)、味 (味覚)、音 (聴覚) などがある。本セミナーでは、特に脊椎動物の視覚をはじめとする各種感覚について、刺激受容機構と情報処理機構やそれらの仕組みを学ぶとともに、感覚ごとに備わる仕組みの共通性と違いについて理解する。また、これらに関連する基礎的な知識および実験技術の理解・修得にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。 この目的のために、当該分野や関連分野の最新論文の読解および批判的論評を行わせると同時に、得た研究結果に関する議論を行い、研究遂行の実際を学ばせる。また、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者などとのやりとりなどを通して、自身の研究結果の取りまとめと発表に関する指導を行う。
学習目標	脊椎動物の視覚をはじめとする各種感覚について、刺激受容機構と情報処理機構やそれらの仕組みを説明できる。また、感覚ごとに備わる仕組みの共通性と違いについて説明できる。感覚に関する研究を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 脊椎動物視細胞における光応答の発生機構、停止機構、光感度決定機構、時間分解能決定機構、順応機構、シナプス伝達様式決定機構、ビタミン A の代謝機構。
授業外における学習	セミナー中に示す参考文献を予習・復習しておくこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	実験を立案する場合には、研究テーマの大小にかかわらず、はっきりとした目的を設定することを要求する。このことにより、個々の実験の位置づけを明らかに出来、得られた結果の解釈が容易になる。また次に取り組むべき実験が明確になる。論文を購読する場合には、批判的に読解する習慣をつけて欲しい。そのことにより、自身の研究に対する批判力を養って欲しい。

機能・発現プロテオミクス学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Protein Profiling and Functional Proteomics
授業コード	240885
No.	24BISC7K117
単位数	9
担当教員	高尾 敏文 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	蛋白質・遺伝子データベースを利用して生体内の発現蛋白質を網羅的に解析する“プロテオミクス研究”を行うための蛋白質分析化学を学び、それを様々な細胞や体液から得られる微量生体試料に応用し、新しい蛋白質機能や構造を探索する。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、国内外の研究者との共同研究、原著論文の執筆、審査員との議論、などが含まれる。
学習目標	< 到達目標 > 生命現象を蛋白質の構造と機能に基づいて理解できるようになること。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 1. 蛋白質一次構造解析のための質量分析法や化学的手法 2. 蛋白質翻訳後修飾 (糖鎖、脂質、リン酸化など) の構造解析 3. 尿などの生体試料のプロテオミクス 4. 質量分析におけるペプチド、糖鎖のフラグメンテーション 上記研究課題の中で、各種質量分析法、各種微量クロマトグラフィー、ゲル電気泳動、微量試料調製法、蛋白質および糖鎖の質量分析、蛋白質アミノ酸配列決定法、蛋白質翻訳後修飾の検出および解析法、安定同位体ラベル化法、データ解析およびデータベース構築法等の基礎を修得する。
授業外における学習	研究に関連する文献等を利用して、独自の研究アイデアを醸成すること。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的研究が強く求められる。論文に書かれていることを単に理解し、その延長線上の実験をするのではなく、自ら独自の実験を計画し、そこから得られた知見を既存の事実との関連において考察できる能力を培ってほしい。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

極限生物学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Extreme Ecobiophysics
授業コード	240588
No.	24BISC7K111
単位数	9
担当教員	久富 修 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物はその誕生から現在に至るまで、光と大きな関わりを持ってきた。本セミナーでは、光をキーワードとして、オプトジェネティック (光遺伝学) ツールや生体物質の光制御法の開発などを行うとともに、生体情報の受容と伝達の機構や、生物の環境への適応を解明することを目的とする。また、専門書や最新論文の読解および他の研究者との議論を通して、自ら新しい実験をデザインし、遂行する能力を育てる。実験にあたっては、現象を注意深く観察し、奥に潜む摂理を洞察する力を養う。さらに、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者との議論などを通して、自身の研究結果を取りまとめる訓練を行う。
学習目標	タンパク質の取り扱いを習得し、機能メカニズムを解明するための様々な手法を使いこなすことができる。新しい遺伝子やタンパク質を設計して、機能を評価することができるようになる。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 オプトジェネティックツールの開発、遺伝子の転写や酵素活性の光制御、光を用いた転写因子の機能解析や、新規生体ナノマシンの作成、光情報の受容・伝達および光エネルギー変換の分子機構、環境への適応など。
授業外における学習	指示されたことを遂行するだけの実習にならないよう、授業外の時間も利用して、自らの意欲で研究を進めること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、議論への参加姿勢、各種発表、および研究成果により総合的に評価する。
コメント	研究を進めるにあたっては、本人の主体性と課題を克服しようとする意欲が求められる。また、文献に書かれていることを単なる知識としてだけではなく、自分の中で咀嚼して有機的なつながりを持つ理解に変え、自身の研究を発展的な方向に舵取りしていく力を培ってほしい。

系統進化学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Evolutionary Biology
授業コード	240876
No.	24BISC7K111
単位数	9
担当教員	古屋 秀隆 居室： 伊藤 一男 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生物および生命現象には普遍性と多様性という二面的な特性がある。このセミナーでは、動物を対象としてこの二面性をふまえ、その多様な体制の発達を、個体発生と系統発生の両面から理解することを目指す。専門書や最新論文の読解、教員や研究室メンバーとの討論などを通じて、実験を立案、遂行し、また結果をまとめる能力の涵養につとめる。
学習目標	教員や研究室メンバーとの討論などを通じて、個体発生と系統発生の関係を熟知し、実験を立案、遂行し、また結果をまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 以下のようなトピックに関して課題を設定する。 1 中生動物の分類 2 中生動物の生態 3 中生動物の発生 4 中生動物の微細構造 5 中生動物の分子系統 6 中生動物の生物地理 7 頭足類の分類 8 頭足類の分子系統 9 頭足類の微細構造 10 頭足類の生物地理 11 頭足類と中生動物との共進化 12 腹毛動物の分類 13 腹毛動物の生態 14 腹毛動物の発生 15 腹毛動物の微細構造 16 腹毛動物の分子系統 17 腹毛動物の生物地理 18 絨毛虫下毛類の分類 19 絨毛虫下毛類の生態 20 絨毛虫下毛類の発生 21 絨毛虫下毛類の微細構造 22 絨毛虫下毛類の分子系統

- 23 絨毛虫下毛類の生物地理
- 24 神経冠細胞の移動
- 25 神経冠細胞の分化
- 26 神経冠細胞の発生運命決定機構
- 27 神経冠細胞由来幹細胞の多分化能形成機構
- 28 神経冠細胞由来幹細胞の多分化能維持・増殖機構
- 29 神経冠の進化的起源
- 30 脊椎動物の体制成立機構の起源

授業外における学習	授業計画に即した論文や専門書を事前に熟読しておくこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	セミナーに対する取り組み姿勢、質問、議論への参加を考慮し、総合的に評価する。 各評価の割合は、セミナーに対する取り組み姿勢 60%、質問 20%、議論への参加 20%とする。
コメント	論文の読み方、研究の進め方、まとめ方、発表の仕方等を習得するのみならず、常に自然そのもの、動物そのものに対する関心を培ってほしい。また、この講義は、「高度博士人材養成プログラム」の中の「トップサイエンティストプログラム」の修了要件科目である。

光合成反応学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Molecular Mechanism of Photosynthesis
授業コード	241653
No.	24BISC7K115
単位数	9
担当教員	大岡 宏造 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	光合成反応の分子機構についての構造的基盤に関する理解を深めることを主な目的とする。これらに関連する分光学的方法、および生化学・分子生物学的方法をも理解する。
学習目標	光合成反応の分子機構について最新の研究状況を把握し、研究成果を論理的に報告できるとともに、オリジナリティーのある研究テーマを立案できる。
履修条件	
特記事項	光合成によるエネルギー変換機構、および光合成色素の合成に関与する蛋白質をとりあげ、それらの分子生物学・生化学・分光学的手による機能解析および構造生物学的解析を扱う。また人工光合成の基盤を構築するために、生物学的水素生産を担う酵素反応の諸性質の解析にも取り組む。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 研究テーマ紹介 3. 論文紹介 4. 研究報告 5. ディスカッション
授業外における学習	学生は研究報告や自身の研究立案を説明するための ppt ファイルを作成することが求められる。また参考文献を精読し、研究背景を理解するとともに、文献紹介用 ppt ファイルを作成すること。
教科書	特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。
成績評価	プレゼンテーションや討論などにより総合的に評価する
コメント	本セミナーの参加には能動的姿勢が求められる。論文を講読することを通じて、生物科学の背景や動向も理解する。またプレゼンテーションを通じて、多様な見方、問題点の捉え方やその解決方法を考察する能力を養う。

構造分子生物学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Structural Molecular Biology
授業コード	240592
No.	24BISC7K116
単位数	9
担当教員	藤原 敏道 居室： 松木 陽 居室： 担当未定 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生命活動は分子が分子間の相互作用をととして高度に組織化されて働くことにより、維持されている。本講義では生命現象を分子の構造と分子間相互作用に基づいて理解するために、核磁気共鳴法を用いた生体分子構造の解析とそれに基づく生命現象の解析の最前線を学ぶ。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	当該分野の基礎学習に基づいて、研究論文を口頭発表できるようになること
履修条件	構造生物学についての基礎知識を有すること
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 核磁気共鳴法による生体分子構造研究の基本戦略、溶液 NMR における先端的研究法、固体 NMR における先端的研究法、エネルギー変換系の生物学、古細菌ロドプシンなど膜タンパク質複合体の機能発現の構造的基礎、生物情報伝達系の特徴、受容体とリガンドの相互作用、生体超分子系の NMR による解析法の開発。
授業外における学習	関連する構造生物学に関する論文の購読
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対して積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

高次脳機能学特別セミナー

英語表記	Advanced seminar in Advanced Brain Functions
授業コード	241739
No.	24BISC7K000
単位数	9
担当教員	疋田 貴俊 居室：
質問受付	随時。
履修対象	生物科学専攻博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	高次脳機能学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学に関わる広範な分野の大きな発見を報告した重要な論文を精読し、その研究領域のバックグラウンドの知識を習得するとともに、討論を通じて論文を「建設的に批判的に」読む力を養う。
学習目標	学生はこの授業を通じて高次脳機能学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学などの分野における様々な基礎知識を身に付けることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 前もって与えられた論文を詳細に読み、授業で各指導教員の指導のもと発表・討論を行う。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション (担当:疋田) 各自担当の論文などの案内を行うほか、論文の読み方やプレゼンテーション方法について講義をする。 第2回以降 (担当:疋田、山口) 各自に割り当てられた論文について、担当教員の指導のもと、論文内容について発表と討論を行う。各1時間半の授業を毎週1回行う。
授業外における学習	学生は指定された教科書や総説を読む。
教科書	特に定めない。随時文献を紹介する。
参考文献	
成績評価	出席点のほか、発表内容、討論時の積極性などを勘案する。
コメント	

細胞核ネットワーク学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Seminar on Networks in Cell Nucleus
授業コード	241556
No.	24BISC7K114
単位数	9
担当教員	加納 純子 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	真核生物の生命維持に必要な様々な細胞核内シグナル伝達ネットワークについて解析する。具体的には、様々な実験技術の習得、実験デザインの訓練、研究室内外の他の研究者とのディスカッション、学会発表などを通じて、研究能力の向上を目指す。さらに、関連分野の最新学術論文を読み、それを研究室内で発表、議論することによって、様々な基礎知識を習得する。
学習目標	実験、論文購読、ディスカッションを通して、分子生物学、分子遺伝学、生化学、細胞生物学などの基本技術、および研究の基本理念が習得できる。さらに、学会発表、学術論文をまとめる能力を習得することができる。
履修条件	研究活動への積極的な参加が強く求められる。指示されるのを待つだけでなく、自分で問題点を探し、自ら研究レベルを向上させる能力を習得してほしい。教員や他の研究者との積極的なディスカッションも望まれる。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 学生個人の研究課題は、教員と相談の上、決定する。具体的には、分子生物学、細胞生物学、生化学的手法を用いて、以下の研究内容に関連したテーマに取り組む。 1) 染色体末端に存在する構造体であるテロメアの機能解析。特に、テロメアに結合しているタンパク質群の様々な制御機構やテロメアタンパク質による染色体機能ネットワークの分子基盤の解明。 2) 放射線や紫外線などによって染色体 DNA が損傷した時や、様々な細胞外環境の変化が起こった時などのシグナル伝達に関与するタンパク質群の機能解析。さらに、それらが形成するタンパク質ネットワークの分子基盤の解明。 以上のテーマの順序で講義を進める。ただし、これは予定であり、変更することがある。 【授業計画】 各自の研究テーマを決定し、各指導教員の指導のもと、文献講読・研究・発表・討論などを行う。具体的には、次の内容を適宜進めることで授業を完了する。 1. 研究テーマ (研究計画) の決定。 2. 関連する文献の講読 (専門書や最新論文の読解および批評含む)。 3. 関連する基礎的知識の解説や最新知識の紹介を研究室内で行う。 4. 基本的実験技術や解析手法を習得する。 5. 研究テーマに沿った実験等を実施する。 6. 引き続き、研究テーマに沿った実験等を実施する。 7. 研究成果について研究室内で発表し、議論する。

8. 引き続き、研究テーマに沿った実験等を実施する。適宜、研究テーマに関連する文献の紹介を行う。
9. 学会に参加し、研究成果を発表、または最新情報を得て研究室外の研究者と議論する。
10. 学会で得られた情報、助言を参考にして、研究テーマを推進する。
11. 引き続き、研究テーマに沿った実験を実施する。
12. 研究成果を学術論文としてまとめる。
13. まとめた研究を研究室内で議論し、修正する。
14. 博士論文研究発表を準備し、研究室内で議論する。
15. 博士論文発表

授業外における学習	
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究に対する取り組み方によって評価する。
コメント	

細胞機能構造学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Cell Structure and Function
授業コード	240596
No.	24BISC7K113
単位数	9
担当教員	平岡 泰 居室： 原口 徳子 居室： 近重 裕次 居室：
質問受付	連絡先:078-969-2241 連絡時間:随時
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	細胞の構造と機能に関して高度な知識と、それを解明するための細胞生物学的な方法論について履修することを目的とする。 最新の論文の読解と批判的論評、実験デザインや研究成果に関する発表と議論、学会での発表、論文の執筆に関わる訓練などが含まれる。
学習目標	最新の論文の読解と批判的論評、実験デザインや研究成果に関する発表と議論、学会での発表、論文の執筆に関わる訓練などを通じて、学生は、細胞の構造と機能に関して高度な知識と、それを解明するための細胞生物学的な方法論について学ぶことができる
履修条件	細胞生物学の基本的な講義を履修していることが望ましい
特記事項	必要に応じて指定する。
授業計画	【講義内容】 細胞構造解析のための方法論、蛍光顕微鏡の原理、蛍光顕微鏡を用いた細胞構造解析、細胞核構造と機能 (高等生物および下等真核下等)、核細胞質間分子輸送、核膜タンパク質と機能、染色体の構造と機能、減数分裂における染色体構造と機能、染色体構造の制御。 【授業計画】 適宜行う
授業外における学習	直面するテーマや問題について、関連する専門用語や基本的知識を教科書等により確認しておくこと。関連論文を読むこと。
教科書	適宜、論文などを用いる
参考文献	Molecular Biology of the Cell 染色体と細胞核のダイナミクス (化学同人) 生細胞蛍光イメージング (共立出版)
成績評価	発表や討論を通して総合的に評価する
コメント	必要に応じて指定する。

細胞生物学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Cell Biology
授業コード	241438
No.	24BISC7K111
単位数	9
担当教員	松野 健治 居室 : 稲木 美紀子 居室 : 山川 智子 居室 :
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	多細胞生物の発生を可能にしている細胞の機能に関して理解する。
学習目標	自分の力で文献を理解できる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 動物の発生で機能している細胞の機能に関して、トピックスを紹介する。動物発生を細胞レベルで理解するための研究で最新のトピックスを紹介し、内容に関する討論を行うことで理解を深める。
授業外における学習	文献を読む
教科書	文献をテキストとして用いる。
参考文献	随時文献を用いる。
成績評価	出席点、発表の内容、討論への参加の様子によって評価する。
コメント	

情報伝達機構学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches Research in Signal Transduction
授業コード	240764
No.	24BISC7K114
単位数	9
担当教員	岡田 雅人 居室： 名田 茂之 居室： 梶原 健太郎 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	動物細胞における細胞外情報の受容機構および情報受容から細胞応答に至る細胞内シグナル伝達機構を個体、細胞、分子レベルで解析し、それらの動物個体の構築、維持、活動における役割を理解する。特に、動物固有の生化学反応である蛋白質チロシンリン酸化のシグナル伝達における本質的な意義、およびその異常による「がん化」のメカニズムを理解する。一方で、自立した研究者を養成するための訓練を行う。具体的には、研究デザインや成果に関する議論、専門書や最新論文の読解および批判的論評、外部の研究者との交流、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者との議論などが積極的に行えるよう指導する。
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。細胞接着・運動の制御における蛋白質チロシンリン酸化の役割、発生・分化と蛋白質チロシンリン酸化、上皮系細胞の増殖・分化制御とチロシンキナーゼシグナル、チロシンキナーゼシグナルの破綻による細胞がん化機構、原始的な多細胞動物におけるチロシンキナーゼシグナルの役割解析、チロシンキナーゼシグナルの構造生物学的解析。
授業外における学習	
教科書	Alberts B. 他:Molecular Biology of the Cell, Darnell J. 他:Molecular Cell Biology Weinberg RA: The Biology of Cancer.
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究成果および論文等各種発表への取り組み方などにより総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。自らの課題に関連する情報を幅広く取り入れ、それらを十分咀嚼して批判的な姿勢で研究に取り組んで欲しい。また、得られた結果に対しても批判的に評価し新たな問題点を見逃さない目を養ってほしい。さらに、自立した研究者としての意識を強く持って、学会発表、研究者交流、論文執筆など積極的に活動することが求められる。

植物細胞生物学特別セミナー

英語表記	Advanced seminar in Plant Cell Biology
授業コード	241121
No.	24BISC7K104
単位数	9
担当教員	高木 慎吾 居室： 浅田 哲弘 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	植物の環境応答や成長現象の仕組み (how)、生理学的意義 (why) について、特に細胞レベルにおける過程に注目し、自立して研究テーマの設定および遂行をできるようにする。教員の指導のもと、関連文献の輪読、研究進捗状況の報告、討論、成果のプレゼンテーション、論文執筆などに取り組む。
学習目標	植物細胞生物学に関する基礎的な知識、先行研究の内容、研究を進めるための方法論などについてディスカッションを通して修得し、投稿論文を作成、博士論文の完成を目指す。
履修条件	特になし。
特記事項	
授業計画	以下の内容から構成される (状況により順序の変更がある)。 第1回:オリエンテーション 「生物学」における植物細胞生物学の位置づけを解説し、文献調査の方法、発表資料の作成法、プレゼンテーションの方法などについて講義する。 第2～7回:関連論文の紹介 植物細胞生物学分野の重要な文献の内容を履修生が紹介し、問題の提示法、研究材料の選択、研究手法の開発、実験結果の解釈などについて討論する。適宜、関連する基礎的知識の解説や最新知見の紹介を行なう。 第8～13回:研究進捗状況の報告 各履修生が取り組んでいる研究テーマについて、研究計画の進捗状況を報告し、研究材料、研究手法についての検討、実験結果の解釈、テーマの展開方向などを詳細に討論する。 第14～15回:総合討論、論文執筆 研究成果のプレゼンテーションを行なう。学会発表、研究科内中間発表の予行などを含む。必要に応じて、論文の添削指導を受ける。
授業外における学習	必要に応じて授業中に指示。
教科書	特になし。発表資料は履修生が準備する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	課題への取り組みの態度、議論の姿勢、発表に対する努力などを総合的に評価する。
コメント	「自分で考え、相手にわからせる」ためには何が必要か、常に意識し、投稿論文での審査員とのやり取りを通して実践能力を培ってほしい。

植物生長生理学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Plant Growth and Development
授業コード	240873
No.	24BISC7K104
単位数	9
担当教員	柿本 辰男 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	形態形成、環境応答、植物ホルモンの代謝や植物ホルモン応答、細胞内構造や機能の一般性と多様性を理解し、これらに関わる問題を、分子生物学、遺伝学、細胞生物学的に深く理解することを目的とする。そのために、分子生物学、遺伝学、細胞生物学等の一般のおよび最新の知識の修得にも務める。セミナーにおいては、学生がテーマを決めて論文や専門書を読解し、内容の発表と議論を行う。また、自身の研究結果の発表と議論を行う。また、自立した研究者として自覚をもって研究出来るようにする。
学習目標	専門分野については専門家のレベルで理解し、議論できる。自ら有効な研究アイデアを考え、新知見を得る事ができる様になる。信頼性の高い研究を行う事ができる様になる。論理的な研究論文を書くことが出来る様になる。
履修条件	よく考え、真剣に取り組むこと。自分の意見を持つこと。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主に扱う内容は、植物の形態形成、環境応答、植物ホルモンの代謝や植物ホルモン応答、細胞内機能に関するものであるが、重要な内容であればこれらに限定されることはない。セミナーにおいては、毎回、学生が自主的に、あるいは教員と相談の上決定する。また、自身の研究目的、進捗、計画についての発表も行い、議論する。また、毎日の研究においては、大学院生は、研究室のメンバーと積極的にかかわり、議論し、研究を進める。
授業外における学習	常に、研究について深く考えること。もちろん、関連の論文を読むことは必須である。
教科書	指定しない。
参考文献	植物の形を決める分子機構、岡田清孝ら監修、1999(秀潤社) 朝倉植物生理学講座シリーズ全5巻 Plant Physiology, Taiz and Zeiger eds. 2002 Sinauer 社 植物ホルモンの分子細胞生物学 2006 年 講談社サイエンティフィック 植物のシグナル伝達 共立出版柿本ら ed. 2010 年
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、テーマや発表論文の理解の深さ、セミナーにおいては積極的に議論に参加しているかなどにより総合的に評価する。研究室セミナーは基本的にすべて参加すること。研究活動は朝 10 時から夕方 6 時はコアタイムとし、授業休業期間も含む全ての平日の 7 割は研究に専念する事。

コメント	論文セミナーでの発表論文に関しては、徹底的に深く読むことが求められる。また、セミナー参加学生による活発な議論も求められる。さらにこれらの活動を通じて新しい問題点を見だし、自身による新しい発見につなげて欲しい。日常の研究では、研究者としての誇りをもって自分の意見を持つとともに、多くの人とコミュニケーションをとり、柔軟に考える事が重要である。
------	--

神経可塑性生理学特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in Synaptic Plasticity
授業コード	240953
No.	24BISC7K112
単位数	9
担当教員	富永 恵子 居室： 生命機能研究科 細胞棟 Email： tomyk[at]fbs.
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	哺乳類の脳機能に関する研究課題に取り組む。また、神経生理学、神経生化学、細胞構造、細胞運動、遺伝子発現、細胞分化、細胞間相互作用、個体行動、疾病などの神経科学の文献を読み、古典から最新までの幅広い知識を習得するとともに、それらの実験結果を生み出した観測・測定技術について学び、各自の研究に活用する。学会での発表、論文での発表にも積極的に取り組み、批判を受けとめる能力とそれを次の研究に生かす能力とを涵養する。
学習目標	研究課題の立案、実施、成果のまとめ、発表という研究の一連の作業を習得し、自立した研究者になることを目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 哺乳類の脳を研究対象とし、体内時計機構、幼若期環境と脳発達、脳の可塑性などの中から、受講生の資質と興味、当該分野の世界的状況、研究室で利用可能な技術を勘案して、教員と相談の上で研究課題を選定する。これら諸領域の古典から最新までの文献について紹介し、原著講読・質疑応答・討論を通じて理解の深化を図る。また、各自の研究課題に関して進捗状況を定期的に紹介し、相互批判を通じて多様な観点を養成する。 【授業計画】 講義は研究室セミナーで行う。 研究指導は随時
授業外における学習	後期課程の学生として、前期課程の学生、学部学生のチューターを行うことで、職業的科学家としての指導力を身に着けることも重要である。
教科書	適宜紹介する。
参考文献	資料は適宜配布する。
成績評価	研究室内の発表に関しては、自分の発表と他受講生の発表に対する質疑応答の様子をあわせて判定する。学会発表・論文発表に関しては、自己主張する能力と他者から批評を受ける能力とをバランスよく持てたかどうかを評価する。研究に関しては、実験に取り組む姿勢、自分がえた結果に対する客観的判断、他研究者がえた結果との比較対照、理論化などを総合したトータルな研究活動を評価する。
コメント	競争の激しい分野の中で、独自性を発揮するためには、目下の研究に直結する知識・技術だけではなく、より幅広い知識・技術を貪欲に吸収する必要がある。研究は各個人の努力による部分はもとより大きい、同時に個人内で完結するものではなく、周囲との交流の中で発展する社会的活動の側面のあることも理解させる。また、TA・RA 経験を通じて、後進を指導する能力を身につけさせる。

生体高分子溶液学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Biomacromolecular Solutions	
授業コード	241418	
No.	24BISC7K118	
単位数	9	
担当教員	佐藤 尚弘	居室： c445 電話： (06)6850-5461 Fax： (06)6850-5461 Email： tsato@chem.sci.osaka-u.ac.jp
	寺尾 憲	居室：
質問受付		
履修対象		
開講時期	通年	
場所	その他	
授業形態		
目的と概要	生体高分子溶液学の最先端の研究を行い、研究者として必要な能力を身に着けることを目的としている。指導教員から助言を受けながら、研究を実施する。	
学習目標	研究者として必要な、研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成などの能力を身に着けることを目標とする。	
履修条件		
特記事項		
授業計画	研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成を、指導教員の助言を受けながら実施する。	
授業外における学習	授業計画に記載の内容を授業外においても行う。	
教科書		
参考文献		
成績評価	研究の進捗状況や作成した論文の内容により判定する。	
コメント		

生体超分子科学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Supramolecular Science of Biomacromolecules	
授業コード	241417	
No.	24BISC7K118	
単位数	9	
担当教員	山口 浩靖	居室： G613 電話： 5460 Fax： 5457 Email： hiroyasu@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付		
履修対象	高分子科学専攻 博士後期課程 D1-D3 必修	
開講時期	通年	
場所	その他	
授業形態	実習科目	
目的と概要	生体高分子により形成される超分子、およびその超分子特有の性質を利用した機能発現、さらには生体分子と合成分子のハイブリッド化による機能発現に関する最先端の研究を行い、研究者として必要な能力を身に着けることを目的としている。指導教員から助言を受けながら、研究を実施する。	
学習目標	研究者として必要な、研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成などの能力を身に着けることを目標とする。	
履修条件		
特記事項		
授業計画	研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成を、指導教員の助言を受けながら実施する。	
授業外における学習	授業計画に記載の内容を授業外においても行う。	
教科書		
参考文献	研究の進捗状況や作成した論文の内容により判定する。	
成績評価	研究計画書の策定 20%、研究実施 (実験と考察、新規高分子の創製と物性評価)60%、論文投稿 20%	
コメント		

生体分子機械学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Biomacromolecular Machines
授業コード	241419
No.	24BISC7K118
単位数	9
担当教員	今田 勝巳 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 A コース 博士後期課程各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生体内で機能する分子機械について、形成機構および作動機構を立体構造に基づいて理解することを目的とし、各自の課題についてオリジナルな研究を実施する。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者との議論、などが含まれる
学習目標	研究立案から研究論文の発表まで研究者として自律した活動を行うことができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 生体分子モーター、タンパク質輸送装置、走化性センサーなどのタンパク質複合体、酸化還元酵素、蛍光タンパク質、並びにこれらを研究するための生化学的、生物物理学的、構造生物学的研究手法。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的な参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢が必要である。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題解決だけでなく、問題を発見する能力を培ってほしい。

生体分子反応科学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Biomolecular Reaction
授業コード	241678
No.	24BISC7K115
単位数	9
担当教員	黒田 俊一 居室： 立松 健司 居室： 岡島 俊英 居室： 担当未定 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻博士前期課程 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	分子生物学、細胞生物学、生化学、生物工学、細胞工学、薬物送達学に関する研究指導を行う。特に、最新論文の紹介及び批判的論評、自身の研究成果のとりまとめと発表、国内外の研究者との質疑応答、プレゼンテーションの訓練を行う。担当する具体的課題は教員と相談の上で決定する。主な研究課題は下記の通りである。細胞膜融合、エンドサイトーシス、細胞内皮系ファゴサイトーシス、エンドソーム脱出、核移行、遺伝子発現、ウイルス、オキシダーゼ、デヒドロゲナーゼ、二成分伝達系、動物細胞、幹細胞、ハイブリドーマ、再生医学、抗体医薬、ナノメディシン、ナノキャリア、DDS、遺伝子治療、ワクチン。
学習目標	生体内では、多数の生体分子が連続的に相互作用(反応)して、種々の生命現象を維持している。このセミナーでは、生命現象の基本である細胞間・細胞内情報伝達、生体内・細胞内物質輸送、酵素反応などにおける分子機構について、分子生物学、細胞生物学、生化学の観点から総理解を目指す。また、関連する基礎的知識ならびに実験技術の習得、研究立案能力、研究推進能力、研究発表能力を育てる。最終的に各自の修士論文の完成を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション(黒田・岡島・立松・中井) 全体を俯瞰した説明を行い、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義を行い、各履修生に研究テーマを設定する。 第2回 細胞膜融合に関する研究論文紹介(黒田) 最新の重要文献の内容を履修生が発表し、その目的、方法、結果、考察の各項目について意義解説や批判的論評を行って議論する(以下、同じ要領で進める)。 第3回 エンドサイトーシスに関する研究論文紹介(黒田) 第4回 細胞内皮系ファゴサイトーシスに関する研究論文紹介(黒田) 第5回 エンドソーム脱出に関する研究論文紹介(黒田) 第6回 核移行に関する研究論文紹介(立松) 第7回 遺伝子発現に関する研究論文紹介(立松) 第8回 ウイルスに関する研究論文紹介(黒田) 第9回 オキシダーゼに関する研究論文紹介(岡島・中井) 第10回 デヒドロゲナーゼに関する研究論文紹介(岡島・中井) 第11回 二成分伝達系に関する研究論文紹介(岡島) 第12回 研究進捗状況報告と指導(特に序論の書き方)(黒田)

履修生の研究進捗状況報告(約30分)、質疑応答(約30分)、および論文の書き方の指導(約30分)を行う(第14回まで同じ要領)

第13回 研究進捗状況報告と指導(特に研究方法、結果の書き方)(黒田)

第14回 研究進捗状況報告と指導(特に考察の書き方)(黒田)

第15回 総合討論(黒田・岡島・立松・中井)

第16回 オリエンテーション(黒田・岡島・立松・中井)

全体を俯瞰した説明を行い、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義を行い、各履修生に研究テーマを設定する。

第17回 動物細胞工学に関する研究論文紹介(黒田)

第18回 幹細胞に関する研究論文紹介(黒田)

第19回 ハイブリドーマに関する研究論文紹介(黒田)

第20回 再生医学に関する研究論文紹介(黒田)

第21回 抗体医薬に関する研究論文紹介(立松)

第22回 ナノメディシンに関する研究論文紹介(立松)

第23回 ナノキャリアに関する研究論文紹介(黒田)

第24回 DDSに関する研究論文紹介(岡島・中井)

第25回 遺伝子治療に関する研究論文紹介(岡島・中井)

第26回 ワクチンに関する研究論文紹介(岡島)

第27回 研究進捗状況報告と指導(特に序論の書き方)(黒田)

履修生の研究進捗状況報告(約30分)、質疑応答(約30分)、および論文の書き方の指導(約30分)を行う(第29回まで同じ要領)

第28回 研究進捗状況報告と指導(特に研究方法、結果の書き方)(黒田)

第29回 研究進捗状況報告と指導(特に考察の書き方)(黒田)

第30回 総合討論(黒田・岡島・立松・中井)

授業外における学習	授業期間外であっても、可能な限り文献調査、実験、論文執筆を進めること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題・関連研究課題に対して取り組む姿勢50%、成果50%により総合的に判断する。
コメント	

生物科学インタラクティブ特別セミナー

英語表記	Interactive Seminar for Advanced Research in Biological Sciences
授業コード	241200
No.	24BISC7K130
単位数	1
担当教員	藤本 仰一 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	複数の研究室に所属することにより、幅広い世界を知り、異分野の感覚を吸収し、主専攻での活動の位置を素直に認識できるようになることが一つの目標である。また、社会に羽ばたいた時に、仕事を客観的に捉えることができることの助けになれば幸いである。
学習目標	受講生は、視野の広い見方で研究を考える事ができる様になる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 主配属の研究室とは違った研究室の活動に参加し、副配属研究室の教官により、セミナーなどの指導が行われる。副配属研究室は、化学、高分子専攻、生物科学専攻の研究室の中から一つを選択する。 【授業計画】 受講生は、主配属の研究室以外の研究室に副配属され、副配属研究室のセミナーや研究活動に参加する。副研究室では研究発表を行い議論するとともに、副研究室で行われている分野の研究を理解する。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	
成績評価	副配属研究室での活動を通じて総合的に評価する。
コメント	

生物分子情報学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Systems Biology
授業コード	249039
No.	24BISC7K108
単位数	9
担当教員	猪股 秀彦 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	各自、独立した研究テーマを教員と相談し決定する。研究テーマ遂行のために、論文の読解力を深め、自身で具体的な研究方針・研究計画を立案できるように指導を行う。具体的には、教員とのディスカッションによる研究の進捗状況の確認、セミナーにおける文献紹介、プロGRESSによるプレゼンテーションの実践・指導を行う。本授業では主に、変形する発生場における濃度勾配依存的なパターン形成、分泌蛋白質の時空間制御、体液動態と発生システムの相互機序、発生システムの頑強性、に注目して研究を行う。 主な研究内容: アフリカツメガエル・ゼブラフィッシュを用いた胚操作、インジェクション、変異体・トランスジェニックの作製、モルフォゲンのイメージング・解析、体液動態のイメージング・解析、画像解析、化学物質・光活性型蛋白質を用いた時空間制御、生化学的手法を用いた定量解析
学習目標	複雑な発生システムを理解するためには、胚を構成する細胞間の相互制御を理解する必要がある。本授業では、細胞間コミュニケーションの中心的な役割を担っている分泌蛋白質に注目して、発生システムの動的なパターン形成・頑強性・発生場の変形を議論できるようにする。さらに、人為的に細胞間の相互制御をコントロールすることにより、自由自在に発生システムを操る新規技術の開発を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下に示す流れで授業をすすめる。 1. 研究の概要を学び、自身の研究テーマを決定する 2. セミナー、ディスカッションを通じて、文献を適切に理解・評価できるようにする 3. プロGRESS、ディスカッションを通じて、実験結果を適切に解析・評価できるようにする 4. 文献、研究結果をもとに自身で研究計画を立案できるようにする 5. 上記を通じて、プレゼンテーション技術の向上、及び博士論文の発表を目指す
授業外における学習	関連する文献を読み、理解すること。
教科書	適宜提示する。
参考文献	論文 (Cell, Nature, Science, Developmental Cell, Development など) 教科書 (Developmental Biology/Gilbert など)
成績評価	研究に対する取り組み、ディスカッション、セミナー、プロGRESS、研究成果を総合して判断する。
コメント	

生物分子情報学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Systems Biology
授業コード	249663
No.	24BISC7K108
単位数	9
担当教員	北島 智也 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	研究テーマを教員と相談の上で決定し、課題に必要な基礎知識を学習するとともに、具体的な研究指導を行う。重要な学術論文の紹介および論評、実験技術の訓練、データの正しい取り扱い方の習得、質疑応答および議論、プレゼンテーション技術の習得と実践などが含まれる。主として扱うトピックは、以下のとおりである。 染色体分配、染色体接着、動原体、紡錘体形成、減数分裂、卵母細胞、細胞の顕微操作法、生細胞の観察法、画像の処理および定量的解析法、軸形成、濃度勾配、胚発生、スケーリング、発生場の制御、胚操作、発生過程のイメージング、発生場の頑強性
学習目標	動物の発生過程を理解するには、細胞分裂、細胞間コミュニケーション、形態形成などの生命現象が、時空間的にどのように制御されているかを解明し、それらを統合した発生システムとして理解することが重要である。 このセミナーでは、発生過程における個々の生命現象について基礎的知識を身に付ける。また、研究計画をデザインし、実験結果を正しくまとめ、その結果について考察する能力を養う。自身の研究をプレゼンテーションする技術を学び、最終的に博士論文の完成を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	各自の研究テーマを決定し、それにもとづいて文献講読・研究・発表・討論などを行う。具体的には、次の内容を適宜進めることで授業を完了する。 1. 研究分野の概要を学習し、研究テーマ(研究計画)を決定する。 2. 各自の研究テーマに関連する文献(専門書や重要論文)を読解し、各自がその内容について紹介・批評を行う。また、適宜、関連する基礎的知識の解説や最新知識の紹介を行う。 3. 各自の研究の進捗状況をプレゼンテーション形式で報告し、実験デザインの妥当性、実験結果の正しい取り扱い、実験結果の解釈および考察などについて、質疑応答および議論を行う。
授業外における学習	次回の授業について予習し、専門用語等の意味を理解しておくこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	Nature, Cell, Science, Gene. Dev., Development などの重要論文。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	

生命誌学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Biohistory
授業コード	240598
No.	24BISC7K111
単位数	9
担当教員	蘇 智慧 居室： 橋本 主税 居室： 小田 広樹 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	生物の共通性と多様性について、分子生物学、発生生物学、細胞生物学、分子系統進化学、形態学、生態学、等の、種々の観点からの理解を深める。一方、それらの理解を統合して、「生命とはなにか」についての一般的理解を進める努力を行う。また、得られた(生物学的)知見を、社会に向けて発信する方法についても理解する。また、研究を自ら計画し、実施し、成果を取りまとめ、公表するのに必要な力も育成する。
学習目標	学生は生物学の基礎となる進化、発生と生態などの種々の観点から生物の共通性と多様性に関する理解を深めることができる。 学生は研究を自ら計画し、実施し、成果を取りまとめるのに必要な力を育成することができる。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	(1) 院生自身の作成した研究計画および研究結果についての議論、(2) 専門書や最新論文の読解および批評、(3) 国内および国際学会における発表の訓練、(4) 原著論文や総説の執筆、審査員・編集者との議論の訓練、などを含む。具体的な課題・資料については、主として以下のようなトピックを扱ったものの中から、教員とよく相談した上で決定する。 生物多様性の分子機構、分子に基づく生物の系統進化、共進化に関わる生物の分子系統、昆虫と植物の共生・共進化、昆虫の味覚受容と食草選択、昆虫の形態と機能の関連性、細胞システムと発生メカニズムの進化、両生類のパターン形成、科学に関するコミュニケーション。 また、専門書や論文を使用する場合は、以上のものに関連する「周辺」のトピックを述べたものも、適宜取り上げる。
授業外における学習	関連の学術論文や専門書を利用して予習と復習を行う。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題や文献資料に対して取り組む姿勢と、その成果等を総合的に判断して評価する。
コメント	学生の主体的参加を強く希望する。自分の研究に関わるものについては言うまでもなく、文献資料に取り組む場合においても、それらを「理解」するだけでなく、的確に「批評」し、問題点があれば、それを克服する方法の「提案」なども望みたい。また、他者の発表を聞くにあたって、同様の積極的な態度を希望している。その中で、自分で研究を進める力を育成してほしいと願っている。

代謝調節機構学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Mechanism of Metabolic Control
授業コード	240582
No.	24BISC7K115
単位数	9
担当教員	奥村 宣明 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	この授業では、生物学における生化学ならびに生理学分野に関する研究指導を行う。専門書や最新論文の紹介および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他の研究者との質疑応答、プレゼンテーションの訓練を通じて、学生はこの分野の研究者に必要なとされる基礎的な思考力と表現力を身につけることができる。具体的課題は教員と相談の上決定する。主として扱うトピックスを以下に示す。蛋白質・ペプチドの代謝、糖代謝、酵素の構造と機能、ホルモンと自律神経、エネルギー代謝調節機構、消化と吸収。
学習目標	生物学を理解する上で、生体内での物質代謝やエネルギー代謝の恒常性(ホメオスタシス)維持機構を解明することは基本的に重要である。このセミナーでは、哺乳類の代謝、摂食、消化吸收、血糖調節などの機構とそのホルモンや神経による調節機構について、生化学、生理学、分子生物学などの観点から統合的に理解することを目指す。そのために、関連する基礎的知識と技術の理解に努め、自ら実験を計画し、実践し、成果を取りまとめる能力を身につけるようにする。最終的に各自の博士論文の完成を目指す。
履修条件	なし
特記事項	なし
授業計画	授業計画 以下の内容から構成される。(状況により順序の変更がある)。 第1回:オリエンテーション 「生物学」における生化学、生理学の位置づけを説明し、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第2～19回:研究論文の紹介 生化学、生理学分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究手法・結果の解釈・生物学における意義について議論を行う。 第20～29回:研究進捗報告プレゼンテーション 生化学、生理学分野における履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について質疑応答を行う。 第30回:総合討論
授業外における学習	専門分野における過去の論文、ならびに最新の論文を調査し、専門の知識と考え方を身につける。また、研究室内外の交流、学会への参加を通じ、他の研究者とのディスカッションを行う。
教科書	特に定めない。随時文献を紹介する。
参考文献	特に定めない。随時文献を紹介する。

成績評価	研究課題に対する取組み姿勢、成果、論文や学会発表などの各種発表への取組み姿勢により総合的に評価する。実際の論文発表や口頭発表も評価する。
コメント	知識を網羅的に紹介するではなく、新たな発見や方法論の開発などの過程を解説し、それを体験させて科学的な研究のすすめ方を体得させたい。

蛋白質ナノ科学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Protein Nanobiology
授業コード	241693
No.	24BISC7K114
単位数	9
担当教員	原田 慶恵 居室： 担当未定 居室：
質問受付	月～金 9:30～18:30
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	in vitro だけでなく細胞内や生体内における様々なタンパク質の分子機構について、生物物理学的な手法によってこれまでに明らかになったことは何か、どのような実験技術によってそれが明らかにされたかについて学ぶ。
学習目標	タンパク質の分子機構について生物物理学的観点から論じることができるようになることを目指す。
履修条件	物理化学、生化学、分子生物学の基本的な内容を履修済みであること。
特記事項	
授業計画	in vitro だけでなく細胞内や生体内における様々なタンパク質の分子機構を解明するための先端的研究課題の指導。特に研究テーマの設定法、実験のデザイン、データ解析法、研究成果発表法について指導する。 第1～15回 学生が選んだテーマによるグループワーク、グループディスカッション
授業外における学習	テーマを選び、発表の準備を行ってこること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	日常の向学心、探究心、努力や研究成果など総合的に評価する。
コメント	

蛋白質結晶学特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar on Protein Crystallography
授業コード	241270
No.	24BISC7K115
単位数	9
担当教員	栗栖 源嗣 居室： 田中 秀明 居室：
質問受付	月～土,9:30-18:00
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	蛋白質結晶学に関連した研究分野の基礎的理解を深めさせ、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。博士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	蛋白質の多様な機能を、結晶構造や NMR などの分光測定の情報に基づいて論じることができるようになる。具体的には、X 線結晶学や NMR 分光学の基本原理を理解して、光合成タンパク質や分子モーターのエネルギー変換の仕組みを、構造科学的に他者に説明できるようになる。
履修条件	物理化学、生化学の基本的な内容を履修済みであること。
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 蛋白質結晶学に関する先端的研究課題の指導、とくに理論、実験法、データ解析法、研究成果発表法について指導する。 第 1～15 回 学生が選んだテーマによるグループワーク、グループディスカッション
授業外における学習	蛋白質立体構造データベースなどを併用することにより、最新情報を取り入れて学習すること
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	日常の向上心・努力と研究成果で評価する。
コメント	特になし

蛋白質細胞生物学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Protein Cell Biology
授業コード	240581
No.	24BISC7K113
単位数	9
担当教員	篠原 彰 居室： 松寄 健一郎 居室：
質問受付	随時、在室するときはいつでも質問など受け付け可能
履修対象	生物科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	真核生物における組換え、体細胞分裂期の DNA2 重鎖切断修復、減数分裂期のキアズマ形成の分子メカニズムを理解する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	最新の論文を読解することで、科学的な素養を育成する。特に科学的な思考を身につけることを目標にする。そのためには、研究の目的の明確化し、実験のデザイン力、実験を立案する力を身につける。さらには、実験成果を客観的、かつ定量的に判断する能力の養う。その上で、新規的な概念を提唱できるような思考力も身につける。
履修条件	基本的な分子生物学の知識を必要とする
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 相同組換えや減数分裂期組換えに関わる遺伝子、蛋白質の分子レベルでの機能の解明 テロメアの組換えによる伸長反応の解析 細胞内での組換え反応の解析 ヒストンの修飾の組換えへの関わりの解析 減数分裂期の細胞周期の制御機構の解析 遺伝子治療
授業外における学習	関連論文を読むことで、自身の行っている研究分野の状況を俯瞰的に理解し、自身の理解度を再度確認する。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるか、そしてそこから新規性をいかに生み出すかを考えていく、積極的な姿勢を必要とする。また、他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培って欲しい。

蛋白質物理化学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Research in Protein Physical Chemistry		
授業コード	240742		
No.	24BISC7K115		
単位数	9		
担当教員	後藤 祐児	居室 :	
	LEE YOUNG HO	居室 :	
	宗 正智	居室 :	
質問受付			
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修		
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態			
目的と概要	蛋白質は生命現象を支える代表的な生体高分子である。アミノ酸が一次元的に配列した蛋白質は、フォールディングして特異的な立体構造を形成することにより、機能物質としての多様な役割を果す。また、間違ったフォールディング反応がさまざまな病気の原因となることも明らかになっている。セミナーでは、蛋白質の構造、物性、フォールディング反応に関する先端的な知識や実験技術を理解し、各自の課題についてオリジナルな研究を展開する。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者との連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、学会誌の審査員や編集者との議論、などが含まれる。		
学習目標	学生は、蛋白質の構造、物性、フォールディング反応に関する先端的な知識や実験技術を理解し、各自の課題についてオリジナルな研究を展開できる。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者との連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、学会誌の審査員や編集者との議論、などができる。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。蛋白質の構造と物性、蛋白質の変性、蛋白質のフォールディング、フォールディングと分子シャペロン、ミスフォールディングと病気、酵素の構造安定性と機能、蛋白質の分子設計。		
授業外における学習	学生は、各自の課題についてオリジナルな研究を展開するために必要な学習の内、各自で主体的に行うことのできるものについては、各自で実施する。		
教科書	適宜指示する		
参考文献	適宜指示する		
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、研究成果、各種発表等により総合的に評価する。		

コメント	セミナーを通して、学生が研究者として独立するために必要な能力と技術を培うことを目標としている。1) 関連分野において、現在どのような研究がなされているかを常に理解し、自身の研究と関連づけて考察すること。2) 研究成果を魅力的な論文としてまとめ、分野の一流誌に投稿できること。また、英語により成果を発表できること。3) 学会や研究室において活発で意義のある議論を展開できること。4) 創造的な共同研究をすすめる技術を身につけること。
------	---

蛋白質有機化学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Protein Organic Chemistry
授業コード	240883
No.	24BISC7K117
単位数	9
担当教員	北條 裕信 居室： 川上 徹 居室： 朝比奈 雄也 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	実験や論文の講読を通して、対象とする蛋白質分子を生物学ならびに化学の視点から多角的に考察できる人材の育成を目指して指導する。すなわち、アミノ酸・ペプチド・蛋白質の分子構造と化学的性質、これらの分子の人為的合成における反応、精製、確認法等についての高度な知識を習得させるとともに、膜蛋白質の構造解析ならびに機能発現の機作の解明を高いレベルで実行できる人材を養成する。さらに、研究の企画、研究結果の取りまとめと発表の訓練などを行うとともに、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆などの訓練を行う。
学習目標	1. タンパク質, 糖タンパク質の化学合成の基本戦略を説明できる 2. タンパク質, 糖タンパク質の機能をその構造に基づいて説明できる
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。ライゲーション法に基づく蛋白質の合成化学、蛋白質の化学的変換による合成ブロックの調製法、反応場としてのミセルと脂質、膜蛋白質の精製法と確認法、膜蛋白質の構造形成を指向した膜蛋白質・脂質複合体の調製法、膜蛋白質の構造解析法、修飾蛋白質の特異的検出手法の開発と蛋白質の解析
授業外における学習	タンパク質、糖タンパク質の合成に関する最新論文を随時サーチすること。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	蛋白質の合成化学的研究により開発された手法を生命現象の解明に応用することにより、独自の生物科学の展開を目指す。この営みを通して研究指導を行う。

超分子構造解析学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Supramolecular Crystallography
授業コード	240887
No.	24BISC7K116
単位数	9
担当教員	中川 敦史 居室： 山下 栄樹 居室： 鈴木 守 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	生体超分子複合体やタンパク質の立体構造決定と構造を通じた機能の解明を行う。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。 具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。
学習目標	生体超分子複合体やタンパク質の立体構造決定と構造を通じた機能の解明ができる。関連の基礎的な知識および実験技術を理解できる。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。 主として扱うトピックは以下のようなものである。 蛋白質複合体やウイルスなどの生体超分子複合体の構造解析、タンパク質の構造解析、X線結晶構造解析法の開発など。
授業外における学習	参考図書や講義資料などを利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。講読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることで、どのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢である。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

糖鎖生化学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Sugar Chain Biochemistry
授業コード	240587
No.	24BISC7K118
単位数	9
担当教員	梶原 康宏 居室： 岡本 亮 居室：
質問受付	事前に連絡をもらえれば随時可
履修対象	化学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	生体内に存在する糖鎖や関連蛋白質について解説し、これらの役割や現象、そして合成を理解することを目的とする。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者との議論、などが含まれる。
学習目標	生体内の糖質、タンパク質の構造、機能を分子、原子レベルで理解する
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 各研究室において、専門分野の原論文、欧文書籍などの輪講を行う。 第1回教員による発表の聴講と議論 1 第2回教員による発表の聴講と議論 2 第3回教員による発表の聴講と議論 3 第4回教員による発表の聴講と議論 4 第5回学生による発表の聴講と議論 1 第5回学生による発表の聴講と議論 2 第6回学生による発表の聴講と議論 3 第7回学生による発表の聴講と議論 4 第8回学生による発表の聴講と議論 5 第9回学生による発表の聴講と議論 6 第10回学生による発表の聴講と議論 7 第11回学生による発表の聴講と議論 8 第12回学生による発表の聴講と議論 9 第13回学生による発表の聴講と議論 10 第14回学生による発表の聴講と議論 12 第15回学生による発表の聴講と議論 13 第16回教員による発表の聴講と議論 1 第17回教員による発表の聴講と議論 2 第18回教員による発表の聴講と議論 3 第19回教員による発表の聴講と議論 4 第20回学生による発表の聴講と議論 1 第21回学生による発表の聴講と議論 2

第4章 生物科学専攻

- 第22回学生による発表の聴講と議論 3
- 第23回学生による発表の聴講と議論 4
- 第24回学生による発表の聴講と議論 5
- 第25回学生による発表の聴講と議論 6
- 第26回学生による発表の聴講と議論 7
- 第27回学生による発表の聴講と議論 8
- 第28回学生による発表の聴講と議論 9
- 第29回学生による発表の聴講と議論 10
- 第30回学生による発表の聴講と議論 12

授業外における学習	ストライヤー生化学、有機化学 (ボルハルトショアー) を復習する
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	特になし

発生生物学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Developmental Biology
授業コード	240878
No.	24BISC7K111
単位数	9
担当教員	西田 宏記 居室： 理学部 C411 室 電話： 5472 Email： hnishida[at]bio.sci. 今井 薫 居室： 小沼 健 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	動物の胚発生に関し、発生運命の決定、形態形成などの過程を分子および細胞レベルで理解する。関連の基礎的な知識および実験技術の理解にも努める。実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。
学習目標	実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめることができるようになる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。発生過程の観察、遺伝子の発現とその役割の解析などに関して、顕微胚操作、遺伝子工学的手法、顕微イメージングなどを駆使し、動物の胚発生に関する理解を深める。特に、卵細胞内に蓄えられている情報、発生が始まってから起こる誘導的細胞間相互作用に焦点を置く。具体的には、専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、国内および国際学会における発表、海外の研究室における研究、原著論文や総説の執筆、審査員や編集者などとの議論などが含まれる。
授業外における学習	特になし。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢等により総合的に評価する。
コメント	学生の主体的参加が強く求められる。購読する論文に書かれていることを理解するだけでなく、そのことが他の知識とどのような関連性を持っているのか、他の知識とインテグレートすることでどのような考察が可能であるかを考えていく、積極的な姿勢が必要となる。また他者の発表に対しても積極的に発言し、問題を解決するだけでなく、問題を発見していく能力を培ってほしい。

比較神経生物学特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in Comparative Neurobiology	
授業コード	241691	
No.	24BISC7K112	
単位数	9	
担当教員	志賀 向子	居室： 理学部棟 C311 電話： 5423 Email： shigask@bio.sci.osaka-u.ac.jp
	長谷部 政治	居室： 理学部棟 C313 Email： h.hasebe@bio.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付		
履修対象		
開講時期	通年	
場所	その他	
授業形態	その他	
目的と概要	神経生物学、時間生物学に関する基礎知識ならびに実験技術、理論的な考え方について講義を行なう。また、学生各自の携わる研究課題に関連して、その研究領域の学問的歴史・背景について学生各自が調査、レビューを行なうことで基礎的な知識を習得する	
学習目標	学生が自ら時間生物学、神経行動学に関連したテーマを設定し、それを解決するための実験をデザインすることができる。 学生が自ら計画した内容に沿って研究を遂行することができる。 学生が自分の研究成果について英語の論文を書くことができる。	
履修条件		
特記事項		
授業計画	第1回 オリエンテーション： 研究課題の決定までのプロセスや期日などの案内を行なうほか、研究の進捗状況の発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法等について講義をする。 第2回 研究課題と研究実施計画の立案と報告 教員の指導のもと、各自の研究課題を決定し、関連した文献の調査を行い、各自の研究課題の内容とその意義、研究計画について発表・討論を行なう。 第3回～第27回 研究進捗状況の報告 各自の研究課題について、担当教員の指導のもと研究を進め、研究の進捗状況の報告、中間発表、討論を行なう。他の研究者からの批判・批評を自身の研究の進め方にフィードバックさせることを通じて、自立的に研究を進める方法を学ぶ。 第28回 研究成果の公表 研究の進展に応じて、学会等における発表を行なう。学会発表のための資料作成、英語による口頭発表・ポスター発表の準備について指導する。研究の進展に依存するため、全ての学生に求めるものではない。 第29回 研究成果の原著論文の作成	

研究の進展に応じて、原著論文の発表を行なう。原著論文の執筆方法、学術雑誌への投稿方法、査読者からのコメントへの対応など原著論文が受理されるまでの一連のプロセスについて学生に対して個別に指導する。

第 30 回 最終回

最終発表および各教員による講評。

授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	セミナーへの出席の他、発表内容、討論時の積極性などを勘案し、研究課題に対する取り組み姿勢、研究成果により総合的に評価する。
コメント	

分子遺伝学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Molecular Genetics
授業コード	240872
No.	24BISC7K113
単位数	9
担当教員	中川 拓郎 居室：
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	生命現象を分子レベルで解明し、それらを統合して全体像を理解する。このセミナーでは、生命の本質である、クロマチン構造、染色体複製、DNA 組換え、DNA 損傷修復、細胞周期制御などについて、遺伝学、生化学、細胞生物学などのアプローチを駆使して総合的理解をめざす。生物学における分子遺伝学分野に関する研究指導を行う。専門書や最新論文の紹介および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他の研究者(大学院生を含む)との質疑応答、プレゼンテーションの訓練が含まれる。具体的な研究テーマを学生と教員で相談の上で決定する。 主として扱うトピックを以下に示す。 真核生物の染色体異常の発生メカニズム、染色体異常の抑制メカニズム、複製フォークの安定維持機構、クロマチン構造と染色体維持との関連、セントロメア機能、テロメア機能、染色体凝縮、染色体接着、染色体分配
学習目標	このセミナーでは生命の基本である「染色体の安定維持機構」を研究する上で必要となる基礎的知識、及び、実験技術を習得する。また、研究をデザインする能力、実践する能力、さらに成果を取りまとめる能力を身に付ける。そして、自分自身が筆頭著者となる論文を完成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 以下の内容から構成される(状況により順序の変更がある)。 第1回 オリエンテーション 「生物学」における分子遺伝学の位置づけを説明し、授業の概要ならびに研究発表に必要な資料作成方法、プレゼンテーション方法について講義をする。 第2～7回:研究論文の紹介 分子遺伝学分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究手法・結果の解釈・生物学における意義について議論を行う。 第8～14回:研究進捗報告プレゼンテーション 分子遺伝学分野における履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について質疑応答を行う。 第15回:総合討論
授業外における学習	セミナーで取り上げる科学論文とその背景について、事前のリサーチが求められる。また、セミナー後に発表に対する意見を記入したワークシートを提出する。
教科書	適宜指示する

参考文献	Nature, Cell, Science などの重要論文
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表への取り組み姿勢により総合的に評価する
コメント	本セミナーで取り組む研究テーマは、中学校ならびに高等学校の専修免許教科「理科」の科目区分「生物学」の文献講読、研究方法に関する高度な知識と能力を獲得できる。

分子細胞運動学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in cell motility
授業コード	241670
No.	24BISC7K115
単位数	9
担当教員	昆 隆英 居室： 理学研究科本館 A313 Email： takahide.kon@bio.sci.osaka-u.ac.jp 山本 遼介 居室： 理学研究科本館 A301 今井 洋 居室： 理学研究科本館 A301
質問受付	随時
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	細胞移動, 細胞分裂, 細胞内物質輸送を駆動する分子機構を原子レベルで深く理解することを目的とする. そのために, 構造生物学, 細胞生物学, 分子生物学の一般および最先端の知識の修得に務める. セミナーにおいては, 学生がテーマを決めて学術論文や専門書を深く読解し, 内容の発表と議論を行う. また, 自身の研究についての進捗状況と課題・成果の発表報告を行い, 教員や他の大学院生と議論を深めることで, 問題を解決し新たな研究の方向性を見出す機会とする.
学習目標	研究分野の知識と成果について, 世界の第一人者となるべく全力を尽くす. 自ら研究アイデアを常に考え, その目的を達成するために最適な技術要素を検討し, 試行錯誤で研究を遂行し, 必要に応じて共同研究を展開し, 他研究者を十分納得させられるだけの質と量のデータを出し, そして学術論文としてまとめることを目標とする.
履修条件	
特記事項	
授業計画	主に扱う研究テーマは, 細胞移動, 細胞分裂, 細胞内物質輸送に関してそのしくみを原子レベルで理解することを目標とするものであるが, 生物学的に重要な課題であれば, これらに限定されることはない. セミナーでの発表内容は, 基本的に学生が自主的に決めるべきものであるが, 必要に応じて, 教員と相談の上で決定してもよい.
授業外における学習	授業期間外であっても, 可能な限り文献調査, 実験, 論文執筆を進めること.
教科書	指定しない.
参考文献	指定しない.
成績評価	以下のポイントを基に総合的に評価する ・ 研究課題に真剣に全力で取り組んでいるか. ・ 論文セミナーでは, 論文を徹底的に深く読み込み, 質問に対しては適切に対応できているか. ・ 研究室セミナーは基本的すべて出席しているか.
コメント	

分子創製学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Protein Synthesis and Expression
授業コード	241439
No.	24BISC7K114
単位数	9
担当教員	高木 淳一 居室： 岩崎 憲治 居室： 北郷 悠 居室： 担当未定 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	多細胞生物の生理機能に必須であるレセプターを介したシグナル伝達機構に関する総合的な理解を深めるため、構造生物学の手法を駆使したアプローチをとった最先端の研究を遂行し、同時に世界のトップクラスの研究者による最新の論文の批判的に深く読み込むことで研究者としての素養を養う。教員や共同研究者とのディスカッション、学会等での異分野の研究者とのコミュニケーションを通して、独立した研究者となるための基礎トレーニングとする。海外の研究者と交流できるよう、英語によるディスカッション能力を身につける。
学習目標	オリジナルな研究成果を上げ、科学論文として発表できるようにする。自身の研究テーマの内容と背景に精通し、その進捗状況も含めて理解しやすい発表ができるようにする。関連分野の重要な論文をサーベイし、その内容について把握するとともに、その内容をセミナーの形でわかりやすく発表できるようにする。
履修条件	日常的に研究室における実験研究を遂行するとともに、月に 2～3 回程度行われる研究室セミナーに参加する。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は、教員と相談の上で決定する。主として扱うトピックは以下のようなものである。 (1) レセプター細胞外および膜貫通領域の構造決定、(2) レセプター・リガンド間の親和性を決定する構造因子の同定とその利用、(3) 構造解析や精密な生化学的・物理化学的実験に供するための、困難な組み替えタンパク質の発現・精製系の構築
授業外における学習	自らの研究テーマに関連する最新の科学トピックスについて、最新の情報を常にアップデートすることを心がけること。講義以外の講演会、セミナー、シンポジウムに積極的に参加し、異分野の動向も学ぶこと。
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、知識・技術の取得、研究成果、研究者としての自覚の有無などにより総合的に評価する。
コメント	

分子発生学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Molecular and Developmental Biology
授業コード	241440
No.	24BISC7K112
単位数	9
担当教員	古川 貴久 居室： 大森 義裕 居室： 茶屋 太郎 居室：
質問受付	随時。
履修対象	生物科学専攻博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	発生学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学に関わる広範な分野の大きな発見を報告した重要な論文を精読し、その研究領域のバックグラウンドの知識を習得するとともに、討論を通じて論文を「建設的に批判的に」読む力を養う。
学習目標	学生はこの授業を通じて発生学、神経科学、分子生物学、蛋白質科学などの分野における様々な基礎知識を身に付けることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 前もって与えられた論文を詳細に読み、授業で各指導教員の指導のもと発表・討論を行う。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション (担当:古川) 各自担当の論文などの案内を行うほか、論文の読み方やプレゼンテーション方法について講義をする。 第2回以降 (担当:古川、大森、茶屋) 各自に割り当てられた論文について、担当教員の指導のもと、論文内容について発表と討論を行う。各1時間半の授業を毎週1回行う。
授業外における学習	学生は指定された教科書や総説を読む。
教科書	特に定めない。随時文献を紹介する。
参考文献	
成績評価	出席点のほか、発表内容、討論時の積極性などを勘案する。
コメント	

膜蛋白質化学特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar on Membrane Protein Chemistry
授業コード	241269
No.	24BISC7K115
単位数	9
担当教員	三間 穰治 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	膜蛋白質化学を研究手法・実験技術の中心とした、メンブレントラフィック分野の研究において、その領域の研究動向を調査しつつ、各自の研究テーマについて研究・実験を進める。定期的に中間発表を行い、研究・実験と共に討論を通じて学術論文での発表を目指す。
学習目標	膜蛋白質化学を研究手法・実験技術の中心とした、メンブレントラフィック分野の研究において、その領域の最新研究動向を含めた知識を得るとともに、主体的に研究デザインから実験データの取得、そして研究背景を理解した上での実験データの解析と考察を行い、学術論文での発表を目指す。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 膜蛋白質化学・メンブレントラフィック分野における各自の研究テーマを決定し、指導教員の指導のもと、研究・実験・発表・討論を行う。また、当該分野の最新かつトップレベルの研究論文を精読し、最新研究情報を収集すると共に、自身の研究計画・デザインに活かす。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション 各人の研究テーマの設定についてミーティングを行い、研究課題を決定した後、その具体的な研究・実験方法や戦略、予想される展開などについて指導及び討論を行う。 第2回以降 各自研究テーマにより、担当教員の指導のもと、研究・実験を進め、定期的に研究・実験成果の発表および議論を行うとともに、随時研究の方向性・実験方法や技術について指導を行う。また、最新の文献についても定期的に発表・討論を行う。 最終回 最終発表および教員による評価・講評。
授業外における学習	教科書・教材にあげた参考書、配布資料にあげる参考文献について自主学習。
教科書	特に定めない。随時文献などを紹介する。
参考文献	特に定めない。随時文献などを紹介する。
成績評価	各人の研究テーマへの取り組み、研究発表、討論について、総合的に評価する。
コメント	

理論生物学特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in thoretical biology
授業コード	241249
No.	24BISC7K111
単位数	9
担当教員	藤本 仰一 居室：
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	1. 生命現象に対する数理的な思考能力と解析能力の基礎を身につける。 2. 数理モデル作成に必要な数学、物理、プログラミングの能力を身につける。 3. 興味ある生命現象の数理モデルを構築し、計算機実験を行い、これらの能力を深める。 4. 学習や研究の成果を発表する技術をつける。
学習目標	
履修条件	学部 1,2 年レベルの数学と物理の素養があることが望ましい。 計算機プログラミングの能力は前提としない。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 数理科学の基礎的事項を手計算と計算機実験を通して身につけるとともに、それらの生命科学への応用例を論文講読を通じて学ぶ。 加えて、数理モデルを独力で新規に構築し、モデル作成能力と定量的な解析能力を養う。 【授業計画】 常微分方程式、線形代数、確率過程、拡散、振動波動などの数理科学の基礎の手計算による演習。 関連する解析を行った生物実験の論文講読。 常微分方程式の解の振る舞いを記述するプログラムを作成し、計算機実験を行う。 上記基礎的事項の復習と、解析的には解けない非線形系の学習を計算機実験により行う。 理論生物学の古典的論文の講読、および、関連する数理モデルの計算機実験。 興味ある現象の数理モデル構築および計算機実験による解析。 生物実験データの定量的な解析への応用。
授業外における学習	
教科書	
参考文献	R.Phillips 他, Physical Biology of the Cell (Garland Pub. 2008) U.Alon, An Introduction to Systems Biology: Design Principles of Biological Circuits (CRC Press 2006) G.Foragacs and S.A.Newman, Biological Physics Of The Developing Embryo (Cambridge Univ Press 2006)
成績評価	学習、計算機実験、議論、発表への積極な取り組み。 数理科学的な思考能力や解析能力と、プログラミング能力の習得度。
コメント	

第5章 高分子科学専攻

5.1 高分子科学専攻 前期課程

インタラクティブセミナー (高分子科学専攻)

英語表記	Interactive Seminar
授業コード	241207
No.	24MASC6G400
単位数	1
担当教員	高分子科学専攻教務委員 居室 : 井上 正志 居室 :
質問受付	
履修対象	理学研究科 高分子科学専攻 博士前期課程 M1 & M2 必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	近年の科学は、非常に細かい専門分野に細分化され、各分野とも高度化・専門化し、その専門知識を修得するのは容易ではない。そのため、ともすれば細分化された非常に狭い専門分野のみの学習・研究のみに汲々とし、専門分野以外の基本的知識の欠如さらには無関心という問題を引き起こしている。特に高分子科学は非常に学際性の強い学問であり、この極度の専門分化は、今度の学問の進展に重大な支障となると考えられる。そこで、本セミナーでは、高分子に関連する合成化学、物理化学、生物化学の3分野から、自身の主たる専門とは異なる分野の研究室が主催するセミナーに参加する。そして、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の博士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受け、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者の育成を図ることを目的としている。
学習目標	自身の主たる専門とは異なる分野の研究室が主催するセミナーに参加することで、広い視野と柔軟な思考力を身につける。
履修条件	
特記事項	
授業計画	自身の主たる専門とは異なる分野の研究室が主催するセミナーに参加し、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。詳細は、副配属研究室の教員の指示に従うこと。
授業外における学習	自身の主たる専門とは異なる分野の研究室が主催するセミナーでの研究紹介のためのプレゼンテーション資料の作成。
教科書	特に定めない。
参考文献	
成績評価	セミナーへの出席と参加態度、および、発表と質疑応答を総合して評価する。
コメント	

(春～夏学期) 高分子凝集論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Macromolecular Assemblies
授業コード	241234
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	佐藤 尚弘 居室： c445 電話： (06)6850-5461 Fax： (06)6850-5461 Email： tsato@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などを行う。具体的課題は、教員と相談の上で決定する。修士論文の作成に際しての指導と助言も行う。主として扱うトピックは以下のようなものである。疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合などによって溶液中で形成された高分子集合体の構造とその形成機構、高分子集合体間や高分子集合体と低分子・高分子間の相互作用、高分子集合体の溶液物性、高分子集合体の構造と相互作用のキャラクタリゼーション方法論(光・小角X線散乱法、蛍光法、円二色性測定、超遠心法、サイズ排除クロマトグラフィー、核磁気共鳴法、赤外吸収法等)。
学習目標	溶液中での高分子集合体の構造、溶液物性、集合体構造と相互作用のキャラクタリゼーション方法論等について、基本から理解することを目的とする。関連する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育て、修士論文の作成を目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下の項目を順次実施する。なお、(1)と(2)については、連続して履修する半期セミナーの最初に実施し、(5)については最後に実施する。 (1) オリエンテーション:高分子凝集論の研究目的を説明し、修士論文の研究テーマを決定する。また、発表に必要な資料作成法、プレゼンテーション方法について説明する。 (2) リサーチプロポーザル:決定したテーマに基づき、履修生が具体的な修士論文の研究内容を提案し、指導教員と議論する。 (3) 研究論文の紹介:高分子凝集論分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究方法・結果の解釈などについて議論を行う。 (4) 研究進捗報告:履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について議論を行う。 (5) 修士論文の作成とプレゼンテーション
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究報告ならびにセミナーへの参加状況(質問・コメントなどの発言)により総合的に判定する。

コメント

(春～夏学期) 高分子固体科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Polymer Solid-State Science
授業コード	241229
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	金子 文俊 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高分子と鎖状低分子の固体構造と物性に関する文献輪読・実験研究・理論研究を行う。高分子構造・物性ならびに研究手法の基礎からこの分野に関する最先端の研究まで理解させる。具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	1. 高分子の固体状態の構造化学を取り扱う学術論文を読んで、その大意をつかむことができる。 2. 高分子の構造研究の基本的な研究手段である振動分光と散乱法に関する理論的な基礎について理解できる。 3. 高分子固体構造の実験手法を実際に適用して、研究を行うことができる。
履修条件	特にない。
特記事項	外部施設での実験実習を行う可能性がある。
授業計画	【講義内容】 以下の点に関して基礎から最新の研究例まで学習する。 (1) 高分子や鎖状分子の固体状態の構造と物性 (2) 振動分光、X 線回折、中性子散乱、NMR 分光等の研究手法 さらに各学生の研究課題の進め方や結果について討論する。
授業外における学習	学術雑誌や専門書の輪読を行うときには、前もって週 2-3 時間の時間を割いて予習をしておくこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表の内容で評価する。
コメント	積極的な参加を期待します。

(春～夏学期) 高分子構造論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Polymer Structures
授業コード	241232
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	今田 勝巳 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高分子構造に関連した研究分野の基礎的な理解を深めた上で、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	高分子構造の基礎、研究法を理解する。自ら研究計画を立て、実施し、まとめる一連の研究活動を行うことができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 高分子構造に関する先端的研究課題の指導、特に X 線回折法、構造解析法、構造-機能相関研究法、研究成果の発表法などについて指導する。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	修士論文の研究を実施する中で総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 高分子合成化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Synthetic Polymer Chemistry
授業コード	241223
No.	24MASC6G401
単位数	4
担当教員	青島 貞人 居室：
質問受付	随時
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	これまでに受けてきた授業の知識に基づき、最先端の高分子科学の研究に取り組む。
学習目標	学生は、これまでに受けてきた授業の知識に基づき、最先端の高分子科学の研究に取り組む。
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 配属された研究室において、各自が各々選択した高分子科学に関する最新のテーマについて研究を行う。
授業外における学習	これまでに受けてきた授業の知識に基づき、最先端の高分子科学の研究を行う。
教科書	特になし
参考文献	特になし
成績評価	発表、レポートなどから総合的に評価する。
コメント	特になし

(春～夏学期) 高分子材料科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Polymer Materials Science
授業コード	241324
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	浦川 理 居室：
質問受付	
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	高分子材料科学に関連した研究分野の基礎となる知識および研究の進め方を、既報論文の精読および自らの研究テーマの実践を通じて身につけることを目的とする。具体的な研究テーマは指導教員と相談して決め、修士論文を書くための、指導と助言を行う。
学習目標	学生は、力学物性・電気物性・熱物性等、高分子材料の物性評価法を学び、材料開発のプロセスとその際に役立つ基礎的な知識を得ることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	1. オリエンテーション 2. リサーチプロポーザル 3. 関連分野の最新研究論文の精読 4. 関連分野の研究動向についての発表 5. 修士論文の準備と成果発表
	ただし、上記 1 と 2 は前半 (一学期) のセミナーで、5 は後半 (二学期) のセミナーで行う。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢と研究成果から総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 高分子精密科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Macromolecular Precise Science
授業コード	241684
No.	24MASC6G401
単位数	4
担当教員	橋爪 章仁 居室：理学部 G713 電話：8174 Fax：06-6850-8174 Email：hashidzume@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	土曜日 午後3時以降
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高分子精密科学に関連する研究課題を取り上げ、研究を遂行するための基礎的知識、実験技術、および成果発表技術の習得を目的とする。研究課題の設定および研究計画の作成、実験の実施、成果発表を通して研究者として必要な能力を育て、修士論文の作成を目標とする。取り上げた研究課題についての基礎的理解を深めさせ、研究の進め方、特に問題を解決する上で必要な考え方などについて、研究計画の作成、研究論文の紹介、実験の実施、成果発表を通して指導する。また、報告書や論文の作成およびプレゼンテーションなどにより成果発表についての指導も行う。
学習目標	修士論文の作成に必要な、研究に関する基礎知識、実験技術、成果発表技術を習得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画の発表 第3回 研究論文の紹介 1(付加重合による精密高分子の合成) 第4回 研究論文の紹介 2(段階重合による精密高分子の合成) 第5回 研究論文の紹介 3(その他の重合法による精密高分子の合成) 第6回 研究論文の紹介 4(核磁気共鳴法による精密高分子のキャラクタリゼーション) 第7回 研究論文の紹介 5(その他の手法による精密高分子のキャラクタリゼーション) 第8回 研究論文の紹介 6(精密高分子の応用研究) 第9回 優れた研究者の研究経歴紹介 第10回 研究進捗報告 1(精密高分子の創製) 第11回 研究進捗報告 2(精密高分子のキャラクタリゼーション) 第12回 研究進捗報告 3(精密高分子による高分子性の理解) 第13回 研究進捗報告 4(精密高分子の応用研究) 第14回 研究進捗報告 5(高分子精密科学的観点による研究報告) 第15回 総合討論
授業外における学習	各自の研究に必要な知識や技術について、教材、参考書、および関連する論文を読んで勉強する。
教科書	特に定めない。
参考文献	野地澄晴著「理系のアナタが知っておきたいラボ生活の中身」羊土社 (2012) 岡崎康司・隅藏康一編「理系なら知っておきたいラボノートの書き方 (改訂版)」羊土社 (2012) 飯田隆ほか編「イラストで見る化学実験の基礎知識」丸善 (2009)

Kathy Barker 著, 中村敏一監訳「アット・ザ・ベンチ バイオ研究完全指南」メディカル・サイエンス・インターナショナル (2005)
酒井聡樹著「これから論文を書く若者のために (大改訂増補版)」共立 (2006)

成績評価	研究に対する日常の姿勢、成果、報告書、発表会での発表や討論により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 高分子物性論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Physical Properties of Macromolecules
授業コード	241233
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	井上 正志 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	高分子物性論研究に必要な基礎的事項を先端的な研究を通じて理解し, 具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う. 修士論文の作成に際しての指導と助言も行う.
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 レオロジー、誘電分散、レオオプティクス, 電気複屈折等, 高分子物性の研究に有用な方法論について最近の研究動向を調査し、また各自の修士論文の研究テーマについて討論する. 各自の研究テーマについては、教員と相談の上で決定する.
授業外における学習	
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究報告ならびにセミナーへの参加状況 (質問・コメントなどの発言) により総合的に判定する.
コメント	

(春～夏学期) 高分子溶液論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Polymer Solutions
授業コード	241230
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	寺尾 憲 居室 : c446 電話 : 5459 Fax : 5461 Email : kterao@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	高分子溶液に関連した研究分野の基礎的理解を深めさせ、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。具体的には専門書や最新の研究論文の読解や論評、研究目的や手法に関する議論、研究結果の取りまとめや学会・研究会での発表に関する指導、そして修士論文作成や論文発表会でのプレゼンテーションに際しての助言、添削指導を行う。
学習目標	修士論文の作成を目的として、溶液中での高分子の分散状態、分子形態、分子間相互作用、集合体形成挙動を調べる方法論などについて、基礎から理解することを目的とする。高分子合成や各種キャラクタリゼーション手法の習得及び原理の理解にも努め、自ら研究を進め、発表する能力を育てることを目的とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下の項目を順次実施する。なお、(1) と (2) については、連続して履修する半期セミナーの最初に実施し、(5) については最後に実施する。 (1) オリエンテーション:高分子凝集論の研究目的を説明し、修士論文の研究テーマを決定する。また、発表に必要な資料作成法、プレゼンテーション方法について説明する。 (2) リサーチプロポーザル:決定したテーマに基づき、履修生が具体的な修士論文の研究内容を提案し、指導教員と議論する。 (3) 研究論文の紹介:高分子凝集論分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究方法・結果の解釈などについて議論を行う。 (4) 研究進捗報告:履修生の研究 進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について議論を行う。 (5) 修士論文 の作成とプレゼンテーション
授業外における学習	専門書や最新論文の読解、受講者自身の研究成果の取りまとめ、論文執筆やプレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	なし
参考文献	なし
成績評価	研究報告ならびにセミナーへの参加状況 (質問・コメントなどの発言) により総合的に判定する。
コメント	

(春～夏学期) 情報高分子機能論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Informational Polymer Functions
授業コード	241239
No.	24MASC6G403
単位数	4
担当教員	栗栖 源嗣 居室 : 田中 秀明 居室 :
質問受付	月～土,9:30-18:00
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	蛋白質の機能に関連した研究分野の基礎的理解を深めさせ、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。修士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	蛋白質の多様な機能を、結晶構造や NMR など分光測定の情報に基づいて論じることができるようになる。特に、光合成タンパク質や分子モーターのエネルギー変換の仕組みを、構造科学的に他者へ説明できるようになる。
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 蛋白質の機能に関する先端的研究課題の指導、とくに理論、実験法、データ解析法、研究成果発表法について指導する。 第1～15回 学生が選んだテーマによるグループワーク、グループディスカッション
授業外における学習	蛋白質立体構造データベースなどを併用することにより、最新情報を取り入れて学習すること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	日常の向上心・努力と研究成果で評価する。
コメント	特になし

(春～夏学期) 情報高分子物性論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Physical Properties of Informational Polymers
授業コード	241241
No.	24MASC6G403
単位数	4
担当教員	後藤 祐児 居室 : LEE YOUNG HO 居室 :
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	蛋白質は生命現象を支える代表的な高分子である。アミノ酸がペプチド結合によって一次的に重合した蛋白質は、折りたたまれて特異的な立体構造を形成することにより、機能物質としての多様な役割を果たす。本講義では、蛋白質の構造、物性、立体構造形成 (フォールディング) 反応の原理についての基礎的な理解を深めた上、最新の研究状況を理解する。このために、講義、演習、論文調査などを行うと共に、講義内容と関連する具体的な研究について、その進め方や考え方の指導を行う。また、修士論文の作成に際しての指導と助言を行う。
学習目標	学生は、蛋白質の構造、物性、立体構造形成 (フォールディング) 反応の原理についての基礎的な理解を深めた上、最新の研究状況を理解することができる。これに基づき、修士論文を作成することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 1. 蛋白質の立体構造 2. 蛋白質の変性 3. 蛋白質の物性とそれに関わる相互作用 4. 蛋白質の構造安定性の熱力学 5. フォールディング反応の速度論 6. 蛋白質のミスフォールディングと病気 7. 蛋白質の構造と機能の相関 8. 蛋白質のデザイン
授業外における学習	学生は、蛋白質の構造、物性、立体構造形成 (フォールディング) 反応の原理についての基礎的な理解を深め、修士論文を作成するために必要な学習を実施する。
教科書	適時指示する。
参考文献	適時指示する。
成績評価	研究発表、レポート、出席点等を総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 生体高分子 X線解析学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in X-ray Analysis of Biopolymers
授業コード	241240
No.	24MASC6G403
単位数	4
担当教員	中川 敦史 居室： 鈴木 守 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	X線結晶構造解析法を用いてタンパク質の分子構造を明らかにし、構造と機能の相関について理解を深める。修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	X線結晶構造解析法を用いてタンパク質の分子構造を明らかにし、構造と機能の相関について理解することができる。修士論文を作成することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 1. タンパク質の大量発現・精製法 2. 蛋白質の結晶化と結晶成長条件の探索 3. X線回折実験によるデータ測定と立体構造決定 4. タンパク質の構造機能相関の解析
授業外における学習	参考資料等を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	修士論文の研究を実施する中で総合的に評価する。
コメント	特になし。

(春～夏学期) 生体超分子科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Supramolecular Science of Biomacromolecules
授業コード	241271
No.	24BISC5K118
単位数	4
担当教員	山口 浩靖 居室： G613 電話： 5460 Fax： 5457 Email： hiroyasu@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	生体高分子により形成される超分子、およびその超分子特有の性質を利用した機能発現について基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文の作成に際しての指導と助言を行う。
学習目標	超分子機能化学に関連する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育て、修士論文の作成を目標とする。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 生体高分子の機能化に関する研究を行う。生体高分子をビルディングブロックとして形成される超分子や、生体高分子と機能性低分子化合物との複合体形成によって発現される特異的な機能を探究する。機能性超分子錯体を構築するための生体高分子の合成をテーマとした研究を実施し、その結果をまとめ、報告する方法を指導する。 【授業計画】 生体高分子特有の機能、生体高分子の集積化もしくは人工分子と生体高分子との超分子形成により発現される機能の探求を行う。 1. 生体高分子における分子認識 2. 生体内に存在する機能性分子・超分子 3. 生体高分子 (タンパク質) の構造と機能の相関 4. タンパク質の機能 1< 触媒 > 5. タンパク質の機能 2< 電子移動・エネルギー変換 > 6. タンパク質と補因子との錯体の機能 7. 生体高分子と人工低分子との融合 8. 生体高分子を 1 つのユニットとする超分子合成 9. 生体超分子のキャラクタリゼーション 1< 反応追跡法 > 10. 生体超分子のキャラクタリゼーション 2< 構造観察法 > 11. 生体超分子の機能化 1< 特異的センシング > 12. 生体超分子の機能化 2< 触媒・立体制御 > 13. 生体超分子の機能化 3< エネルギー生産 > 14. 総合討論 15. 総括 なお、上記の記載順序は進行度合に応じて変更することがある。

第5章 高分子科学専攻

授業外における学習	授業計画に記載の内容を授業外においても行う。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	レポート等を総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 超分子科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Supramolecular Science
授業コード	241228
No.	24MASC6G401
単位数	4
担当教員	高島 義徳 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	近年、超分子科学は幅広い学問領域に関連分野が広がった学問となっている。非共有結合は勿論であるが、新たな結合様式に分類される機械的結合まで存在し、共有結合だけでは形成されない錯体・集合体・構造体が様々構築されている。本セミナーでは、系統的にこれら超分子科学を取り上げ、概説する。
学習目標	高分子科学に関連する超分子科学の研究例を取り上げる。超分子科学において、基盤となっている学問領域を把握し、自身が行っている修士論文に関する研究と関連ある超分子科学の研究内容を調査・研究することで、学問領域を系統的に習得する。本授業の受講により、境界領域の学問を把握することで、新たな科学を開拓することを目的とする。
履修条件	博士課程
特記事項	本セミナーで取り組む研究テーマは、中学校ならびに高等学校の専修免許状教科「理科」の科目区分「化学」に関わるものであり、化学の文献講読、研究方法に関する高度な知識と能力を獲得できる。
授業計画	「超分子科学」と「高分子科学」に関連領域を把握し、この二つを中核として、周辺科学について講義するとともに、自身に関連する領域を調査・研究を行う。 第1回 オリエンテーション 第2回 超分子科学の始まり 第3回 超分子科学とその周辺学問 第4回 研究論文の紹介 1(超分子触媒 I) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第5回 研究論文の紹介 2(超分子触媒 II) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第6回 研究論文の紹介 3(機能性超分子 I) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第7回 研究論文の紹介 4(機能性超分子 II) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第8回 研究論文の紹介 5(超分子材料科学 I) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第9回 研究論文の紹介 6(超分子材料科学 II)

第5章 高分子科学専攻

最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。

第10回 研究進捗報告1(超分子科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第11回 研究進捗報告2(超分子科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第12回 研究進捗報告3(超分子科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第13回 研究進捗報告4(超分子材料科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第14回 研究進捗報告5(超分子材料科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第15回 総合討論

授業外における学習	特に定めない。
教科書	中嶋 直敏著「超分子科学—ナノ材料創製に向けて」化学同人 (2014) 高分子学会 (編集)「自己組織化と機能材料」(2012) 早下 隆士著, 築部 浩著「分子認識と超分子」(2007)
参考文献	Supramolecular Polymers, Second Edition, Ed. Alberto Ciferri
成績評価	研究に対する日常の姿勢、成果、報告書、発表会での発表や討論により総合的に評価する。
コメント	

(春～夏学期) 無機高分子化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Inorganic Polymer Chemistry
授業コード	241227
No.	24MASC6G401
単位数	4
担当教員	岡村 高明 居室： c441 電話： 5451 Fax： 06-6850-5474 Email： tokamura@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	金属酵素、金属蛋白質、高分子錯体、有機金属錯体、高分子合成などの基礎的な理解を深めながら、研究の計画、文献調査、実験、結果の解析とまとめ、学会での口頭発表、学術論文の作成などを通して、論理的な考え方、研究の進め方、成果発表の方法を習得させる。修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	金属酵素、金属蛋白質のモデル化合物、ペプチド、非天然型ペプチド、高分子錯体などの設計、合成、反応を行い、金属酵素の反応制御機構を明らかにすると共に新規機能性化合物の創成を目指す。 研究課題は指導教員と協議しながら決定し遂行する。具体的には以下の事項を目標とする。 1. 化学の基礎となる文献調査、研究の立案、実験、結果のまとめと考察、論文や口頭による成果報告の手法、質疑応答などに耐えうる理解力と判断力などを習得し、実行できる。 2. 論文の読み方、研究の進捗状況や成果の発表方法、学会発表などを通して他の研究者の研究の理解と議論する能力を高め、論文の添削指導により報告書の書き方を習得し、実行できる。 3. 修士論文を完成する。 4. 修士論文の内容などの研究成果を学術論文として公表する準備ができる。
履修条件	
特記事項	障がい等により本セミナーの履修に際し特別な配慮を必要とする場合は、理学研究科大学院係、他の教員らの協力を得ながら担当医等と相談の上、安全面に配慮し担当教員が個別に対応する。
授業計画	金属酵素、金属蛋白質のモデル化合物、ペプチド、非天然型ペプチド、高分子錯体などの設計、合成、反応を行い、金属酵素の反応制御機構を明らかにすると共に新規機能性化合物の創成を目指す。また、有機金属錯体の特徴を生かした不斉合成触媒の開発、光学活性な新規機能性高分子の設計及び精密合成を行う。概ね以下の内容で構成され、週一回程度、セミナー形式で実施する。状況により順序の変更がある。 第1回 オリエンテーション 化学における金属蛋白質、高分子錯体の位置付けを説明し、テーマを決定する。 第2回 研究計画 研究課題について文献調査を基に自ら研究計画を立て、指導教員との協議により完成させる。 第3～6回 研究課題の進捗状況の発表 各自、自らの研究課題の進捗状況に関して発表を行う。他の学生の発表にも参加し、他分野との相互理解を深め、化学の幅広い知識と議論する能力を高める。

第 5 章 高分子科学専攻

第 7～9 回 研究論文の紹介

国内外の最新の研究論文をまとめて紹介する。研究に直接関わるもの以外にも目を向けさせ、報告内容の冷静な理解と幅広い見識、洞察力を習得させる。

第 10～14 回 研究課題の進捗状況の発表と成果発表

進捗状況の発表・質疑応答により、研究課題の発展、再検討などを含めて研究計画の見直しを行い、最終的な研究成果発表へと繋げる。

第 15 回 総合討論

授業外における学習	日常的に文献を読み、研究の計画、実施、成果のまとめを行う。日頃の努力が無ければ、成果は得られない。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究の計画と遂行、研究成果発表、習熟度等を総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 高分子凝集論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Macromolecular Assemblies
授業コード	249533
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	佐藤 尚弘 居室： c445 電話： (06)6850-5461 Fax： (06)6850-5461 Email： tsato@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果の取りまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などを行う。具体的課題は、教員と相談の上で決定する。修士論文の作成に際しての指導と助言も行う。主として扱うトピックは以下のようなものである。疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合などによって溶液中で形成された高分子集合体の構造とその形成機構、高分子集合体間や高分子集合体と低分子・高分子間の相互作用、高分子集合体の溶液物性、高分子集合体の構造と相互作用のキャラクタリゼーション方法論(光・小角 X 線散乱法、蛍光法、円二色性測定、超遠心法、サイズ排除クロマトグラフィー、核磁気共鳴法、赤外吸収法等)。
学習目標	溶液中での高分子集合体の構造、溶液物性、集合体構造と相互作用のキャラクタリゼーション方法論等について、基本から理解することを目的とする。関連する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育て、修士論文の作成を目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下の項目を順次実施する。なお、(1) と (2) については、連続して履修する半期セミナーの最初に実施し、(5) については最後に実施する。 (1) オリエンテーション:高分子凝集論の研究目的を説明し、修士論文の研究テーマを決定する。また、発表に必要な資料作成法、プレゼンテーション方法について説明する。 (2) リサーチプロポーザル:決定したテーマに基づき、履修生が具体的な修士論文の研究内容を提案し、指導教員と議論する。 (3) 研究論文の紹介:高分子凝集論分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究方法・結果の解釈などについて議論を行う。 (4) 研究進捗報告:履修生の研究進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について議論を行う。 (5) 修士論文の作成とプレゼンテーション
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究報告ならびにセミナーへの参加状況(質問・コメントなどの発言)により総合的に判定する。

コメント

(秋～冬学期) 高分子固体科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Polymer Solid-State Science
授業コード	249528
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	金子 文俊 居室： G705 電話： 5453
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高分子と鎖状低分子の固体構造と物性に関する文献輪読・実験研究・理論研究を行う。高分子構造・物性ならびに研究手法の基礎からこの分野に関する最先端の研究まで理解させる。具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	1. 高分子の固体状態の構造化学を取り扱う学術論文を読んで、その大意をつかむことができる。 2. 高分子の構造研究の基本的な研究手段である振動分光と散乱法に関する理論的な基礎について理解できる。 3. 高分子固体構造の実験手法を実際に適用して、研究を行うことができる。
履修条件	特にない。
特記事項	外部施設での実験実習を行う可能性がある。
授業計画	【講義内容】 以下の点に関して基礎から最新の研究例まで学習する。 (1) 高分子や鎖状分子の固体状態の構造と物性 (2) 振動分光、X 線回折、中性子散乱、NMR 分光等の研究手法 さらに各学生の研究課題の進め方や結果について討論する。
授業外における学習	学術雑誌や専門書の輪読を行うときには、前もって週 2-3 時間の時間を割いて予習をしておくこと。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢、成果、各種発表の内容で評価する。
コメント	積極的な参加を期待する。

(秋～冬学期) 高分子構造論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Polymer Structures
授業コード	249531
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	今田 勝巳 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高分子構造に関連した研究分野の基礎的な理解を深めた上で、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	高分子構造の基礎、研究手法を理解する。自ら研究計画を立て、実施し、まとめる一連の研究活動を行うことができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 高分子構造に関する先端的研究課題の指導、特に X 線回折法、構造解析法、構造-機能相関研究法、研究成果の発表法などについて指導する。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	修士論文の研究を実施する中で総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 高分子合成化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Synthetic Polymer Chemistry
授業コード	249522
No.	24MASC6G401
単位数	4
担当教員	青島 貞人 居室：
質問受付	随時
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	これまでに受けてきた授業の知識に基づき、最先端の高分子科学の研究に取り組む。
学習目標	学生は、これまでに受けてきた授業の知識に基づき、最先端の高分子科学の研究に取り組む。
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 配属された研究室において、各自が各々選択した高分子科学に関する最新のテーマについて研究を行う。
授業外における学習	これまでに受けてきた授業の知識に基づき、最先端の高分子科学の研究を行う。
教科書	特になし
参考文献	特になし
成績評価	発表、レポートなどから総合的に評価する。
コメント	特になし

(秋～冬学期) 高分子材料科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Polymer Materials Science
授業コード	249615
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	浦川 理 居室：
質問受付	
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	高分子材料科学に関連した先端研究分野の基礎となる知識および研究の進め方を、既報論文の精読および自らの研究テーマの実践を通じて身につけることを目的とする。具体的な研究テーマは指導教員と相談して決め、博士論文を書くための、指導と助言を行う。
学習目標	学生は、力学物性・電気物性・熱物性等、高分子材料の物性評価法、ならびにいくつかの構造解析法を学び、材料開発のプロセスとその際に役立つ最新の知識を得ることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	1. オリエンテーション 2. リサーチプロポーザル 3. 関連分野の最新研究論文の精読 4. 関連分野の研究動向についての発表 5. 修士論文の準備と成果発表
	上記1と2は前半(一学期)のセミナーで、5は後半(二学期)のセミナーで行う。
授業外における学習	最新論文の読解、自身の研究結果の取りまとめ、プレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究課題に対する取り組み姿勢と研究成果から総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 高分子精密科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Macromolecular Precise Science
授業コード	249712
No.	24MASC6G401
単位数	4
担当教員	橋爪 章仁 居室：理学部 G713 電話：8174 Fax：06-6850-8174 Email：hashidzume@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	土曜日 午後3時以降
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高分子精密科学に関連する研究課題を取り上げ、研究を遂行するための基礎的知識、実験技術、および成果発表技術の習得を目的とする。研究課題の設定および研究計画の作成、実験の実施、成果発表を通して研究者として必要な能力を育て、修士論文の作成を目標とする。取り上げた研究課題についての基礎的理解を深めさせ、研究の進め方、特に問題を解決する上で必要な考え方などについて、研究計画の作成、研究論文の紹介、実験の実施、成果発表を通して指導する。また、報告書や論文の作成およびプレゼンテーションなどにより成果発表についての指導も行う。
学習目標	修士論文の作成に必要な、研究に関する基礎知識、実験技術、成果発表技術を習得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画の発表 第3回 研究論文の紹介1(付加重合による精密高分子の合成) 第4回 研究論文の紹介2(段階重合による精密高分子の合成) 第5回 研究論文の紹介3(その他の重合法による精密高分子の合成) 第6回 研究論文の紹介4(核磁気共鳴法による精密高分子のキャラクタリゼーション) 第7回 研究論文の紹介5(その他の手法による精密高分子のキャラクタリゼーション) 第8回 研究論文の紹介6(精密高分子の応用研究) 第9回 優れた研究者の研究経歴紹介 第10回 研究進捗報告1(精密高分子の創製) 第11回 研究進捗報告2(精密高分子のキャラクタリゼーション) 第12回 研究進捗報告3(精密高分子による高分子性の理解) 第13回 研究進捗報告4(精密高分子の応用研究) 第14回 研究進捗報告5(高分子精密科学的観点による研究報告) 第15回 総合討論
授業外における学習	各自の研究に必要な知識や技術について、教材、参考書、および関連する論文を読んで勉強する。
教科書	特に定めない。
参考文献	野地澄晴著「理系のアナタが知っておきたいラボ生活の中身」羊土社(2012) 岡崎康司・隅藏康一編「理系なら知っておきたいラボノートの書き方(改訂版)」羊土社(2012) 飯田隆ほか編「イラストで見る化学実験の基礎知識」丸善(2009)

第5章 高分子科学専攻

Kathy Barker 著, 中村敏一監訳「アット・ザ・ベンチ バイオ研究完全指南」メディカル・サイエンス・インターナショナル (2005)

酒井聡樹著「これから論文を書く若者のために (大改訂増補版)」共立 (2006)

成績評価	研究に対する日常の姿勢、成果、報告書、発表会での発表や討論により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 高分子物性論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Physical Properties of Macromolecules
授業コード	249532
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	井上 正志 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	高分子物性論研究に必要な基礎的事項を先端的な研究を通じて理解し, 具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う. 修士論文の作成に際しての指導と助言も行う.
学習目標	
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 レオロジー、誘電分散、レオオプティクス, 電気複屈折等, 高分子物性の研究に有用な方法論について最近の研究動向を調査し、また各自の修士論文の研究テーマについて討論する. 各自の研究テーマについては、教員と相談の上で決定する.
授業外における学習	
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究報告ならびにセミナーへの参加状況 (質問・コメントなどの発言) により総合的に判定する.
コメント	

(秋～冬学期) 高分子溶液論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Polymer Solutions
授業コード	249529
No.	24MASC6G402
単位数	4
担当教員	寺尾 憲 居室： c446 電話： 5459 Fax： 5461 Email： ktera@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	高分子溶液に関連した研究分野の基礎的理解を深めさせ、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。具体的には専門書や最新の研究論文の読解や論評、研究目的や手法に関する議論、研究結果の取りまとめや学会・研究会での発表に関する指導、そして修士論文作成や論文発表会でのプレゼンテーションに際しての助言、添削指導を行う。
学習目標	修士論文の作成を目的として、溶液中での高分子の分散状態、分子形態、分子間相互作用、集合体形成挙動を調べる方法論などについて、基礎から理解することを目的とする。高分子合成や各種キャラクタリゼーション手法の習得及び原理の理解にも努め、自ら研究を進め、発表する能力を育てることを目的とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下の項目を順次実施する。なお、(1)と(2)については、連続して履修する半期セミナーの最初に実施し、(5)については最後に実施する。 (1) オリエンテーション:高分子凝集論の研究目的を説明し、修士論文の研究テーマを決定する。また、発表に必要な資料作成法、プレゼンテーション方法について説明する。 (2) リサーチプロポーザル:決定したテーマに基づき、履修生が具体的な修士論文の研究内容を提案し、指導教員と議論する。 (3) 研究論文の紹介:高分子凝集論分野の最新の重要な文献の内容を履修生が発表し、研究方法・結果の解釈などについて議論を行う。 (4) 研究進捗報告:履修生の研究 進捗状況についてプレゼンテーションを行い、研究方法や結果について議論を行う。 (5) 修士論文 の作成とプレゼンテーション
授業外における学習	専門書や最新論文の読解、受講者自身の研究成果の取りまとめ、論文執筆やプレゼンテーションの準備などを行う。
教科書	なし
参考文献	なし
成績評価	研究報告ならびにセミナーへの参加状況(質問・コメントなどの発言)により総合的に判定する。
コメント	

(秋～冬学期) 情報高分子機能論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Informational Polymer Functions
授業コード	249538
No.	24MASC6G403
単位数	4
担当教員	栗栖 源嗣 居室 : 田中 秀明 居室 :
質問受付	月～土,9:30-18:00
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	蛋白質の機能に関連した研究分野の基礎的理解を深めさせ、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。修士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	蛋白質の多様な機能を、結晶構造や NMR など分光測定の情報に基づいて論じることができるようになる。特に、光合成タンパク質や分子モーターのエネルギー変換の仕組みを、構成科学的に他者へ説明できるようになる。
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 蛋白質の機能に関する先端的研究課題の指導、とくに理論、実験法、データ解析法、研究成果発表法について指導する。 第1～15回 学生が選んだテーマによるグループワーク、グループディスカッション
授業外における学習	蛋白質立体構造データベースなどを併用することにより、最新情報を取り入れて学習すること。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	日常の向上心・努力と研究成果で評価する。
コメント	特になし

(秋～冬学期) 情報高分子物性論半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Physical Properties of Informational Polymers
授業コード	249540
No.	24MASC6G403
単位数	4
担当教員	後藤 祐児 居室 : LEE YOUNG HO 居室 :
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	蛋白質は生命現象を支える代表的な高分子である。アミノ酸がペプチド結合によって一次的に重合した蛋白質は、折りたたまれて特異的な立体構造を形成することにより、機能物質としての多様な役割を果す。本講義では、蛋白質の構造、物性、立体構造形成 (フォールディング) 反応の原理についての基礎的な理解を深めた上、最新の研究状況を理解する。このために、講義、演習、論文調査などを行うと共に、講義内容と関連する具体的な研究について、その進め方や考え方の指導を行う。また、修士論文の作成に際しての指導と助言を行う。
学習目標	学生は、蛋白質の構造、物性、立体構造形成 (フォールディング) 反応の原理についての基礎的な理解を深めた上、最新の研究状況を理解することができる。また、これらのトピックスに関連した修士論文を作成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 1. 蛋白質の立体構造 2. 蛋白質の変性 3. 蛋白質の物性とそれに関わる相互作用 4. 蛋白質の構造安定性の熱力学 5. フォールディング反応の速度論 6. 蛋白質のミスフォールディングと病気 7. 蛋白質の構造と機能の相関 8. 蛋白質のデザイン
授業外における学習	学生は、蛋白質の構造、物性、立体構造形成 (フォールディング) 反応の原理についての基礎的な理解を深めた上、最新の研究状況を理解するたもの学習を行う。
教科書	適時指示する。
参考文献	適時指示する。
成績評価	研究発表、レポート、出席点等を総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 生体高分子 X 線解析学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in X-ray Analysis of Biopolymers
授業コード	249539
No.	24MASC6G403
単位数	4
担当教員	中川 敦史 居室 : 鈴木 守 居室 :
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	X 線結晶構造解析法を用いてタンパク質の分子構造を明らかにし、構造と機能の相関について理解を深める。修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	X 線結晶構造解析法を用いてタンパク質の分子構造を明らかにし、構造と機能の相関を理解できる。研究成果を修士論文としてまとめることができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 1. タンパク質の大量発現・精製法 2. 蛋白質の結晶化と結晶成長条件の探索 3.X 線回折実験によるデータ測定と立体構造決定 4. タンパク質の構造機能相関の解析
授業外における学習	参考資料等を利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	修士論文の研究を実施する中で総合的に評価する。
コメント	特になし。

(秋～冬学期) 生体超分子科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Supramolecular Science of Biomacromolecules
授業コード	249562
No.	24BISC5K118
単位数	4
担当教員	山口 浩靖 居室： G613 電話： 5460 Fax： 5457 Email： hiroyasu@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	高分子科学専攻博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	生体高分子により形成される超分子、およびその超分子特有の性質を利用した機能発現について基礎的な理解を深めた上、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導を行う。修士論文の作成に際しての指導と助言を行う。
学習目標	生体超分子に関する基礎的な知識および実験技術の理解にも努め、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育て、修士論文の作成を目標とする。
履修条件	特になし
特記事項	
授業計画	【講義内容】 生体高分子の機能化に関する研究を行う。生体高分子をビルディングブロックとして形成される超分子や、生体高分子と機能性低分子化合物との複合体形成によって発現される特異的な機能を探究する。機能性超分子錯体を構築するための生体高分子の合成をテーマとした研究を実施し、その結果をまとめ、報告する方法を指導する。 【授業計画】 生体高分子特有の機能、生体高分子の集積化もしくは人工分子と生体高分子との超分子形成により発現される機能の探求を行う。 1. 生体高分子における分子認識 2. 生体内に存在する機能性分子・超分子 3. 生体高分子 (タンパク質) の構造と機能の相関 4. タンパク質の機能 1< 触媒 > 5. タンパク質の機能 2< 電子移動・エネルギー変換 > 6. タンパク質と補因子との錯体の機能 7. 生体高分子と人工低分子との融合 8. 生体高分子を1つのユニットとする超分子合成 9. 生体超分子のキャラクタリゼーション 1< 反応追跡法 > 10. 生体超分子のキャラクタリゼーション 2< 構造観察法 > 11. 生体超分子の機能化 1< 特異的センシング > 12. 生体超分子の機能化 2< 触媒・立体制御 > 13. 生体超分子の機能化 3< エネルギー生産 > 14. 総合討論 15. 総括 ただし、上記記載の項目は進行度合に応じて適宜順序を変更して実施する場合がある。

授業外における学習	授業計画に記載の内容を授業外においても行う。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	実験・研究への参加態度、レポート等を総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 超分子科学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Supramolecular Science
授業コード	249527
No.	24MASC6G401
単位数	4
担当教員	高島 義徳 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	高分子科学に関連する超分子科学の研究例を取り上げる。超分子科学において、基盤となっている学問領域を把握し、自身が行っている修士論文に関する研究と関連ある超分子科学の研究内容を調査・研究することで、学問領域を系統的に習得する。本授業の受講により、境界領域の学問を把握することで、新たな科学を開拓することを目的とする。
学習目標	近年、超分子科学は幅広い学問領域に関連分野が広がった学問となっている。非共有結合は勿論であるが、新たな結合様式に分類される機械的結合まで存在し、共有結合だけでは形成されない錯体・集合体・構造体が様々構築されている。本セミナーでは、系統的にこれら超分子科学を取り上げ、概説する。
履修条件	博士課程
特記事項	なし
授業計画	「超分子科学」と「高分子科学」に関連領域を把握し、この二つを中核として、周辺科学について講義するとともに、自身に関連する領域を調査・研究を行う。 第1回 オリエンテーション 第2回 超分子科学の始まり 第3回 超分子科学とその周辺学問 第4回 研究論文の紹介 1(超分子触媒 I) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第5回 研究論文の紹介 2(超分子触媒 II) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第6回 研究論文の紹介 3(機能性超分子 I) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第7回 研究論文の紹介 4(機能性超分子 II) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第8回 研究論文の紹介 5(超分子材料科学 I) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。 第9回 研究論文の紹介 6(超分子材料科学 II) 最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員および他の履修生と議論する。

第 10 回 研究進捗報告 1(超分子科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第 11 回 研究進捗報告 2(超分子科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第 12 回 研究進捗報告 3(超分子科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第 13 回 研究進捗報告 4(超分子材料科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第 14 回 研究進捗報告 5(超分子材料科学の創製)

研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。

第 15 回 総合討論

授業外における学習	Preparation of supramolecular materials
教科書	中嶋 直敏著「超分子科学—ナノ材料創製に向けて」化学同人 (2014) 高分子学会 (編集)「自己組織化と機能材料」(2012) 早下 隆士著, 築部 浩著「分子認識と超分子」(2007)
参考文献	Supramolecular Polymers, Second Edition, Ed. Alberto Ciferri
成績評価	研究に対する日常の姿勢、成果、報告書、発表会での発表や討論により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 無機高分子化学半期セミナー

英語表記	Semestral Seminar in Inorganic Polymer Chemistry
授業コード	249526
No.	24MASC6G401
単位数	4
担当教員	岡村 高明 居室： c441 電話： 5451 Fax： 06-6850-5474 Email： tokamura@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	
目的と概要	金属酵素、金属蛋白質、高分子錯体、有機金属錯体、高分子合成などの基礎的な理解を深めながら、研究の計画、文献調査、実験、結果の解析とまとめ、学会での口頭発表、学術論文の作成などを通して、論理的な考え方、研究の進め方、成果発表の方法を習得させる。修士論文作成に際しての指導、助言を行う。
学習目標	金属酵素、金属蛋白質のモデル化合物、ペプチド、非天然型ペプチド、高分子錯体などの設計、合成、反応を行い、金属酵素の反応制御機構を明らかにすると共に新規機能性化合物の創成を目指す。 研究課題は指導教員と協議しながら決定し遂行する。具体的には以下の事項を目標とする。 1. 化学の基礎となる文献調査、研究の立案、実験、結果のまとめと考察、論文や口頭による成果報告の手法、質疑応答などに耐えうる理解力と判断力などを習得し、実行できる。 2. 論文の読み方、研究の進捗状況や成果の発表方法、学会発表などを通して他の研究者の研究の理解と議論する能力を高め、論文の添削指導により報告書の書き方を習得し、実行できる。 3. 修士論文を完成する。 4. 修士論文の内容などの研究成果を学術論文として公表する準備ができる。
履修条件	
特記事項	障がい等により本セミナーの履修に際し特別な配慮を必要とする場合は、理学研究科大学院係、他の教員らの協力を得ながら担当医等と相談の上、安全面に配慮し担当教員が個別に対応する。
授業計画	金属酵素、金属蛋白質のモデル化合物、ペプチド、非天然型ペプチド、高分子錯体などの設計、合成、反応を行い、金属酵素の反応制御機構を明らかにすると共に新規機能性化合物の創成を目指す。また、有機金属錯体の特徴を生かした不斉合成触媒の開発、光学活性な新規機能性高分子の設計及び精密合成を行う。概ね以下の内容で構成され、週一回程度、セミナー形式で実施する。状況により順序の変更がある。 第1回 オリエンテーション 化学における金属蛋白質、高分子錯体の位置付けを説明し、テーマを決定する。 第2回 研究計画 研究課題について文献調査を基に自ら研究計画を立て、指導教員との協議により完成させる。 第3～6回 研究課題の進捗状況の発表 各自、自らの研究課題の進捗状況に関して発表を行う。他の学生の発表にも参加し、他分野との相互理解を深め、化学の幅広い知識と議論する能力を高める。

第 7～9 回 研究論文の紹介

国内外の最新の研究論文をまとめて紹介する。研究に直接関わるもの以外にも目を向けさせ、報告内容の冷静な理解と幅広い見識、洞察力を習得させる。

第 10～14 回 研究課題の進捗状況の発表と成果発表

進捗状況の発表・質疑応答により、研究課題の発展、再検討などを含めて研究計画の見直しを行い、最終的な研究成果発表へと繋げる。

第 15 回 総合討論

授業外における学習	日常的に文献を読み、研究の計画、実施、成果のまとめを行う。日頃の努力が無ければ、成果は得られない。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究の計画と遂行、研究成果発表、習熟度等を総合的に評価する。
コメント	

5.2 高分子科学専攻 BMC 科目 前期課程

サイエンスコア A(前期課程対象)(高分子科学専攻)

英語表記	Science Core A
授業コード	241205
No.	24MASC6G400
単位数	1
担当教員	佐藤 尚弘 居室： c445 電話： (06)6850-5461 Fax： (06)6850-5461 Email： tsato@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	各自然科学分野のリーダーには、広い学問的視野をもち複合的領域を統合する能力、他人を理解し指導する能力、および高いコミュニケーション能力が求められている。これらの能力の涵養のため、研究分野、学年、出身大学などが異なる受講者からなる少人数クラス「学習コミュニティ」を編成し、定期的に集まり、以下に掲げる学習を自主的に行う。学習コミュニティには教員は参加せず、各回交代でコミュニティ内から選ばれた世話人が、コミュニティを運営する。
学習目標	広い学問的視野をもち複合的領域を統合する能力、他人を理解し指導する能力、および高いコミュニケーション能力が身につく。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 「学習コミュニティ」の参加者が、一人ずつ自身の研究を紹介し、その内容に対してコミュニティのメンバーで質疑応答を行う。また、コミュニティ内で適当なテーマを考えて、メンバーで議論する。
授業外における学習	少人数クラスで、自身の研究内容を紹介するための準備を行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	各回選ばれた世話人は、コミュニティで行われた学習内容を報告する。この報告から、コミュニティのアクティビティを評価する。
コメント	この授業は、セミナー科目であり、修了要件の講義科目 12 単位には含まれないので注意されたい。

5.3 高分子科学専攻 後期課程

高分子凝集論特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Macromolecular Assemblies
授業コード	240641
No.	24MASC7G402
単位数	9
担当教員	佐藤 尚弘 居室： c445 電話： (06)6850-5461 Fax： (06)6850-5461 Email： tsato@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	高分子凝集論の最先端の研究を行い、研究者として必要な能力を身に着けることを目的としている。指導教員から助言を受けながら、研究を実施する。
学習目標	研究者として必要な、研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成などの能力を身に着けることを目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成を、指導教員の助言を受けながら実施する。
授業外における学習	授業計画に記載の内容を授業外においても行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	研究の進捗状況や作成した論文の内容により判定する。
コメント	

高分子構造論特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Polymer Structures
授業コード	240642
No.	24MASC7G402
単位数	9
担当教員	今田 勝巳 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高分子の立体構造に関連した先端的な研究の指導を通じて、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者の育成を計ることを目的としている。研究成果を博士論文としてまとめる際に、その指導と助言も行う。
学習目標	研究立案から研究論文の発表まで研究者として自律した活動を行うことができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成を、指導教員の助言を受けながら実施する。
授業外における学習	授業計画に記載の内容を授業外においても行う。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究報告、作成した論文、セミナーへの参加状況(質問・コメントなどの発言)により総合的に判定する。
コメント	

高分子合成化学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Synthetic Polymer Chemistry
授業コード	240639
No.	24MASC7G401
単位数	9
担当教員	青島 貞人 居室：
質問受付	随時
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実験科目
目的と概要	これまでに受けてきた授業の知識に基づき、最先端の高分子科学の研究に取り組む。
学習目標	学生は、これまでに受けてきた授業の知識に基づき、最先端の高分子科学の研究に取り組む。
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 配属された研究室において、各自が各々選択した高分子科学に関する最新のテーマについて研究を行う。
授業外における学習	これまでに受けてきた授業の知識に基づき、最先端の高分子科学の研究を行う。
教科書	特になし
参考文献	特になし
成績評価	発表、レポートなどによる。
コメント	特になし

高分子精密科学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Macromolecular Precise Science
授業コード	241685
No.	24MASC7G401
単位数	9
担当教員	橋爪 章仁 居室：理学部 G713 電話：8174 Fax：06-6850-8174 Email：hashidzume@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	土曜日 午後3時以降
履修対象	高分子科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	高分子精密科学に関連する研究課題を取り上げ、研究を遂行するための発展的知識、実験技術、および成果発表技術の習得を目的とする。研究課題の設定および研究計画の作成、実験の実施、成果発表を通して研究者として必要な能力を育て、英語の博士論文の作成を目標とする。 取り上げた研究課題についての発展的理解を深めさせ、研究の進め方、特に問題を解決する上で必要な考え方などについて、研究計画の作成、研究論文の紹介、実験の実施、成果発表を通して指導する。また、報告書や論文の作成およびプレゼンテーションなどにより英語による成果発表についての指導も行う。
学習目標	博士論文の作成に必要な、研究に関する基礎知識、実験技術、成果発表技術を習得する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回 オリエンテーション 「化学」における高分子精密科学に関する位置づけを説明し研究課題を決定する。また研究遂行上必要な研究倫理、安全管理、論文作成法、成果発表法などについて講義する。 第2回 研究計画の発表 履修生が具体的な研究計画を発表し、その内容について指導教員及び他の履修生と議論する。 第3～7回 研究論文の紹介 高分子精密科学に関する最新論文の内容を履修生が発表し、研究手法、結果と考察における意義について指導教員及び他の履修生と議論する。 第8～9回 優れた研究者の研究経歴の紹介 将来のキャリアパスを考える上での参考にするために、高分子精密科学分野の優れた研究者を取り上げ、指導教員及び他の履修生に研究経歴を紹介する。 第10～14回 英語による研究進捗報告 研究進捗状況を履修生が発表し、内容について指導教員および他の履修生と議論する。 第15回 総合討論
授業外における学習	各自の研究に必要な知識や技術について、教材、参考書、および関連する論文を読んで勉強する。
教科書	特に定めない。
参考文献	野地澄晴著「理系のアナタが知っておきたいラボ生活の中身」羊土社 (2012) 岡崎康司・隅藏康一編「理系なら知っておきたいラボノートの書き方 (改訂版)」羊土社 (2012) 飯田隆ほか編「イラストで見る化学実験の基礎知識」丸善 (2009)

Kathy Barker 著, 中村敏一監訳「アット・ザ・ベンチ バイオ研究完全指南」メディカル・サイエンス・インターナショナル (2005)

Kathy Barker 著, 濱口道成監訳「アット・ザ・ヘルム 自分のラボをもつ日のために」メディカル・サイエンス・インターナショナル (2011)

酒井聡樹著「これから論文を書く若者のために (大改訂増補版)」共立 (2006)

成績評価	研究に対する日常の姿勢、成果、報告書、発表会での発表や討論により総合的に評価する。
コメント	

高分子物性論特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Physical Properties of Macromolecules
授業コード	240644
No.	24MASC7G402
単位数	9
担当教員	井上 正志 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	高分子物性論の先端的な研究の指導を通じて、高い基礎的能力と独創的な発想力をもつ研究者の育成を計ることを目的とする。研究成果を博士論文としてまとめる際に、その指導と助言も行う。
学習目標	
履修条件	
特記事項	具体的な課題は、教員と相談の上で決定する。
授業計画	
授業外における学習	
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	研究報告ならびにセミナーへの参加状況（質問・コメントなどの発言）により総合的に判定する。
コメント	

情報高分子機能論特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Informational Polymer Functions
授業コード	241272
No.	24MASC7G403
単位数	9
担当教員	栗栖 源嗣 居室：
質問受付	月～土,9:30-18:00
履修対象	高分子科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	演習科目
目的と概要	蛋白質結晶学に関連した研究分野の基礎的理解を深めさせ、具体的な研究の進め方や考え方などについて指導する。博士論文作成に際しての指導、助言も行う。
学習目標	蛋白質の多様な機能を、結晶構造や NMR などの分光測定の情報に基づいて論じることができるようになる。具体的には、X 線結晶学や NMR 分光学の基本原理を理解して、光合成タンパク質や分子モーターのエネルギー変換の仕組みを、構造科学的に他者に説明できるようになる。
履修条件	物理化学、生化学の基本的な内容を履修済みであること。
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 蛋白質結晶学に関する先端的研究課題の指導、とくに理論、実験法、データ解析法、研究成果発表法について指導する。 第 1～15 回 学生が選んだテーマによるグループワーク、グループディスカッション
授業外における学習	蛋白質立体構造データベースなどを併用することにより、最新情報を取り入れて学習すること
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	日常の向上心・努力と研究成果で評価する。
コメント	特になし

情報高分子構造論特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Informational Polymer Structures
授業コード	240647
No.	24MASC7G403
単位数	9
担当教員	中川 敦史 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	蛋白質、超分子複合体の構造に基づいて生命の理解を深める研究を行う能力を身につける。
学習目標	蛋白質、超分子複合体の構造に基づいて生命の理解を深める研究を行うことができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 1. 蛋白質の構造とその働き 2. 膜蛋白質の構造とその働き 3. ウイルスの構造とその働き 4. 超分子複合体の構造と構造形成機構
授業外における学習	参考図書や講義資料などを利用して、予習あるいは復習を行うこと
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	博士論文の研究を実施する過程で習熟度を評価する。
コメント	なし。

情報高分子物性論特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Physical Properties of Informational Polymers
授業コード	240646
No.	24MASC7G403
単位数	9
担当教員	後藤 祐児 居室：
質問受付	随時
履修対象	高分子科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	蛋白質は生命現象を支える代表的な情報高分子である。本講義では、蛋白質の構造、物性、立体構造形成 (フォールディング) 反応、ミスフォールディングの原理などについての先端的研究の指導を通して、高い基礎学力と広い視野と創造性をもつ研究者を育成する。
学習目標	学生は、蛋白質の構造、物性、立体構造形成 (フォールディング) 反応、ミスフォールディングの原理などについて、基本的事項から最先端の展開を学習し、高い基礎学力と広い視野や創造性を獲得する。これに基づいて、博士論文を作成する。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 具体的課題は教員と相談のうえで決定する。 研究成果を博士論文としてまとめる際には、その指導と助言を行う。
授業外における学習	学生は、授業外における学習を行い、蛋白質の構造、物性、立体構造形成 (フォールディング) 反応、ミスフォールディングの原理などについて、基本的事項から最先端の展開を学習し、高い基礎学力と広い視野や創造性を獲得する。
教科書	適宜指示する。
参考文献	適宜指示する。
成績評価	研究発表、レポート、出席点、取り組みの姿勢等を総合的に評価する。
コメント	

生体超分子科学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Supramolecular Science of Biomacromolecules
授業コード	241463
No.	24BISC7K118,24MASC7G403
単位数	9
担当教員	山口 浩靖 居室： G613 電話： 5460 Fax： 5457 Email： hiroyasu@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	生物科学専攻 博士後期課程 D1-D3 必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	生体高分子により形成される超分子、およびその超分子特有の性質を利用した機能発現、さらには生体分子と合成分子のハイブリッド化による機能発現に関する最先端の研究を行い、研究者として必要な能力を身に着けることを目的としている。指導教員から助言を受けながら、研究を実施する。
学習目標	研究者として必要な、研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成などの能力を身に着けることを目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成を、指導教員の助言を受けながら実施する。
授業外における学習	授業計画に記載の内容を授業外においても行う。
教科書	
参考文献	研究の進捗状況や作成した論文の内容により判定する。
成績評価	研究計画書の策定 20%、研究実施 (実験と考察、新規高分子の創製と物性評価)60%、論文投稿 20%
コメント	

5.4 高分子科学専攻 BMC 科目 後期課程

サイエンスコア B(後期課程対象)(高分子科学専攻)

英語表記	Science Core B
授業コード	241206
No.	24MASC7G400
単位数	1
担当教員	佐藤 尚弘 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	
目的と概要	各自然科学分野のリーダーには、広い学問的視野をもち複合的領域を統合する能力、他人を理解し指導する能力、および高いコミュニケーション能力が求められている。これらの能力の涵養のため、研究分野、学年、出身大学などが異なる受講者からなる少人数クラス「学習コミュニティ」を編成し、定期的に集まり、以下に掲げる学習を自主的に行う。学習コミュニティには教員は参加せず、各回交代でコミュニティ内から選ばれた世話人が、コミュニティを運営する。
学習目標	広い学問的視野をもち複合的領域を統合する能力、他人を理解し指導する能力、および高いコミュニケーション能力が身につく。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 「学習コミュニティ」の参加者が、一人ずつ自身の研究を紹介し、その内容に対してコミュニティのメンバーで質疑応答を行う。また、コミュニティ内で適当なテーマを考えて、メンバーで議論する。
授業外における学習	少人数クラスで、自身の研究内容を紹介するための準備を行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	各回選ばれた世話人は、コミュニティで行われた学習内容を報告する。この報告から、コミュニティのアクティビティーを評価する。
コメント	

5.5 高分子科学専攻 BMC 科目 前期課程 (秋入学者用)

サイエンスコア A(前期課程対象)(高分子科学専攻)(秋入学者用)

英語表記	Science Core A
授業コード	247066
No.	24MASC6G400
単位数	1
担当教員	佐藤 尚弘 居室： c445 電話： (06)6850-5461 Fax： (06)6850-5461 Email： tsato@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	
開講時期	年度跨り
場所	その他
授業形態	
目的と概要	各自然科学分野のリーダーには、広い学問的視野をもち複合的領域を統合する能力、他人を理解し指導する能力、および高いコミュニケーション能力が求められている。これらの能力の涵養のため、研究分野、学年、出身大学などが異なる受講者からなる少人数クラス「学習コミュニティ」を編成し、定期的に集まり、以下に掲げる学習を自主的に行う。学習コミュニティには教員は参加せず、各回交代でコミュニティ内から選ばれた世話人が、コミュニティを運営する。
学習目標	広い学問的視野をもち複合的領域を統合する能力、他人を理解し指導する能力、および高いコミュニケーション能力が身につく。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 「学習コミュニティ」の参加者が、一人ずつ自身の研究を紹介し、その内容に対してコミュニティのメンバーで質疑応答を行う。また、コミュニティ内で適当なテーマを考えて、メンバーで議論する。
授業外における学習	少人数クラスで、自身の研究内容を紹介するための準備を行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	各回選ばれた世話人は、コミュニティで行われた学習内容を報告する。この報告から、コミュニティのアクティビティーを評価する。
コメント	この授業は、セミナー科目であり、修了要件の講義科目 12 単位には含まれないので注意されたい。

5.6 高分子科学専攻 BMC 科目 後期課程 (秋入学者用)

インタラクティブ特別セミナー(高分子科学)

英語表記	Interactive Seminar for Advanced Research		
授業コード	247038		
No.	24MASC7G400		
単位数	1		
担当教員	高分子科学専攻教務委員	居室：	
	井上 正志	居室：	
質問受付			
履修対象	理学研究科 高分子科学専攻 博士後期課程 D1 から D3 まで 必修		
開講時期	春～夏学期		
場所	その他		
授業形態	演習科目		
目的と概要	近年の科学は、非常に細かい専門分野に細分化され、各分野とも高度化・専門化し、その専門知識を修得するのは容易ではない。そのため、ともすれば細分化された非常に狭い専門分野のみの学習・研究のみに汲々とし、専門分野以外の基本的知識の欠如さらには無関心という問題を引き起こしている。特に高分子科学は非常に学際性の強い学問であり、この極度の専門分化は、今度の学問の進展に重大な支障となると考えられる。そこで、本セミナーでは、高分子に関連する合成化学、物理化学、生物化学の3分野から、自身の主たる専門とは異なる分野の研究室が主催するセミナーに参加する。そして、その分野の先端的な研究状況の理解を深めた上で、自身の博士論文の研究に対して、異なる分野からの意見を聞き、議論をし、また指導を受け、広い視野と柔軟な思考力をもつ研究者の育成を図ることを目的としている。		
学習目標	自身の主たる専門とは異なる分野の研究室が主催するセミナーに参加することで、広い視野と柔軟な思考力を身につける。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	副配属研究室が主催するセミナーに参加し、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。詳細は、副配属研究室の教員の指示に従うこと。		
授業外における学習	副配属研究室のセミナーでの研究紹介のためのプレゼンテーション資料の作成。		
教科書	特に定めない。		
参考文献			
成績評価	セミナーへの出席と参加態度、および、発表と質疑応答を総合して評価する。		
コメント			

サイエンスコア B(高分子科学専攻)(秋入学者用)

英語表記	Science Core B
授業コード	247037
No.	24MASC7G400
単位数	1
担当教員	佐藤 尚弘 居室： c445 電話： (06)6850-5461 Fax： (06)6850-5461 Email： tsato@chem.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	
開講時期	年度跨り
場所	その他
授業形態	
目的と概要	各自然科学分野のリーダーには、広い学問的視野をもち複合的領域を統合する能力、他人を理解し指導する能力、および高いコミュニケーション能力が求められている。これらの能力の涵養のため、研究分野、学年、出身大学などが異なる受講者からなる少人数クラス「学習コミュニティ」を編成し、定期的に集まり、以下に掲げる学習を自主的に行う。学習コミュニティには教員は参加せず、各回交代でコミュニティ内から選ばれた世話人が、コミュニティを運営する。
学習目標	広い学問的視野をもち複合的領域を統合する能力、他人を理解し指導する能力、および高いコミュニケーション能力が身につく。
履修条件	
特記事項	
授業計画	【講義内容】 「学習コミュニティ」の参加者が、一人ずつ自身の研究を紹介し、その内容に対してコミュニティのメンバーで質疑応答を行う。また、コミュニティ内で適当なテーマを考えて、メンバーで議論する。
授業外における学習	少人数クラスで、自身の研究内容を紹介するための準備を行う。
教科書	
参考文献	
成績評価	各回選ばれた世話人は、コミュニティで行われた学習内容を報告する。この報告から、コミュニティのアクティビティを評価する。
コメント	

第6章 宇宙地球科学専攻

6.1 宇宙地球科学専攻 前期課程

(春～夏学期)X線天文学セミナー

英語表記	Seminar in X-Ray Astronomy
授業コード	241013
No.	24EASS7F505
単位数	4
担当教員	松本 浩典 居室： F515 電話： 5477 林田 清 居室： F503 電話： 5476
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	X線で宇宙を観測すると、可視光で見える静かな姿とは異なる、熱く激しい宇宙の側面が見える。いまやX線観測は、可視光・赤外線・電波などと同様、宇宙観測の柱である。X線天文衛星による観測データの解析と、X線観測機器の開発とを軸とした、X線天文学の研究を行う。この過程を通して物理学的で論理的な考え方、最低限必要な実験・解析技術を修得する。
学習目標	X線天文学を行う上で必要な計算機の取り扱い方、放射線と物質との相互作用、天体からの輻射過程、データ解析における統計学を学び、実際の研究でそれらを活用できるようになる。また、学習・研究成果に関する効果的なプレゼンテーションが出来るようになる。学習・研究成果を修士論文としてまとめる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下のような予定である。進度により適宜変更する。 第1回:イントロダクション 第2-3回:X線天文学の概要、歴史 第4-5回:X線天文学の観測条件と観測のための飛翔体 第6-7回:X線天文学で求められる光学系・検出器 第8-9回:宇宙X線の放射過程、放射機構(高温ガスと制動放射) 第10-11回:若い星のX線観測 第12-13回:原始星のX線観測 第14-15回:年老いた星のX線観測
授業外における学習	以下に示す参考文献から、関連する部分を読み、予習、復習を行うこと。
教科書	シリーズ現代の天文学 第8巻「ブラックホールと高エネルギー現象」日本評論社 シリーズ現代の天文学 第17巻「高エネルギー天文学」日本評論社 Exploring the X-ray Universe, Seward and Charles, Cambridge
参考文献	
成績評価	セミナーにおける議論の内容、理解度によって評価する。
コメント	

(春～夏学期) レーザー宇宙物理学セミナー

英語表記	Seminar in Laser Astrophysics
授業コード	241710
No.	24EASS6F506
単位数	4
担当教員	中井 光男 居室 : 坂和 洋一 居室 : 重森 啓介 居室 :
質問受付	
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	無衝突衝撃波、粒子加速、磁場生成・増幅、磁気リコネクション、プラズマ流体不安定性、というテーマを中心とした研究指導を行う。研究遂行に必要なこれまでの研究例、基礎物理、計測手法 等の統合的理解を与えると同時に、研究発表によるプレゼンテーション能力の向上をはかる。
学習目標	大出力高強度レーザーを用いて高温・高エネルギー密度、超高速流プラズマを実験室内に実現し、プラズマ物理学、宇宙物理、高エネルギー密度科学の理解を深めることを目標とする。学生各自の研究テーマに従い、実験を行い、得られた新たな知見をもとに修士論文の完成をめざす。
履修条件	
特記事項	
授業計画	無衝突衝撃波、磁気リコネクション、プラズマジェットのコリメーション、プラズマ流体不安定性、短パルス高強度レーザーを用いた粒子加速、相対論的磁場生成、電子・陽電子対生成、高輝度 γ 線核合成、レーザー衝撃圧縮による超高压発生、地球・惑星内部状態の探索、レーザー飛翔体加速による天体衝突の模擬というテーマを中心とした研究指導を行う。

研究遂行に必要なこれまでの研究例、基礎物理、計測手法等の統合的理解を与えるとともに、研究発表によるプレゼンテーション能力の向上をはかる。以下の研究テーマについて担当教員が分担する。

1. オリエンテーション

授業の概要、扱うテキストについて説明を行う。物理学にけるプラズマ物理学、宇宙物理、高エネルギー密度科学の学問分野および、無衝突衝撃波、粒子加速、磁場生成・増幅、磁気リコネクション、プラズマ流体不安定性、というテーマの位置づけについて講義する。

2. レーザープラズマの基礎

3. 無衝突衝撃波の物理

4. 磁気リコネクションと粒子加速の物理

5. 大出力・高強度レーザーを用いたプラズマ実験の概要

6. 大出力レーザーを用いた無衝突衝撃波生成実験

7. 高強度レーザーを用いた相対論的プラズマ生成実験

8. 大出力レーザーを用いた超高压発生の物理

9. 大出力レーザーを用いた超高速飛翔体加速の物理

10. 大出力レーザーを用いた惑星衝突模擬実験

11. 宇宙核合成の物理

12. 高強度レーザーを用いた高強度 γ 線・中性子線発生

13. プラズマ流体不安定性の物理

14. 大出力レーザーを用いたプラズマ流体不安定性実験

15. 総合討論

セミナーでの学習をベースに研究課題・実験計画の提案、検討を行う。

授業外における学習	関連学術論文の講読
教科書	適宜指示する。
参考文献	プラズマ・核融合学会誌第 81 巻増刊 (2005 年 9 月) 高部英明、野本憲一; 日本物理学会誌 Vol. 53, 84-92(1998).
成績評価	セミナーにおける議論の内容、理解度によって評価する。
コメント	

(春～夏学期) 宇宙進化学セミナー

英語表記	Seminar in Evolutionary Cosmology		
授業コード	241014		
No.	24EASS6F504		
単位数	4		
担当教員	長峯 健太郎	居室：	F622
		電話：	5481
		Email：	kn@vega.ess.sci.osaka-u.ac.jp
	藤田 裕	居室：	
	L.Baiotti	居室：	
	富田 賢吾	居室：	
質問受付	随時。		
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修		
開講時期	春～夏学期		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	物理学の基礎の修得から宇宙物理学の最先端の研究遂行までを目標に、具体的な研究の進め方や考え方などを指導する。また、修士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は宇宙進化グループに所属し、文献輪読・セミナー・理論研究等を行う。		
学習目標	自分の研究に関する背景・目的・方法・結果などを、自分の言葉で分かりやすく説明できるようになる。科学研究の実践方法論・論理的思考能力・発表能力などを修士大学院生として高いレベルで身につける。		
履修条件	前期課程終了までに全部で4セメスター分、合計18単位を取得すること。		
特記事項	なし。		
授業計画	研究に必要な宇宙物理学の基礎を修得し、宇宙物理学の最先端研究を遂行する。個別のテーマについては適宜、助言指示を行う。		
授業外における学習	自分で研究に関連する論文などを読み、学習する。必要に応じて教員が指示する。		
教科書	必要に応じて教員が指示する。		
参考文献	必要に応じて教員が指示する。		
成績評価	学習研究の状況と成果により総合的に評価する。		
コメント	特になし。		

(春～夏学期) 赤外線天文学セミナー

英語表記	Seminar in Infrared Astronomy		
授業コード	241211		
No.	24EASS6F505		
単位数	4		
担当教員	芝井 広	居室：	理学 F 棟 F315 電話： 5501 Fax： 5480 Email： shibai@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	住 貴宏	居室：	理学 F 棟 F320 電話： 5503 Fax： 5480 Email： sumi@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	松尾 太郎	居室：	理学 F 棟 F317 電話： 5502 Fax： 5480 Email： matsuo@ess.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付			
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修		
開講時期	春～夏学期		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	赤外線観測の歴史、観測手法、基礎的物理過程、赤外線放射天体・現象について、以下の計画に従って学習する。太陽系を含む宇宙の理解は、惑星運動と力学、恒星スペクトルと量子力学、暗黒物質・エネルギーと素粒子論など、物理学と不可分の関係を持ちつつ進んできた。さらには宇宙における生命誕生の解明に向けて、化学、生物学との連携が進んでいる。数学が不可欠の役割をすることは言うまでもない。このように宇宙の学修を通じて、広い視野からの自然現象の統合的理解と、理学的研究手法を習得できるように留意して、授業を進める。以下のテーマについて、担当教員が分担する。		
学習目標	可視光を含む赤外線観測は現代の宇宙研究において最も重要な観測手段の一つである。この赤外線観測の、歴史、観測手法、基礎的物理過程、赤外線放射天体・現象についての学修を通じて、宇宙に関する統合的理解を与えることを目標とする。また学修・研究成果を修士論文として取りまとめるとともに、発表および教育能力を育てる。太陽系・惑星から宇宙背景放射までのすべての宇宙スケールについての現象およびその研究手法を、学修の対象とする。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	【講義内容】 赤外線天文学に関する最新の研究トピックについて、持ち回りで紹介し議論によって理解を深める。基礎となる物理学のうち、輻射輸送、物質と電磁波の相互作用など、宇宙において重要なものについてさらに理解を深める。 授業計画 以下の内容から構成される (状況により順序の変更がある)。一回 90 分。 第 1～4 回:赤外線天文学の概要、歴史 第 5～8 回:赤外線天文学の観測条件 第 9～12 回:赤外線天文学の望遠鏡 第 13～16 回:赤外線天文学の観測装置		

第6章 宇宙地球科学専攻

第17～20回:赤外線天文学のセンサー
第21～24回:宇宙赤外線放射のメカニズム(ガス)
第25～28回:宇宙赤外線放射のメカニズム(ダスト)
第29～32回:太陽系天体の赤外線観測
第33～36回:太陽系外惑星の赤外線観測

授業外における学習	以下に示す参考文献から、各授業の内容に該当する部分を読んで事前の予習、事後の復習をすること。
教科書	指定しない
参考文献	シリーズ現代の天文学第15巻「光・赤外天文観測」
成績評価	セミナーにおける議論の内容、理解度によって評価する。
コメント	本セミナーで取り組む研究テーマは、中学校ならびに高等学校の専修免許教科「理科」の科目区分「物理学」、「地学」、「物理学実験(コンピュータ活用を含む。）」、および「地学実験(コンピュータ活用を含む。）」の文献講読、研究方法に関する高度な知識と能力を獲得できる。

(春～夏学期) 地球惑星物質科学セミナー

英語表記	Seminar in Science for Earth and Planetary Materials
授業コード	241016
No.	24EASS6F509
単位数	4
担当教員	佐々木 晶 居室： F328 電話： 8500 Email： sasakisho@ess.sci.osaka-u.ac.jp 大高 理 居室： F326 Email： ohtaka@ess.sci.osaka-u.ac.jp 佐伯 和人 居室： F321 Email： ksaiki@ess.sci.osaka-u.ac.jp 木村 淳 居室： F327 Email： junkim@ess.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付	
履修対象	
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	講義科目
目的と概要	本セミナーでは、地球惑星の天体進化に関わる諸事象に関して、地球科学の基礎の修得から最先端の研究遂行までを対象とする。固体天体（地球、月、火星、小惑星、氷天体など）の形成・進化過程と火成活動、地球深部物質の相転移と物性、メタンハイドレートなど地球表層物質の形成と変遷、太陽系探査機等の機器開発（ダスト計測器、カメラ等で実績）、探査機（かぐや、はやぶさなど）取得データ解析などがテーマになる。これらの研究に関して、専門書や学術論文の購読、紹介を通じて基礎を固めつつ、研究課題を設定して遂行計画を立てて実行する、セミナーでは、成果発表と、他の研究者との質疑応答・議論の訓練も含まれる。個別の具体的な課題は、それぞれ教員と相談の上決定する。また、修士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は惑星物質学グループに所属する。
学習目標	地球、惑星、衛星、小天体など太陽系天体の内部・表層の進化に関する、修士論文研究を遂行する上で、必要な地学を中心とする理科学全般の基礎知識・技術・理論の総合的理解と実践的修得をめざす。
履修条件	
特記事項	
授業計画	授業計画は、以下の内容から構成される（状況により順序の変更がある） 第1回 オリエンテーション【担当:全教員】 第2～4回 太陽系の天体構造・比較惑星学【担当:佐々木】 第5～7回 太陽系天体の物質分化・火成活動【担当:佐伯】 第8～10回 地球惑星表層物質・氷とハイドレート【担当:谷】 第11～13回 地球惑星の構成物質と圧力・温度による変化【担当:大高】 第14回 地球惑星物質科学の将来【担当:佐々木】 第15回 総合討論【担当:全教員】
授業外における学習	個々の研究、発表の準備。
教科書	現代の天文学 第9巻「太陽系と惑星」、Geodynamics 3rd Ed.(Turcotte and Schubert)
参考文献	Nature 誌, Science 誌ほか、重要な国際誌に掲載された論文など

成績評価	日頃の学習研究態度と成果により総合的に評価する。
------	--------------------------

コメント

(春～夏学期) 地球惑星物理化学セミナー

英語表記	Seminar in Earth and Planetary Physical Chemistry		
授業コード	241017		
No.	24EASS6F509		
単位数	4		
担当教員	中嶋 悟	居室 :	
	久富 修	居室 :	
	廣野 哲朗	居室 :	
	桂 (平井) 誠	居室 :	
質問受付	いつでも.		
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修		
開講時期	春～夏学期		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	地球惑星表層の動的過程に関する物理化学の基礎の習得から、それを基にした最先端の研究遂行までを目標に、具体的な研究の進め方や考え方などを指導する。また、修士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は地球物理化学グループに所属し、文献輪読・実験研究等を行う。		
学習目標	・自分の研究に関する背景や目的を、自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ・自分の研究に関する方法や結果を、自分の言葉で分かりやすく説明できる。		
履修条件	特になし.		
特記事項	特になし.		
授業計画	【講義内容】 地球惑星表層の動的過程に関する物理化学の基礎の習得から、それを基にした最先端の研究遂行まで。個別のテーマについては適宜、助言指示を行う。		
授業外における学習	各指導教員から指示する.		
教科書	指定しない		
参考文献	指定しない		
成績評価	日頃の学習研究態度と成果により評価する。		
コメント	各指導教員から指示する.		

(春～夏学期) 理論物性学セミナー

英語表記	Seminar in Theoretical Condensed Matter Science		
授業コード	241020		
No.	24EASS6F507		
単位数	4		
担当教員	川村 光	居室：	F521
		電話：	5543
		Email：	kawamura@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	湯川 諭	居室：	F517
		電話：	5491
		Email：	yukawa@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	青山 和司	居室：	F525
		電話：	5544
		Email：	aoyama@ess.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付			
履修対象	1,2 年 必修		
開講時期	春～夏学期		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	理論物性に関する基礎的事項を習得する。特に、修士論文に向けて必要になる基礎知識や計算技法を学ぶ。		
学習目標	修士論文に向けて、テーマの背景と位置づけを理解することができる。必要な文献を読み理解することができる。修士論文に向けて、実際の計算を行い、かつ結果を的確に解析することができる。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	第 1 回－第 5 回:文献購読 第 6 回－第 10 回:計算機を用いた数値計算技法の習得 第 11 回－第 15 回:文献によった知識と計算技法を、具体的な問題の研究に適用する		
授業外における学習	必要な文献購読や計算、データ解析を授業外でも行うこと		
教科書	適宜指示する		
参考文献	適宜指示する		
成績評価	日頃の学習態度と達成度を合わせて評価する。		
コメント			

(春～夏学期) 惑星科学セミナー

英語表記	Seminar in Planetary Science
授業コード	241015
No.	24EASS6F509
単位数	4
担当教員	寺田 健太郎 居室 : 植田 千秋 居室 : 山中 千博 居室 : 河井 洋輔 居室 :
質問受付	
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	物理学の基礎の修得から惑星科学の最先端の研究遂行までを目標に、具体的な研究の進め方や考え方などを指導する。また、修士論文作成に際しての指導と助言を行う。 学生は惑星科学グループに所属し、文献輪読・実験研究等を行う。
学習目標	研究者/技術者として必要な、研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成などの能力を身に着けることを目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1～7回 最新の研究のレビュー、質疑応答/議論、複数教員による複眼的指導・議論、など。 第8～15回 研究の進捗状況の報告、質疑応答/議論、複数教員による複眼的指導・議論、など。
授業外における学習	適宜、論文を読む、研究を立案し、計画/実践し、その成果をまとめるなど
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	日頃の学習研究態度、研究の進捗状況や成果により評価する。
コメント	

(春～夏学期) 惑星内部物質学セミナー

英語表記	Seminar in Solid State Earth and Planetary Science
授業コード	241136
No.	24EASS6F509
単位数	4
担当教員	近藤 忠 居室 : 谷口 年史 居室 : 寺崎 英紀 居室 : 境家 達弘 居室 :
質問受付	オフィスアワー:事前に電子メール等で連絡すること
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	春～夏学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	地球惑星の内部構造や物性に関する基本的な知識と考え方を学び、研究の進め方及び物性物理学を基礎とする実験的手法の修得を目的とする。学生は惑星内部物質学グループに所属し、担当教員の指導・助言のもとに、具体的なテーマに沿った文献輪読・実験研究・データの解析を行う。
学習目標	・自らの研究内容の目的と方法を専門的な用語で説明できる。 ・研究の進捗状況や結果に関して討論を行う事ができる。 ・自分の考えを論理立てて明確に発表することができる。
履修条件	特になし
特記事項	特になし
授業計画	【講義内容】 物理的および化学的な素過程と、複雑系科学としての地球惑星科学を結ぶ考え方の習得から、最先端の研究遂行までに関して講義・実験および議論を行う。個別のテーマについては適宜、指導と助言を行う。
授業外における学習	研究の進捗状況に合わせて担当教員から適宜指示する。
教科書	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
成績評価	研究への取り組み姿勢 (60%) および研究成果 (40%) で評価する。
コメント	

(秋～冬学期)X線天文学セミナー

英語表記	Seminar in X-Ray Astronomy
授業コード	249381
No.	24EASS7F505
単位数	4
担当教員	松本 浩典 居室： F515 電話： 5477 林田 清 居室： F503 電話： 5476
質問受付	
履修対象	
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	X線で宇宙を観測すると、可視光で見える静かな姿とは異なる、熱く激しい宇宙の側面が見える。いまやX線観測は、可視光・赤外線・電波などと同様、宇宙観測の柱である。X線天文衛星による観測データの解析と、X線観測機器の開発とを軸とした、X線天文学の研究を行う。この過程を通して物理学的で論理的な考え方、最低限必要な実験・解析技術を修得する。
学習目標	X線天文学を行う上で必要な計算機取り扱い方、放射線と物質との相互作用、天体からの輻射過程、データ解析における統計学を学び、実際の研究でそれらを活用できるようになる。また、学習・研究成果に関する効果的なプレゼンテーションが出来るようになる。学習・研究成果を修士論文としてまとめる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下のような予定である。進度により適宜変更する。 第16-17回:超新星とその残骸からのX線 第18-19回:大規模星生成領域のX線 第20-21回:広がった星間物質からのX線 第22-23回:銀河系中心核とバルジのX線 第24-25回:銀河、銀河団からのX線 第26-27回:活動銀河核および宇宙背景X線放射の観測 第28-29回:最新の研究報告の紹介 第30回: 総合討論
授業外における学習	以下に示す参考文献から、各授業に関連する部分を読み、予習、復習を行うこと。
教科書	
参考文献	シリーズ現代の天文学 第8巻「ブラックホールと高エネルギー現象」日本評論社 シリーズ現代の天文学 第17巻「高エネルギー天文学」日本評論社 Exploring the X-ray Universe, Seward and Charles, Cambridge
成績評価	セミナーにおける議論の内容、理解度によって評価する。
コメント	

(秋～冬学期) レーザー宇宙物理学セミナー

英語表記	Seminar in Laser Astrophysics
授業コード	249716
No.	24EASS6F506
単位数	4
担当教員	中井 光男 居室： 坂和 洋一 居室： 重森 啓介 居室：
質問受付	
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	実習科目
目的と概要	無衝突衝撃波、粒子加速、磁場生成・増幅、磁気リコネクション、プラズマ流体不安定性、というテーマを中心とした研究指導を行う。研究遂行に必要なこれまでの研究例、基礎物理、計測手法 等の統合的理解を与えるとともに、研究発表によるプレゼンテーション能力の向上をはかる。
学習目標	大出力高強度レーザーを用いて高温・高エネルギー密度、超高速流プラズマを実験室内に実現し、プラズマ物理学、宇宙物理、高エネルギー密度科学の理解を深めることを目標とする。学生各自の研究テーマに従い、実験を行い、得られた新たな知見をもとに修士論文の完成をめざす。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下の個別研究テーマについて、適宜、講義、論文講読を行うとともに、研究指導を行う。 1. 宇宙(無衝突) 衝撃波と粒子加速(宇宙線加速):【担当 坂和、中井】 高エネルギー宇宙線の起源となる超新星残骸や活動銀河核、太陽フレアなどの衝撃波について理解を深める。高出力レーザーで無衝突衝撃波ならびに相対論的プラズマを生成し、衝撃波の構造や粒子加速の物理、衝撃波における磁場の生成・増幅機構などを解明する。 2. レーザー衝撃圧縮による地球・惑星の内部状態の解明:【担当 重森】 地球・惑星の内部状態に対応する、他の方法では生成が困難な超高圧・超高温状態を高出力レーザーによって生成し、その物性値を高精度で計測する。また、高出力レーザーによって飛翔体を超高速に加速し、天体模擬物質の衝突現象を実験的に得ることにより、地球や惑星の構造形成と進化、さらに生命の起源などを解明する。 3. 超高強度レーザーを用いた新たな核科学の開拓:【担当 中井】 超高強度レーザーによって生成される極限的プラズマ状態を用いることによって、核科学の新たな実験プラットフォームを実現する。これまで実験室では実現できなかった高密度の核励起状態での、核反応現象の実証、断面積データを取得する手法を開発する。
授業外における学習	関連学術論文の講読
教科書	適宜指示する。
参考文献	プラズマ・核融合学会誌第 81 巻増刊(2005 年 9 月) 高部英明、野本憲一; 日本物理学会誌 Vol. 53, 84-92(1998).
成績評価	セミナーにおける議論の内容、理解度によって評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 宇宙進化学セミナー

英語表記	Seminar in Evolutionary Cosmology	
授業コード	249382	
No.	24EASS6F504	
単位数	4	
担当教員	長峯 健太郎	居室： F622 電話： 5481 Email： kn@vega.ess.sci.osaka-u.ac.jp
	藤田 裕	居室：
	L.Baiotti	居室：
	富田 賢吾	居室：
質問受付	随時。	
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修	
開講時期	秋～冬学期	
場所	その他	
授業形態	その他	
目的と概要	物理学の基礎の修得から宇宙進化学の最先端の研究遂行までを目標に、具体的な研究の進め方や考え方などを指導する。また、修士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は宇宙進化グループに所属し、文献輪読・理論研究等を行う。	
学習目標	自分の研究に関する背景・目的・方法・結果などを、自分の言葉で分かりやすく説明できるようになる。科学研究の実践方法論・論理的思考能力・発表能力などを修士大学院生として高いレベルで身につける。	
履修条件	前期課程終了までに全部で4セメスター分、合計18単位を取得すること	
特記事項	なし。	
授業計画	研究に必要な宇宙物理学の基礎の修得し、最先端研究を遂行する。個別のテーマについては適宜、助言指示を行う。	
授業外における学習	自分で研究に関連する論文などを読み、学習する。必要に応じて教員が指示する。	
教科書	指定しない。	
参考文献	指定しない。	
成績評価	学習研究の状況と成果により総合的に評価する。	
コメント	特になし。	

(秋～冬学期) 赤外線天文学セミナー

英語表記	Seminar in Infrared Astronomy		
授業コード	249406		
No.	24EASS6F505		
単位数	4		
担当教員	芝井 広	居室：	理学 F 棟 F315 電話： 5501 Fax： 5480 Email： shibai@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	住 貴宏	居室：	理学 F 棟 F320 電話： 5503 Fax： 5480 Email： sumi@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	松尾 太郎	居室：	理学 F 棟 F317 電話： 5502 Fax： 5480 Email： matsuo@ess.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付			
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修		
開講時期	秋～冬学期		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	赤外線観測の歴史、観測手法、基礎的物理過程、赤外線放射天体・現象について、以下の計画に従って学習する。太陽系を含む宇宙の理解は、惑星運動と力学、恒星スペクトルと量子力学、暗黒物質・エネルギーと素粒子論など、物理学と不可分の関係を持ちつつ進んできた。さらには宇宙における生命誕生の解明に向けて、化学、生物学との連携が進んでいる。数学が不可欠の役割をすることは言うまでもない。このように宇宙の学修を通じて、広い視野からの自然現象の統合的理解と、理学的研究手法を習得できるように留意して、授業を進める。以下のテーマについて、担当教員が分担する。		
学習目標	可視光を含む赤外線観測は現代の宇宙研究において最も重要な観測手段の一つである。この赤外線観測の、歴史、観測手法、基礎的物理過程、赤外線放射天体・現象についての学修を通じて、宇宙に関する統合的理解を与えることを目標とする。また学修・研究成果を修士論文として取りまとめるとともに、発表および教育能力を育てる。太陽系・惑星から宇宙背景放射までのすべての宇宙スケールについての現象およびその研究手法を、学修の対象とする。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	【講義内容】 赤外線天文学に関する最新の研究トピックについて、持ち回りで紹介し議論によって理解を深める。基礎となる物理学のうち、輻射輸送、物質と電磁波の相互作用など、宇宙において重要なものについてさらに理解を深める。 授業計画 以下の内容から構成される (状況により順序の変更がある)。一回 90 分。 第 37～40 回:若い星の赤外線観測 第 41～44 回:年老いた星の赤外線観測 第 45～48 回:大規模星生成領域の赤外線観測 第 49～52 回:星間物質の赤外線観測		

第 53～56 回:銀河系中心核の赤外線観測

第 57～60 回:近傍銀河の赤外線観測

第 61～64 回:遠方銀河の赤外線観測

第 65～68 回:宇宙背景赤外線放射の観測

授業外における学習	以下に示す参考文献から、各授業の内容に該当する部分を読んで事前の予習、事後の復習をすること。
教科書	指定しない
参考文献	シリーズ現代の天文学第 15 巻「光・赤外天文観測」
成績評価	セミナーにおける議論の内容、理解度によって評価する。
コメント	本セミナーで取り組む研究テーマは、中学校ならびに高等学校の専修免許教科「理科」の科目区分「物理学」、「地学」、「物理学実験(コンピュータ活用を含む。）」、および「地学実験(コンピュータ活用を含む。）」の文献講読、研究方法に関する高度な知識と能力を獲得できる。

(秋～冬学期) 地球惑星物質科学セミナー

英語表記	Seminar in Science for Earth and Planetary Materials		
授業コード	249384		
No.	24EASS6F509		
単位数	4		
担当教員	佐々木 晶	居室：	F328 電話： 8500 Email： sasakisho@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	大高 理	居室：	F326 Email： ohtaka@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	佐伯 和人	居室：	F321 Email： ksaiki@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	木村 淳	居室：	F327 Email： junkim@ess.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付			
履修対象			
開講時期	秋～冬学期		
場所	その他		
授業形態	講義科目		
目的と概要	本セミナーでは、地球惑星の天体進化に関わる諸事象に関して、地球科学の基礎の修得から最先端の研究遂行までを対象とする。固体天体(地球、月、火星、小惑星、氷天体など)の形成・進化過程と火成活動、地球深部物質の相転移と物性、メタンハイドレートなど地球表層物質の形成と変遷、太陽系探査機等の機器開発(ダスト計測器、カメラ等で実績)、探査機(かぐや、はやぶさなど)取得データ解析などがテーマになる。これらの研究に関して、専門書や学術論文の購読、紹介を通じて基礎を固めつつ、研究課題を設定して遂行計画を立てて実行する、セミナーでは、成果発表と、他の研究者との質疑応答・議論の訓練も含まれる。個別の具体的な課題は、それぞれ教員と相談の上決定する。また、修士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は惑星物質学グループに所属する。		
学習目標	地球、惑星、衛星、小天体など太陽系天体の内部・表層の進化に関する、修士論文研究を遂行する上で、必要な地学を中心とする理科学全般の基礎知識・技術・理論の総合的理解と実践的修得をめざす。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	授業計画は、以下の内容から構成される(状況により順序の変更がある) 第1回 オリエンテーション【担当:全教員】 第2～4回 太陽系の天体構造・比較惑星学【担当:佐々木】 第5～7回 太陽系天体の物質分化・火成活動【担当:佐伯】 第8～10回 地球惑星表層物質・氷とハイドレート【担当:谷】 第11～13回 地球惑星の構成物質と圧力・温度による変化【担当:大高】 第14回 地球惑星物質科学の将来【担当:佐々木】 第15回 総合討論【担当:全教員】		
授業外における学習	研究、発表準備など、自主的に時間をかけて行う。		
教科書	現代の天文学 第9巻「太陽系と惑星」、Geodynamics 3rd Ed.(Turcotte and Schubert)		
参考文献	Nature 誌, Science 誌ほか、重要な国際誌に掲載された論文など		

成績評価	日頃の学習研究態度と成果により総合的に評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 地球惑星物理化学セミナー

英語表記	Seminar in Earth and Planetary Physical Chemistry
授業コード	249385
No.	24EASS6F509
単位数	4
担当教員	中嶋 悟 居室 : 久富 修 居室 : 廣野 哲朗 居室 : 桂 (平井) 誠 居室 :
質問受付	いつでも.
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	地球惑星表層の動的過程に関する物理化学の基礎の習得から、それを基にした最先端の研究遂行までを目標に、具体的な研究の進め方や考え方などを指導する。また、修士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は地球物理化学グループに所属し、文献輪読・実験研究等を行う。
学習目標	・自分の研究に関する背景や目的を、自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ・自分の研究に関する方法や結果を、自分の言葉で分かりやすく説明できる。
履修条件	特になし.
特記事項	特になし.
授業計画	【講義内容】 地球惑星表層の動的過程に関する物理化学の基礎の習得から、それを基にした最先端の研究遂行まで。個別のテーマについては適宜、助言指示を行う。
授業外における学習	各指導教員から指示する.
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	日頃の学習研究態度と成果により評価する。
コメント	各指導教員から指示する.

(秋～冬学期) 理論物性学セミナー

英語表記	Seminar in Theoretical Condensed Matter Science		
授業コード	249388		
No.	24EASS6F507		
単位数	4		
担当教員	川村 光	居室 :	F521
		電話 :	5543
		Email :	kawamura@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	湯川 諭	居室 :	F517
		電話 :	5491
		Email :	yukawa@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	青山 和司	居室 :	F525
		電話 :	5544
		Email :	aoyama@ess.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付			
履修対象	1,2 年 必修		
開講時期	秋～冬学期		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	理論物性に関する基礎的事項を習得する。特に、修士論文に向けて必要になる基礎知識や計算技法を学ぶ。		
学習目標	修士論文に向けて、テーマの背景と位置づけを理解することができる。必要な文献を読み理解することができる。修士論文に向けて、実際の計算を行い、かつ結果を的確に解析することができる。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	第 1 回－第 5 回:文献購読 第 6 回－第 10 回:計算機を用いた数値計算技法の習得 第 11 回－第 15 回:文献によった知識と計算技法を、具体的な問題の研究に適用する		
授業外における学習	必要な文献購読や計算、データ解析を授業外でも行うこと		
教科書	適宜指示する		
参考文献	適宜指示する		
成績評価	日頃の学習態度と達成度を合わせて評価する。		
コメント			

(秋～冬学期) 惑星科学セミナー

英語表記	Seminar in Planetary Science
授業コード	249383
No.	24EASS6F509
単位数	4
担当教員	寺田 健太郎 居室： 植田 千秋 居室： 山中 千博 居室： 河井 洋輔 居室：
質問受付	
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	物理学の基礎の修得から惑星科学の最先端の研究遂行までを目標に、具体的な研究の進め方や考え方などを指導する。また、修士論文作成に際しての指導と助言を行う。 学生は惑星科学グループに所属し、文献輪読・実験研究等を行う。
学習目標	研究者/技術者として必要な、研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成などの能力を身に着けることを目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	物理学の基礎の修得から同位体惑星科学の最先端の研究遂行まで。個別のテーマについては適宜、助言指示を行う。 第1～7回 最新の研究のレビュー、質疑応答/議論、複数教員による複眼的指導・議論、など。 第8～15回 研究の成果報告、質疑応答/議論、複数教員による複眼的指導・議論、など。
授業外における学習	適宜、論文を読む、研究を立案し、計画/実践し、その成果をまとめるなど
教科書	適宜、紹介する
参考文献	適宜、紹介する
成績評価	日頃の学習研究態度、研究の進捗状況や成果により評価する。
コメント	

(秋～冬学期) 惑星内部物質学セミナー

英語表記	Seminar in Solid State Earth and Planetary Science
授業コード	249503
No.	24EASS6F509
単位数	4
担当教員	近藤 忠 居室 : 谷口 年史 居室 : 寺崎 英紀 居室 : 境家 達弘 居室 :
質問受付	オフィスアワー:事前に電子メール等で連絡すること
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修
開講時期	秋～冬学期
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	地球惑星の内部構造や物性に関する基本的な知識と考え方を学び、研究の進め方及び物性物理学を基礎とする実験的手法の修得を目的とする。学生は惑星内部物質学グループに所属し、担当教員の指導・助言のもとに、具体的なテーマに沿った文献輪読・実験研究・データの解析を行う。
学習目標	・自らの研究内容の目的と方法を専門的な用語で説明できる。 ・研究の進捗状況や結果に関して討論を行う事ができる。 ・自分の考えを論理立てて明確に発表することができる。 ・自分の研究成果を修士論文としてまとめることができる。
履修条件	特になし。
特記事項	特になし。
授業計画	【講義内容】 物理的および化学的な素過程と、複雑系科学としての地球惑星科学を結ぶ考え方の習得から、最先端の研究遂行までに関して講義・実験および議論を行う。個別のテーマについては適宜、指導と助言を行う。
授業外における学習	研究の進捗状況に合わせて担当教員から適宜指示する。
教科書	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
成績評価	研究への取り組み姿勢 (60%) および研究成果 (40%) で評価する。
コメント	

6.2 宇宙地球科学専攻 後期課程

X線天文学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in X-ray Astronomy
授業コード	241137
No.	24EASS7F505
単位数	9
担当教員	松本 浩典 居室： 林田 清 居室：
質問受付	
履修対象	
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	X線で宇宙を観測すると、可視光で見える静かな姿とは異なる、熱く激しい宇宙の側面が見える。いまやX線観測は、可視光・赤外線・電波などと同様、宇宙観測の柱である。X線天文衛星による観測データの解析と、X線観測機器の開発とを軸とした、X線天文学の研究を行う。この過程を通して物理学的で論理的な考え方、最低限必要な実験・解析技術を修得する。
学習目標	X線天文学を行う上で必要な計算機の取り扱い方、放射線と物質との相互作用、天体からの輻射過程、統計的データ解析の方法を学び、実際の研究でそれらを活用できるようになる。また、学習・研究成果に関する効果的なプレゼンテーションが出来るようになる。研究成果を博士論文としてまとめる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	以下のような予定である。進度により適宜変更する。 第1回:イントロダクション 第2-3回:X線天文学の概要、歴史 第4-5回:X線天文学の観測条件と観測のための飛翔体 第6-7回:X線検出装置とX線天文学で求められる光学系・検出器 第8-9回:宇宙X線の放射過程、放射機構(高温ガスと制動放射) 第10-11回:若い星のX線観測 第12-13回:原始星のX線観測 第14-15回:年老いた星のX線観測 第16-17回:超新星とその残骸からのX線 第18-19回:大規模星生成領域のX線 第20-21回:広がった星間物質からのX線 第22-23回:銀河系中心核とバルジのX線 第24-25回:銀河、銀河団からのX線 第26-27回:活動銀河核および宇宙背景X線放射の 第28-29回:最新の研究報告の紹介 第30回:総合討論
授業外における学習	テーマに関連する最新の研究報告や論文、以下に示す参考文献を読み、予習、復習を行うこと。
教科書	
参考文献	シリーズ現代の天文学 第8巻「ブラックホールと高エネルギー現象」日本評論社

第 6 章 宇宙地球科学専攻

シリーズ現代の天文学 第 17 巻「高エネルギー天文学」日本評論社

Exploring the X-ray Universe, Seward and Charles, Cambridge

成績評価	セミナーにおける議論の内容、理解度によって評価する。
------	----------------------------

コメント

宇宙進化学特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in Cosmology		
授業コード	240707		
No.	24EASS7F504		
単位数	9		
担当教員	長峯 健太郎	居室：	F622
		電話：	5481
		Email：	kn@vega.ess.sci.osaka-u.ac.jp
	藤田 裕	居室：	
	L.Baiotti	居室：	
	富田 賢吾	居室：	
質問受付	随時		
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修		
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	自ら新しい研究を進めることのできる研究者の育成を目的に、具体的な研究の進め方や考え方を指導する。また、博士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は宇宙進化グループに所属し、文献輪読・理論研究等を行う。		
学習目標	これまでに培ってきた研究能力を活かし、宇宙地球科学の研究を高いレベルで実践し、成果を論文に発表する。また、宇宙物理学に関する知識、数値計算の能力、プレゼン能力などをさらに磨き、博士号取得の後にも、社会に有用な人材(科学者を含む)となって活躍する。		
履修条件	学生便覧を参照。		
特記事項	なし。		
授業計画	最先端の研究の遂行。個別のテーマについては適宜、助言指示を行う。		
授業外における学習	自分で研究を推進する。必要に応じて教員が指示する。		
教科書	指定しない。必要に応じて教員が指示する。		
参考文献	指定しない。必要に応じて教員が指示する。		
成績評価	学習研究の状況と成果により評価する。		
コメント	なし。		

赤外線天文学特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in Infrared Astronomy		
授業コード	241213		
No.	24EASS7F505		
単位数	9		
担当教員	芝井 広	居室：	理学 F 棟 F315
		電話：	5501
		Fax：	5480
		Email：	shibai@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	住 貴宏	居室：	理学 F 棟 F320
		電話：	5503
		Fax：	5480
		Email：	sumi@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	松尾 太郎	居室：	理学 F 棟 F317
		電話：	5502
		Fax：	5480
		Email：	matsuo@ess.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付			
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士前期課程 各学年 選択必修		
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態	その他		
目的と概要	赤外線観測の歴史、観測手法、基礎的物理過程、赤外線放射天体・現象について、以下の計画に従って学習する。太陽系を含む宇宙の理解は、惑星運動と力学、恒星スペクトルと量子力学、暗黒物質・エネルギーと素粒子論など、物理学と不可分の関係を持ちつつ進んできた。さらには宇宙における生命誕生の解明に向けて、化学、生物学との連携が進んでいる。数学が不可欠の役割をすることは言うまでもない。このように宇宙の学修を通じて、広い視野からの自然現象の統合的理解と、理学的研究手法を習得できるように留意して、授業を進める。以下のテーマについて、担当教員が分担する。		
学習目標	可視光を含む赤外線観測は現代の宇宙研究において最も重要な観測手段の一つである。この赤外線観測の、歴史、観測手法、基礎的物理過程、赤外線放射天体・現象についての学修を通じて、宇宙に関する統合的理解を与えることを目標とする。また学修・研究成果を修士論文として取りまとめるとともに、発表および教育能力を育てる。太陽系・惑星から宇宙背景放射までのすべての宇宙スケールについての現象およびその研究手法を、学修の対象とする。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	【講義内容】 赤外線天文学に関する最新の研究トピックについて、持ち回りで紹介し議論によって理解を深める。基礎となる物理学のうち、輻射輸送、物質と電磁波の相互作用など、宇宙において重要なものについてさらに理解を深める。 授業計画 以下の内容から構成される(状況により順序の変更がある)。一回 90 分。 第 1～4 回:赤外線天文学の概要、歴史 第 5～8 回:赤外線天文学の観測条件 第 9～12 回:赤外線天文学の望遠鏡 第 13～16 回:赤外線天文学の観測装置		

第 17～20 回:赤外線天文学のセンサー
 第 21～24 回:宇宙赤外線放射のメカニズム (ガス)
 第 25～28 回:宇宙赤外線放射のメカニズム (ダスト)
 第 29～32 回:太陽系天体の赤外線観測
 第 33～36 回:太陽系外惑星の赤外線観測
 第 37～40 回:若い星の赤外線観測
 第 41～44 回:年老いた星の赤外線観測
 第 45～48 回:大規模星形成領域の赤外線観測
 第 49～52 回:星間物質の赤外線観測
 第 53～56 回:銀河系中心核の赤外線観測
 第 57～60 回:近傍銀河の赤外線観測
 第 61～64 回:遠方銀河の赤外線観測
 第 65～68 回:宇宙背景赤外線放射の観測

授業外における学習	以下に示す参考文献から、各授業の内容に該当する部分を読んで事前の予習、事後の復習をすること。
教科書	指定しない
参考文献	シリーズ現代の天文学第 15 巻「光・赤外天文観測」
成績評価	セミナーにおける議論の内容、理解度によって評価する。
コメント	

地球惑星物質科学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Science for Earth and Planetary Materials		
授業コード	241138		
No.	24EASS7F509		
単位数	9		
担当教員	佐々木 晶	居室：	F328
		電話：	8500
		Email：	sasakisho@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	大高 理	居室：	F326
		Email：	ohtaka@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	佐伯 和人	居室：	F321
		Email：	ksaiki@ess.sci.osaka-u.ac.jp
	木村 淳	居室：	F327
		Email：	junkim@ess.sci.osaka-u.ac.jp
質問受付			
履修対象			
開講時期	通年		
場所	その他		
授業形態			
目的と概要	自ら新しい研究を進めることのできる研究者の育成を目的に、具体的な研究の進め方や考え方などを指導する。また、博士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は惑星物質学グループに所属し、実験研究・文献輪読等を行う。		
学習目標	宇宙地球科学とくに惑星物質学の研究について、研究手法、発表技術を含めて深く習得する。博士論文執筆に必要な能力を身につける。		
履修条件			
特記事項			
授業計画	【講義内容】 最先端の研究の遂行。個別のテーマについては適宜、助言指示を行う。		
授業外における学習	研究、発表準備など、自主的に時間をかけて行う。		
教科書	指定しない		
参考文献	指定しない		
成績評価	日頃の学習研究態度と成果により評価する。		
コメント			

地球惑星物理化学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Physical Geochemistry
授業コード	241141
No.	24EASS7F509
単位数	9
担当教員	中嶋 悟 居室： 久富 修 居室： 廣野 哲朗 居室： 桂 (平井) 誠 居室：
質問受付	随時
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	自ら新しい研究手法を開発し、また新しい研究領域を開拓できる研究者の育成を目的に、具体的な研究の進め方や考え方などを指導する。また、博士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は地球物理化学グループに所属し、実験研究・文献輪読等を行う。
学習目標	・自分の研究に関する背景や目的を、自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ・自分の研究に関する方法や結果を、自分の言葉で分かりやすく説明できる。
履修条件	特になし。
特記事項	特になし。
授業計画	【講義内容】 地球惑星表層動的過程の物理化学に関する最先端の研究の遂行。個別のテーマについては適宜、助言指示を行う。
授業外における学習	各指導教員から指示する。
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	日頃の学習研究態度と成果により評価する。
コメント	各指導教員から指示する。

理論物性学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Theoretical Condensed Matter Science
授業コード	241139
No.	24EASS7F507
単位数	9
担当教員	川村 光 居室： 湯川 諭 居室： 青山 和司 居室：
質問受付	
履修対象	1,2,3 年 必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	理論物性に関する基礎及び専門的事項を習得する。特に、博士論文に向けて必要になる専門的知識や計算技法を学ぶ。
学習目標	博士論文に向けて、テーマの背景と位置づけを理解することができる。必要な文献を読み、的確に理解し、かつ批判的に検討することができる。博士論文に向けて、研究の方向性を自ら検討し、実際の計算を的確に行い、かつ結果を的確に解析し、科学的に評価し、判断することができる。
履修条件	
特記事項	
授業計画	第1回－第5回:文献購読 第6回－第10回:計算機を用いた数値計算技法の習得 第11回－第15回:文献によった知識と計算技法を、具体的な問題の研究に適用する
授業外における学習	必要な文献購読や計算、データ解析を授業外でも行うこと
教科書	適宜指示する
参考文献	適宜指示する
成績評価	日頃の学習態度と達成度を合わせて評価する。
コメント	

惑星科学特別セミナー

英語表記	Advanced Seminar in Planetary Science
授業コード	240710
No.	24EASS7F509
単位数	9
担当教員	寺田 健太郎 居室： 植田 千秋 居室： 山中 千博 居室： 河井 洋輔 居室： 担当未定 居室：
質問受付	随時
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	自ら新しい研究を進めることのできる研究者の育成を目的に、惑星科学における具体的な研究の進め方や考え方などを指導する。また、博士論文作成に際しての指導と助言を行う。学生は惑星科学グループに所属し、文献輪読・実験研究等を行う。
学習目標	研究者/技術者として必要な、研究テーマの探索、研究計画の策定、研究の実施と考察、研究結果の総括と論文の作成などの能力を身に着けることを目標とする。
履修条件	
特記事項	
授業計画	最先端の研究の遂行。個別のテーマについては適宜、助言指示を行う。
授業外における学習	文献調査、実験など
教科書	指定しない
参考文献	指定しない
成績評価	日頃の学習研究態度、研究の進捗状況や成果により評価する。
コメント	

惑星内部物質学特別セミナー

英語表記	Seminar for Advanced Researches in Solid State Earth and Planetary Science
授業コード	241140
No.	24EASS7F509
単位数	9
担当教員	近藤 忠 居室： 谷口 年史 居室： 寺崎 英紀 居室： 境家 達弘 居室：
質問受付	オフィスアワー:事前に電子メール等で連絡すること
履修対象	宇宙地球科学専攻 博士後期課程 各学年 選択必修
開講時期	通年
場所	その他
授業形態	その他
目的と概要	地球惑星の内部構造や物性の研究に関する自ら計画した課題に関して研究を実施し、研究の進め方や考え方などを身につけ、最終的に博士論文としてまとめることを目的とする。学生は惑星内部物質学グループに所属し、担当教員の指導・助言のもとに、文献輪読・実験研究・データ解析等を行う。
学習目標	・ 自ら研究計画の立案と実施ができる。 ・ 研究の進捗状況や結果に関して専門的な討論を行う事ができる。 ・ 自分の考えを論理立てて明確に発表することができる。 ・ 自分の研究成果を論文としてまとめることができる。
履修条件	特になし。
特記事項	
授業計画	【講義内容】 地球惑星内部物質科学に関する最先端の研究を遂行する。個別のテーマについては適宜、指導と助言を行う。
授業外における学習	研究の進捗状況に合わせて担当教員から適宜指示する。
教科書	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
成績評価	研究への取り組み姿勢 (50%) および研究成果 (50%) で評価する。
コメント	

発行年月日 平成 30 年 4 月 11 日

発行 大阪大学大学院理学研究科 大学院係

製版 大阪大学大学院理学研究科 物理学専攻 山中 卓

URL http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/campuslife/coursedescription_d/

この冊子は、KOAN のデータを元に Python 2.7 と MacTeX2017 を用いて自動生成しました。
レイアウトは大阪大学コミュニケーションデザイン・センターのシラバスを参考にしました。